感染症発生動向調査事業報告書

－ 第 41 報 －

[2022 年版]

大阪府

あ　い　さ　つ

大阪府では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づき、感染症の発生状況を継続して把握、分析し、その結果を府民や医療関係者へ提供することにより、感染症予防及びまん延防止を図ることを目的に感染症発生動向調査事業を実施しております。実施にあたり、一般社団法人大阪府医師会、定点医療機関をはじめとする関係各位の多大なるご尽力とご協力を賜りました。2022 年においても、円滑に事業を進められましたことに厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、感染症法における位置付けが本年５月８日に、季節性インフルエンザと同じ「５類感染症」に変更されたところです。大阪府では円滑な移行のため、医療提供体制の確保や高齢者施設における感染対策の対応強化など、引き続き府民のいのちと健康を守るための対策を講じつつ、新型コロナウイルス感染症対応によって生じた課題を踏まえ、次の感染症危機に備えるため、令和５年度に大阪府感染症予防計画を改定することとしています。

また、今年新たに、国立感染症研究所の実地疫学専門家養成コース（以下、FETP）の地域拠点として大阪府で研修が展開されました。2025 年に開催される大阪・関西万博に向けて、国内外の関係者、来場者が安心して参加できるよう、FETP 大阪拠点を含めた関係各機関と連携し、感染症拡大防止等の体制整備に全力で取り組んでまいります。

感染症を取り巻く状況は日々刻々と変化しますが、関係各位におかれましては本事業の趣旨をご理解いただき、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。あわせて、本報告書を感染症対策の資料として、また府民の健康増進の一助として、ご活用いただければ幸甚です。

本報告書の発行にあたり、感染症発生動向調査委員会の委員並びに関係各位の多大なるご尽力に対し、重ねて深く感謝の意を表します。

2023 年（令和５年）　８月

大阪府健康医療部長　　西野　誠

目　　次

あいさつ
2022 年における事業概要 ---------- 1

Ⅰ　五類定点把握感染症（性感染症を除く）
1．2022 年の総括 ---------- 5
1）2022 年に注目された感染症 ---------- 6
[梅毒] ---------- 6
2）感染症別・週別患者報告状況 ---------- 8
3）感染症別・ブロック別患者報告状況 ---------- 11
4）感染症別・年齢別患者報告状況 ---------- 12
2.　各感染症状況報告
1）インフルエンザ定点把握疾患
インフルエンザ ---------- 24
2）小児科定点把握疾患
RS ウイルス感染症 ---------- 26
咽頭結膜熱 ---------- 28
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ---------- 30
感染性胃腸炎 ---------- 32
水痘 ---------- 34
手足口病 ---------- 36
伝染性紅斑 ---------- 38
突発性発しん ---------- 40
ヘルパンギーナ ---------- 42
流行性耳下腺炎 ---------- 44
3）眼科定点把握疾患
急性出血性結膜炎 ---------- 46
流行性角結膜炎 ---------- 48
4）基幹定点報告（週報）対象疾患
細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く） ------ 51
無菌性髄膜炎 ---------- 52
マイコプラズマ肺炎 ---------- 52
クラミジア肺炎（オウム病を除く） ---------- 53
感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る） ---------- 53

5）基幹定点報告（月報）対象疾患
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 ---------- 54
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 ---------- 54
薬剤耐性緑膿菌感染症 ---------- 55
2022 年　感染症の動向（大阪府医師会　府医ニュース） ---------- 56
[各感染症データ] ---------- 58

II　五類定点把握感染症（性感染症）
1）はじめに ---------- 85
2）概況 ---------- 85
3）疾患別患者数 ---------- 85
4）男女別患者数 ---------- 86
5）月別患者数 ---------- 88
6）年齢階級別患者数 ---------- 89

III　全数把握感染症
1．一類感染症 ---------- 97
2．二類感染症 ---------- 97
3．三類感染症 ---------- 97
4．四類・五類感染症（全数把握分） ---------- 98
5．新型インフルエンザ等感染症 ---------- 100

IV　検　査　情　報
1．ウイルス検査情報（大阪府・大阪市・堺市） ---------- 101
2．細菌検査情報 ---------- 112

V　その他
大阪感染症情報解析委員会 「今週のトピックス」 ---------- 117

VI　資　料
大阪府感染症発生動向調査事業実施要綱 ---------- 143
大阪府感染症発生動向調査委員会設置要綱 ---------- 150
大阪感染症情報解析委員会運営要綱 ---------- 153

VII　指定届出機関一覧 ---------- 157

2022 年における事業概要

感染症発生動向調査事業は、大阪府内の医療機関及び府内の政令市・中核市の協力のもと実施している。

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「感染症法」という。）」では、一類から五類感染症（全数把握と定点把握）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症の 115 感染症を対象とし、情報の収集、分析、提供、公開を行っている。

本事業で定点把握対象の五類感染症の発生状況を届け出る「指定届出機関（定点）」は、インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、性感染症定点、基幹定点及び疑似症定点からなっている。また、感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症について、2019 年 4 月 1 日以降、定点の選定基準や届出基準が変更となった。

2022 年 12 月末の指定数は、インフルエンザ定点 300、小児科定点 196、眼科定点 52、性感染症定点 64、疑似症定点 22、基幹定点 17 である。

１　患者情報の収集

ファクシミリ又は新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(ＨＥＲ－ＳＹＳ)等の活用により、医療機関からの患者情報を、全数把握対象感染症は直ちに（五類感染症にあっては一部を除いて 7 日以内に）、定点把握対象感染症は週報（一部月報）で収集している。さらに、収集した情報はコンピュータオンラインシステムにより国立感染症研究所（中央感染症情報センター）に報告している。

２　情報の解析・評価

学識経験者、医療関係団体・医療施設等の代表者、関係行政機関の職員等により構成される感染症発生動向調査に係る委員会において、収集した情報の解析・評価を行っている。

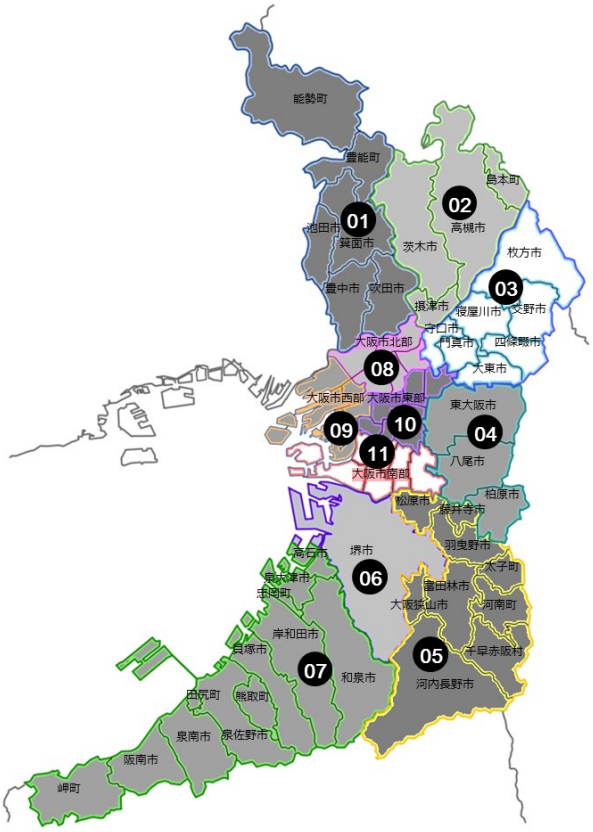
３　情報の提供・公開

大阪府は、委員会から報告された情報を全国情報と併せて週報とし、各定点医療機関、一般社団法人大阪府医師会、保健所、各市町村及び学校等関係機関に広く情報を提供している。また、大阪府感染症情報センターのホームページにも感染症情報を公開している。

４　病原体情報の収集

患者定点の中から病原体定点を選定し、これらの病原体定点から提供される検体についてウイルス検査、細菌検査を地方衛生研究所において行っている。併せて病院等が行った検査の情報収集を図っている。

ブロック地図・ブロック別人口動態



ブロック別人口動態

ブロック	市町村区分	定点数(第52週時点)							人口*	出生数*
		週報				月報				
		内科	小児科	眼科	基幹	STD	疑似症	基幹		
① 豊能	豊中市、池田市、吹田市、箕面市、能勢町、豊能町	12	23	5	2	8	2	2	1,059,288	7,644
② 三島	高槻市、茨木市、摂津市、島本町	8	17	4	2	6	1	2	757,358	5,479
③ 北河内	守口市、寝屋川市、門真市、枚方市、大東市、四条畷市、交野市	15	26	6	2	8	3	2	1,124,628	7,079
④ 中河内	八尾市、柏原市、東大阪市	11	20	5	2	7	1	2	816,114	5,104
⑤ 南河内	藤井寺市、松原市、羽曳野市、富田林市、大阪狭山市、河内長野市、河南町、太子町、千早赤阪村	8	16	4	1	4	2	2	581,723	3,347
⑥ 堺市	堺市	10	18	5	2	7	1	2	815,235	5,411
⑦ 泉州	和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、田尻町、熊取町、岬町	13	19	6	1	6	2	1	869,560	5,423
⑧ 大阪市北部	北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区	6	14	5	1	7	4	1	700,054	5,081
⑨ 大阪市西部	福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区	5	10	2	1	2	2	1	488,865	3,346
⑩ 大阪市東部	中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区	7	15	6	1	4	2	1	766,937	5,772
⑪ 大阪市南部	阿倍野区、住吉区、住之江区、東住吉区、平野区、西成区	9	18	4	1	5	2	1	801,433	5,003
合　計		104	196	52	16	64	22	17	8,781,195	58,689

*人口は大阪府毎月推計人口　2023年1月1日現在に公開さた数値を反映しています。

（http://www. pref.osaka.lg.jp/toukei/jinkou/jinkou-xlslist.html）

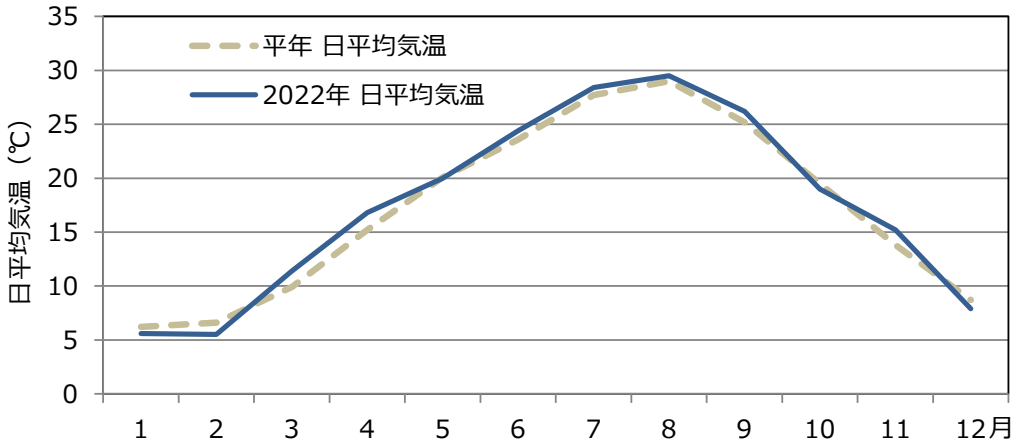
2022 年　感染症発生動向調査　カレンダー

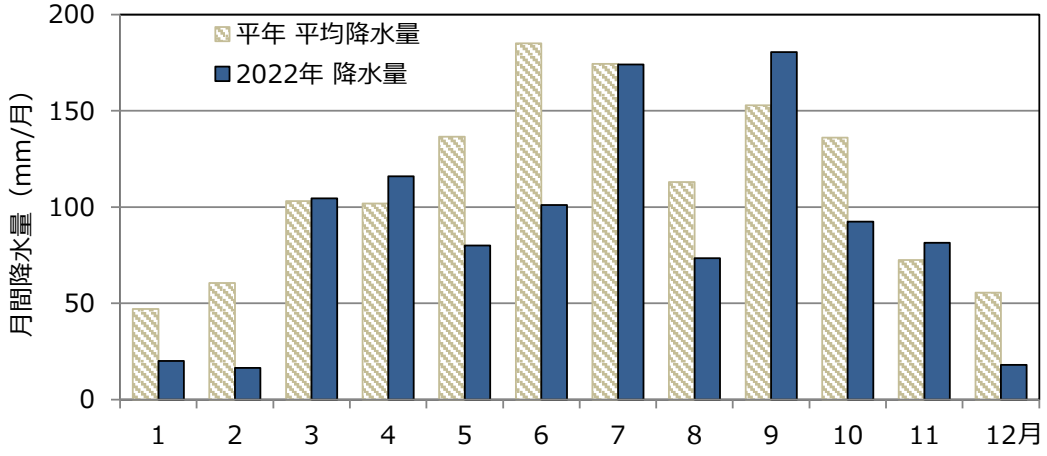
	週	月	火	水	木	金	土	日
1月	1週	3	4	5	6	7	8	9
	2週	10	11	12	13	14	15	16
	3週	17	18	19	20	21	22	23
	4週	24	25	26	27	28	29	30
	5週	31	1	2	3	4	5	6
2月	6週	7	8	9	10	11	12	13
	7週	14	15	16	17	18	19	20
	8週	21	22	23	24	25	26	27
	9週	28	1	2	3	4	5	6
3月	10週	7	8	9	10	11	12	13
	11週	14	15	16	17	18	19	20
	12週	21	22	23	24	25	26	27
	13週	28	29	30	31	1	2	3
4月	14週	4	5	6	7	8	9	10
	15週	11	12	13	14	15	16	17
	16週	18	19	20	21	22	23	24
	17週	25	26	27	28	29	30	1
5月	18週	2	3	4	5	6	7	8
	19週	9	10	11	12	13	14	15
	20週	16	17	18	19	20	21	22
	21週	23	24	25	26	27	28	29
	22週	30	31	1	2	3	4	5
6月	23週	6	7	8	9	10	11	12
	24週	13	14	15	16	17	18	19
	25週	20	21	22	23	24	25	26
	26週	27	28	29	30	1	2	3

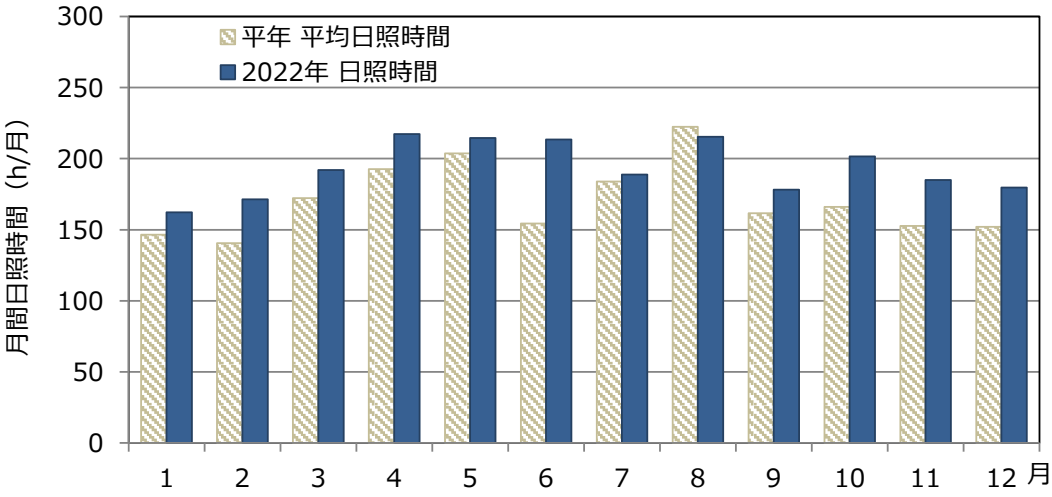
	週	月	火	水	木	金	土	日
7月	27週	4	5	6	7	8	9	10
	28週	11	12	13	14	15	16	17
	29週	18	19	20	21	22	23	24
	30週	25	26	27	28	29	30	31
8月	31週	1	2	3	4	5	6	7
	32週	8	9	10	11	12	13	14
	33週	15	16	17	18	19	20	21
	34週	22	23	24	25	26	27	28
	35週	29	30	31	1	2	3	4
9月	36週	5	6	7	8	9	10	11
	37週	12	13	14	15	16	17	18
	38週	19	20	21	22	23	24	25
	39週	26	27	28	29	30	1	2
10月	40週	3	4	5	6	7	8	9
	41週	10	11	12	13	14	15	16
	42週	17	18	19	20	21	22	23
	43週	24	25	26	27	28	29	30
	44週	31	1	2	3	4	5	6
11月	45週	7	8	9	10	11	12	13
	46週	14	15	16	17	18	19	20
	47週	21	22	23	24	25	26	27
	48週	28	29	30	1	2	3	4
12月	49週	5	6	7	8	9	10	11
	50週	12	13	14	15	16	17	18
	51週	19	20	21	22	23	24	25
	52週	26	27	28	29	30	31	1

調査期間は月曜日から日曜日までの１週間を単位としています。
第１、第8、第18、第44、第47週を除く毎水曜日に感染症情報解析委員会を開催しました。
2022年大阪感染症情報解析委員会開催日

大阪の気象条件







2022 年と過去 30 年間平均値の比較

大阪管区気象台　大阪府の気象　2022 年（令和 4 年）データより作成

https://www.jma-net.go.jp/osaka/kikou/osaka-kishou.html

Ⅰ　五類定点把握感染症
（性感染症を除く）

Ⅰ　五類定点把握感染症（性感染症を除く）

１．2022 年の総括

2022（令和 4）年の大阪府感染症発生動向調査事業における 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）の特徴について概説する（表）。2022 年は、小児科定点疾患、眼科定点疾患、基幹定点疾患の総計数は 64,681 となり、2021 年　75,728 よりも、14.6%の減少であった。この理由は、（1）インフルエンザと流行性角結膜炎以外の感染症で、減少または増減なしであったこと、（2）RS ウイルス感染症（前年比較：3,739 例減）、感染性胃腸炎（前年比較：2,678 例減）、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（前年比較：1,565 例減）、手足口病（前年比較：1,417 例減）と、大幅な減少が見られたこと、以上が考えられる。

全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、感染性胃腸炎、手足口病、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱の順であった。大阪府では、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、インフルエンザ、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの順であった。全国の発生動向と比較すると、上位 2 位と上位 3 位の疾患の順番、上位 6 位と上位 7 位と上位 8 位の疾患の順番、インフルエンザが上位 6 位に入っていること、などが異なっていた。

大阪府の発生動向について、2021 年と比較すると、インフルエンザの年平均の週間報告数が 0.02 から 0.23 へ、昨年より増加が見られたが、コロナ禍前の数値と比べると、かなり低い状況である（2019 年　5.63）。RS ウイルス感染症の年平均の週間報告数が 1.58 から 1.21 へ、昨年より、23.3%の減少が見られた。手足口病の年平均の週間報告数が 0.77 から 0.63 へ、昨年より、18.0%の減少が見られた。感染性胃腸炎の年平均の週間報告数が 3.66 から 3.40 へ、昨年より、7.2%の減少が見られた。

（文責：本村）

表　定点あたり週間報告数の年平均値

全　国			大　阪　府		
順位	感染症	定点あたり報告数	順位	感染症	定点あたり報告数
1	感染性胃腸炎	3.76	1	感染性胃腸炎	3.40
2	手足口病	0.97	2	RSウイルス感染症	1.21
3	RSウイルス感染症	0.74	3	手足口病	0.63
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32
5	突発性発しん	0.29	5	突発性発しん	0.25
6	ヘルパンギーナ	0.23	6	インフルエンザ	0.23
7	流行性角結膜炎	0.18	7	咽頭結膜熱	0.21
8	咽頭結膜熱	0.15	8	ヘルパンギーナ	0.19

1）2022 年に注目された感染症

[梅毒]

梅毒は、*Treponema pallidum* によって引き起こされる性感染症である。コロンブスの新世界への航海がアメリカ大陸から梅毒をヨーロッパに持ち帰り、15 世紀末から 16 世紀初頭のヨーロッパで最初に大流行したとされている。日本では、江戸時代に都市部や港町を中心に感染が広まった。大阪府では(1)、1950 年には約 10,000 件の報告数があったが、抗菌薬の普及とともに報告数は急速に減少し、1956 年には 1000 件を下回った。その後も減少は続き 1990 年代以降は 100 件程度の低い報告数が続いていた。2010 年代後半から再び増加に転じ、2018 年は 1188 件、2019 年は 1101 件と、1000 件を超えた(2)。2020 年、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、様々な行動制限がとられた。梅毒の報告数は、2020 年 902 件、2021 年 850 件と減少した。しかし、2022 年には報告数は大幅な増加に転じ、最終的に 1825 件と、70 年ぶりの高い報告数となった。ちなみに諸外国では、行動制限に伴い報告数が増えた国も減った国もあり、行動制限が実際に梅毒報告数を減らしたかは不明である。

大阪府での梅毒患者の特徴(2)は、ブロック別では大阪市が大部分をしめ、年齢階級別では、男性は、20 代から 60 歳以上まで幅広く分布する一方女性は 20-24 歳に集中している。妊娠の可能性のある者のうち感染リスクがある者や、妊娠中、または、妊娠の可能性のある者のパートナーに対する、積極的な検査実施と啓発が重要であると考えられる。2022 年の前半は、男性異性間、および女性異性間性的接触者のみ報告数が増加したが、後半には男性同性間でも増加している。女性異性間と男性同性間は男性異性間に比較し無症状の割合が高く、また、その割合は増加傾向にある。男性のうち性風俗産業利用歴のある報告例は 30%前後(28～36%)で推移しており、女性のうち性風俗産業従事歴のある報告例が 50%前後(50～56%)で推移している。ただし、男性のうち性風俗産業利用歴不明の報告例が 20%台で推移していることに注意が必要である。

2022 年の梅毒報告数の急激な増加の原因については、以下が推察される。①梅毒の自己検査の普及、②コロナ禍の受診控えとその後のリバウンド、③患者や医師の梅毒の意識の高まり、④コロナ禍の性風俗産業の形態の変化(3,4)。性感染症の疾患特性から、関係者から疫学情報を得ることは容易ではないものの、今後の対策を考えるためにも精度の高い疫学情報の収集が不可欠である。

（文責：鵜飼）

参考文献

1. 大阪府．大阪府統計年鑑 [Internet]. 大阪府．[cited 2023 May 11]. Available from: https://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/nenkan/index.html

2. 梅毒｜大阪府感染症情報センター [Internet]. [cited 2023 May 9]. Available from: http://www.iph.pref.osaka.jp/zensu/20210128104826.html

3. Ukai T, Kakimoto K, Kawahata T, Miyama T, Iritani N, Motomura K. Resurgence of syphilis in 2022 among heterosexual men and women in Osaka, Japan. Clin Microbiol Infect [Internet]. 2022 Nov 19; Available from: http://dx.doi.org/10.1016/j.cmi.2022.11.010

4. Ghaznavi C, Tanoue Y, Kawashima T, Eguchi A, Yoneoka D, Sakamoto H, et al. Recent changes in the reporting of STIs in Japan during the COVID-19 pandemic. Sex Transm Infect [Internet]. 2022 Apr 22; Available from: http://dx.doi.org/10.1136/sextrans-2021-055378

２）感染症別・週別患者報告状況

「2022 年（令和 4）年の総括」で記した疾患について、定点当たり報告数の最高値が報告された週や最高値を示す（表 1）。2022 年は、2020 年と 2021 年に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行に伴う、新しい生活様式を継続（手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避）していたが、小中学校・義務教育学校・高校の休校措置はなかった。

インフルエンザは、2021 年に引き続き、上位 5 疾患に入っていなかったが、第 6 位となっている。2022 年、第 43 週（10 月第 4 週　定点あたり報告数：0.08）を起点として、増加傾向にあり、第 51 週（12 月第 3 週）の定点あたり報告数は 2.24 で、流行開始の目安 1 を超えていた。

感染性胃腸炎は、1 月第 3 週に最高値 7.51 を示している。2021 年の 11 月、12 月、報告数の増加が認められ、その勢いを保持したまま、2022 年 1 月第 3 週に最高値を示した。感染性胃腸炎は初夏と冬の 2 峰性の流行パターンを示すことが多い。2022 年は、第 24 週（6 月第 2 週）に 6.40 となっていた。

RS ウイルス感染症は、2021 年は、年初 1 月から定点あたり報告数の立ち上がりが認められていたが、2022 年は、5 月から立ち上がっていた。2022 年第 29 週（7 月第 3 週）に、最高値 7.30 に到達した。7.30 は、現状の報告システムとなり、過去最高値である。大阪では、2015 年以前まで、12 月ごろに最高値に到達していたが、2016 年以降は 9 月ごろに最高値に到達するようになり、時期が早まった。この理由は、まだ、科学的に証明はされていない。2021 年は 5 月第 4 週、2022 年は 7 月第 3 週と、コロナ禍前と比べると、流行のピークの時期が不安定な状況となっている。

手足口病は、2022 年は、9 月第 1 週に、最高値 2.35 を示した。同じエンテロウイルス感染症であるヘルパンギーナについても、手足口病と、同時期、9 月第 1 週に、最高値 0.60 を示した。手足口病は、奇数年に隔年で流行するが、2021 年の報告数 7,851 は、直近で、流行した 2019 年の報告数 20,733 の 37.9%に過ぎない。2022 年も報告数が 6,434 で、感受性宿主群が多く残っている可能性があり、2023 年の動向に注視が必要である。

表１．定点あたり報告数の最高値が報告された週および最高値（2022 年）

大阪府				
	疾患	定点あたり報告数の最高値が報告された週	定点あたり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	感染性胃腸炎	3 週（1 月第 3 週）	7.51	20
2	RS ウイルス感染症	29 週（7 月第 3 週）	7.30	―
3	手足口病	36 週（9 月第 1 週）	2.35	5
4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42, 43 週（10 月第 3, 4 週）	0.60	8
5	突発性発しん	22 週（5 月第 5 週）	0.44	―

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、コロナ禍前は、二峰性の流行パターンを示していたが、新型コロナウイルス感染症が流行した 2020 年以降、低水準で推移しており、2022 年は 10 月第 3, 4 週に最高値 0.60 に達した。英国や米国の報告では、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数の増加が報告されている。病原体側の変化について不明であるが、宿主側の要因として、他の感染症同様、コロナ禍で感染者が激減しているため、感受性宿主群が多くなっていることが考えられる。

突発性発しんは、2022 年は 5 月第 5 週に最高値 0.44 に達した。2022 年の報告数は 2,590 であり、2021 年よりも 21.7%減であった。

2021 年と 2022 年における感染症発生動向の増減を比較すると、小児科定点疾患の総計は 64,681 であり、前年比 14.6%減であった。インフルエンザ、流行性角結膜炎以外は、減少もしくは増減なしであった。インフルエンザは、前年比 37.1 倍の増加であった。減少率で一番大きかったのは、RS ウイルス感染症で前年比 23.3%減、次いで、突発性発しんで 21.7%、ヘルパンギーナで 21.0%、流行性耳下腺炎で 19.2%と続く（表 2）。基幹定点疾患である、細菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎（ロタウイルス）は、報告数が非常に少ない状況が続いている。2023 年 3 月 13 日以降、マスク着用の自由化、行動緩和、規制緩和が進むと、感染症に関する報告数やピークの時期などの発生動向は、コロナ禍前の状況になる可能性がある。

（文責：本村）

表２．2022 年と 2021 年における感染症発生動向比較

インフルエンザ定点疾患	2022 年	2021 年
インフルエンザ　↑	3,581	94

小児科定点疾患	2022 年	2021 年
RS ウイルス感染症　↓	12,319	16,058
咽頭結膜熱　↓	2,155	2,237
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　↓	3,290	4,855
感染性胃腸炎　↓	34,675	37,353
水痘　↓	741	960
手足口病　↓	6,434	7,851
伝染性紅斑　↓	102	111
突発性発しん　↓	2,590	3,307
ヘルパンギーナ　↓	1,988	2,517
流行性耳下腺炎　↓	387	479
合計	64,681	75,728

眼科定点疾患	2022 年	2021 年
急性出血性結膜炎	15	15
流行性角結膜炎　↑	321	282
合計	336	297

基幹定点疾患	2022 年	2021 年
細菌性髄膜炎　↓	5	10
無菌性髄膜炎	16	16
マイコプラズマ肺炎　↓	3	5
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0
感染性胃腸炎（ロタウイルス）　↓	3	5
合計	27	36

3）感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を 11 ブロック（1．豊能、2．三島、3．北河内、4．中河内、5．南河内、6．堺市、7．泉州、8．大阪市北部、9．大阪市西部、10．大阪市東部、11．　大阪市南部）に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。感染症別に、地域の定点あたり年平均報告数を表に要約した。1 年間でより流行が認められた地域を黄色で示した。年平均の定点あたり報告数から地域ブロックを評価した場合、中河内（A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん）、南河内（感染性胃腸炎、手足口病）、大阪市北部（RS ウイルス感染症、インフルエンザ、ヘルパンギーナ）、大阪市南部（咽頭結膜熱）で、首位を占めていた（表）。一方、豊能ブロックは 2 疾患（A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱）、三島は 2 疾患（RS ウイルス感染症、インフルエンザ）で、最下位であった。　　（文責：本村）

表．感染症別・ブロック別患者報告状況

感染性胃腸炎		RS ウイルス感染症		手足口病		A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
豊　能	2.91	豊　能	0.79	豊　能	0.45	豊　能	0.09
三　島	3.20	三　島	0.77	三　島	0.72	三　島	0.19
北河内	3.21	北河内	1.19	北河内	0.63	北河内	0.28
中河内	4.37	中河内	0.78	中河内	0.68	中河内	0.79
南河内	5.39	南河内	1.75	南河内	1.03	南河内	0.22
堺　市	3.04	堺　市	1.25	堺　市	0.67	堺　市	0.24
泉　州	3.43	泉　州	1.24	泉　州	0.48	泉　州	0.49
大阪市北部	3.43	大阪市北部	2.28	大阪市北部	0.65	大阪市北部	0.23
大阪市西部	3.18	大阪市西部	1.74	大阪市西部	0.51	大阪市西部	0.16
大阪市東部	1.46	大阪市東部	1.10	大阪市東部	0.40	大阪市東部	0.12
大阪市南部	3.58	大阪市南部	1.06	大阪市南部	0.73	大阪市南部	0.61
府内　平均	3.40	府内　平均	1.21	府内　平均	0.63	府内　平均	0.32

突発性発疹		インフルエンザ		咽頭結膜熱		ヘルパンギーナ	
豊　能	0.25	豊　能	0.09	豊　能	0.11	豊　能	0.18
三　島	0.17	三　島	0.05	三　島	0.14	三　島	0.23
北河内	0.30	北河内	0.20	北河内	0.20	北河内	0.24
中河内	0.37	中河内	0.25	中河内	0.18	中河内	0.10
南河内	0.35	南河内	0.23	南河内	0.22	南河内	0.19
堺　市	0.15	堺　市	0.33	堺　市	0.19	堺　市	0.13
泉　州	0.26	泉　州	0.21	泉　州	0.30	泉　州	0.23
大阪市北部	0.28	大阪市北部	0.42	大阪市北部	0.29	大阪市北部	0.28
大阪市西部	0.20	大阪市西部	0.35	大阪市西部	0.21	大阪市西部	0.23
大阪市東部	0.15	大阪市東部	0.28	大阪市東部	0.18	大阪市東部	0.18
大阪市南部	0.24	大阪市南部	0.26	大阪市南部	0.32	大阪市南部	0.17
府内　平均	0.25	府内　平均	0.23	府内　平均	0.21	府内　平均	0.19

（黄色は最高ブロックと定点あたり報告数、網掛けは最低ブロックと定点あたり報告数）

４）感染症別・年齢別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点を除いた小児科定点における年齢報告数で最も多かった年齢は 1 歳台、次いで 20 歳以上、10-14 歳台、と続く。1 歳台の報告数の多い疾患は、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、であった。20 歳以上の報告数の多い疾患は、インフルエンザ、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎である。10-14 歳台の報告数の多い疾患は、水痘、流行性耳下腺炎であった。

例年、10-14 歳台の報告数が多い疾患が水痘だけであるが、2022 年は流行性耳下腺炎も 10-14 歳台に多かった。

（文責：本村）

表. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分

疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	20 歳以上
ＲＳウイルス感染症	1 歳台
咽頭結膜熱	1 歳台
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3 歳台
感染性胃腸炎	1 歳台
水痘	10～14 歳台
手足口病	1 歳台
伝染性紅斑	2 歳台
突発性発しん	1 歳台
ヘルパンギーナ	1 歳台
流行性耳下腺炎	10-14 歳台
急性出血性結膜炎	20 歳以上
流行性角結膜炎	20 歳以上

2022 年　感染症別・週別報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	50	53	71	59	75	37	26	53	21	18	17	14	15
RSウイルス感染症	886	967	1,581	1,532	1,067	837	733	540	633	601	574	433	391
咽頭結膜熱	777	578	628	446	534	410	416	322	328	306	302	230	214
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1,223	1,451	1,771	1,484	1,246	987	985	855	790	824	866	635	697
感染性胃腸炎	14,655	20,767	25,394	22,148	18,064	14,360	13,743	11,559	11,849	11,861	11,172	8,807	8,848
水痘	441	299	292	249	190	181	199	193	216	180	209	168	204
手足口病	1,171	1,027	1,008	816	612	422	284	238	198	174	212	177	185
伝染性紅斑	30	42	48	43	42	38	31	54	42	31	43	33	47
突発性発しん	822	1,001	936	788	758	720	747	639	756	759	825	806	900
ヘルパンギーナ	189	224	237	148	92	70	63	51	65	56	41	37	33
流行性耳下腺炎	68	85	77	74	84	54	73	75	61	88	88	65	82
急性出血性結膜炎	4	2	3	3	7	1	2	5	2	2	4	2	3
流行性角結膜炎	134	127	118	121	113	83	93	79	103	95	82	63	99
細菌性髄膜炎	5	5	6	6	9	6	4	6	4	6	5	5	6
無菌性髄膜炎	6	5	11	4	5	4	4	4	4	9	9	6	7
マイコプラズマ肺炎	3	5	5	6	3	4	9	3	4	7	5	3	8
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）		1		1				2	1	1			2
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	6	4	5	4	3	3	2	3	3	4	1	3

	7月				8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	48	175	187	145	160	113	138	138	135	133	111	80	52
RSウイルス感染症	4,783	7,184	7,248	7,450	7,302	5,095	4,108	3,947	4,583	5,029	5,047	3,926	3,745
咽頭結膜熱	1,185	1,096	623	544	398	259	226	231	219	190	215	137	168
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1,248	1,318	826	889	881	614	568	659	892	899	960	797	1,038
感染性胃腸炎	14,389	13,306	9,487	8,613	7,460	5,151	5,213	6,081	6,627	6,791	6,787	5,177	6,327
水痘	215	241	214	207	195	159	174	151	169	160	213	138	192
手足口病	4,502	5,902	6,802	9,494	10,461	8,583	8,502	10,518	11,737	11,886	10,816	7,126	6,251
伝染性紅斑	32	39	32	60	38	19	32	16	47	36	54	34	26
突発性発しん	1,229	1,173	955	884	903	680	656	744	839	856	863	706	848
ヘルパンギーナ	1,069	1,610	1,700	2,367	2,470	1,932	1,579	2,478	2,805	2,768	2,554	1,361	1,419
流行性耳下腺炎	115	112	93	78	74	56	73	95	97	111	111	93	113
急性出血性結膜炎	2	6	7	1	1		5	1	2	6	5	4	7
流行性角結膜炎	166	145	140	156	122	84	119	144	152	131	159	131	116
細菌性髄膜炎	6	5	5	4	2	8	7	11	8	7	7	4	5
無菌性髄膜炎	17	10	11	12	9	8	2	10	6	5	7	9	12
マイコプラズマ肺炎	7	5	3	7	5	9	6	12	4	5	9	5	5
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）					2					1	3	2	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1				2	1	1	3	3	1	1	1	4

報告数が0の場合には空白としている

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
16	6	18	8	11	6	4	8	2	7	6	6	12
315	410	420	446	306	298	548	643	698	844	1,353	1,861	2,995
233	223	308	390	360	554	571	997	1,144	1,314	1,301	1,347	1,364
664	786	908	752	574	846	1,020	948	1,091	1,078	1,174	1,100	1,032
9,233	11,190	12,933	11,700	8,385	13,131	15,587	16,722	16,790	17,159	18,002	16,757	15,059
209	214	225	213	225	262	226	269	274	251	260	262	287
213	277	379	446	338	385	583	628	744	807	1,133	1,884	3,067
44	46	41	33	45	46	42	32	41	26	41	45	49
923	1,032	1,197	1,219	973	1,155	1,270	1,272	1,302	1,286	1,205	1,271	1,294
50	41	34	53	47	71	97	90	123	166	252	451	767
54	99	121	86	76	112	121	123	128	127	102	114	131
1	4	1	5		4	2	2	2	1	11	2	6
106	95	105	97	116	119	109	118	136	148	134	123	154
7	2	5	6	6	10	5	8	5	5	4	8	3
6	5	6	9	8	7	10	10	7	10	12	12	10
7	10	5	6	5	9	10	8	8	8	7	9	8
2	2	1			2	1		1				
	2	4	5	1	2	2	1			1	1	3

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
71	97	111	159	274	412	556	548	638	1,246	2,618	6,136	10,420	25,520
3,544	3,064	3,113	2,945	2,708	2,467	2,345	1,842	1,584	1,713	1,507	1,257	885	120,333
156	148	201	227	249	276	263	306	430	421	499	587	419	25,270
1,187	1,113	1,316	1,387	1,191	1,287	1,249	1,111	1,165	1,164	1,333	1,186	794	52,859
6,201	6,221	6,993	7,496	7,675	8,773	10,136	10,138	12,036	13,802	15,654	17,653	12,922	612,984
191	183	236	274	271	394	357	379	359	358	338	323	217	12,506
5,355	4,171	3,663	2,889	2,374	2,018	1,730	1,521	1,380	1,279	1,014	894	540	158,816
21	34	22	29	46	24	30	25	27	28	28	31	20	1,885
772	739	781	774	802	842	797	815	787	738	761	679	531	47,010
1,268	878	1,026	756	646	580	565	594	585	529	400	324	215	38,026
96	90	106	86	102	106	108	131	112	115	132	97	57	4,927
4	1	5	3	2		1		7	6	14	11	4	186
132	139	159	147	130	147	136	135	160	160	130	169	107	6,486
8	3	8	9	7	9	3	7	6	7	5	5	2	305
13	7	12	5	14	11	10	6	11	9	10	4	7	427
11	11	8	10	14	12	13	7	11	9	13	15	8	389
1					1	1	1		1	1		1	32
	1		2		1	1	2	2			2	3	98

2022 年　感染症別・週別定点あたり報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01					
RSウイルス感染症	0.28	0.31	0.50	0.50	0.34	0.27	0.23	0.17	0.20	0.19	0.18	0.14	0.12
咽頭結膜熱	0.25	0.19	0.20	0.14	0.17	0.13	0.13	0.10	0.11	0.10	0.10	0.07	0.07
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.39	0.47	0.56	0.48	0.40	0.31	0.31	0.27	0.25	0.26	0.28	0.20	0.22
感染性胃腸炎	4.67	6.74	8.08	7.20	5.77	4.56	4.38	3.67	3.80	3.77	3.56	2.80	2.82
水痘	0.14	0.10	0.09	0.08	0.06	0.06	0.06	0.06	0.07	0.06	0.07	0.05	0.06
手足口病	0.37	0.33	0.32	0.27	0.20	0.13	0.09	0.08	0.06	0.06	0.07	0.06	0.06
伝染性紅斑	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
突発性発しん	0.26	0.33	0.30	0.26	0.24	0.23	0.24	0.20	0.24	0.24	0.26	0.26	0.29
ヘルパンギーナ	0.06	0.07	0.08	0.05	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01
流行性耳下腺炎	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03
急性出血性結膜炎	0.01				0.01			0.01			0.01		
流行性角結膜炎	0.19	0.19	0.17	0.18	0.16	0.12	0.13	0.11	0.15	0.14	0.12	0.09	0.14
細菌性髄膜炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
無菌性髄膜炎	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01
マイコプラズマ肺炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）													
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		0.01	0.01	0.01		0.01

	7月				8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	0.01	0.04	0.04	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01
RSウイルス感染症	1.52	2.30	2.30	2.37	2.33	1.65	1.32	1.26	1.46	1.60	1.60	1.25	1.19
咽頭結膜熱	0.38	0.35	0.20	0.17	0.13	0.08	0.07	0.07	0.07	0.06	0.07	0.04	0.05
A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.40	0.42	0.26	0.28	0.28	0.20	0.18	0.21	0.28	0.29	0.31	0.25	0.33
感染性胃腸炎	4.56	4.25	3.02	2.74	2.38	1.67	1.67	1.94	2.11	2.16	2.16	1.64	2.01
水痘	0.07	0.08	0.07	0.07	0.06	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.07	0.04	0.06
手足口病	1.43	1.89	2.16	3.02	3.34	2.78	2.73	3.35	3.73	3.77	3.44	2.26	1.99
伝染性紅斑	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01
突発性発しん	0.39	0.37	0.30	0.28	0.29	0.22	0.21	0.24	0.27	0.27	0.27	0.22	0.27
ヘルパンギーナ	0.34	0.51	0.54	0.75	0.79	0.63	0.51	0.79	0.89	0.88	0.81	0.43	0.45
流行性耳下腺炎	0.04	0.04	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	0.04	0.03	0.04
急性出血性結膜炎		0.01	0.01				0.01			0.01	0.01	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.24	0.21	0.20	0.22	0.18	0.12	0.17	0.21	0.22	0.19	0.23	0.19	0.17
細菌性髄膜炎	0.01	0.01	0.01	0.01		0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
無菌性髄膜炎	0.04	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02		0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）											0.01		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)								0.01	0.01				0.01

報告数が0の場合には空白としている

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
0.10	0.13	0.13	0.14	0.10	0.09	0.17	0.20	0.22	0.27	0.43	0.59	0.95
0.07	0.07	0.10	0.12	0.11	0.18	0.18	0.32	0.36	0.42	0.41	0.43	0.43
0.21	0.25	0.29	0.24	0.18	0.27	0.32	0.30	0.35	0.34	0.37	0.35	0.33
2.94	3.56	4.11	3.74	2.67	4.17	4.95	5.32	5.33	5.44	5.72	5.31	4.78
0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.08	0.07	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.09
0.07	0.09	0.12	0.14	0.11	0.12	0.19	0.20	0.24	0.26	0.36	0.60	0.97
0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
0.29	0.33	0.38	0.39	0.31	0.37	0.40	0.40	0.41	0.41	0.38	0.40	0.41
0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.08	0.14	0.24
0.02	0.03	0.04	0.03	0.02	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.04	0.04
	0.01		0.01		0.01					0.02		0.01
0.15	0.14	0.15	0.14	0.17	0.17	0.16	0.17	0.20	0.21	0.19	0.18	0.22
0.01		0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01
0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.03	0.03	0.02
0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02
		0.01	0.01									0.01

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.01	0.02	0.02	0.03	0.06	0.08	0.11	0.11	0.13	0.25	0.53	1.24	2.14	0.10
1.13	0.97	0.99	0.94	0.86	0.78	0.75	0.58	0.50	0.54	0.48	0.40	0.29	0.74
0.05	0.05	0.06	0.07	0.08	0.09	0.08	0.10	0.14	0.13	0.16	0.19	0.14	0.15
0.38	0.35	0.42	0.44	0.38	0.41	0.40	0.35	0.37	0.37	0.42	0.38	0.26	0.32
1.98	1.98	2.23	2.39	2.44	2.79	3.22	3.22	3.82	4.38	4.97	5.60	4.17	3.76
0.06	0.06	0.08	0.09	0.09	0.13	0.11	0.12	0.11	0.11	0.11	0.10	0.07	0.08
1.71	1.32	1.17	0.92	0.76	0.64	0.55	0.48	0.44	0.41	0.32	0.28	0.17	0.97
0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.25	0.23	0.25	0.25	0.26	0.27	0.25	0.26	0.25	0.23	0.24	0.22	0.17	0.29
0.40	0.28	0.33	0.24	0.21	0.18	0.18	0.19	0.19	0.17	0.13	0.10	0.07	0.23
0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.02	0.03
0.01		0.01						0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01
0.19	0.20	0.23	0.21	0.19	0.21	0.20	0.19	0.23	0.23	0.19	0.24	0.16	0.18
0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		0.01
0.03	0.01	0.03	0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02
0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02
													0.00
												0.01	0.00

2022 年　感染症別・週別報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	299	299
	小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	196	196
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		4	5	7	8	5	4		1	8		1	2	1
RSウイルス感染症		61	49	58	73	51	18	21	31	17	16	20	11	18
咽頭結膜熱		43	39	23	19	29	26	15	15	22	21	22	12	20
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		54	65	56	51	45	35	33	33	51	22	29	29	53
感染性胃腸炎		1,131	1,477	1,479	1,111	822	541	532	483	500	476	458	354	361
水痘		23	18	19	17	9	2	10	7	12	14	6	12	7
手足口病		38	49	29	22	8	5	1	1	4	2	4	2	
伝染性紅斑		1	1	3	1	2	2	3	5	4	2	2	1	2
突発性発しん		48	50	46	30	32	35	45	18	25	36	48	47	57
ヘルパンギーナ		9	2	6	6	3	3	1	2	2	2	3	1	3
流行性耳下腺炎		3	4	2	6	9	1	7	3	4	5	6	4	5
急性出血性結膜炎				1	1	1				1				1
流行性角結膜炎		3	5	4	7	3	2		1	1	1	2	4	4
合計（ＲＳｳｲｰ流行性角結）		1,414	1,759	1,726	1,344	1,014	670	668	599	643	597	600	477	531
細菌性髄膜炎														
無菌性髄膜炎														1
マイコプラズマ肺炎														
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					1									
合計（細菌性髄－ﾛﾀｳｲﾙｽ）					1									1

		7月				8月					9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	300	300	300	300	300	300	301	301	301	300	300	300	300
	小児科	196	196	196	196	196	196	197	197	197	196	196	196	196
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		17	107	105	57	21	8	8	9	4	6	3	10	4
RSウイルス感染症		855	1,351	1,430	1,283	1,214	818	538	464	419	481	431	203	164
咽頭結膜熱		103	91	63	74	34	16	15	25	14	23	12	9	20
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		104	62	43	55	48	41	24	42	50	52	60	65	71
感染性胃腸炎		1,024	908	633	573	450	304	291	380	420	458	390	343	358
水痘		10	12	6	13	6	11	13	6	12	14	14	10	16
手足口病		106	101	92	137	138	130	157	322	359	461	459	367	410
伝染性紅斑		1	4	2	2		2	2	3	2	7	2	2	3
突発性発しん		60	68	63	39	51	41	31	34	40	59	40	49	44
ヘルパンギーナ		21	26	27	45	44	57	45	83	92	118	116	86	107
流行性耳下腺炎		6	11	10	6	5	1	7	7	9	12	13	8	11
急性出血性結膜炎											1	1		
流行性角結膜炎		15	11	11	15	9	3	3	14	13	4	9	3	2
合計（ＲＳｳｲｰ流行性角結）		2,305	2,645	2,380	2,242	1,999	1,424	1,126	1,380	1,430	1,690	1,547	1,145	1,206
細菌性髄膜炎			1			1					1	2		
無菌性髄膜炎		1		1	1	1		1						
マイコプラズマ肺炎												1		
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)									1					
合計（細菌性髄－ﾛﾀｳｲﾙｽ）		1	1	1	1	2		1	1		1	3		

報告数が0の場合には空白としている

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
300	300	300	300	300	300	300	300	298	299	299	299	299
197	197	197	197	197	197	197	197	195	196	196	196	196
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
				1					1		1	1
5	28	49	49	29	35	58	77	83	97	173	289	561
15	19	37	36	38	68	75	130	107	149	161	142	128
52	54	62	48	40	63	78	60	102	72	96	78	58
380	494	568	596	544	776	906	1,018	1,029	1,216	1,254	1,129	1,039
12	13	8	7	9	16	13	21	18	15	14	19	16
2	6	12	12	7	11	9	27	22	13	16	25	60
5	1	3	2	3	2	1	2	2	1	1	1	1
59	56	84	73	76	73	71	64	85	63	58	59	53
5	2	1	1	3	5	3	5	6	11	7	6	11
6	6	4	7	5	6	8	9	7	11	7	7	9
					1	1						2
2	2	6	2	8	7	9	4	3	11	13	5	13
543	681	834	833	762	1,063	1,232	1,417	1,464	1,659	1,800	1,760	1,951
1		1	1	1				1				
		1										
1		2	1	1				1				

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	299	15594
196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	195	10212
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2691
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	832
5	14	23	24	108	148	157	148	112	201	247	671	1,314	3,581
137	111	77	54	44	54	43	28	34	27	26	27	29	12,319
11	7	19	14	13	15	16	18	28	25	26	32	21	2,155
85	110	117	117	106	93	83	89	69	82	74	71	58	3,290
386	345	400	388	422	474	571	588	657	724	824	956	734	34,675
11	14	17	10	18	18	38	26	23	20	26	24	16	741
414	380	341	251	245	214	188	170	166	181	122	86	50	6,434
	1	1	1	3		2		2	1	3	1	1	102
31	45	47	38	57	50	48	47	52	50	37	38	40	2,590
97	77	108	93	91	82	85	72	81	80	64	53	29	1,988
6	9	9	11	9	11	10	20	8	13	12	7	5	387
									1	2	1		15
9	7	7	7	5	10	5	10	6	4	4	9	4	321
1,187	1,106	1,143	984	1,013	1,021	1,089	1,068	1,126	1,208	1,220	1,305	987	65,017
													5
2	2			1									16
			2										3
													3
2	2		2	1									27

2022 年　感染症別・週別定点あたり報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	299	299
	小　児　科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	196	196
	眼　　科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基　　幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		0.01	0.02	0.02	0.03	0.02	0.01		0.00	0.03		0.00	0.01	0.00
RSウイルス感染症		0.31	0.25	0.29	0.37	0.26	0.09	0.11	0.16	0.09	0.08	0.10	0.06	0.09
咽頭結膜熱		0.22	0.20	0.12	0.10	0.15	0.13	0.08	0.08	0.11	0.11	0.11	0.06	0.10
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		0.27	0.33	0.28	0.26	0.23	0.18	0.17	0.17	0.26	0.11	0.15	0.15	0.27
感染性胃腸炎		5.74	7.50	7.51	5.64	4.17	2.75	2.70	2.45	2.54	2.42	2.32	1.81	1.84
水痘		0.12	0.09	0.10	0.09	0.05	0.01	0.05	0.04	0.06	0.07	0.03	0.06	0.04
手足口病		0.19	0.25	0.15	0.11	0.04	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	
伝染性紅斑		0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
突発性発しん		0.24	0.25	0.23	0.15	0.16	0.18	0.23	0.09	0.13	0.18	0.24	0.24	0.29
ヘルパンギーナ		0.05	0.01	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02
流行性耳下腺炎		0.02	0.02	0.01	0.03	0.05	0.01	0.04	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03
急性出血性結膜炎				0.02	0.02	0.02				0.02				0.02
流行性角結膜炎		0.06	0.10	0.08	0.13	0.06	0.04		0.02	0.02	0.02	0.04	0.08	0.08
細菌性髄膜炎														
無菌性髄膜炎														0.06
マイコプラズマ肺炎														
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					0.06									

		7月				8月					9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	300	300	300	300	300	300	301	301	301	300	300	300	300
	小　児　科	196	196	196	196	196	196	197	197	197	196	196	196	196
	眼　　科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基　　幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
インフルエンザ		0.06	0.36	0.35	0.19	0.07	0.03	0.03	0.03	0.01	0.02	0.01	0.03	0.01
RSウイルス感染症		4.36	6.89	7.30	6.55	6.19	4.17	2.73	2.36	2.13	2.45	2.20	1.04	0.84
咽頭結膜熱		0.53	0.46	0.32	0.38	0.17	0.08	0.08	0.13	0.07	0.12	0.06	0.05	0.10
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎		0.53	0.32	0.22	0.28	0.24	0.21	0.12	0.21	0.25	0.27	0.31	0.33	0.36
感染性胃腸炎		5.22	4.63	3.23	2.92	2.30	1.55	1.48	1.93	2.13	2.34	1.99	1.75	1.83
水痘		0.05	0.06	0.03	0.07	0.03	0.06	0.07	0.03	0.06	0.07	0.07	0.05	0.08
手足口病		0.54	0.52	0.47	0.70	0.70	0.66	0.80	1.63	1.82	2.35	2.34	1.87	2.09
伝染性紅斑		0.01	0.02	0.01	0.01		0.01	0.01	0.02	0.01	0.04	0.01	0.01	0.02
突発性発しん		0.31	0.35	0.32	0.20	0.26	0.21	0.16	0.17	0.20	0.30	0.20	0.25	0.22
ヘルパンギーナ		0.11	0.13	0.14	0.23	0.22	0.29	0.23	0.42	0.47	0.60	0.59	0.44	0.55
流行性耳下腺炎		0.03	0.06	0.05	0.03	0.03	0.01	0.04	0.04	0.05	0.06	0.07	0.04	0.06
急性出血性結膜炎											0.02	0.02		
流行性角結膜炎		0.29	0.21	0.21	0.29	0.17	0.06	0.06	0.27	0.25	0.08	0.17	0.06	0.04
細菌性髄膜炎			0.06			0.06					0.06	0.13		
無菌性髄膜炎		0.06		0.06	0.06	0.06		0.06						
マイコプラズマ肺炎												0.06		
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）														
感染性胃腸炎(ロタウイルス)									0.06					

報告数が0の場合には空白としている

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
300	300	300	300	300	300	300	300	298	299	299	299	299
197	197	197	197	197	197	197	197	195	196	196	196	196
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
				0.00					0.00		0.00	0.00
0.03	0.14	0.25	0.25	0.15	0.18	0.29	0.39	0.43	0.49	0.88	1.47	2.86
0.08	0.10	0.19	0.18	0.19	0.35	0.38	0.66	0.55	0.76	0.82	0.72	0.65
0.26	0.27	0.31	0.24	0.20	0.32	0.40	0.30	0.52	0.37	0.49	0.40	0.30
1.93	2.51	2.88	3.03	2.76	3.94	4.60	5.17	5.28	6.20	6.40	5.76	5.30
0.06	0.07	0.04	0.04	0.05	0.08	0.07	0.11	0.09	0.08	0.07	0.10	0.08
0.01	0.03	0.06	0.06	0.04	0.06	0.05	0.14	0.11	0.07	0.08	0.13	0.31
0.03	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.30	0.28	0.43	0.37	0.39	0.37	0.36	0.32	0.44	0.32	0.30	0.30	0.27
0.03	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.06	0.04	0.03	0.06
0.03	0.03	0.02	0.04	0.03	0.03	0.04	0.05	0.04	0.06	0.04	0.04	0.05
					0.02	0.02						0.04
0.04	0.04	0.12	0.04	0.16	0.14	0.18	0.08	0.06	0.22	0.25	0.10	0.25
0.06		0.06	0.06	0.06				0.06				
		0.06										

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	299	15594
196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	196	195	10212
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2691
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	832
0.02	0.05	0.08	0.08	0.36	0.49	0.52	0.49	0.37	0.67	0.82	2.24	4.39	0.23
0.70	0.57	0.39	0.28	0.22	0.28	0.22	0.14	0.17	0.14	0.13	0.14	0.15	1.21
0.06	0.04	0.10	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.14	0.13	0.13	0.16	0.11	0.21
0.43	0.56	0.60	0.60	0.54	0.47	0.42	0.45	0.35	0.42	0.38	0.36	0.30	0.32
1.97	1.76	2.04	1.98	2.15	2.42	2.91	3.00	3.35	3.69	4.20	4.88	3.76	3.40
0.06	0.07	0.09	0.05	0.09	0.09	0.19	0.13	0.12	0.10	0.13	0.12	0.08	0.07
2.11	1.94	1.74	1.28	1.25	1.09	0.96	0.87	0.85	0.92	0.62	0.44	0.26	0.63
	0.01	0.01	0.01	0.02		0.01		0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
0.16	0.23	0.24	0.19	0.29	0.26	0.24	0.24	0.27	0.26	0.19	0.19	0.21	0.25
0.49	0.39	0.55	0.47	0.46	0.42	0.43	0.37	0.41	0.41	0.33	0.27	0.15	0.19
0.03	0.05	0.05	0.06	0.05	0.06	0.05	0.10	0.04	0.07	0.06	0.04	0.03	0.04
									0.02	0.04	0.02		0.01
0.17	0.13	0.13	0.13	0.10	0.19	0.10	0.19	0.12	0.08	0.08	0.17	0.08	0.12
													0.01
0.13	0.13			0.06									0.02
			0.13										0.00
													0.00

2022 年　感染症別・ブロック別報告状況（大阪府内集計）

（ブロック別）

疾患名	ブロック名	01 豊能	02 三島	03 北河内	04 中河内	05 南河内	06 堺市	07 泉州	08 大阪市北部	09 大阪市西部	10 大阪市東部	11 大阪市南部	合 計
定点数	*1　ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	1,794	1,286	2,101	1,612	1,248	1,507	1,697	1,040	780	1,125	1,404	15,594
	*2　小児科	1,196	870	1,321	1,040	832	987	1,021	728	520	761	936	10,212
	*3　眼科	260	208	312	260	208	260	299	260	104	312	208	2,691
	*4　基幹	104	104	104	104	52	104	52	52	52	52	52	832
*1	インフルエンザ	155	71	420	397	286	496	352	438	272	324	370	3,581
*2	RSウイルス感染症	940	676	1,554	808	1,457	1,233	1,269	1,658	907	824	993	12,319
	咽頭結膜熱	131	124	270	192	185	192	310	210	107	136	298	2,155
	Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	109	163	366	824	184	233	500	170	81	92	568	3,290
	感染性胃腸炎	3,478	2,782	4,255	4,543	4,486	3,003	3,522	2,498	1,656	1,105	3,347	34,675
	水痘	46	33	125	102	75	95	64	82	31	35	53	741
	手足口病	539	634	824	708	858	661	487	470	264	306	683	6,434
	伝染性紅斑	12	4	11	17	9	6	10	16	6	6	5	102
	突発性発しん	305	148	401	388	290	146	267	203	104	115	223	2,590
	ヘルパンギーナ	220	201	309	106	160	131	233	205	122	138	163	1,988
	流行性耳下腺炎	17	27	81	36	63	36	36	31	32	13	15	387
*3	急性出血性結膜炎			2	5			5	1	1	1		15
	流行性角結膜炎	19	40	32	44	9	22	49	17	7	45	37	321
合　計 (小児科、眼科定点把握)		5,816	4,832	8,230	7,773	7,776	5,758	6,752	5,561	3,318	2,816	6,385	65,017
*4	細菌性髄膜炎		3	1						1			5
	無菌性髄膜炎	2	3			2	8				1		16
	マイコプラズマ肺炎	2						1					3
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）												
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	1				1						3
合計｛細菌性髄膜炎－感染性胃腸炎(ロタウイルス)｝		5	7	1		2	9	1		1	1		27
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		91	75	37	26	351	66	29	43	18		70	806
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		5		1		20	10	32					68
薬剤耐性緑膿菌感染症		2		2									4
合計（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症－薬剤耐性緑膿菌感染症）		98	75	40	26	371	76	61	43	18		70	878

*1　インフルエンザ定点把握疾患
*2　小児科定点把握疾患
*3　眼科定点把握疾患
*4　基幹定点把握疾患
報告数が0の場合には空白としている

2022 年　感染症別・年齢別報告状況（大阪府内集計）

（年齢別）

	疾病名＼年齢区分	6ヶ月未満	12ヶ月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から29歳	30歳から39歳	40歳から49歳	50歳から59歳	60歳から	合計
*1	インフルエンザ	17	29	121	154	184	249	320	308	186	200	171	657	296	689					3,581
*2	RSウイルス感染症	1,170	1,650	3,791	2,840	1,664	735	295	84	21	18	11	17	2	21					12,319
	咽頭結膜熱	12	258	852	410	273	145	65	28	19	14	6	21	8	44					2,155
	Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	6	38	189	279	472	428	373	263	216	181	144	369	82	250					3,290
	感染性胃腸炎	359	2,572	6,147	5,016	4,002	3,108	2,572	1,832	1,314	1,152	955	2,661	704	2,281					34,675
	水痘	10	27	61	39	49	55	69	51	67	59	78	139	17	20					741
	手足口病	35	485	2,439	1,676	918	437	212	96	42	26	18	24	3	23					6,434
	伝染性紅斑	1	13	18	20	9	13	8	8	3	3	2	3		1					102
	突発性発しん	32	766	1,397	283	83	28	1												2,590
	ヘルパンギーナ	11	156	599	451	294	190	97	43	24	8	11	14	7	83					1,988
	流行性耳下腺炎		2	8	20	20	45	47	56	46	38	34	61	6	4					387
*3	急性出血性結膜炎						1							1	13					15
	流行性角結膜炎	1		8	6	8		6	1	4	3	3	10	22	249					321
	合　　計	1,637	5,967	15,509	11,040	7,792	5,185	3,745	2,462	1,756	1,502	1,262	3,319	852	2,989					65,017
*4	細菌性髄膜炎																	2	3	5
	無菌性髄膜炎				2						1			1	1	2		4	5	16
	マイコプラズマ肺炎				1								1					1		3
	ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病を除く）																			
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1			1						1									3
合計｛細菌性髄膜炎－感染性胃腸炎(ロタウイルス)｝		1			4						2		1	1	1	2		7	8	27
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		30	6	6	4	3	3	2		1	3	5	6	14	20	28	40	58	577	806
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			5	20	7	1							1			2	4	2	26	68
薬剤耐性緑膿菌感染症																		1	3	4
合計（ﾒﾁｼﾘﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌感染症－薬剤耐性緑膿菌感染症）		30	11	26	11	4	3	2		1	3	5	7	14	20	30	44	61	606	878

*1　インフルエンザ定点把握疾患
*2　小児科定点把握疾患
*3　眼科定点把握疾患
*4　基幹定点把握疾患
報告数が0の場合には空白としている

2.　各感染症状況報告

1）インフルエンザ定点把握疾患

●インフルエンザ

令和 4 年（2022 年）のインフルエンザの患者発生は、第 35 週までは 2021/2022 年シーズンを第 36 週以降は 2022/2023 年シーズンが反映されている。令和 4 年のインフルエンザ定点からの累積報告数は、全国 25,520（定点当たり累積報告数 5.16）、大阪府 3,581（定点当たり累積報告数 11.94）であり、前年（2021 年）の累積報告数（全国 1,065、大阪府 94）を大幅に上回っているが、2020 年（全国 563,488、大阪府 42,963）や新型コロナウイルス感染症の国内流行が発生する以前の 2019 年（全国 1,876,083、大阪府 88,389）、2018 年（全国 1,898,941、大阪府 98,247）の累積報告数の水準には至っていない。2020 年の第 13 週以降は全国、大阪府共に定点当たり報告数が 1.00 を下回った状態が長期間継続していたが、2020 年第 51 週に漸く共にインフルエンザの流行開始の指標とされている 1.00 を超えた（全国 1.24、大阪府 2.24）（図）。

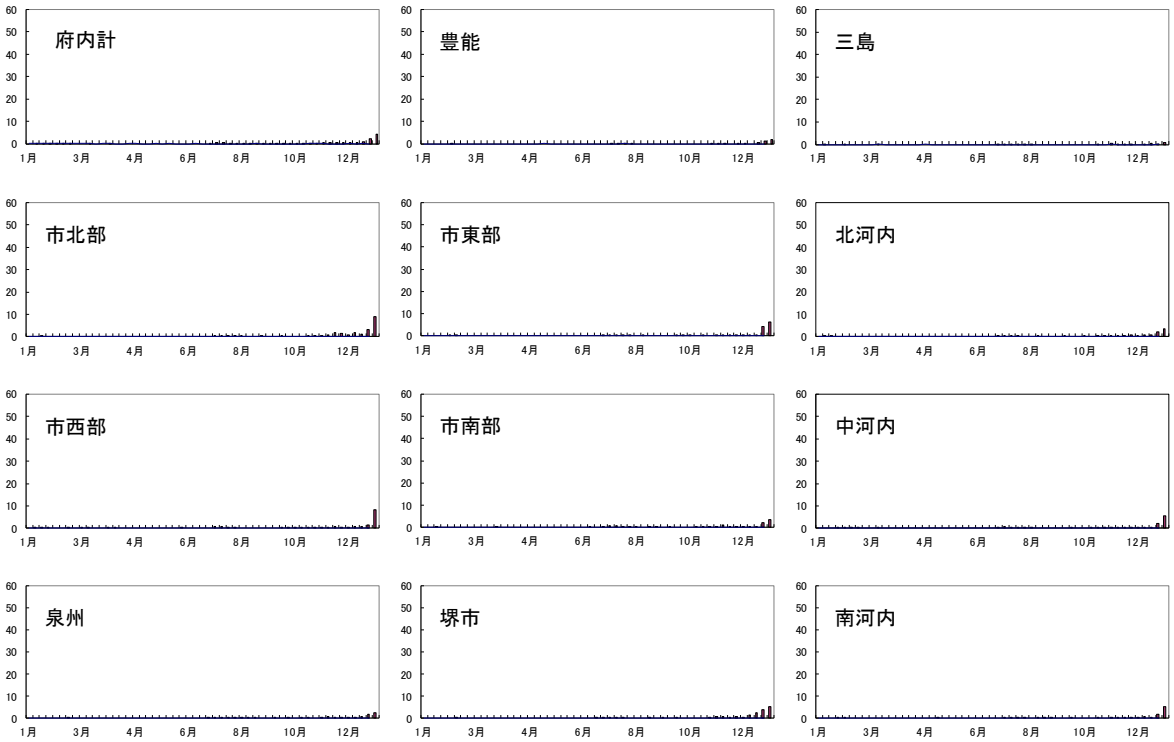
2022 年の国内のインフルエンザウイルス株の検出状況をみると、総検出数は 238 株（AH1 亜型 6 株、AH3 亜型 229 株、B ビクトリア系統 3 株）であり、大半が AH3 であった（https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html）。2021 年の検出数（6 株）よりは大幅に増加がみられているものの、2020 年の検出数（2,710 株）、2019 年の検出数（8,180 株）よりは大きく減少したままである。大阪府内からは 2022 年のインフルエンザの検出数は 6 株であり、全て AH3 亜型であった。

前述した通り、おそらく新型コロナウイルス感染症流行の影響により、2020 年第 13 週以降、全国、大阪府共にインフルエンザの流行がない状態が 2 年間以上続いていたが、2022 年第 51 週にインフルエンザの定点当たり報告数は共に 1.00 を上回り、32 か月ぶりに流行開始となった。2022 年に検出されたウイルスは全国、大阪府共に AH3 亜型が殆どであったが、これは欧米でのインフルエンザの流行とその流行株が反映されているものと思われる。

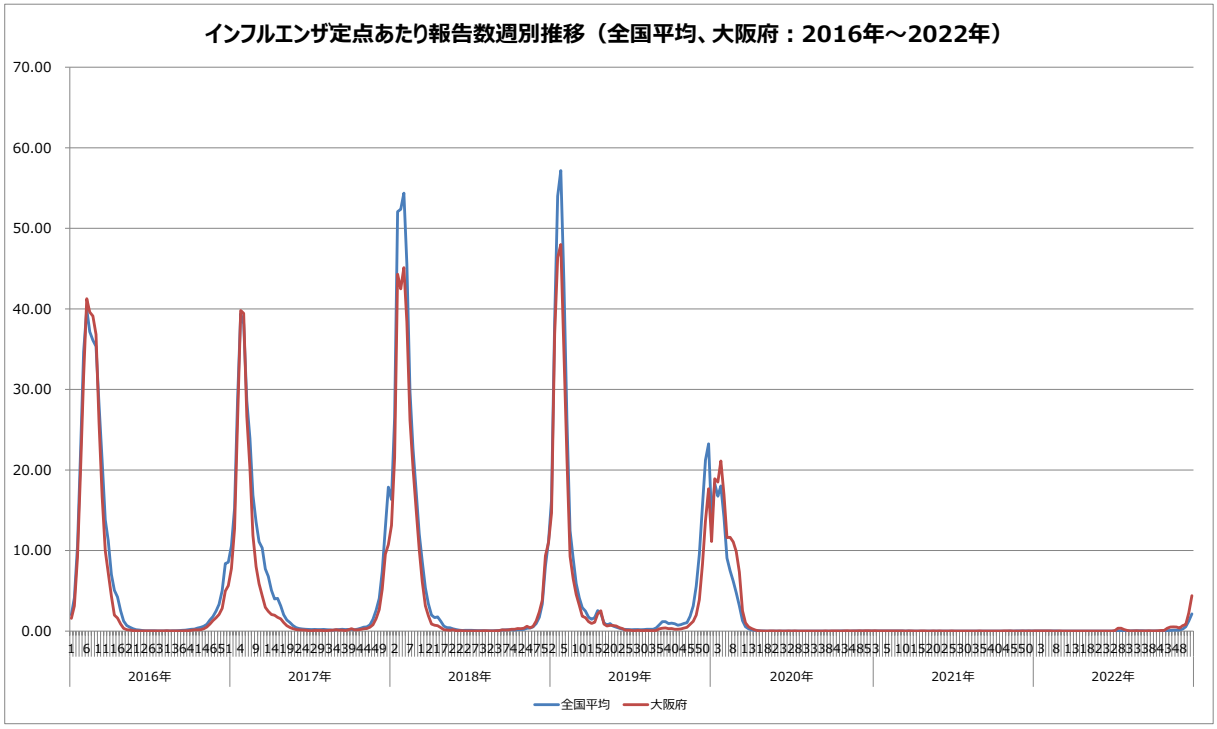
免疫保有者の割合の増加等により、新型コロナウイルス感染症の国民に与える影響が小さくなっていくにつれて、インフルエンザの流行はある程度大きなものとなると推察される。明確な予想は難しいが、今後インフルエンザの流行規模は、2023 年、2024 年と新型コロナの流行以前に近付いていく可能性が高いと思われる。　（文責：安井）

インフルエンザ

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移



2016 年～2022 年のインフルエンザ定点あたり報告数週別推移（全国平均、大阪府）

２）小児科定点把握疾患

●RS ウイルス感染症

2022 年の RS ウイルス感染症の患者報告数は 12,319 例で、前年比 23.3%減の報告数となり、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 18.9%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 1.21 で順位は第 2 位であった。

全国集計においては 120,333 例の報告で、前年比 50.0%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 11.1%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.74、順位は第 3 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.31 に始まり、以後増加し第 4 週（1 月）に 0.37 と小さなピークを示した。その後減少し、第 13 週（3 月）までは 0.1 前後で推移し、第 14 週（4 月）には年間最低値の 0.03 となった。第 16 週（ 4 月）から第 19 週（5 月）にかけて 0.2 前後で推移した後、第 20 週（5 月）からは増加し、第 25 週（6 月）から第 38 週（9 月）まで 1.00 を超えた。年間最高値は第 29 週（7 月）の 7.30 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.28 に始まり、第 3・第 4 週（1 月）に 0.50 と小ピークを示した後減少し、第 19 週（5 月）まで 0.1－0.2 の範囲で推移した。第 20 週（5 月）以降上昇し、第 27 週（7 月）から第 40 週まで 1.0 を超えた。年間最高値は第 30 週（7 月）の 2.37 であった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 3,791 例が最も多く、以下 2 歳児 2,840 例、3 歳児の 1,664 例、6 か月から 12 か月未満児の 1,650 例と続く。0 歳児から 2 歳児で全体の 76.7%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは⑧大阪府北部（1,658 例）、③北河内（1,554 例）、⑤南河内（1,457 例）、⑦泉州（1,269 例）、⑥堺市（1,233 例）であった。

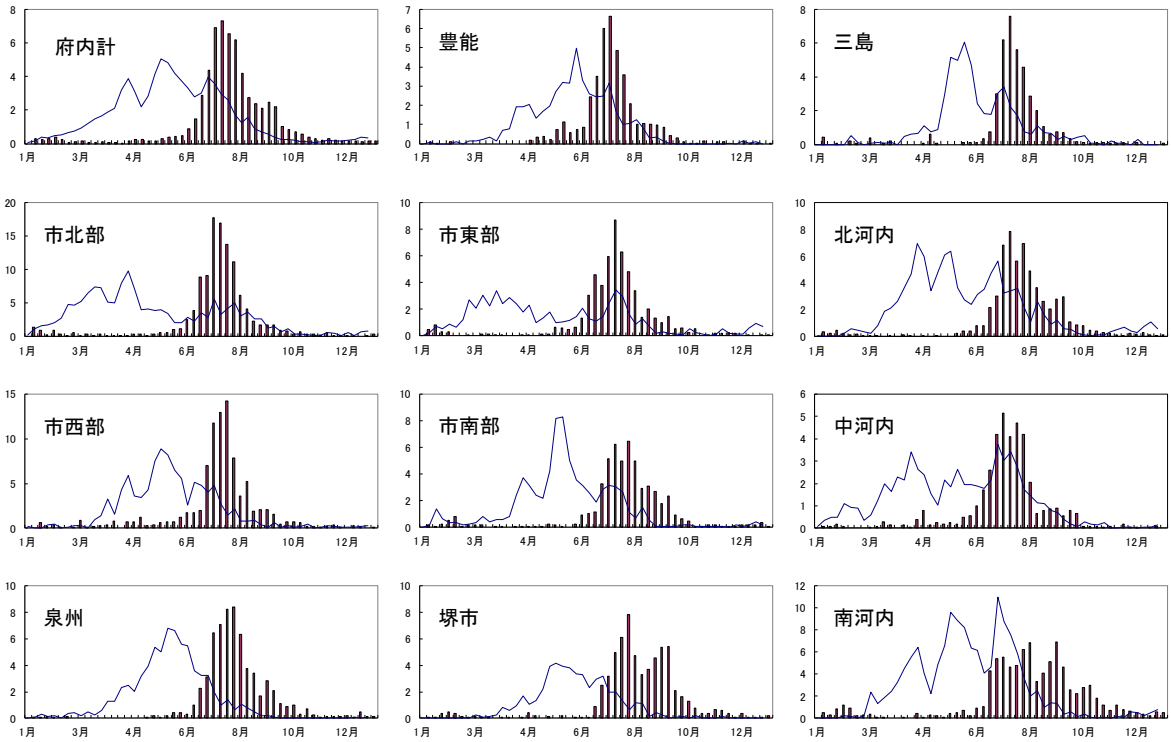
ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは⑧大阪市北部（2.28）、 ⑤南河内（1.75）、⑨大阪市西部（1.74）、⑥堺市（1.25）、⑦泉州（1.24）であった。

病原体定点医療機関からの検体数は前年比 71%減の 44 件で、そのうち 33 検体（75.0%）からウイルスが検出された。内訳は RS ウイルス A 型が 25 例、RS ウイルス B 型が 4 例、ヒトメタニューモウイルス 4 例であった。

（文責：山本）

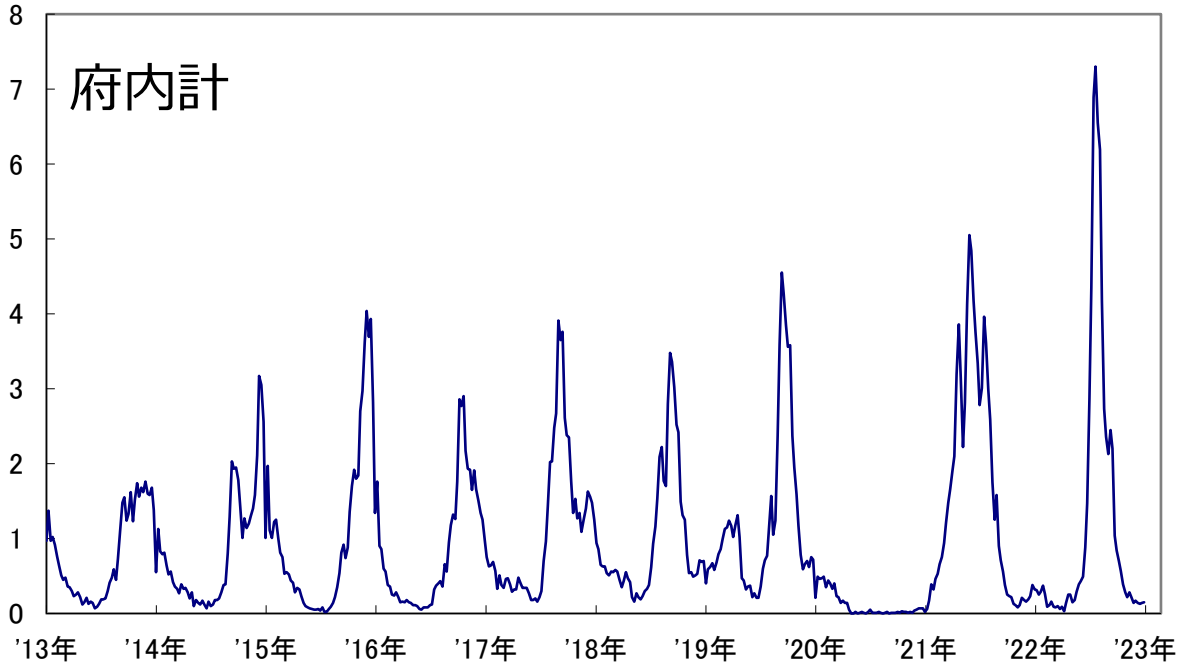
RS ウイルス感染症

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり RS ウイルス感染症報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●咽頭結膜熱

2022 年の咽頭結膜熱の患者報告数は 2,155 例で、前年比 3.7%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 3.3%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.21 で、順位は第 6 位であった。

全国集計では 25,270 例の報告で、前年比 25.8%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 2.3%を占めた。定点あたり報告数の年平均は 0.15 で、順位は第 8 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.22 に始まり第 18 週（5 月）までは 0.06－0.2 の範囲で小幅に増減していた。第 19 週（5 月）から増加し、第 24 週（6 月）には年間最高の 0.82 となった。その後漸減し、第 31 週（8 月）に 0.17 となった。第 32 週（8 月）以降第 47 週（11 月）までは第 34 週（8 月）と第 36 週（9 月）を除き 0.1 以下で推移した。第 48 週(11 月)以降 0.1 を超え、第 51 週（12 月）には 0.16 となり、第 52 週（12 月）は 0.12 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.25 に始まり、第 20 週（5 月）までは 0.2 以下で推移した。第 21 週（5 月）以降上昇し、第 25 週・第 26 週（6 月）には年間最高の 0.43 となった。第 27 週（7 月）以降は漸減し、第 30 週（7 月）以降は第 52 週（12 月）まで 0.2 未満で推移し、第 38 週（9 月）には年間最低値 0.04 となり、第 52 週（12 月）は 0.14 であった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 852 例が最も多く、以下 2 歳児 410 例、3 歳児 273 例、6 か月から 12 か月未満児 258 例、4 歳児 145 例であった。これらの年齢層で全体の 89.9%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは⑦泉州（310 例）、⑪大阪市南部（298 例）、③北河内（270 例）、⑧大阪市北部（210 例）、④中河内・⑥堺市（192 例）であった。

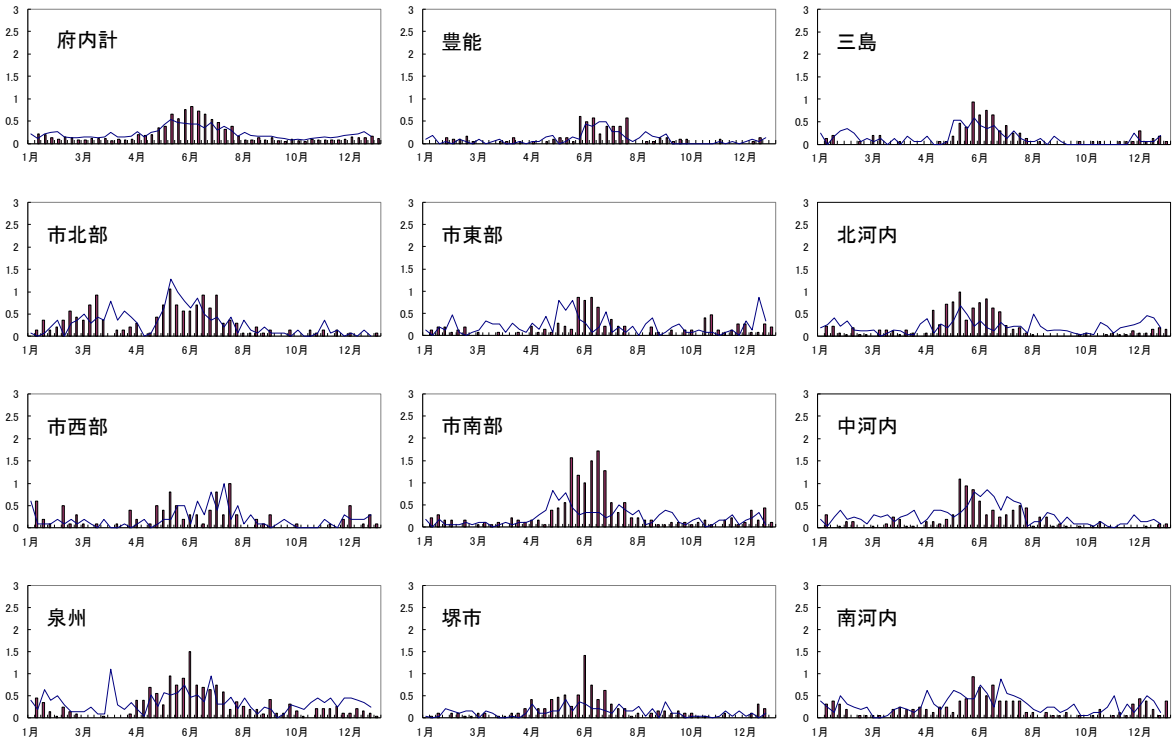
ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは⑪大阪市南部（0.32）、⑦泉州（0.30）、⑧大阪市北部（0.29）、⑤南河内（0.22）、⑨大阪市西部（0.21）であった。

病原体定点医療機関からの検体数は 16 件で、そのうち 8 検体（50.0%）からウイルスが検出された。全例がアデノウイルスで 3 型 3 例、2 型 2 例、41 型 1 例、型判定不能 2 例であった。

（文責：山本）

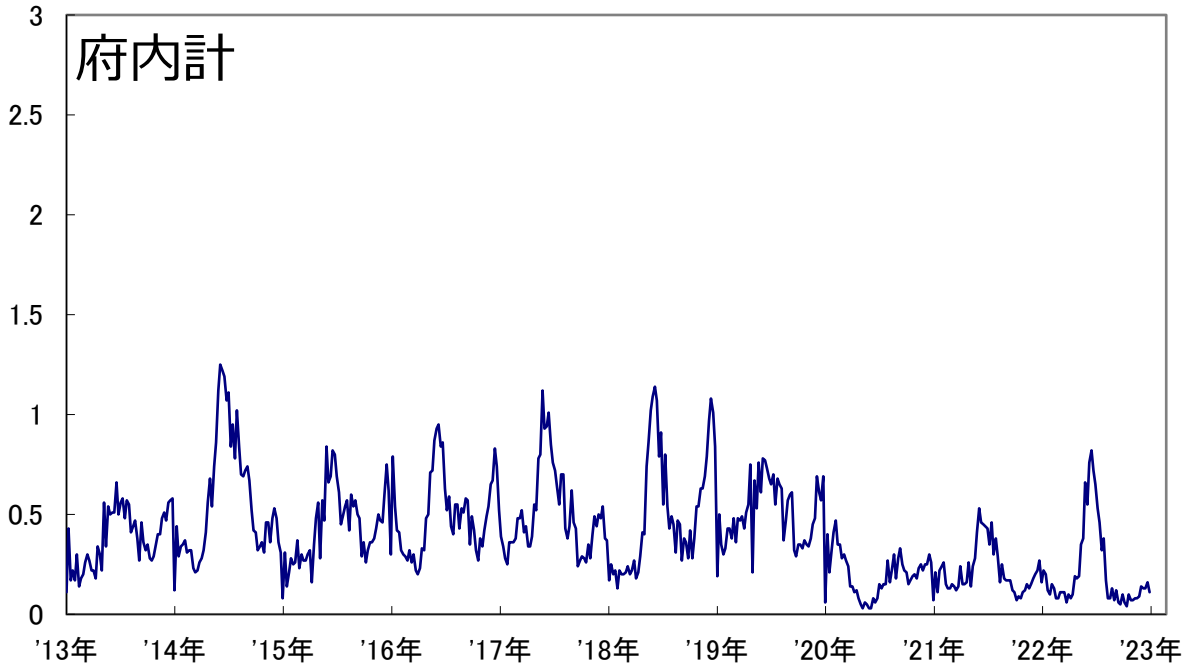
咽頭結膜熱

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり咽頭結膜熱報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2022 年の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は 3,290 例で、前年比 32.2%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 5.1%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.32 で、順位は第 4 位であった。

全国集計では 52,859 例の報告で、前年比 43.8%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 4.9%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.32 で、順位は第 4 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では年間平均値と比べて、1 月から 4 月と 8 月に 1 標準偏差以上少なく、2 月、3 月、8 月は 2 標準偏差以上少なかった。また、6 月と 10 月から 12 月にかけて 1 標準偏差以上多く、10 月、11 月は 2 標準偏差以上多かった。例年みられる初夏と冬のピークが認められた。年間最高値は第 42 週（10 月）と第 43 週（10 月）の 0.60 で、年間最低値は第 10 週（3 月）の 0.11 であった。

全国集計では、1 月、10 月に 1 標準偏差以上多く、3 月、4 月、8 月に 1 標準偏差以上少なかった。例年みられるピークのうち、初夏のピークは認められず、冬のピークのみ認められた。年間最高値は第 3 週（1 月）の 0.56 で、年間最低値は第 18 週（5 月）と第 33 週（8 月）の 0.18 であった。

年齢別患者報告数は、3 歳の 472 例が最も多く、以下 4 歳 428 例、5 歳 373 例、10～14 歳 369 例、2 歳 279 例、6 歳 263 例と続き、2 歳から 6 歳で全体の 55.2%を占めた。

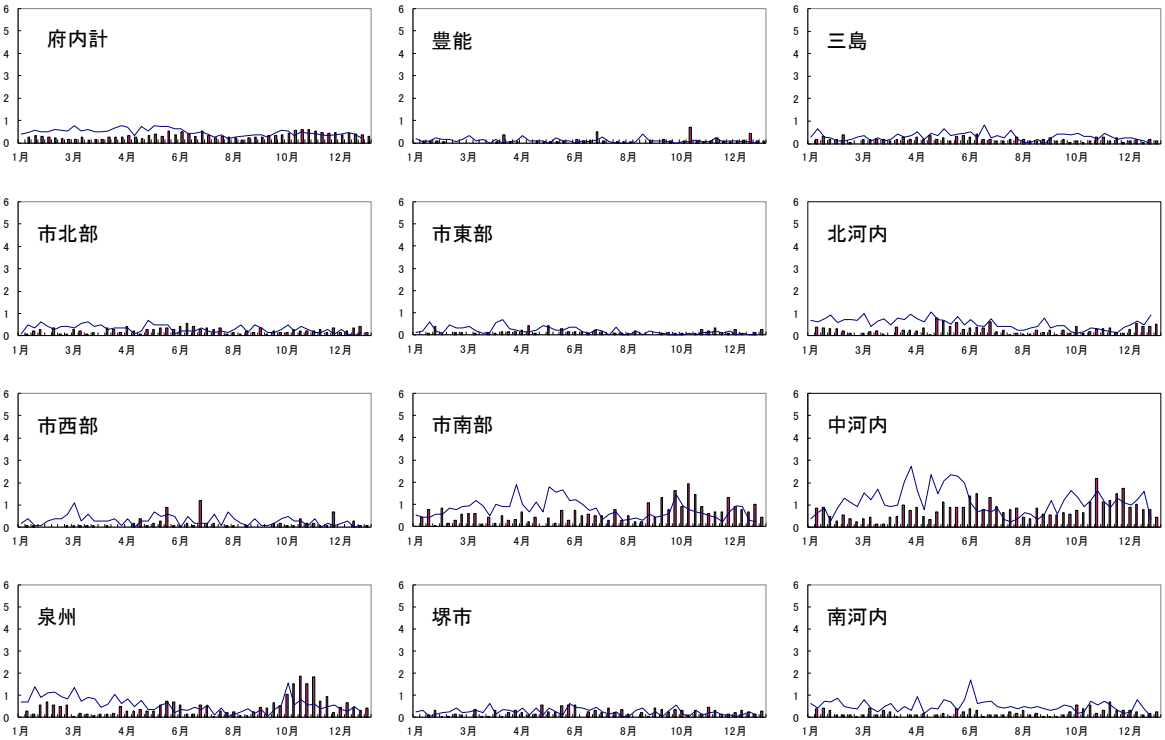
ブロック別・年間患者報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（824 例）、⑪大阪市南部（568 例）、⑦泉州（500 例）、③北河内（366 例）、⑥堺市（233 例）の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数年平均の上位 5 ブロックは、④中河内（0.79）、⑪大阪市南部（0.61）、⑦泉州（0.49）、③北河内（0.28）、⑥堺市（0.24）の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（第 43 週、2.20）、⑪大阪市南部（第 41 週、1.94）、⑦泉州（第 42 週、1.90）、⑦泉州（第 44 週、1.84）、④中河内（第 47 週、1.75）の順であった。昨年に引き続き、ブロック別・年間、ブロック別・週別ともに、④中河内での報告数が多いのが目立っていた。　（文責：冨吉）

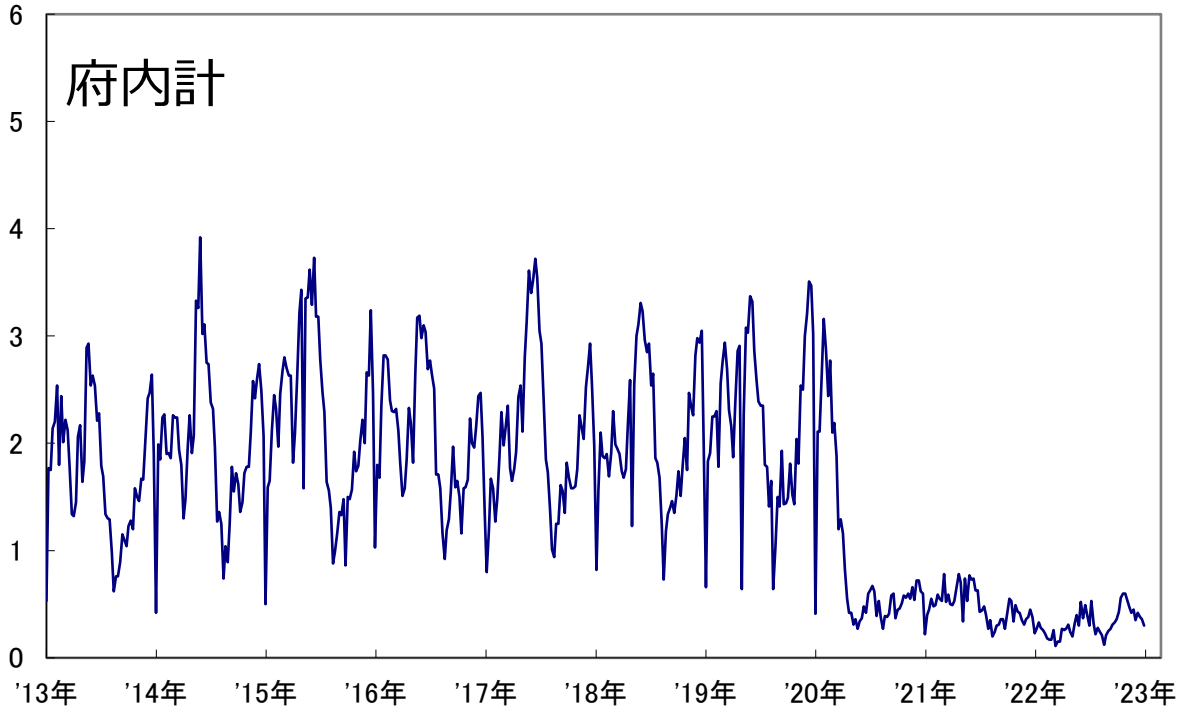
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●感染性胃腸炎

2022 年の感染性胃腸炎の報告数は 34,675 例で、前年より 2,678 例、7.2%減少した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 53.3%を占め、第 1 位であった。定点あたり報告数の年平均は 3.40 で、前年 3.66 より 7.1%の減少で、過去 10 年でみると最低値であった 2020 年 2.28 に次いで 2 番目の低値であった。全国集計では報告数 612,984 例で、前年より 20.3%増加し、総報告数の 56.7%を占めた。定点あたり報告数は年平均 3.76 と前年 3.11 より 20.9%増加したが、過去 10 年で 3 番目の低値であった。

定点あたり報告数を週別にみると、前年冬からの増加傾向に続き、第 3 週には年間最高値である 7.51 まで達した。その後、第 6 週 2.75 まで急激に減少し、第 12 週 1.81 から再び増加傾向に転じ、第 24 週 6.24 とピークを形成した。第 33 週に年間最低値 1.48 まで低下後、 2 前後で推移し、第 43 週 1.98 からは週ごとに増加し、第 51 週に 4.88 まで達し、ピークを形成した。

全国集計では、概ね大阪府と同様の発生動向を示し、第 3 週に年間最高値 8.08 に達した後に減少し、第 12 週 2.80 から再び増加傾向に転じ、第 24 週 5.72 とピークを形成した。第 38 週に年間最低値 1.64 まで低下後、増加傾向となり、第 51 週に 5.60 まで達し、ピークを形成した。

定点あたり報告数の月別平均値は、1 月、6 月、5 月、12 月、7 月、11 月の順で高かった。1 月に最も高いピークを形成後、6 月中旬に再びピークを認め、その後は、例年同様、秋から冬にかけて増加し新たなピークを持つ流行曲線を示した。

ブロック別定点あたり報告数のピーク値が警報開始基準値 20.0 を超えたブロックは無かった。ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内 5.39、④中河内 4.37、⑪大阪市南部 3.58、⑧大阪市北部 3.43、⑦泉州 3.43、③北河内 3.21、②三島 3.20、⑨大阪市西部 3.18、⑥堺市 3.04、①豊能 2.91、⑩大阪市東部 1.46 の順であった。

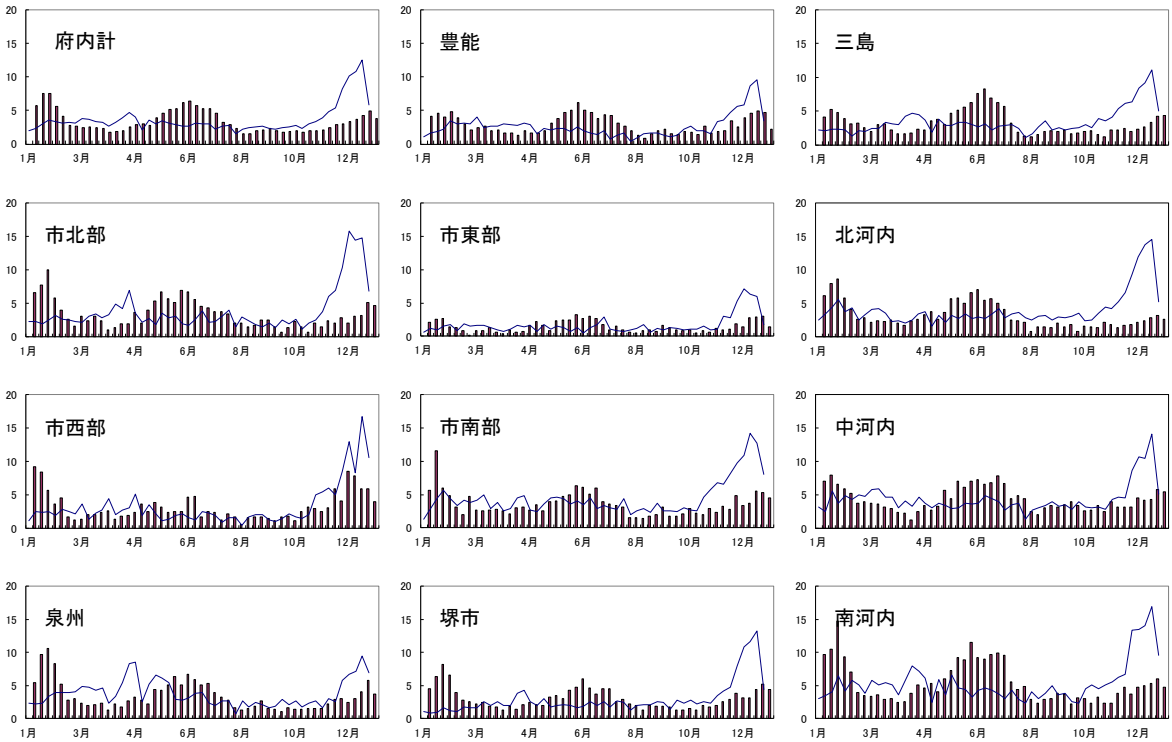
年齢別報告数（0~9 歳）は、1 歳、2 歳、3 歳、4 歳、0 歳、5 歳、6 歳、7 歳、8 歳、9 歳の順に多かった。0～4 歳の報告数は 21,204 例で全体の 61.2%を占めた。5～9 歳が 7,825 例（22.6%）、10～14 歳が 2,661 例（7.7%）、15 歳以上が 2,985 例（8.6%）で、各年齢の全体に占める割合は、前年と同様に 4 歳以下が 60%以上と、例年と較べて 4 歳以下の占める割合が高かった。

ウイルス検出は 125 検体のうち陽性だったのは 57 検体で、陽性率 45.6%であった。病原体別でみると、ノロウイルス 34 件（陽性検体の 59.6%、うちノロウイルス GII. 3 が 13 件）、サポウイルス 13 件（陽性検体の 22.8%）、アデノウイルス 9 件（陽性検体の 15.8%）、ロタウイルス 1 件（陽性検体の 1.8%）であった。

（文責：國吉）

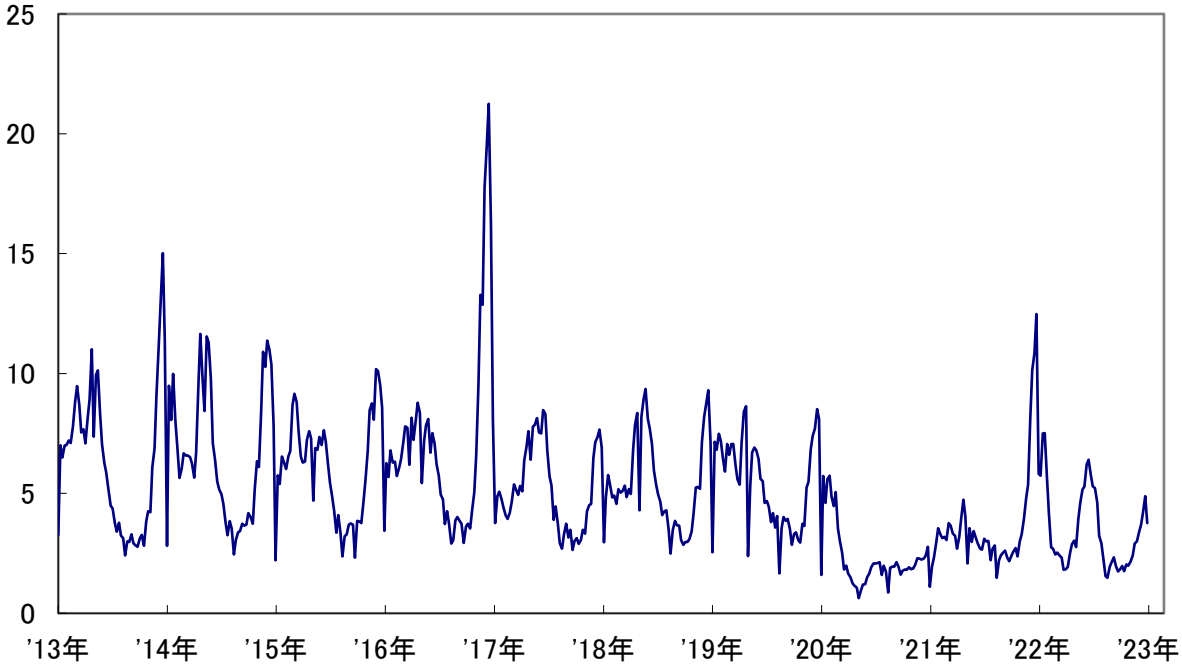
感染性胃腸炎

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり感染性胃腸炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●水痘

2022 年の水痘の報告数は 741 例で、前年 960 例より 219 例、22.8%減少した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 1.1%を占め、第 8 位であった。2008 年～2010 年は第 2～3 位であったが、2011 年～2014 年は第 3~4 位、2015 年は第 5 位であり、2016 年以降は 8～9 位と年々減少し、2021 年は 2022 年と同様第 8 位であった。定点あたり報告数の年平均は 0.07 で、前年 0.09 より 22.2%減少した。全国集計では報告数 12,506 例で前年 17,782 例より 5,276 例、29.7%減少した。総報告数の 1.2%を占め、定点あたり報告数は年平均 0.08 と前年 0.11 より 27.3%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週の 0.12 から第 4 週にかけて漸減した後、やや急速に年間最低値である第 6 週の 0.01 まで低下した。その後、第 21 週の 0.11 に至るまで増減を繰り返しながら漸増した後、第 31 週の 0.03 に至るまでは増減を繰り返しながら漸減に転じた。第 32 週の 0.06 から第 43 週の 0.05 までは増減を繰り返しながら推移した。第 44 週の 0.09 からは急速に増加に転じ、第 46 週に年間最高値である 0.19 となった。その後、減少傾向が続き、一旦、第 50 週に 0.13 まで増加したものの再び減少に転じ、第 52 週に 0.08 まで減少した。全国集計では、第 1 週に年間最高値である 0.14 から急速に減少し第 5 週に 0.06 となった後、数回の増減を繰り返しながら微増し、第 21 週に 0.09 となった。その後、年間最低値である第 38 週の 0.04 まで漸減した後増加に転じた。第 45 週で 0.13 のピーク形成後、漸減傾向となり第 52 週は 0.07 となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、高い方から、11 月、12 月、1 月、6 月、5 月、10 月、9 月、4 月、7 月、8 月、3 月、2 月の順であった。例年のとおり二峰性のピークを認めたものの、春のピークの立ち上がりが遅くなったことに加え、夏から冬にかけて漸増した流行曲線を呈したことが 2021 年とは異なった。定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、いずれも前年よりも低値であり、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった 1999 年以降の 23 年間で最も低値であった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑧大阪市北部 0.11、④中河内 0.10、⑥堺市 0.10、③北河内 0.09、⑤南河内 0.09、⑦泉州 0.06、⑨大阪市西部 0.06、大阪市南部 0.06、⑩大阪市東部 0.05、①豊能 0.04、②三島 0.04 の順であった。

年齢別報告数（0~9 歳）は、多い方から、9 歳、5 歳、7 歳、1 歳、8 歳、4 歳、6 歳、3 歳、2 歳、0 歳の順であった。

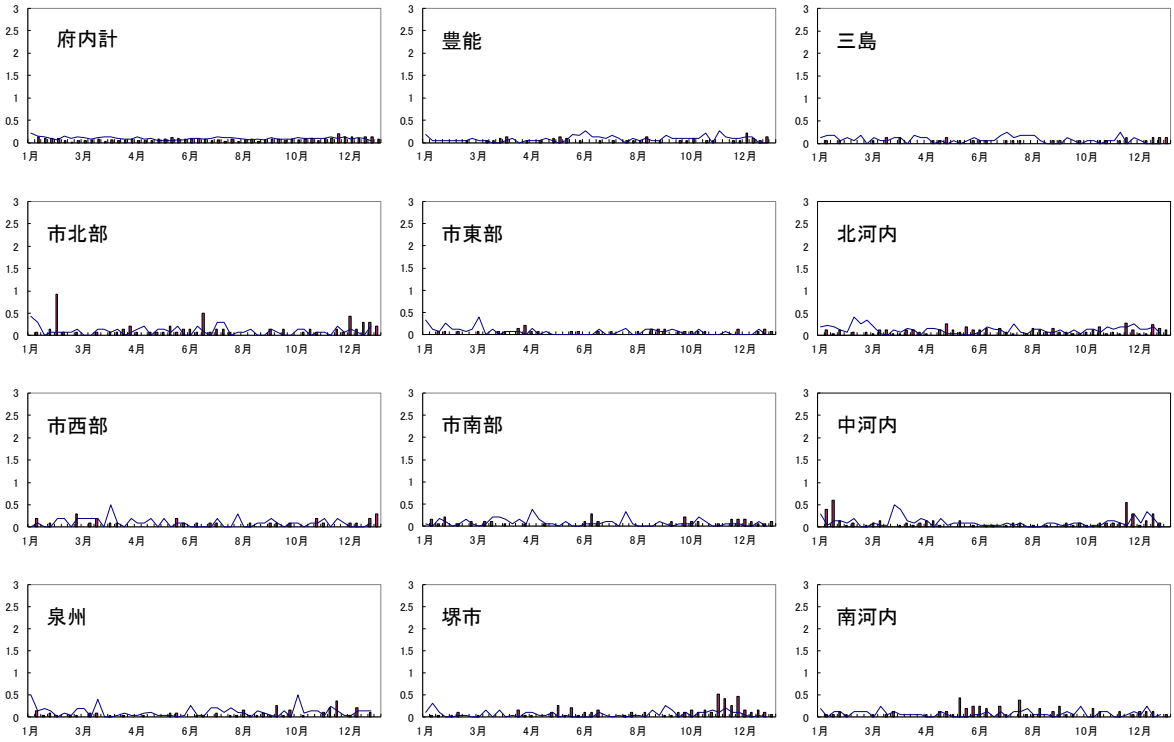
0～4 歳の報告数および全体に占める割合は、2014 年（6,691 例、68.4%）、2015 年（3,179 例、57.4%）、2016 年（2,044 例、48.0%）、2017 年（1,706 例、42.3%）、2018 年（1,346 例、34.3%）、2019 年（1,065 例、33.0%）、2020 年（582 例、32.8%）、2021 年（312 例、32.5%）、2022 年（241 例、32.5%）であり、2014 年 10 月に水痘ワクチンが小児の定期接種に導入されて以降、報告数・割合とも大幅に減少している。5～9 歳の報告数は 324 例（前年 430 例）で全体の 43.7%（前年 44.8%）と減少した。10～14 歳の報告数は 139 例（前年 165 例）と減少し、割合は 18.8%（前年 17.2%）で前年より微増した。15 歳以上は 37 例（5.0%）であり、割合は前年 5.5%より微減した。

咽頭拭い液 2 検体中 2 件、皮膚拭い液・水疱 2 検体中 2 件から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

（文責：國吉）

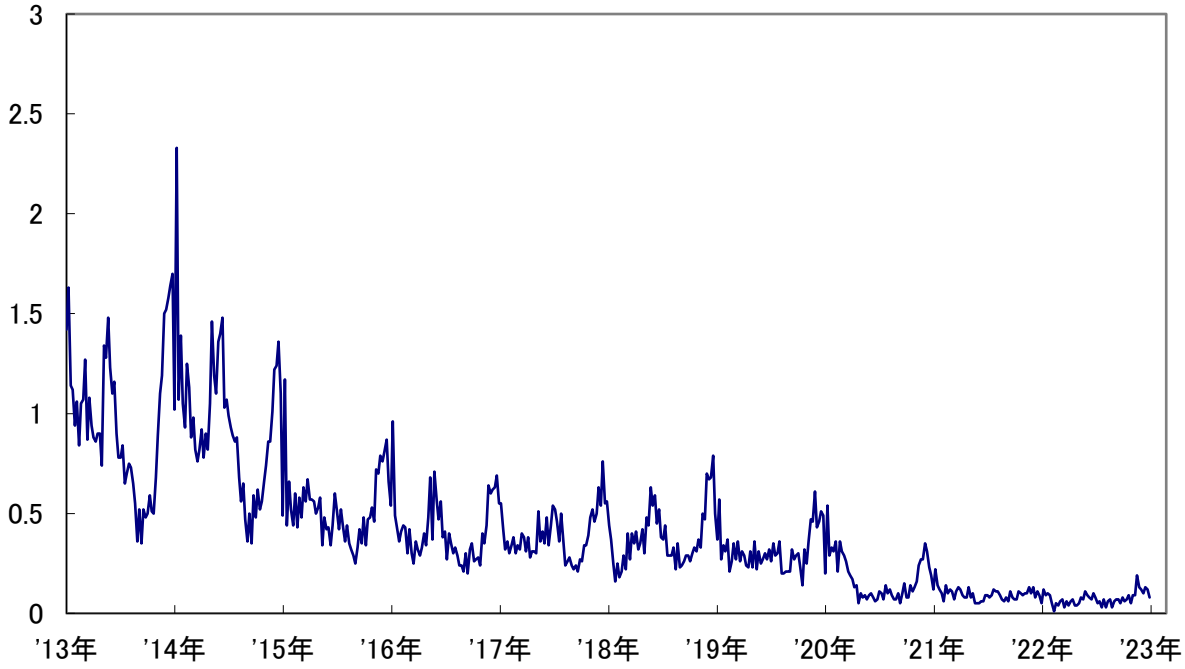
水痘

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり水痘報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease：HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。主な病原ウイルスは、以前はコクサッキーA16（CA16）、エンテロウイルス 71（EV71）であるとされてきたが、2009 年頃よりコクサッキーA6（CA6）を原因ウイルスとする手足口病が目立つようになり、それにともなって CA6 の検出割合が最多を占める年が多くなりつつある。

これまで、手足口病に特徴的な発疹は口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に出現する 2～3 mm の水疱性発疹とされてきたが、CA6 を原因ウイルスとする手足口病の場合の発疹は 5mm 前後と水痘を想起させるほどに大きく、上腿、殿部、上腕部、頚部等広範囲にみられることも少なくない。

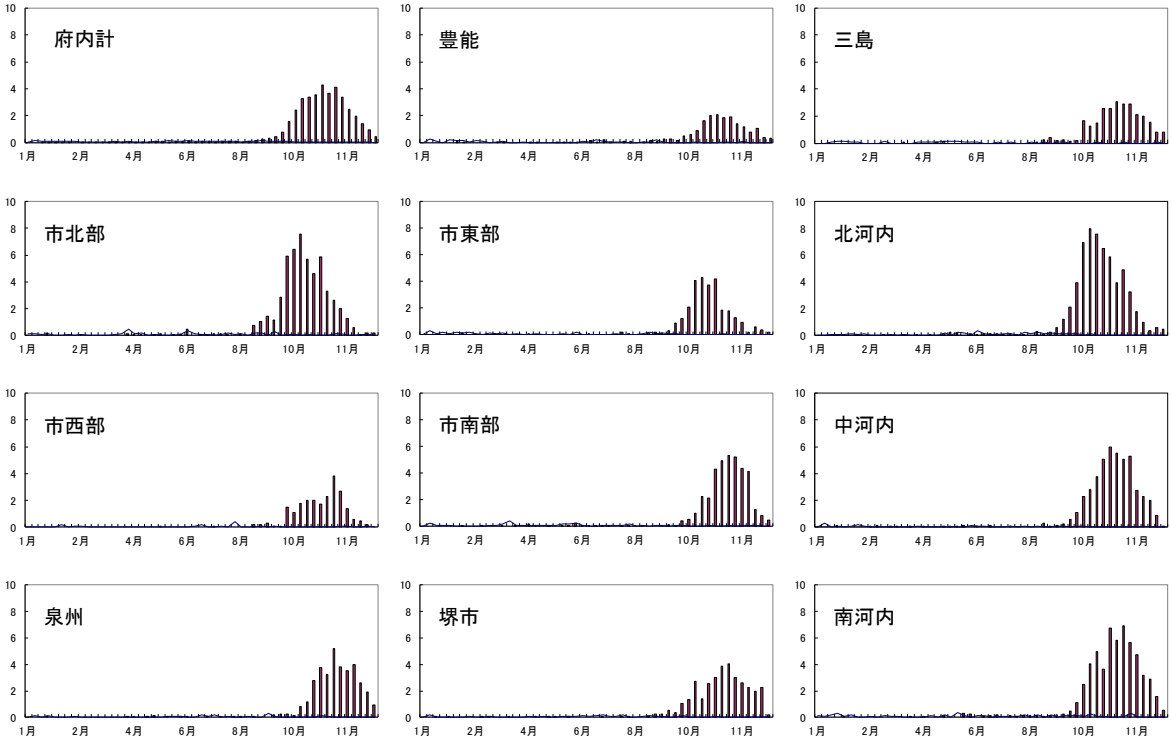
新型コロナウイルス感染症の国内での流行が始まった 2020 年は手足口病の流行は国内ではほぼみられなかったが、その後 2021 年、2022 年と手足口病の国内流行、大阪府内の流行が認められた。2022 年の手足口病の流行のピークは国内流行、大阪府内共に第 36 週（9 月第 1 週）で、定点当たり報告数は全国平均値 3.77、大阪府 2.35 であり、2021 年とは異なって大阪府の流行は全国平均を下回った。新型コロナウイルス感染症の流行以前の 2019 年までは、手足口病の流行のピークは 7 月（第 27～30 週）中となることが殆どであったが、2021 年の流行のピークは全国平均第 41 週、大阪府第 44 週と例年とは大きくことなっており、2022 年も例年よりも遅くにピークを迎えた（図）。

2022 年の国内における手足口病由来検出ウイルスで最も多かったのは、2021 年に続いて CA6（332 検体、37.5%）であり、次いで CA16（33 検体、6.7%）、CA10（10 検体、2.0%）の順であった。大阪府においても検出されたエンテロウイルス 26 検体中 CA6 が 18 検体と最多であり、次いで CA16（5 検体）、CA10（2 検体）の順であった。

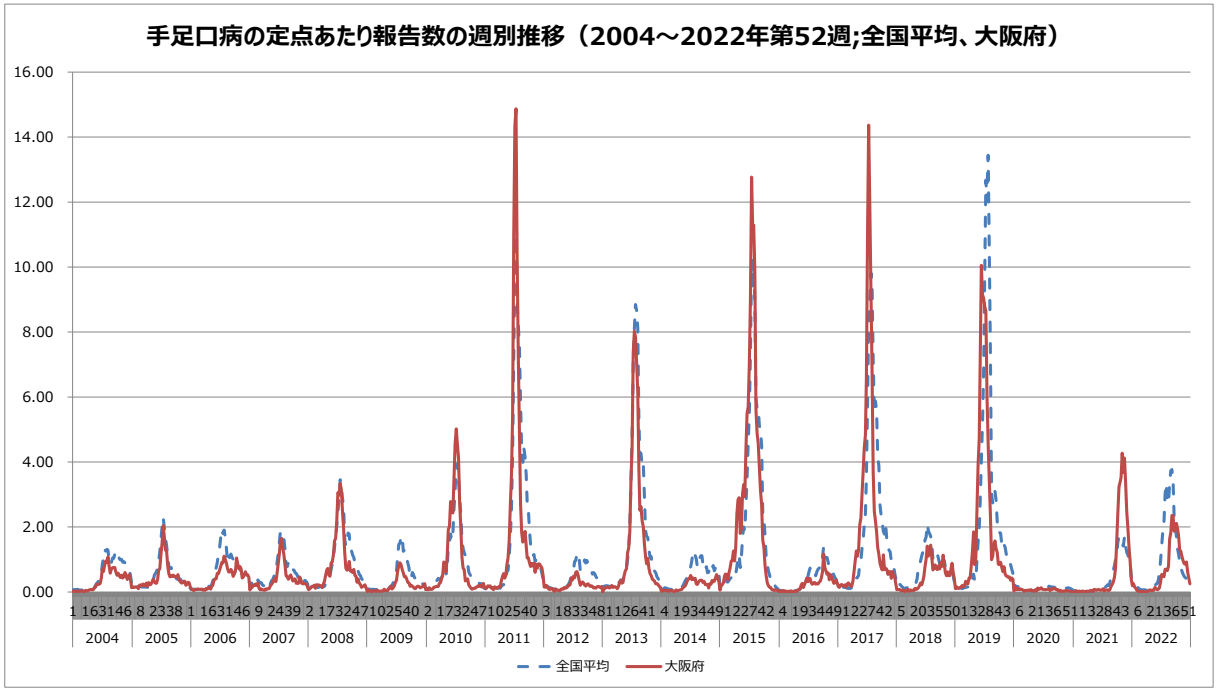
2020 年、2021 年、2022 年と 3 年間に渡って、手足口病はその流行規模、流行時期等過去の流行とは異なっており、少なからず新型コロナウイルス流行の影響を受けているものと推定される。2023 年の手足口病の流行がどのような状況となるのか、注意深い観察が必要であると思われる。（文責：安井）

手足口病

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移



2004～2022 年の手足口病定点あたり報告数週別推移（全国平均、大阪府）

●伝染性紅斑

2022 年の伝染性紅斑の報告数は 102 例で、前年の 111 例より 9 例、8.1%減少した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 0.2%を占め、第 11 位であった。定点あたり報告数の年平均は 0.01 で、前年 0.01 と同様であった。全国集計では報告数 1,885 例で前年 2,209 例より 14.7%減少し、総報告数の 0.2%を占めた。定点あたり報告数は年平均 0.01 と前年 0.01 と同様であった。

定点あたり報告数を週別にみると、第 36 週に年間最高値である 0.04 になるも、年間を通じて小刻みに増減し 0.01～0.03 で推移した。全国集計では、年間通じて 0.01～0.02 で推移した。

定点あたり報告数の月別平均値は、2・9 月、4 月、7・12 月、1・5 月、3・6・8・10 月、11 月の順で多かった。例年通りの春から夏にかけて増加する傾向は見られず、特にピークもなく、例年より低いレベルで推移した。

過去 10 年では、2011 年、2015 年、2019 年とおよそ 4 年毎に比較的大規模な流行がおこっている。2019 年の年間最高値 1.30 は過去 10 年間でも最高値であったが、本年の定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった 1999 年以降の 23 年間で最も低値であった。

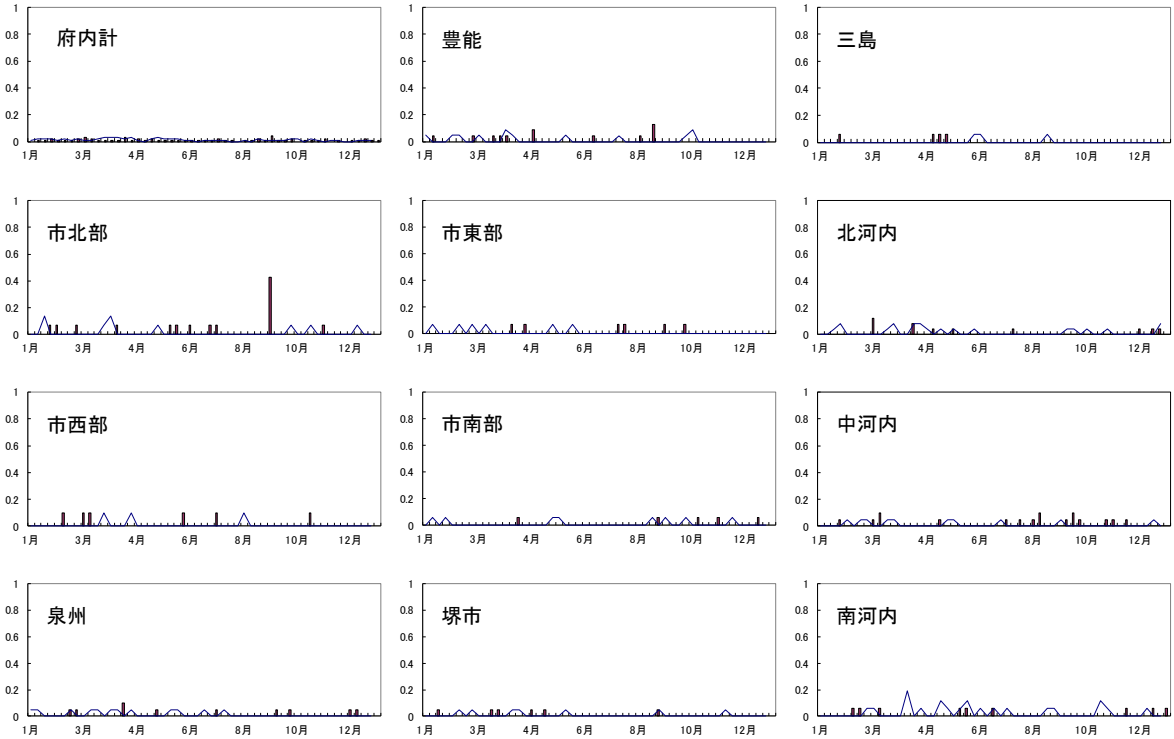
ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑧大阪市北部 0.02、①豊能・③北河内・④中河内・⑤南河内・⑦泉州・⑨大阪市西部・⑩大阪市東部 0.01、②三島・⑥堺市・⑪大阪市南部 0.00 の順であった。

年齢別報告数（0~9 歳）は、2 歳、1 歳、0 歳、4 歳、3 歳、5・6 歳、7・8 歳、9 歳の順に多かった。0～4 歳の報告数は 74 例で全体の 72.5%を占めた。5~9 歳、10～14 歳の報告数と割合はそれぞれ 24 例（23.5%）、3 例（2.9%）で、15 歳以上の報告は 1 例であった。

（文責：國吉）

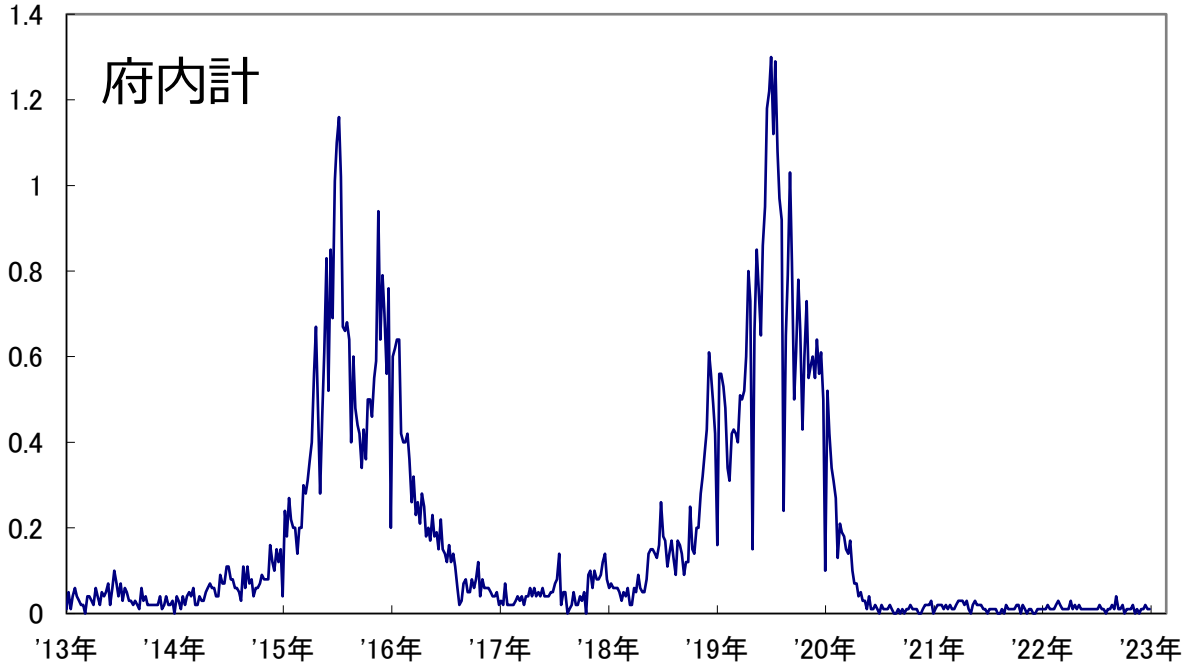
伝染性紅斑

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり伝染性紅斑報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●突発性発しん

2022 年の突発性発しんの患者報告数は 2,590 例で、前年比 27.7%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 4.0%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.25 で、順位は第 5 位であった。

全国集計では 47,010 例の報告で、前年比%21.9%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 4.3%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.29 で、順位は第 5 位であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では年間平均値と比べて、4 月、5 月に 1 標準偏差以上多く、2 月に 1 標準偏差以上少なく、それ以外の月は標準偏差以内の変動で、春から初夏にかけて多い傾向があった。年間最高値は第 22 週（5 月）の 0.44、年間最低値は第 8 週（2 月）の 0.09 であった。

全国集計では、5 月、6 月に 1 標準偏差以上多く、2 月、12 月に 1 標準偏差以上少なく、それ以外の月は標準偏差以内の変動で、初夏に多い傾向があった。年間最高値は第 22 週（5 月）・第 23 週（6 月）・第 26 週（6 月）の 0.41、年間最低値は第 52 週（12 月）の 0.17 であった。

本疾患は、季節性がなく、毎週の定点あたり報告数が一定しているといわれているが、大阪では春から初夏にかけて多い傾向がみられた。

年齢別患者報告数は、1 歳の 1,397 例（53.9%）が最も多く、0 歳が 798 例（30.8%）、2 歳が 283 例（10.9%）であり、0 歳と 1 歳で全体の 84.7%、2 歳を含めると 95.7%を占めた。

ブロック別・年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（401 例）、④中河内（388 例）、①豊能（305 例）、⑤南河内（290 例）、⑦泉州（267 例）の順であった。

ブロック別･週別定点あたり報告数年平均の上位 5 ブロックは､④中河内(0.37)､⑤南河内(0.35)､③北河内 (0.30)､⑧大阪市北部 (0.28)､⑦泉州 (0.26) の順､下位 5 ブロックは､⑥堺市 (0.15)､⑩大阪市東部（0.15)、②三島（0.17)、⑨大阪市西部(0.20）⑪大阪市南部（0.24）で、最上位と最下位では 2 倍以上の差があった。

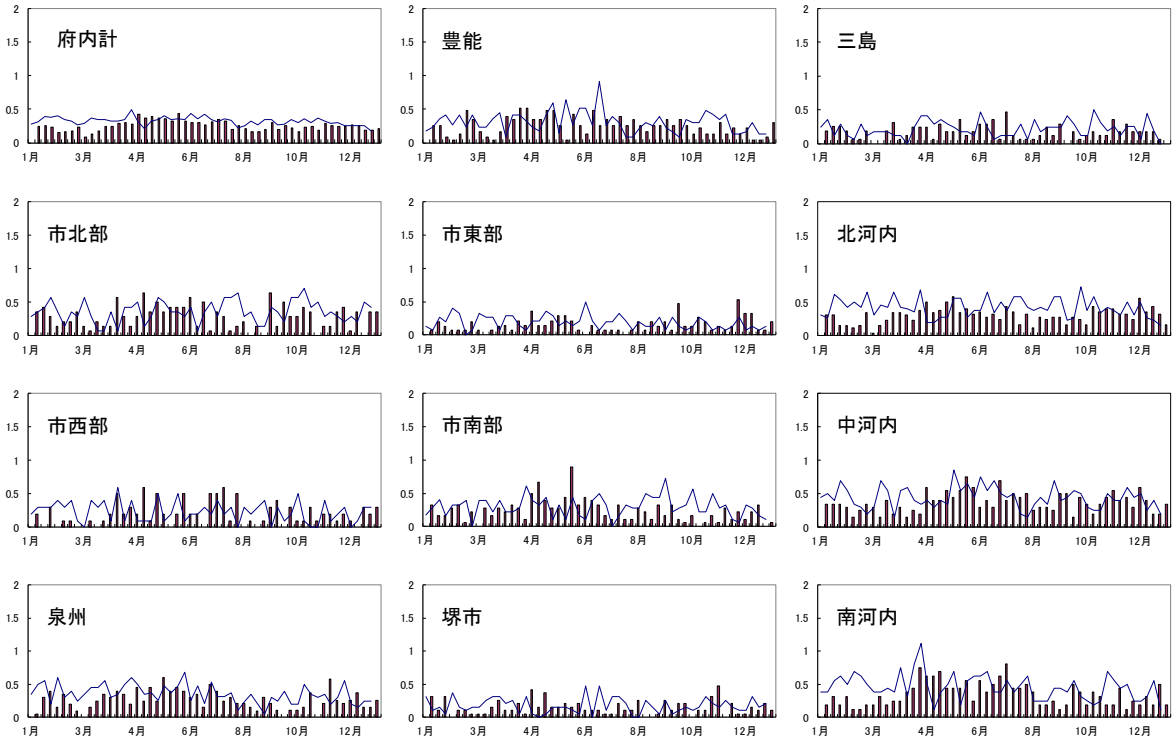
本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、例年上位と下位では差があり、定点医療機関における受診患者年齢に偏りがないかどうかなど検討が必要と考える。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 19 検体あり、HHV6B が 3 例、HHV6（型別不明）が 3 例検出されている。

（文責：冨吉）

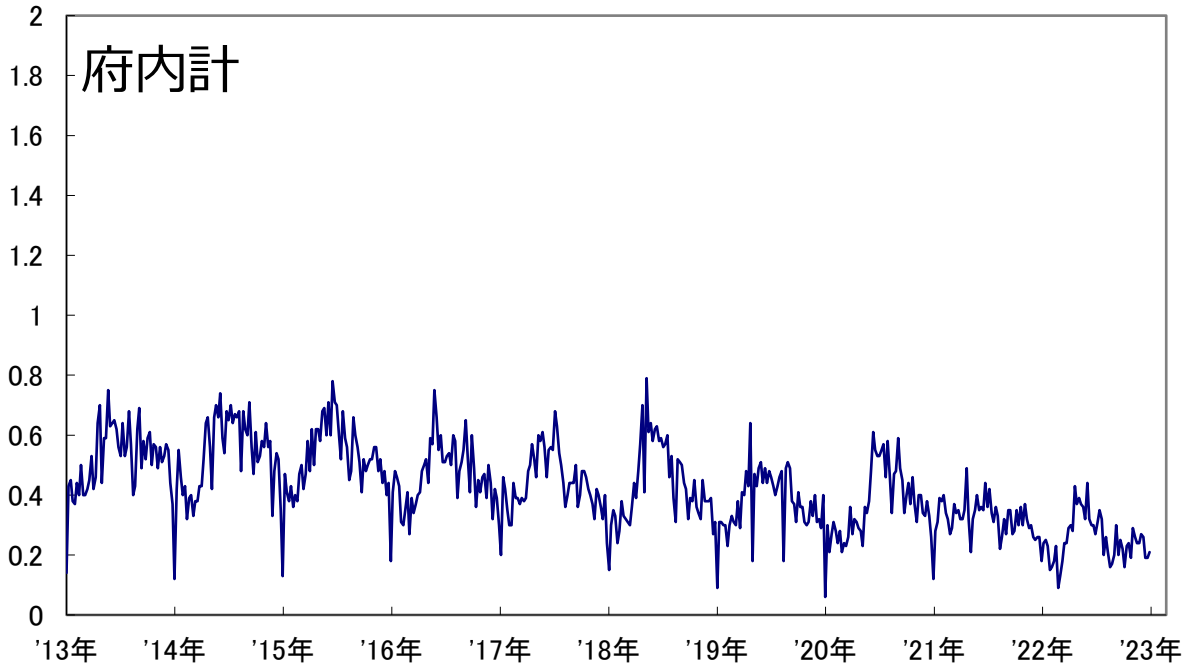
突発性発しん

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり突発性発しん報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●ヘルパンギーナ

本疾患は、大阪府では、6-7 月ごろピークを迎える夏型感染症である。過去、2014 年（9,704 例）、2016 年（8,563 例）と隔年で流行したが、2017 年以降、2017 年（4,967 例）、2018 年（5,293 例）、2019 年（5,756 例）と推移し、2020 年は、新しい生活様式への変化（手洗い、マスクの着用、身体的距離の確保、密閉、密集、密接の回避）、1,554 例と減少し、2021 年は 2,517 例と増加していたものの、コロナ禍前と比較すると、依然、少ない状態が続いている。

2022 年は、1,988 例で、前年比 21%の減少であった。2022 年は、大阪府における小児科定点当たり報告数の年平均は 0.19 で、順位は 8 位であった。日本全国における小児科定点当たり報告数の年平均は 0.23 で、順位は 6 位である。

大阪府の週別（月別）の定点あたり報告数の推移では、1 月第 1 週（第 1 週）から 5 月第 4 週（第 22 週）まで 0.01～0.05 で推移していたが、9 月第 1 週（第 36 週）に 0.60 となり最大値に到達した。その後、増減を繰り返しながら、12 月第 4 週（第 52 週）には 0.15 まで減少している。

全国的には、6 月第 3 週（第 25 週）に 0.14 となり、ゆるやかに増加し、8 月第 4 週（第 35 週）に、0.89 となり最大値に到達した。その後、1.00 を超えることはなく、減少に転じ、12 月第 4 週（第 52 週）には 0.07 まで減少した。大阪府において、年齢別患者発生数では、多い順に、1 歳 599 例（30.1%）、2 歳　451 例（22.7%）、3 歳　294 例（14.8%）、4 歳　190 例（9.6%）、1 歳未満　167 例（8.4%）の順で、0~4 歳で全体の 85.6%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位 5 ブロックは、高い順に、⑧大阪市北部　0.28、③北河内　0.24、②三島 0.23、⑦泉州 0.23, ⑨大阪市西部　0.23 であった。ブロック別・週別定点あたり報告数が高かった上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部　1.43（8 月第 4 週第 34 週）、②三島　1.35（9 月第 4 週　第 39 週）、①豊能　1.13（9 月第 2 週　第 37 週）、⑪大阪市南部　1.11（10 月第 1 週　第 40 週）、③北河内　1.00（10 月第 4 週　第 44 週）の順で、警報レベル開始基準値 6.00 を上回っていなかった。平年、報告数は、6、7 月に最大になることが多いが、2022 年は例年と異なり、8 月から 11 月と長く、ブロック毎に最大となる時期が異なっていた。病原体検出は、多い順に、コクサッキーウイルス A6 型(4)、ライノウイルス　型不明(2)、アデノウイルス　1 型（1）、コクサッキーウイルス A16 型（1）、エコウイルス 25 型（1）、エンテロウイルス D68 型（1）、ヒトメタニューモ　ウイルス（1）、単純ヘルペスウイルス　1 型（1）、RS ウイルス A 型（1）などが検出された。

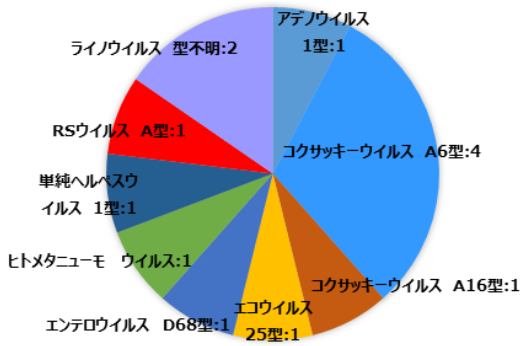
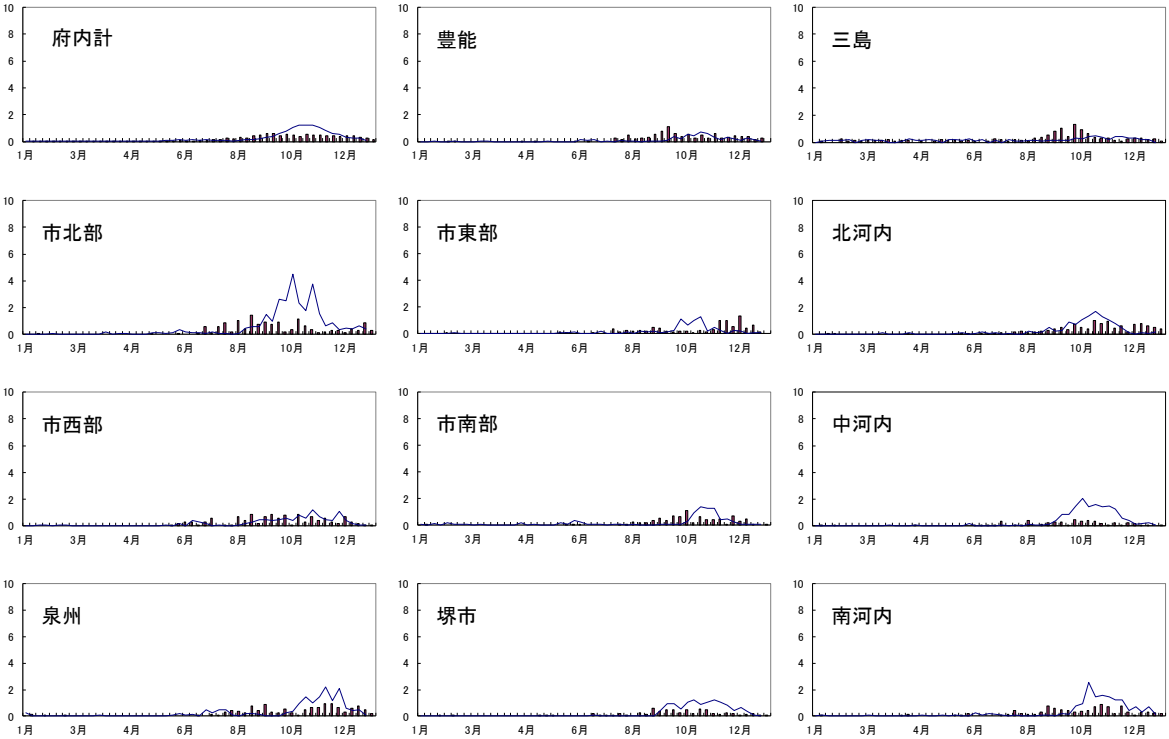


図　大阪府のヘルパンギーナ患者由来ウイルスの検出状況（2022 年、総検出数(13)）

（文責：本村）

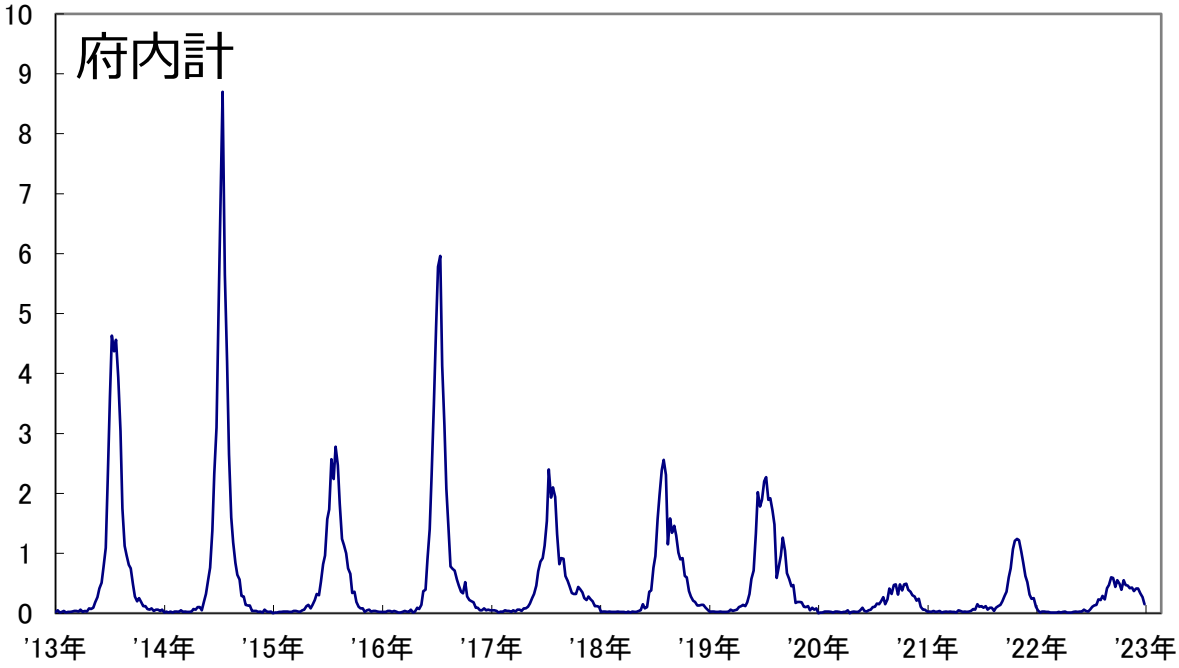
ヘルパンギーナ

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたりヘルパンギーナ報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●流行性耳下腺炎

2022 年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 387 例で、前年比 19.2%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.04 で、順位は第 10 位であった。過去 10 年間で最も大きな流行となった 2016（平成 28）年の 1.39 から 6 年連続して減少した。

全国集計では 4,927 例の報告で、前年比 32.7%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.5%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.03 で、順位は第 10 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 47 週（11 月）の 0.10、年間最低値は第 3 週（1 月）、第 6 週（2 月）、第 32 週（8 月）の 0.01 であった。

全国集計でも、年間を通じて 0.02 から 0.04 で経過し、0.01 の週や 0.04 以上の週はなく、季節性はみられなかった。

年齢別患者報告数は、10～14 歳の 61 例が最も多く、以下 6 歳 56 例、5 歳 47 例、7 歳 46 例、4 歳 45 例、8 歳 38 例と続き、3 歳から 7 歳で全体の 59.9%を占めた。

ブロック別・週別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（81 例）、⑤南河内（63 例）、⑦泉州（36 例）、⑥堺市（36 例）、④中河内（36 例）の順であった。

ブロック別・定点あたり報告数年平均の上位 6 ブロックは、⑤南河内（0.08）、③北河内（0.06）、⑨大阪市西部（0.06）、⑥堺市（0.04）、⑦泉州（0.04）、⑧大阪市北部（0.04）の順であった。

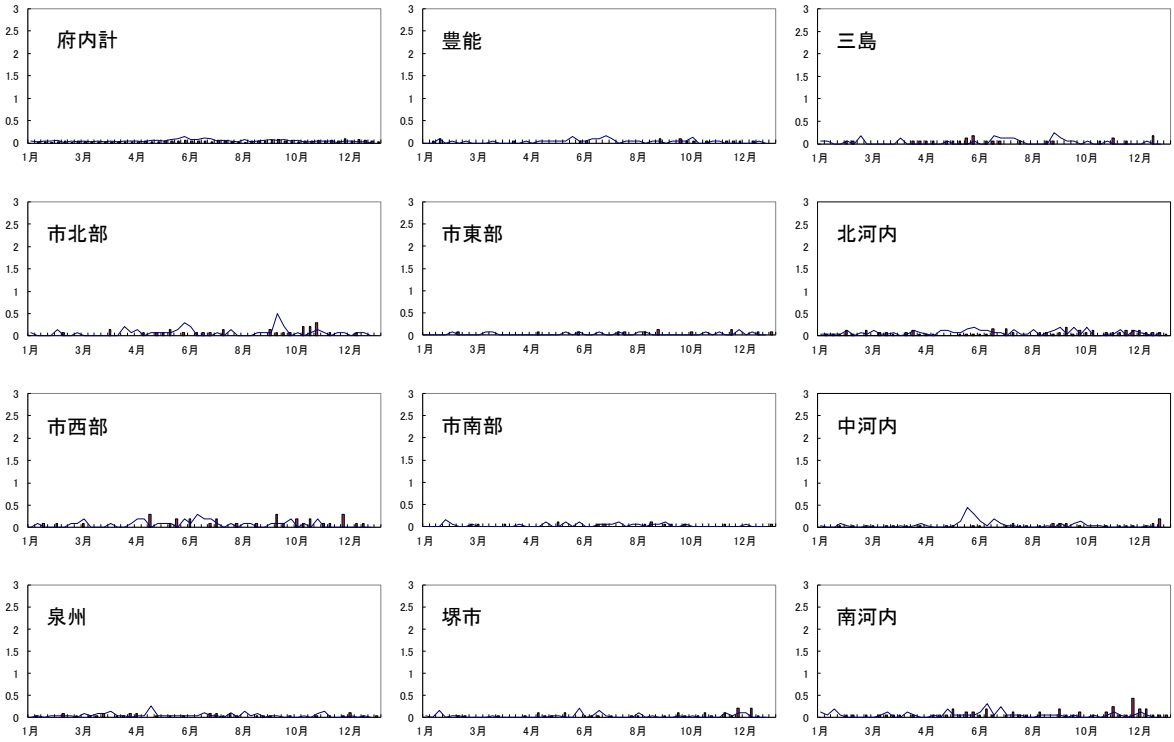
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 47 週、0.44）⑨大阪市西部（第 18 週、0.30）、⑨大阪市西部（第 37 週、0.30）、⑧大阪市北部（第 43 週、0.29）、⑤南河内（第 44 週、0.25）の順であった。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 5 検体あったが、陽性検体はなかった。

（文責：冨吉）

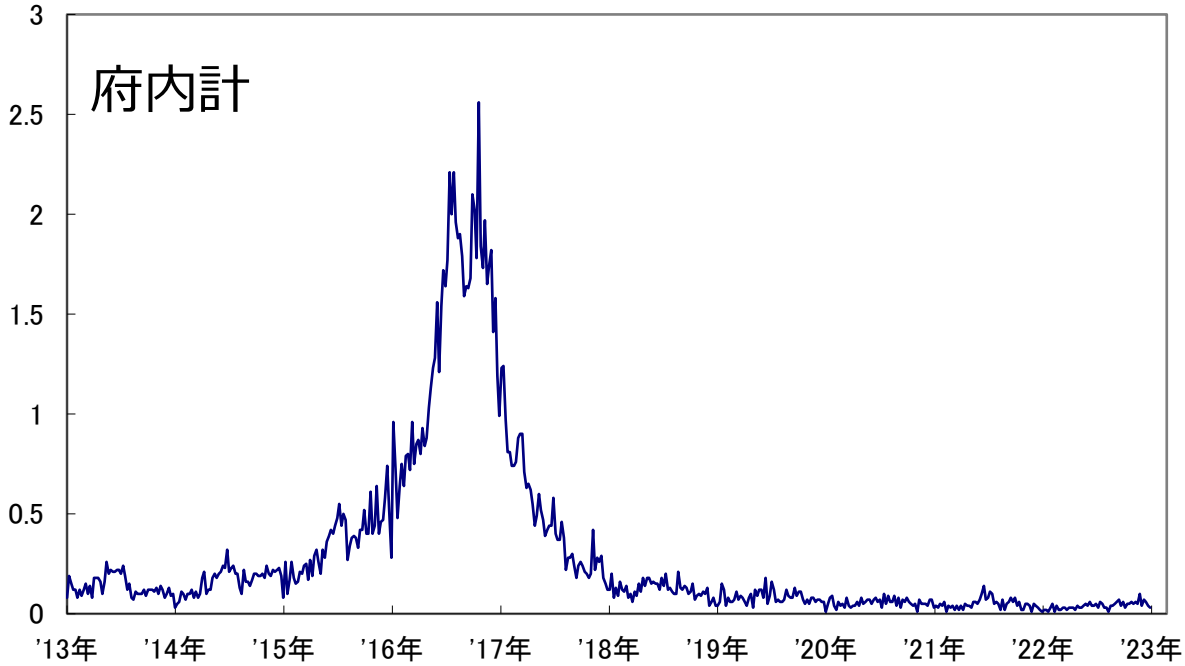
流行性耳下腺炎

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり流行性耳下腺炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

３）眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

2022 年（令和 4 年）の急性出血性結膜炎の報告数は前年と同数の 15 例で、眼科医療機関における定点あたりの報告数は 0.0１ であった。

府内合計による週別定点あたり報告数は最高が第 26 週の 0.04 で、以下第 3 週、第 4 週、第 5 週、第 9 週、第 13 週、第 19 週、第 20 週、第 36 週、第 37 週、第 49 週、第 50 週、第 51 週の 0.02 が続いた。報告の無い週が 39 週あった。

ブロック別の年間平均で週別定点当たり報告数が高かったのは、中河内と泉州の 0.02 で以下、北河内と大阪市西部の 0.01、大阪市北部と大阪市東部の 0.00 であった。他の 5 ブロックからは報告が無かった。

年齢別では、流行性角結膜炎と同様に成人の報告が多く、20 歳以上の報告数が 13 例と、全体の 86.7%を占めた。

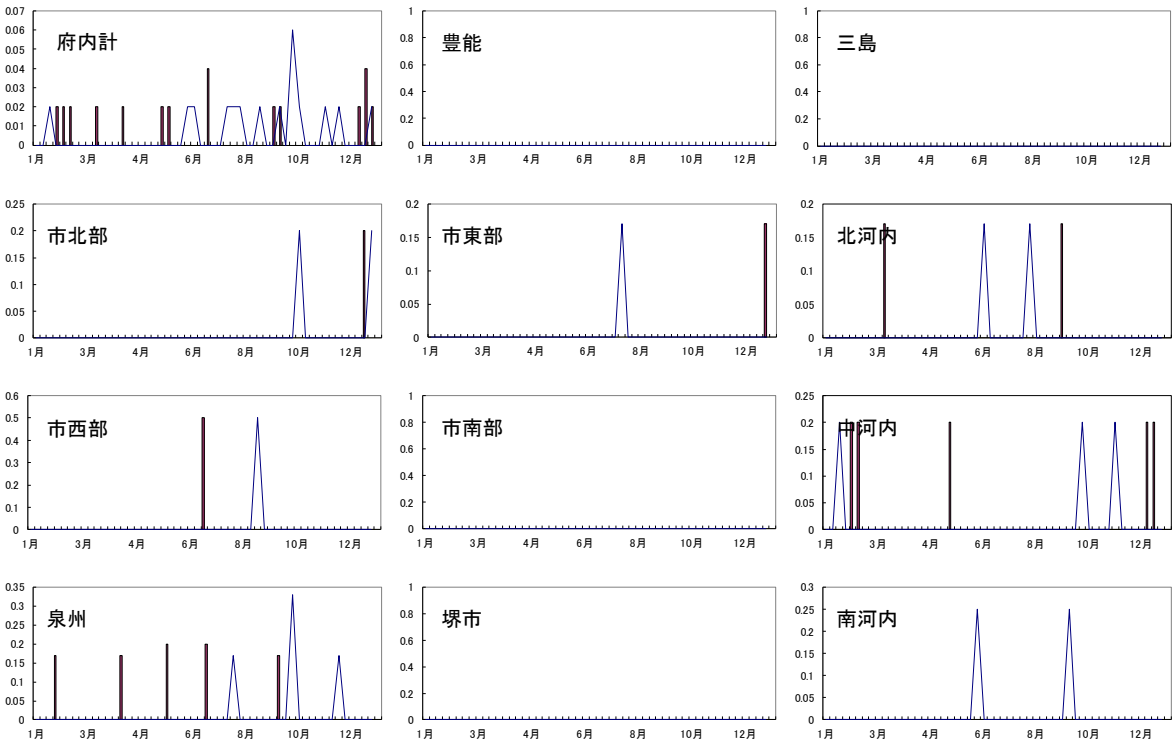
最近 7 年間の眼科医療機関における定点あたりの急性出血性結膜炎報告数

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
大阪府	0.01	0.02	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01
全　国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01

（文責　宮浦）

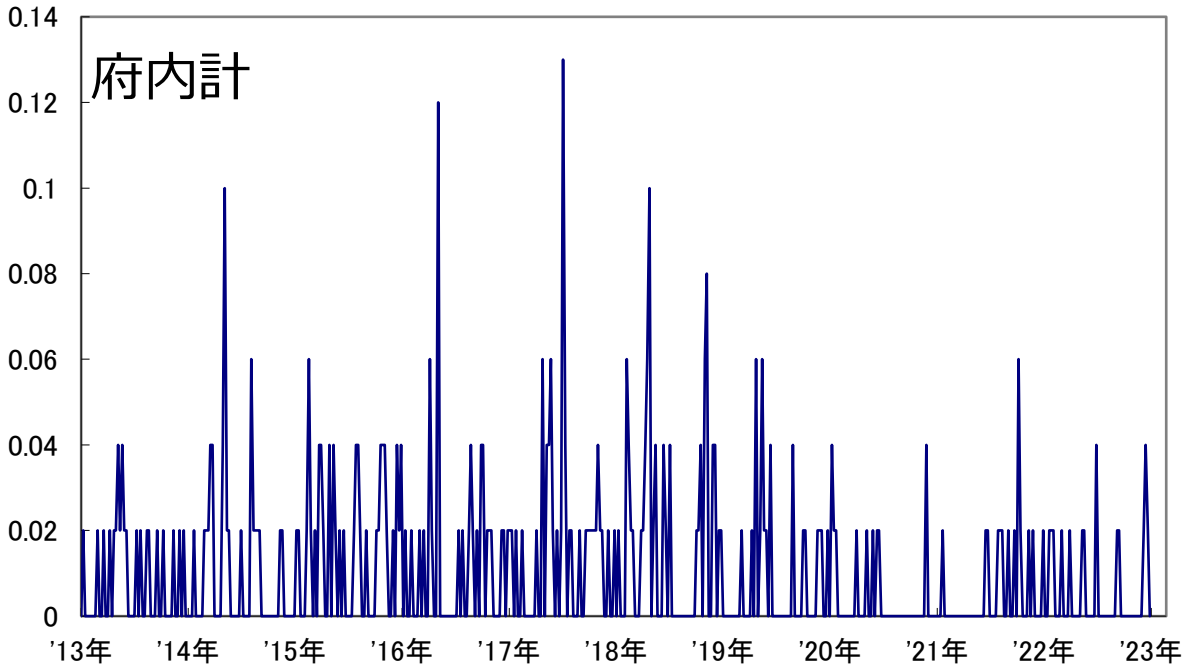
急性出血性結膜炎

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり急性出血性結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

●流行性角結膜炎

2022 年（令和 4 年）の流行性角結膜炎の報告数は 321 例で、前年の 13.8%増となり、眼科医療機関における定点あたり報告数は 0.12 であった。

府内合計による週別定点あたりの報告数で最も多かったのは、第 27 週と 30 週の 0.29 で、以下第 34 週の 0.27、第 24 週と 26 週の 0.26 が続いた。前年同様に定点あたりの報告数が 1.0 を超えた週はなかった。本疾患は夏型感染症とされているが、発生件数が少ないとその傾向は減弱する。本年は、7 月（第 27 週から第 30 週までの 4 週）に年間の 16.2%、6 月（第 23 週から第 26 週までの 4 週）　と 8 月（31 週から 35 週の 5 週間）に年間の 13.1%の報告数があった。

ブロック別で週別定点当たり報告数が最も多かったのは、三島の第 27 週の 1.75 で、次いで中川内の 30 週の 1.2、さらに大阪西部の 25 週の 1.0 が続いた。

ブロック別の年間平均で週別定点あたり報告数が最も多かったのは三島の 0.19 で、次いで大阪市南部の 0.18、中河内の 0.17 の順であった。最も低かったのは南河内の 0.04 であった。

年齢別では、例年 20 才以上の報告数が多く、本年も 249 例と全体の 77.6%を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国集計よりも低かった。

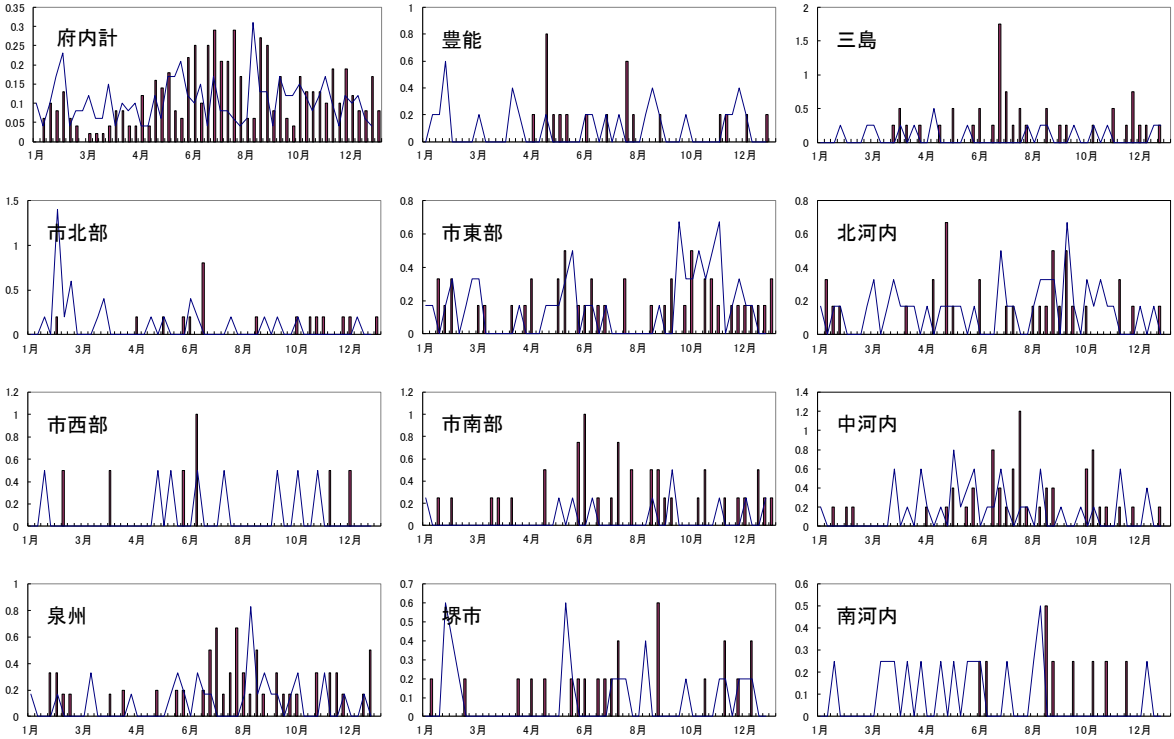
最近 7 年間の眼科医療機関における定点あたりの流行性角結膜炎報告数

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
大阪府	0.54	0.41	0.48	0.32	0.13	0.10	0.12
全　国	0.73	0.74	0.85	0.64	0.25	0.19	0.18

（文責　宮浦）

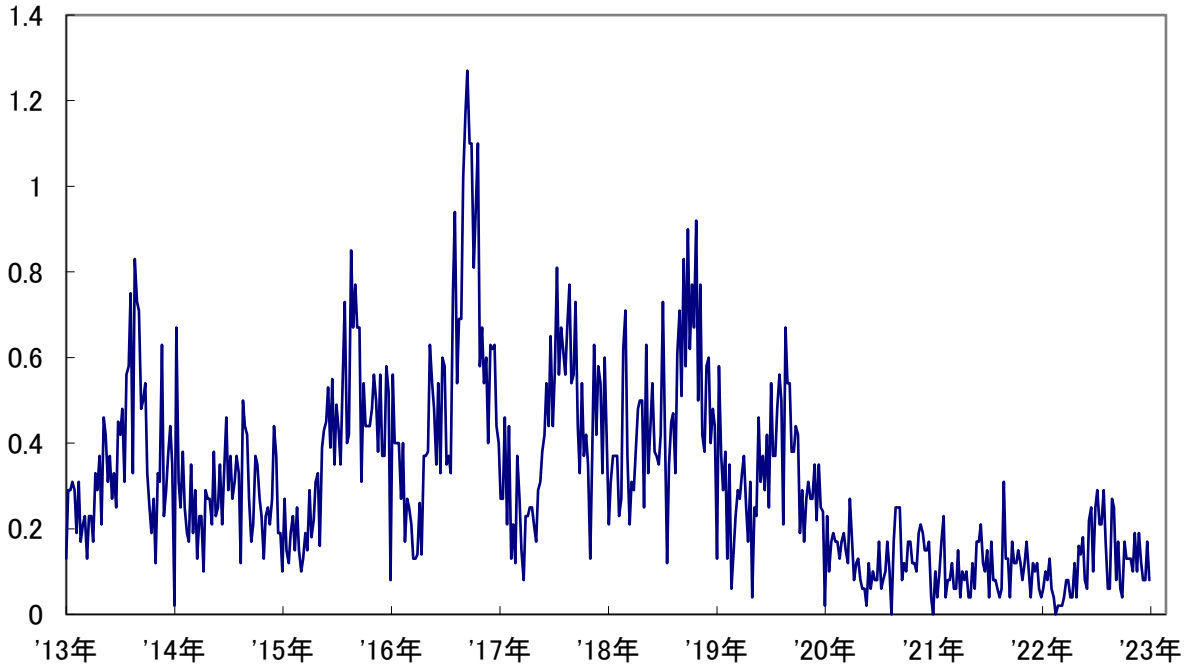
流行性角結膜炎

線（2021 年第 1 週～第 52 週）
棒（2022 年第 1 週～第 52 週）



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線（2013 年 1 週～2022 年 52 週）



定点あたり流行性角結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10 年グラフ）

４）基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5 類感染症の中の細菌性髄膜炎（2013 年 4 月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、2014 年 9 月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎 （オウム病を除く）、及び、2013 年 10 月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の 5 疾患である。

表　基幹病院定点報告（週報）対象疾患のブロック別報告数および定点あたり報告数

ブロック	（年）	(1) 豊能	(2) 三島	(3) 北河内	(4) 中河内	(5) 南河内	(6) 堺	(7) 泉州	大阪市	合計	定点あたり 大阪	定点あたり 全国	定点数 (大阪)
細菌性髄膜炎	2017 年	1	2		1	4	5	1	3	17	1.00	1.10	17
	2018 年	1	4		1	5	5	2	1	19	1.12	1.06	17
	2019 年	2	7			1		8		18	1.10	0.96	16
	2020 年	1	2	2			4		1	10	0.61	0.85	16
	2021 年		4				5		1	10	0.61	0.77	16
	2022 年		3	1					1	5	0.31	0.64	16
無菌性髄膜炎	2017 年	5	4	1		5	27		2	44	2.59	2.00	17
	2018 年	5			1	5	14	1		26	1.53	1.68	17
	2019 年	7	1		2		20	1		31	1.90	1.71	16
	2020 年	5	3			1	5		1	15	0.92	0.95	16
	2021 年	4			2	4	6			16	0.98	0.96	16
	2022 年	2	3			2	8		1	16	0.98	0.90	16
マイコプラズマ肺炎	2017 年	4	34	30	33	21	58	77	38	295	17.35	17.53	17
	2018 年	6	12	39	8	5	30	53	12	165	9.71	11.66	17
	2019 年	6	24	30	13	2	31	10	13	129	7.91	12.68	16
	2020 年	14	20	12	6	1	24	1	15	93	5.71	7.36	16
	2021 年	1			2		1		1	5	0.31	1.39	16
	2022 年	2						1		3	0.18	0.82	16

クラミジア肺炎（オウム病を除く）	2017 年			1			2			3	0.18	0.56	17
	2018 年	1					1			2	0.12	0.30	17
	2019 年	1								1	0.06	0.13	16
	2020 年						1			1	0.06	0.12	16
	2021 年										0.00	0.05	16
	2022 年										0.00	0.07	16

感染性胃腸炎（ロタウイルス）	2017 年	24	37	4	6	65	57	6	38	237	13.94	10.43	17
	2018 年	18	15	5	16	82	42	18	43	239	14.06	6.74	17
	2019 年	52	48	9	20	49	55	85	64	382	23.44	9.82	16
	2020 年		1			1	4			6	0.37	0.52	16
	2021 年	1	1						3	5	0.31	0.19	16
	2022 年	1	1				1			3	0.18	0.21	16

表には 2017 年～2022 年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は 16 ある。1999 年の事業開始時から病院間で報告症例数の差が大きく、ブロック別の検討はしなかった。また、2020 年～2022 年は新型コロナウイルス感染症の流行のため、感染症の疫学に大きな影響がみられた。

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎
（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

2022 年は 5 例が報告され、定点あたり 0.31 である。3 基幹定点から各 1 例、1 例、1 例が報告された。年齢は 50～59 歳 2 例、70～79 歳 2 例、80～891 例であった。原因菌は *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* 1 例、黄色ブドウ球菌 1 例、未記載 3 例であった。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は 5 類全数報告を参照されたい。

全国集計では 2022 年は 370 例の報告があり、定点あたり 0.77、2020 年は定点あたり 0.85 であった。原因菌には B 群レンサ球菌 8.1%、黄色ブドウ球菌 6.8%、リステリア菌 2.7%、肺炎桿菌 1.9%などが多い。肺炎球菌、クリプトコッカスの髄膜炎、単純ヘルペスウイルスなどのウイルス、などは含まれるべきではないが、合わせて 4.1%あり、原因菌不明の症例は

57.6%であった。髄液中の微生物のマルチプレックス遺伝子検査を導入するなど、原因菌検索の改善が必要である。

●無菌性髄膜炎

2022 年は 5 基幹定点から各基幹定点 1～8 例、合計 16 例が報告され、定点当たり 0.98 で 2021 年は 16 例、定点あたり 0.98 であった。年齢は 0～4 歳 2 例、5～9 歳 1 例、15～19 歳 1 例、20～29 歳 1 例、30～39 歳 2 例、50～59 歳 4 例、60～69 歳 1 例、80～89 歳 4 例、性別は男女が 11:5 であった。月別では 3～10 月にみられ、3 月 1 例、4 月 3 例、5 月 2 例、7 月 3 例、8 月 2 例、10 月 5 例であった。原因病原体は単純ヘルペスウイルス(HSV)1 例、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）1 例、報告対象外のクリプトコッカス 1 例、陰性・記載なし 13 例であった。一方、本報告書のウイルス検査結果では無菌性髄膜炎 69 症例の髄液や便・咽頭などからのべ 10 株が検出され、エコーウイルス 6 が 2 株、エコーウイルス 9 が 1 株、ヒトパレコウイルス(HPeV)が 3 株、VZV1 株などである。また、疾患名その他の髄液で HPeV 計 4 株と国際 B1 の 1 株が検出されている。

全国集計では 2022 年は 431 例、定点当たり 0.90、2021 年は定点あたり 0.96 であった。原因病原体は 84.2%陰性または記載なし、VZV7.7%、HSV2.3%が多い。報告対象外のクリプトコッカス 4 例、結核菌 1 例が含まれている。国立感染症研究所の IASR のデータをみると 2022 年の無菌性髄膜炎 108 例(COVID-19 以前の症例数の 2 割程度)からエコーウイルス 6 が 13.0%、ムンプスウイルス 8.3%などが検出されている。

●マイコプラズマ肺炎

3 例のみ報告があり定点あたり 0.18 で、2021 年同様に少数例であった。2020 年の定点あたり 5.81 に比し 95%の減少であった。年齢は 2 歳、10 歳、57 歳であった。検査方法は抗体価によるもの 2 例、抗原検査 1 例で、PCR 法や LAMP 法などの特異性の高い遺伝子検査陽性例はなかった。大阪では本疾患は 2006 年、2011 年、2016 年をピークとする流行を繰り返しており、2020 年は増加することが予測されていたが、2020 年 5 月から激減し、COVID-19 に対する呼吸器病原体の感染防御行動が奏功したものと思われる。因みに、2022 年 1 年間に大阪市内の本事業の定点ではない A 病院小児科で 96%が 6 歳以下の鼻咽頭綿棒検体 1892 例の Filmarray®呼吸器パネル検査では肺炎マイコプラズマの検出はなかった。

全国集計では 2022 年は定点あたり 0.82 で、2021 年の 1.39 よりさらに減少した。

●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチス（*Chlamydia trachomatis*）による新生児期の肺炎と肺炎クラミジア(*Chlamydophila* (*Chlamydia*) *pneumoniae*) による肺炎が含まれる。オウム病(*Chlamydophila* (*Chlamydia*) *psittaci*)は 4 類全数報告感染症である。

2022 年は 2021 年と同様に報告はなかった。全国集計では 3 例のみ報告であった。新型コロナウイルス感染症の流行後に、マルチプレックス RTPCR 法による Filmarray®など多種類の呼吸器感染症のウイルス、細菌の核酸検出が可能な診断機器の普及がすすんでおり、抗体価による方法よりも正確な診断が期待できる。上述の A 病院小児科 1892 例から、肺炎クラミジアは 7 歳児 1 例のみ検出された。

全国では肺炎クラミジア 20 例、*Chlamydia trachomatis* 9 例を含む計 32 例の報告があった。2021 年は肺炎クラミジア 19 例、*Chlamydia trachomatis* 3 例を含む 23 例であった

●感染性胃腸炎
（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）

2020 年 10 月からロタウイルスワクチンが定期接種となり、感染症例は激減している。さらに、COVID-19 パンデミックの影響とおもわれる減少がみられている。2022 年 3 例のみの報告で、定点あたり 0.18 で、2020 年以降は少数例のみであった。報告週は 4、16、34 週に各 1 例、年齢は 2 カ月、2 歳、10 歳であった。全国では定点当たり 0.21 と少数の報告であった。

（文責：塩見）

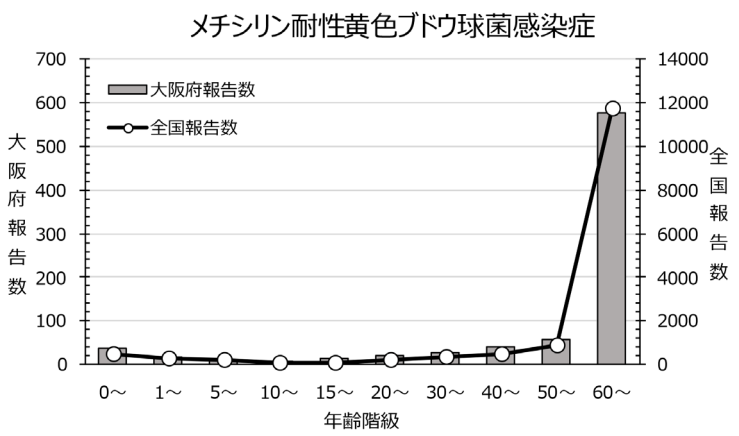
5）基幹定点報告（月報）対象疾患

基幹定点報告（月報）対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の 3 疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は第 52 週時点で 17 であった。これら薬剤耐性菌は抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっている。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

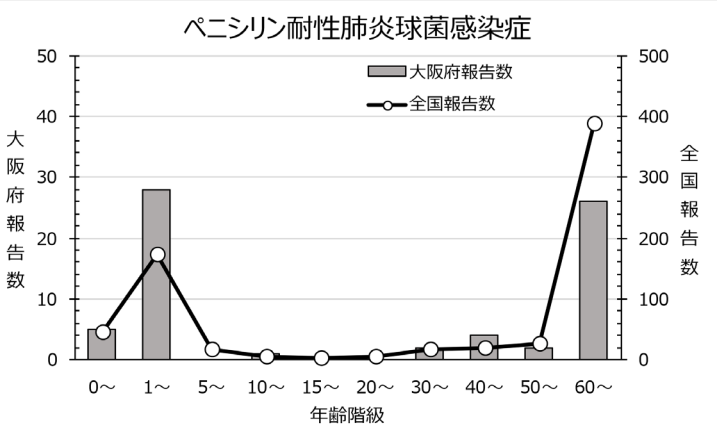
⑩大阪市東部を除く 10 ブロックから前年比 3.4%減の 806 例の報告があり、定点あたり報告数は 47.41 であった。年齢別構成は 0 歳児 36 例、1～4 歳児 16 例、5～9 歳児 11 例、10～14 歳 6 例、15～19 歳 14 例、20～29 歳 20 例、30～39 歳 28 例、40～49 歳 40 例、50～59 歳 58 例、**60 歳以上 577 例であり、60 歳以上が 71.6%**を占め、ほぼ前年同様の分布であった。

全国情報（NESID 年報　令和 5 年 3 月 18 日現在）では前年比 1.5%増の 14,726 例の報告があり、定点当たり報告数は 30.74 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 11,713 例と 79.5%を占めた。大阪府内の報告数は全国の 5.5%であった。



●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

⑦泉州 32 例、⑤南河内 20 例、⑥堺市 10 例、①豊能 5 例、③北河内 1 例の 5 ブロックから、前年比 13.9%減の 68 例の報告があり、定点当たり報告数は 4.00 であった。年齢別構成では 0 歳児 5 例、1～4 歳児 28 例、5～9 歳児 0 例、10～14 歳 1 例、15～19 歳 0 例、20～29 歳 0 例、30～39 歳 2 例、40～49 歳 4 例、50～59 歳 2 例、60 歳以上 26 例であり、**前年同様に 0～4 歳児と 60 歳以上の年齢群での報告数が多く、それぞれ 48.5%、38.2%**であった。



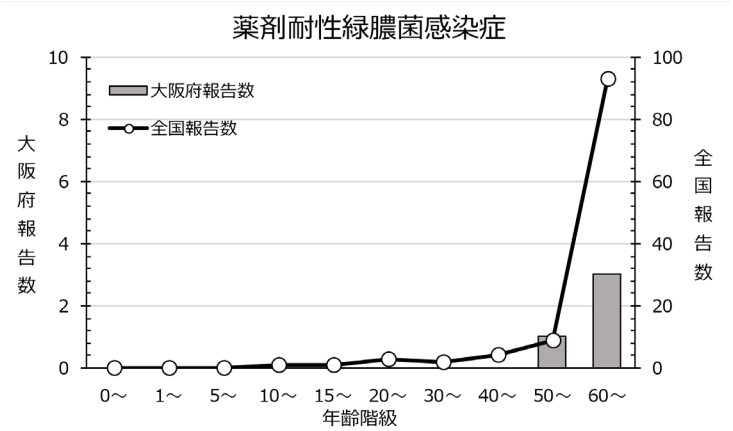
全国情報（NESID 年報）では前年比 17.6%減の 695 例、定点当たり報告数は 1.45 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 0~4 歳児と 60 歳以上が多く、それぞれ 31.1%、56.0%と大阪府と同様であった。大阪府内の報告数は全国の 9.8%であった。

●薬剤耐性緑膿菌感染症

①豊能 2 例、③北河内 2 例の 2 ブロックから 4 例報告があった。前年度 10 例から 0.4 倍に減少した。定点当たり報告数は 0.24 であった。年齢別構成は、50～59 歳 1 例、60 歳以上 3 例であった。

全国情報（NESID 年報）では前年比 28.9%減の 113 例の報告があり、定点当たり報告数は 0.24 と大阪府と同様であった。全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 93 例と 82.3%を占めた。大阪府内の報告数は全国の 3.5%であった。

（文責：神吉）



2023年6月7日　大阪府医師会より、府医ニュースとして掲載した。

（第３０３８号）（昭和25年９月７日第三種郵便物認可）　大阪府医ニュース　２０２３年（令和５年）６月７日（毎週水曜日発行、但し第２週を除く）（６）

2022（令和４）年　感染症の動向

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市・吹田市
感染症発生動向調査委員会

感染症発生動向調査事業は医師会、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、豊中市、枚方市、八尾市・寝屋川市・吹田市の密接な連携のもとに実施されている。大阪府感染症情報解析委員会は毎週水曜日に開催され、定点の先生方からの毎週の患者情報と、大阪健康安全基盤研究所、堺市衛生研究所の病原体検出情報とを併せて解析・評価し、還元している。2022年の感染症発生動向調査結果の概要を報告する。

はじめに

2022年第52週時点の大阪府の小児科定点は197、インフルエンザ定点は300、眼科定点は52、基幹病院定点は16であり、前年とほぼ同様である。小児科・眼科定点疾患の１年間の患者報告数の総計は65,017人で前年より14.5％減少した。インフルエンザを除く疾患別では感染性胃腸炎が１位であり、次いでＲＳウイルス感染症、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順である。第６位以下は、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、水痘、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、伝染性紅斑、急性出血性結膜炎であった。上位５疾患はそれぞれ全体の53.3％、18.9％、9.9％、5.1％、4.0％で、５疾患の合計が全体の91.2％を占めた。

感染性胃腸炎

第１位の感染性胃腸炎の患者報告数は34,675人で、前年に比し7.2％減少し、定点あたり報告数は3.40であった。年齢別では１歳で6,147人（17.7％）と最も多く、２歳が5,016人（14.7％）、３歳が4,002人（11.5％）、４歳が3,108人（9.0％）の順であり、１～４歳までで全体の52.9％を占めた。季節別では春期（３月～５月）に23.0％、夏期（６月～８月）に27.7％、秋期（９月～11月）に16.7％、冬期（12月～２月）に32.6％と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第２週（7.50）、第３週（7.51）と第23週（6.20）、第24週（6.40）にピークがあり、第51週（4.20）、第52週（4.88）で若干増加した。検出されたウイルスは、ノロウイルスが34株、サポウイルスが13株、ロタウイルスが１株、アデノウイルスが９株であった（図１）。基幹定点医療機関からの届出でロタウイルス感染性胃腸炎の報告数は３人であった。

ＲＳウイルス感染症

第２位のＲＳウイルス感染症は12,319人で、前年に比し23.3％減少し、定点あたり報告数は1.21であった。年齢別では１歳が3,791人（30.8％）で最も多く、２歳が2,840人（23.1％）、３歳が1,664人（13.5％）、６～12か月未満が1,650人（13.4％）、０～６か月未満が1,170人（9.5％）、４歳が735人（6.0％）の順であった。０～２歳までで全体の76.8％を占め、３～４歳が19.5％であった。新型コロナウイルス感染症流行前の2019年までは０～２歳で毎年85％以上を占めており、2020年にＲＳウイルスの流行がなかった影響が2021年に引き続き、罹患年齢に反映されていると思われた。季節別では春期に3.9％、夏期に77.1％、秋期に15.0％、冬期に4.0％であり、夏期に多かった。週別定点あたり報告数では第28週（6.89）、第29週（7.30）、第30週（6.55）にピークがあった。

手足口病

第３位の手足口病の患者報告数は6,434人で、前年に比し18.0％減少し、定点あたり報告数は0.63であった。年齢別では１歳で2,439人（37.9％）と最も多く、２歳が1,676人（26.0％）、３歳が918人（14.3％）、６～12か月未満で485人（7.5％）の順であり、１～３歳までで全体の78.2％を占めた。季節別では新型コロナ流行以前には夏期にピークを迎える夏型感染症であったが、春期に1.8％、夏期に25.7％、秋期に63.2％、冬期に9.3％と秋期に多かった。週別定点あたり報告数では第36週（2.35）、第37週（2.34）、第39週（2.09）、第40週（2.11）、にピークがあった。検出されたウイルスはコクサッキーＡ６が12株、コクサッキーＡ16が４株、ライノウイルスが４株であった（図２）。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第４位のＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は3,290人で、前年に比し32.2％減少し、定点あたり0.32であった。年齢別では３歳が472人（14.3％）で最も多く、４歳が428人（13.0％）、５歳が373人（11.3％）、２歳が279人（8.5％）と続き、２～５歳までで全体の47.1％を占めた。季節別では春期に21.0％、夏期に23.5％、秋期に34.0％、冬期に21.5％であり、秋期に多かった。週別定点あたり報告数では第42週（0.60）、第43週（0.60）が最大で、１を超えることはなかった。

突発性発しん

第５位の突発性発しんは2,590人で、前年に比し21.7％減少し、定点あたり0.25であった。年齢別では１歳が1,397人（53.9％）で最も多く、６～12か月未満が766人（29.6％）、２歳が283人（10.9％）と続き、６か月～２歳までで全体の94.4％を占めた。季節別では春期に32.0％、夏期に25.5％、秋期に23.4％、冬期に19.1％であり、春期に若干多かった。週別定点あたり報告数では第16週（0.43）、第22週（0.44）で0.4を超えたが、ピークはみられなかった。

インフルエンザ

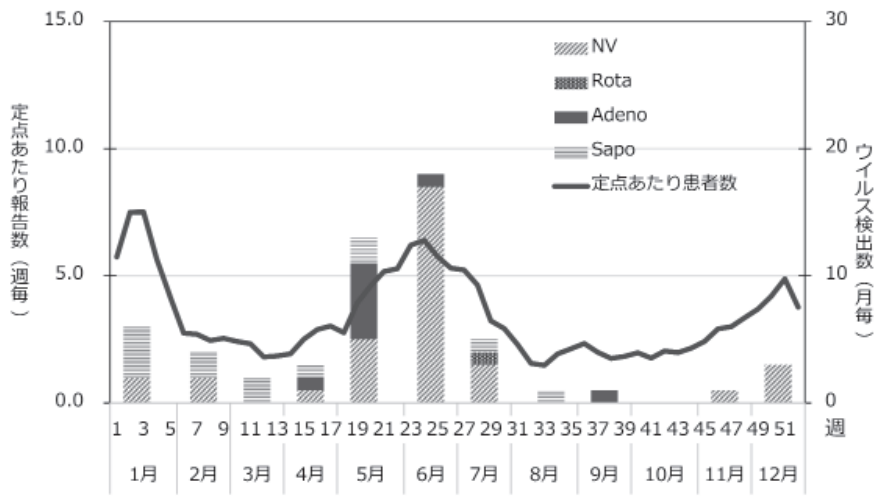
インフルエンザの患者報告数は3,581人で前年に比し38倍に増加し、定点あたり0.23であった。年齢別では20歳以上が689人（19.2％）と最も多く、10～14歳が657人（18.3％）、５歳が320人（8.9％）、６歳が308人（8.6％）と続いた。週別定点あたり報告数では第44週（0.26）から増加し、第51週（2.24）、第52週（4.39）と流行期に入った。インフルエンザウイルスの検出はＡＨ３が６株であった。新型コロナの流行に伴う社会隔離政策や様々な感染予防策により、インフルエンザは2021年、2022年の２シーズンほとんど発生届がなかったが、2022年の年末に再流行が始まった。今後の発生動向に注意を払う必要がある。

おわりに

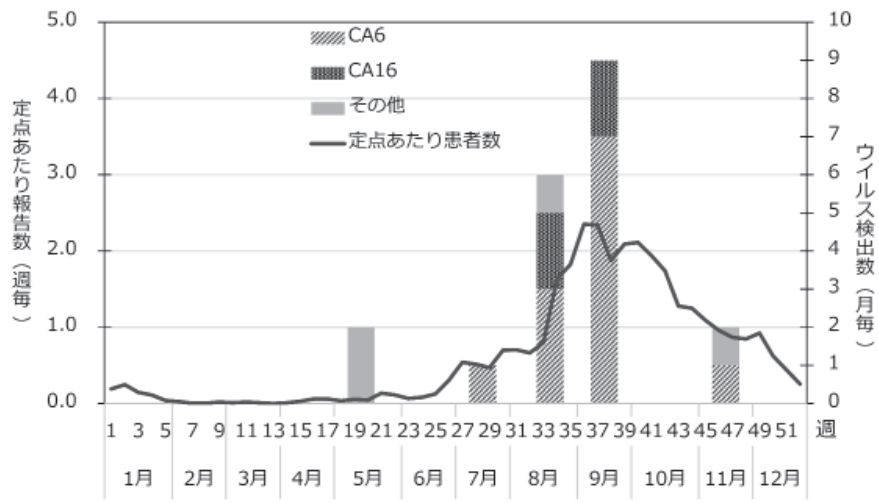
1982年（昭和57年）に感染症発生動向調査事業を開始して40年が経過しました。この間、関係各位のご理解・ご支援により、貴重な調査結果が集積されています。これらの調査結果の解析や発信が医療や感染症対策に資し、府民の健康・安心・安全に寄与しています。2023年もご理解・ご支援の程よろしくお願いいたします。

報告：東野　博彦（河内医師会）

（図１）感染性胃腸炎ウイルス分離状況



（図２）手足口病ウイルス分離状況



[各感染症データ]

インフルエンザ

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能				1																						
三 島	1			1					1																	
北河内	1	2																								
中河内			4	3	3	1			1																	
南河内			2	2														1								
堺 市					1																					1
泉 州						1																				
大阪市北部		1																								
大阪市西部	2	1	1			2		1	6			2	1										1			
大阪市東部				1	1																					
大阪市南部		1									1														1	
合 計	4	5	7	8	5	4		1	8		1	2	1					1					1		1	1

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能				0.03																						
三 島	0.04			0.04					0.04																	
北河内	0.02	0.05																								
中河内			0.13	0.10	0.10	0.03			0.03																	
南河内			0.08	0.08														0.04								
堺 市					0.03																					0.03
泉 州						0.03																				
大阪市北部		0.05																								
大阪市西部	0.13	0.07	0.07			0.13		0.07	0.40			0.13	0.07										0.07			
大阪市東部				0.05	0.05																					
大阪市南部		0.04									0.04														0.04	
合 計	0.01	0.02	0.02	0.03	0.02	0.01		0.00	0.03		0.00	0.01	0.00					0.00					0.00		0.00	0.00

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月																										
－11ヶ月		1																					1			
1歳						1			1									1							1	
2		1							1				1													
3									2																	
4																										
5		1			1	1			1																	
6																										
7	1																									
8		1	1	1	1																					
9					1																					
10－14	2		1	1		2		1				2														
15－19		1	1	1					2																	
20－	1		4	5	2				1		1															1
合 計	4	5	7	8	5	4		1	8		1	2	1					1					1		1	1

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

インフルエンザ

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
	3	4	1	2												2	4	5		7	3		14	41	68	155
1	3	2	1	1	1										1		11	3	2	3		2	9	8	20	71
5	6	6	2			1				1			1		6	4	3	9	22	27	24	32	36	85	147	420
4	22	9	15	6	1						1			5	3	6	11	14	18	6	4	10	10	66	174	397
	3	8	3	3		5	4	1			2				1		2	11	6	9	13	18	14	48	130	286
1	4	6	2				1		6		3					1	28	22	12	20	9	40	75	118	146	496
2	15	22	12	4	2	1	1			1		1		3	3		14	22	20	12	20	21	27	63	85	352
	3	9	2	2	1			2			1				2	2	3	17	39	31	17	36	22	66	182	438
	14	13	3	1							1	2	2	1	1	6	7	6	12	8	5	14	14	22	123	272
1	7	5	3	1		1					2	1	2		2		7	5	11	9	8	13	9	96	139	324
3	27	21	13	1	3		3	1		1				5	4	3	18	34	15	16	9	15	17	58	100	370
17	107	105	57	21	8	8	9	4	6	3	10	4	5	14	23	24	108	148	157	148	112	201	247	671	1314	3581

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
	0.09	0.11	0.03	0.06												0.06	0.11	0.14		0.20	0.09		0.40	1.17	1.94	0.09
0.04	0.12	0.08	0.04	0.04	0.04										0.04		0.44	0.12	0.08	0.12		0.08	0.36	0.32	0.80	0.05
0.13	0.15	0.15	0.05			0.03				0.03			0.03		0.15	0.10	0.08	0.23	0.55	0.68	0.60	0.80	0.90	2.13	3.68	0.20
0.13	0.71	0.29	0.48	0.19	0.03						0.03			0.16	0.10	0.19	0.36	0.45	0.58	0.19	0.13	0.32	0.32	2.13	5.61	0.25
	0.13	0.33	0.13	0.13		0.21	0.17	0.04			0.08				0.04		0.08	0.46	0.25	0.38	0.54	0.75	0.58	2.00	5.42	0.23
0.03	0.14	0.21	0.07				0.03		0.21		0.10					0.03	0.97	0.76	0.41	0.69	0.31	1.38	2.59	4.07	5.21	0.33
0.06	0.46	0.67	0.36	0.13	0.06	0.03	0.03			0.03		0.03		0.09	0.09		0.44	0.69	0.63	0.38	0.63	0.66	0.84	1.97	2.66	0.21
	0.15	0.45	0.10	0.10	0.05			0.10			0.05				0.10	0.10	0.15	0.85	1.95	1.55	0.85	1.80	1.10	3.30	9.10	0.42
	0.93	0.87	0.20	0.07							0.07	0.13	0.13	0.07	0.07	0.40	0.47	0.40	0.80	0.53	0.33	0.93	0.93	1.47	8.20	0.35
0.05	0.33	0.24	0.14	0.05		0.05					0.09	0.05	0.09		0.09		0.32	0.23	0.50	0.41	0.36	0.59	0.41	4.36	6.32	0.28
0.11	1.00	0.78	0.48	0.04	0.11		0.11	0.04		0.04				0.19	0.15	0.11	0.67	1.26	0.56	0.59	0.33	0.56	0.63	2.15	3.70	0.26
0.06	0.36	0.35	0.19	0.07	0.03	0.03	0.03	0.01	0.02	0.01	0.03	0.01	0.02	0.05	0.08	0.08	0.36	0.49	0.52	0.49	0.37	0.67	0.82	2.24	4.40	0.23

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
1		3																1		1		1	2	2	6	17
		1	2	1	1														3	2			1	6	10	29
	3	6	2	2			2					1	2	1		2	1	6	8	4	6	5	8	16	42	121
	6	5	3	3		1		1									2	7	12	14	4	13	8	25	47	154
	7	8	3	3			1	1	1					3			6	10	9	8	3	3	14	39	63	184
1	6	4	6					1			1		1	2			7	6	10	9	4	18	22	65	86	249
1	4	3	3		1				2	1	2	1					16	20	11	9	15	18	15	81	113	320
1	4	5	3	1	1						2		1			4	7	13	10	8	6	16	30	83	113	308
	4	1		1			1				1					1	5	6	9	15	11	16	14	42	58	186
		7	4	1		1	1							1		1	3	7	8	11	6	16	22	43	64	200
	3	3	1		1		1		1		1	1	1	1		1	4	9	4	5	6	14	14	34	65	171
	9	17	4	2			1		1	2	2				8	5	16	21	26	22	28	38	52	117	277	657
5	20	19	4	4		1					1			1	9	5	18	16	10	11	8	10	18	31	100	296
8	41	23	22	3	4	5	2	1	1			1		5	6	5	23	26	37	29	15	33	27	87	270	689
17	107	105	57	21	8	8	9	4	6	3	10	4	5	14	23	24	108	148	157	148	112	201	247	671	1314	3581

[各感染症データ]

RS ウイルス感染症

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	2	1		2												4	8	9	5	17	26	13	17	20	56	81
三 島	7		1		3	1		6		1	3					1	10	1				2	2	2	6	13
北河内	10	6	13	7	4	5	2	2	1		2		3	1		2		1			6	10	11	20	21	55
中河内	2	2	4	2				1	2	6	3		3	1	8	16	3	5	4	5	4	10	11	20	34	52
南河内	8	5	14	19	15	4	5	6	2	1			2		7	2	5	4	2	7	8	11	4	15	17	69
堺 市	2	1	7	9	7	3	1	3	1	2		2	1		1	8	4		3		4		1	2	1	17
泉 州	1	1	3	1		3												1	4	2	4	8	9	6	20	45
大阪市北部	19	13	4	14	6	1	8	1	5	2	6	2	1	2	2	6	6	2	6	8	8	15	16	35	55	124
大阪市西部		6	2	4	1		1	9	1	2	3	4	8		7	7	12	3	4	6	7	7	12	17	17	20
大阪市東部	7	12	5	5			1		2	2	1	1			1	1		2	2	9	8	7	9	19	43	64
大阪市南部	3	2	5	10	15	1	3	3	3		2	2		1	2	2	1	1	5	4	2		5	17	19	21
合 計	61	49	58	73	51	18	21	31	17	16	20	11	18	5	28	49	49	29	35	58	77	83	97	173	289	561

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	0.09	0.04		0.09												0.17	0.35	0.39	0.22	0.74	1.13	0.57	0.74	0.87	2.44	3.52
三 島	0.44		0.06		0.19	0.06		0.38		0.06	0.19					0.06	0.59	0.06				0.13	0.12	0.12	0.35	0.77
北河内	0.39	0.23	0.50	0.27	0.15	0.19	0.08	0.08	0.04		0.08		0.12	0.04		0.08		0.04			0.23	0.40	0.44	0.80	0.84	2.20
中河内	0.10	0.10	0.20	0.10				0.05	0.10	0.30	0.15		0.15	0.05	0.40	0.80	0.15	0.25	0.20	0.25	0.20	0.50	0.55	1.00	1.70	2.60
南河内	0.50	0.31	0.88	1.19	0.94	0.25	0.31	0.38	0.13	0.06			0.13		0.44	0.13	0.31	0.25	0.13	0.44	0.50	0.69	0.25	0.94	1.06	4.31
堺 市	0.11	0.05	0.37	0.47	0.37	0.16	0.05	0.16	0.05	0.11		0.11	0.05		0.05	0.42	0.21		0.16		0.21		0.05	0.11	0.05	0.90
泉 州	0.05	0.05	0.15	0.05		0.15												0.05	0.20	0.10	0.20	0.40	0.45	0.30	1.00	2.25
大阪市北部	1.36	0.93	0.29	1.00	0.43	0.07	0.57	0.07	0.36	0.14	0.43	0.14	0.07	0.14	0.14	0.43	0.43	0.14	0.43	0.57	0.57	1.07	1.14	2.50	3.93	8.86
大阪市西部		0.60	0.20	0.40	0.10		0.10	0.90	0.10	0.20	0.30	0.40	0.80		0.70	0.70	1.20	0.30	0.40	0.60	0.70	0.70	1.20	1.70	1.70	2.00
大阪市東部	0.47	0.80	0.33	0.33			0.07		0.13	0.13	0.07	0.07			0.07	0.07		0.14	0.14	0.64	0.57	0.50	0.64	1.36	3.07	4.57
大阪市南部	0.17	0.11	0.28	0.56	0.83	0.06	0.17	0.17	0.17		0.11	0.11		0.06	0.11	0.11	0.06	0.06	0.28	0.22	0.11		0.28	0.94	1.06	1.17
合 計	0.31	0.25	0.29	0.37	0.26	0.09	0.11	0.16	0.09	0.08	0.10	0.06	0.09	0.03	0.14	0.25	0.25	0.15	0.18	0.29	0.39	0.43	0.50	0.88	1.47	2.86

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月	9	5	5	5	8	2	1	2	3		2	2	3		1	6	2	5	6	3	7	8	6	21	23	47
－11ヶ月	12	6	12	4	5	6	1	3	1	4	2	2	2	1	6	9	12	7	6	12	10	12	16	18	31	65
1歳	17	16	16	30	11	7	9	9	6	7	6	4	6	1	11	17	14	10	11	19	28	27	31	47	76	165
2	12	14	18	22	11	2	6	10	4	4	7	2	4	2	6	8	9	4	4	15	16	17	22	36	71	108
3	7	6	4	7	6	1	2	5	3	1	2	1	1		4	6	7	2	4	8	10	8	13	29	56	95
4	2	2	2	3	6									1		2	4	1	1	1	4	6	5	14	21	53
5	1		1	1	2								1			1			2		1	1	4	5	10	18
6				1	1			1									1				1			1	1	6
7							1															2				1
8	1						1																	1		2
9											1															
10－14								1											1			2		1		
15－19																										
20－					1								1													1
合 計	61	49	58	73	51	18	21	31	17	16	20	11	18	5	28	49	49	29	35	58	77	83	97	173	289	561

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

RS ウイルス感染症

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
138	153	112	82	48	23	24	23	22	20	10	7	2	1	1	3		2	2			3	1	1		1	940
51	105	129	95	78	49	34	18	10	13	12	6	3	2	1	2	2	1	1	2		2				1	676
76	171	196	141	173	122	92	66	52	70	75	28	22	20	12	11	8	6	3	2	6	5	8	3	1	3	1554
84	103	82	94	84	41	13	16	17	18	11	16	13	2	2	2	1	2		4	1	1		1	2		808
86	88	74	77	100	109	53	66	82	111	74	41	36	44	48	29	19	11	19	13	10	8	6	4	9	8	1457
47	60	94	116	149	90	63	70	87	102	103	40	31	24	15	7	7	12	11	7	2	7	2	2	1	4	1233
63	129	142	165	159	120	75	68	34	54	40	21	17	19	6	14	5	1	3	3	3	4	1	9	3	3	1269
128	248	237	193	156	87	58	32	25	25	25	14	12	5	10	5	5	2	8	3	1	1	2		3	6	1658
70	118	130	142	79	36	52	19	21	21	16	5	7	7	6	2	2	1	2	4	1		3	2		1	907
53	83	122	88	72	51	21	30	20	15	22	8	9	4	8		1	3	3	4	3		1		1	1	824
59	93	112	90	116	90	53	56	49	32	43	17	12	9	2	2	4	3	2	1	1	3	3	4	7	1	993
855	1351	1430	1283	1214	818	538	464	419	481	431	203	164	137	111	77	54	44	54	43	28	34	27	26	27	29	12319

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
6.00	6.65	4.87	3.57	2.09	1.00	1.04	1.00	0.96	0.87	0.44	0.30	0.09	0.04	0.04	0.13		0.09	0.09			0.13	0.04	0.04		0.04	0.79
3.00	6.18	7.59	5.59	4.59	2.88	2.00	1.06	0.59	0.77	0.71	0.35	0.18	0.12	0.06	0.12	0.12	0.06	0.06	0.12		0.12				0.06	0.77
3.04	6.84	7.84	5.64	6.92	4.88	3.68	2.64	2.08	2.80	3.00	1.12	0.88	0.80	0.48	0.44	0.32	0.24	0.12	0.08	0.24	0.20	0.32	0.12	0.04	0.12	1.19
4.20	5.15	4.10	4.70	4.20	2.05	0.65	0.80	0.85	0.90	0.55	0.80	0.65	0.10	0.10	0.10	0.05	0.10		0.20	0.05	0.05		0.05	0.10		0.78
5.38	5.50	4.63	4.81	6.25	6.81	3.31	4.13	5.13	6.94	4.63	2.56	2.25	2.75	3.00	1.81	1.19	0.69	1.19	0.81	0.63	0.50	0.38	0.25	0.56	0.50	1.75
2.47	3.16	4.95	6.11	7.84	4.74	3.32	3.68	4.58	5.37	5.42	2.11	1.63	1.26	0.79	0.37	0.37	0.63	0.58	0.37	0.11	0.37	0.11	0.11	0.05	0.22	1.25
3.15	6.45	7.10	8.25	8.37	6.32	3.75	3.40	1.70	2.84	2.11	1.11	0.90	1.00	0.32	0.74	0.26	0.05	0.16	0.16	0.16	0.21	0.05	0.47	0.16	0.16	1.24
9.14	17.71	16.93	13.79	11.14	6.21	4.14	2.29	1.79	1.79	1.79	1.00	0.86	0.36	0.71	0.36	0.36	0.14	0.57	0.21	0.07	0.07	0.14		0.21	0.43	2.28
7.00	11.80	13.00	14.20	7.90	3.60	5.20	1.90	2.10	2.10	1.60	0.50	0.70	0.70	0.60	0.20	0.20	0.10	0.20	0.40	0.10		0.30	0.20		0.10	1.74
3.79	5.93	8.71	6.29	4.80	3.40	1.40	2.00	1.33	1.00	1.47	0.53	0.60	0.27	0.53		0.07	0.20	0.20	0.27	0.20		0.07		0.07	0.07	1.10
3.28	5.17	6.22	5.00	6.44	5.00	2.94	3.11	2.72	1.78	2.39	0.94	0.67	0.50	0.11	0.11	0.22	0.17	0.11	0.06	0.06	0.17	0.17	0.22	0.39	0.06	1.06
4.36	6.89	7.30	6.55	6.19	4.17	2.73	2.36	2.13	2.45	2.20	1.04	0.84	0.70	0.57	0.39	0.28	0.22	0.28	0.22	0.14	0.17	0.14	0.13	0.14	0.15	1.21

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
72	109	113	132	119	72	56	38	33	43	48	22	26	12	15	11	7	9	9	7	3	10	2	10	6	4	1170
100	165	178	171	168	132	79	64	48	57	54	35	24	18	25	13	8	8	4	7	5	3	3	4	5	7	1650
246	423	435	380	399	269	171	158	142	138	131	56	38	40	34	21	18	18	14	11	9	8	10	7	8	6	3791
203	312	325	324	292	199	125	103	107	134	98	37	28	28	19	17	9	4	9	6	7	5	4	2	3	6	2840
130	208	205	161	144	95	69	63	50	58	55	27	30	22	14	7	8	3	4	7	1	3	4	3	3	2	1664
62	77	106	66	55	38	22	25	30	32	31	14	12	12	1	2	4	1	2	5	2	3	1		1	3	735
30	38	37	26	27	7	13	7	8	13	11	8	5	3	1	4			4		1	1	1		1	1	295
5	11	19	10	4	5	1	3	1	2	2	3			2			1					2				84
1	3	2	3			1			1		1		2		1			2								21
1		3	3	1					3									2								18
	3	2	1	1		1									1			1								11
1		2	1		1		3					1						3								17
		1		1																						2
4	2	2	5	3						1											1					21
855	1351	1430	1283	1214	818	538	464	419	481	431	203	164	137	111	77	54	44	54	43	28	34	27	26	27	29	12319

[各感染症データ]

咽頭結膜熱

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能			3	2	2	4	1				1	1	3	1		1		1	2	3	3	1	14	11	13	5
三 島	2	3				1		3	3			1						1	1	3	8	6	16	11	13	11
北河内	6	6	2	1	5	1	1		4	4	3	1	4	2		2	15	7	19	20	26	9	16	19	21	16
中河内	6		1	3	3			1		2	5	4	1	1		3	3	2	4	6	22	19	17	12	6	8
南河内	5	6	5	3		1	1	1	1		3	4	3	3	4	3	2	4	4	2	6	7	15	11	8	12
堺 市	1	2		2	2	1	1	2	2		1	1	2	2	4	8	4	4	8	9	10	5	10	27	14	8
泉 州	9	7	3	1	5	3	2				1				2	8	8	14	11	6	19	15	18	30	15	14
大阪市北部	2	5	2	3	5	8	6	5	10	13	5		2	2	3	4		1	6	10	15	10	8	8	10	13
大阪市西部	6	2	1		5	1	3	1		1			1		4	2		1	5	4	8	5	2	3	3	1
大阪市東部	2	3	3	1	2	3		1			1			1		3	1	2	1	4	3	2	12	11	12	9
大阪市南部	4	5	3	3		3		1	2	1	2		4	3	2	3	3	1	7	8	10	28	21	18	27	31
合 計	43	39	23	19	29	26	15	15	22	21	22	12	20	15	19	37	36	38	68	75	130	107	149	161	142	128

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能			0.13	0.09	0.09	0.17	0.04				0.04	0.04	0.13	0.04		0.04		0.04	0.09	0.13	0.13	0.04	0.61	0.48	0.57	0.22
三 島	0.13	0.19				0.06		0.19	0.19			0.06						0.06	0.06	0.18	0.47	0.38	0.94	0.65	0.77	0.65
北河内	0.23	0.23	0.08	0.04	0.19	0.04	0.04		0.15	0.15	0.12	0.04	0.15	0.08		0.08	0.58	0.27	0.73	0.77	1.00	0.36	0.64	0.76	0.84	0.64
中河内	0.30		0.05	0.15	0.15			0.05		0.10	0.25	0.20	0.05	0.05		0.15	0.15	0.10	0.20	0.30	1.10	0.95	0.85	0.60	0.30	0.40
南河内	0.31	0.38	0.31	0.19		0.06	0.06	0.06	0.06		0.19	0.25	0.19	0.19	0.25	0.19	0.13	0.25	0.25	0.13	0.38	0.44	0.94	0.69	0.50	0.75
堺 市	0.05	0.11		0.11	0.11	0.05	0.05	0.11	0.11		0.05	0.05	0.11	0.11	0.21	0.42	0.21	0.21	0.42	0.47	0.53	0.26	0.53	1.42	0.74	0.42
泉 州	0.45	0.35	0.15	0.05	0.25	0.15	0.10				0.05				0.10	0.40	0.40	0.70	0.55	0.30	0.95	0.75	0.90	1.50	0.75	0.70
大阪市北部	0.14	0.36	0.14	0.21	0.36	0.57	0.43	0.36	0.71	0.93	0.36		0.14	0.14	0.21	0.29		0.07	0.43	0.71	1.07	0.71	0.57	0.57	0.71	0.93
大阪市西部	0.60	0.20	0.10		0.50	0.10	0.30	0.10		0.10			0.10		0.40	0.20		0.10	0.50	0.40	0.80	0.50	0.20	0.30	0.30	0.10
大阪市東部	0.13	0.20	0.20	0.07	0.13	0.20		0.07			0.07			0.07		0.21	0.07	0.14	0.07	0.29	0.21	0.14	0.86	0.79	0.86	0.64
大阪市南部	0.22	0.28	0.17	0.17		0.17		0.06	0.11	0.06	0.11		0.22	0.17	0.11	0.17	0.17	0.06	0.39	0.44	0.56	1.56	1.17	1.00	1.50	1.72
合 計	0.22	0.20	0.12	0.10	0.15	0.13	0.08	0.08	0.11	0.11	0.11	0.06	0.10	0.08	0.10	0.19	0.18	0.19	0.35	0.38	0.66	0.55	0.76	0.82	0.72	0.65

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月							1	1				1						1	1						2	
－11ヶ月	2	4	1	1	3	3		2	3	1		3	4	1	2	7	5	11	7	12	24	16	15	21	25	16
1歳	17	14	10	5	13	13	2	4	9	3	11	4	7	4	8	12	18	14	31	36	66	40	69	74	61	44
2	13	15	5	4	3	2	3	6	4	3	4	3	5	3	5	6	7	7	12	15	22	25	22	26	22	25
3	4	4	1	6	3	2	2		2	1	4	1	2	2	1	6	4	2	7	3	9	13	19	22	13	23
4	2	1			2	1	2		1	10			1	3	1	3	1	1	6	6	6	5	7	11	10	9
5	2		2	3	3	3	2								1	1		2			1	5	4	4	3	3
6	2						1		2		1		1						2	2		2	2	1	1	
7		1	1							1				1			1		1				1		1	3
8			1																		1		2	1	2	2
9			1								1					1										
10－14										1				1		1			1		1		1		1	1
15－19			1					1																1		
20－	1				2	2	2	1	1	1	1				1					1		1	7		1	2
合 計	43	39	23	19	29	26	15	15	22	21	22	12	20	15	19	37	36	38	68	75	130	107	149	161	142	128

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

咽頭結膜熱

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
9	9	9	13			1	1	3	3	1	2	2					2					1	3			131
5	7	4	4	2		1						1		1	1			1	1	1	5	1	2	3	1	124
14	6	4	5	2	1							1	2			1	2	1	1	3	2	2	4	5	4	270
5	6	8	10	9	1	5	5	1	2	1		1		1	3							1		2	2	192
6	6	6	6	2	2		2	1	1	2		1		1	3		1	2	1	5	7	6	3	1	6	185
12	6	4	4	1	2		2	3	3	2	3	2	2	1	1			2				2	6	4		192
13	15	12	4	7	5	4	4	2	8	2	2	6	3	1		4	4	4	5	2	2	4	3	2	1	310
9	13	4	5	4	1	1	3	1	2			2			2	1	2		2		1				1	210
4	8	3	10	3			2	1	3				1					1		2	5		1	3	1	107
3	5	3	3				3	1		2		2	2		6	7	2	1	2	4	4	1	1	4	3	136
23	10	6	10	4	4	3	3	1	1	2	2	2	1	2	3	1		3	4	1	2	7	3	8	2	298
103	91	63	74	34	16	15	25	14	23	12	9	20	11	7	19	14	13	15	16	18	28	25	26	32	21	2155

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.39	0.39	0.39	0.57			0.04	0.04	0.13	0.13	0.04	0.09	0.09					0.09					0.04	0.13			0.11
0.29	0.41	0.24	0.24	0.12		0.06						0.06		0.06	0.06			0.06	0.06	0.06	0.29	0.06	0.12	0.18	0.06	0.14
0.56	0.24	0.16	0.20	0.08	0.04							0.04	0.08			0.04	0.08	0.04	0.04	0.12	0.08	0.08	0.16	0.20	0.16	0.20
0.25	0.30	0.40	0.50	0.45	0.05	0.25	0.25	0.05	0.10	0.05		0.05		0.05	0.15							0.05		0.10	0.10	0.18
0.38	0.38	0.38	0.38	0.13	0.13		0.13	0.06	0.06	0.13		0.06		0.06	0.19		0.06	0.13	0.06	0.31	0.44	0.38	0.19	0.06	0.38	0.22
0.63	0.32	0.21	0.21	0.05	0.11		0.11	0.16	0.16	0.11	0.16	0.11	0.11	0.05	0.05			0.11				0.11	0.32	0.21		0.19
0.65	0.75	0.60	0.20	0.37	0.26	0.20	0.20	0.10	0.42	0.11	0.11	0.32	0.16	0.05		0.21	0.21	0.21	0.26	0.11	0.11	0.21	0.16	0.11	0.05	0.30
0.64	0.93	0.29	0.36	0.29	0.07	0.07	0.21	0.07	0.14			0.14			0.14	0.07	0.14		0.14		0.07				0.07	0.29
0.40	0.80	0.30	1.00	0.30			0.20	0.10	0.30				0.10					0.10		0.20	0.50		0.10	0.30	0.10	0.21
0.21	0.36	0.21	0.21				0.20	0.07		0.13		0.13	0.13		0.40	0.47	0.13	0.07	0.13	0.27	0.27	0.07	0.07	0.27	0.20	0.18
1.28	0.56	0.33	0.56	0.22	0.22	0.17	0.17	0.06	0.06	0.11	0.11	0.11	0.06	0.11	0.17	0.06		0.17	0.22	0.06	0.11	0.39	0.17	0.44	0.11	0.32
0.53	0.46	0.32	0.38	0.17	0.08	0.08	0.13	0.07	0.12	0.06	0.05	0.10	0.06	0.04	0.10	0.07	0.07	0.08	0.08	0.09	0.14	0.13	0.13	0.16	0.11	0.21

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
																				2				3		12
15	8	4	6	2	1	1	2		3	2			2	2		2	2		1	2	4	1	3	2	4	258
40	34	27	23	7	4	3	8	4	6	4	4	6	3	1	13	5	4	5	9	7	8	9	11	11	7	852
22	12	8	16	6	2	3	2	3	3	2	2	5	1		5	2	3	7	1	3	8	6	7	8	6	410
16	16	11	14	7	3	2	5	2	3	2	1	2	1	1	1	1	2	3	2	3	3	8	2	5	1	273
2	8	7	6	2	2	3	4	3	1		1	1	1	1		3			3	1	3	1	1		2	145
3	4	4	4	3			1		1	1	1	1		1			1							1		65
1	1		2		1		1		1				1			1					1		1			28
2			1	1				1	1								1								1	19
2										1		1									1					14
	1			1																				1		6
	4	1	1	1	1			1	2			2														21
	1			1			2		1																	8
	2	1	1	3	2	3			1			2	2	1									1	1		44
103	91	63	74	34	16	15	25	14	23	12	9	20	11	7	19	14	13	15	16	18	28	25	26	32	21	2155

[各感染症データ]

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

１）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊　能	2	2	2	1								1	8	1	1			2	1	1	1	2		4	2	3
三　島	3	5	3	3	6	1		3	3	3	3	2	3	5	3	5	3	6	3	4	2	5	6	5	7	3
北河内	10	9	8	8	6	3		3	5	6	2		10	7	7	6	9	1	21	17	11	15	7	9	10	9
中河内	17	18	10	6	11	8	5	8	9	3	3	9	10	20	15	18	10	7	14	23	18	18	18	28	30	16
南河内	6	7	5	2	2	2	1	2	7	2	5	4	1		2	2	3		2	3	1	6	4	6	5	1
堺　市		2	6	1	1	3	2		7	1	1	6	1	4	6	4	2	3	11	5	5	10	11	11		5
泉　州	6	3	11	14	11	10	11	1	4	3	2	3	3	4	10	6	6	7	6	6	11	15	14	11	3	3
大阪市北部	1	3	4		5	1	1	4	3	1	2		5	4	2	6	3	1	4	4	5	5	4	6	8	6
大阪市西部	1	1					1	1	1	1	1		1				2	4	1	2	3	9	1	1	2	1
大阪市東部		1	6	1		2	2		1		2	1	2	2	2	3	6	1		6		4	2	2	2	1
大阪市南部	8	14	1	15	3	5	10	11	11	2	8	3	9	5	6	12	4	8		7	3	13	5	13	9	10
合　計	54	65	56	51	45	35	33	33	51	22	29	29	53	52	54	62	48	40	63	78	60	102	72	96	78	58

２）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊　能	0.09	0.09	0.09	0.04								0.04	0.35	0.04	0.04			0.09	0.04	0.04	0.04	0.09		0.17	0.09	0.13
三　島	0.19	0.31	0.19	0.19	0.38	0.06		0.19	0.19	0.19	0.19	0.13	0.19	0.29	0.18	0.29	0.18	0.35	0.18	0.24	0.12	0.31	0.35	0.29	0.41	0.18
北河内	0.39	0.35	0.31	0.31	0.23	0.12		0.12	0.19	0.23	0.08		0.39	0.27	0.27	0.23	0.35	0.04	0.81	0.65	0.42	0.60	0.28	0.36	0.40	0.36
中河内	0.85	0.90	0.50	0.30	0.55	0.40	0.25	0.40	0.45	0.15	0.15	0.45	0.50	1.00	0.75	0.90	0.50	0.35	0.70	1.15	0.90	0.90	0.90	1.40	1.50	0.80
南河内	0.38	0.44	0.31	0.13	0.13	0.13	0.06	0.13	0.44	0.13	0.31	0.25	0.06		0.13	0.13	0.19		0.13	0.19	0.06	0.38	0.25	0.38	0.31	0.06
堺　市		0.11	0.32	0.05	0.05	0.16	0.11		0.37	0.05	0.05	0.32	0.05	0.21	0.32	0.21	0.11	0.16	0.58	0.26	0.26	0.53	0.58	0.58		0.26
泉　州	0.30	0.15	0.55	0.70	0.55	0.50	0.55	0.05	0.20	0.15	0.10	0.15	0.15	0.20	0.50	0.30	0.30	0.35	0.30	0.30	0.55	0.75	0.70	0.55	0.15	0.15
大阪市北部	0.07	0.21	0.29		0.36	0.07	0.07	0.29	0.21	0.07	0.14		0.36	0.29	0.14	0.43	0.21	0.07	0.29	0.29	0.36	0.36	0.29	0.43	0.57	0.43
大阪市西部	0.10	0.10					0.10	0.10	0.10	0.10	0.10		0.10				0.20	0.40	0.10	0.20	0.30	0.90	0.10	0.10	0.20	0.10
大阪市東部		0.07	0.40	0.07		0.13	0.13		0.07		0.13	0.07	0.14	0.14	0.14	0.21	0.43	0.07		0.43		0.29	0.14	0.14	0.14	0.07
大阪市南部	0.44	0.78	0.06	0.83	0.17	0.28	0.56	0.61	0.61	0.11	0.44	0.17	0.50	0.28	0.33	0.67	0.22	0.44		0.39	0.17	0.72	0.28	0.72	0.50	0.56
合　計	0.27	0.33	0.28	0.26	0.23	0.18	0.17	0.17	0.26	0.11	0.15	0.15	0.27	0.26	0.27	0.32	0.24	0.20	0.32	0.40	0.31	0.52	0.37	0.49	0.40	0.30

３）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年　齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月												1			1								1			
－11ヶ月		2									1	1		2		1		1	6		2	1		1	1	1
1歳	4	5	1	2	1			1	2	2	1	1	1	5	5	1	5	2	5	2	2	6	7	6	7	2
2	4	5	5	4	3	3	1	2	4	3	2	2	4	6	4	4	4	3	5	2	7	11	7	8	10	2
3	14	8	10	6	5	2	1	4	5		5	4	8	9	13	10	7	7	7	10	11	13	9	10	4	10
4	6	6	8	6	4	6	4	4	5	4	3	3	6	3	8	7	4	4	9	13	9	14	14	12	9	9
5	2	10	6	5	7	6	2	7	6	1	3	2	4	5	5	12	6	1	9	9	9	13	10	11	17	7
6	2	7	4	5	3	3	4	2	5	2	1	3	5	3	3	3	4	1	4	9	6	2	2	6	4	7
7	3	5	4	4	1	1	3	3	4	2	1	2	6	4	2	7	3	8	3	4	5	7	4	9	10	5
8	6	1	3	4	3	2	6	1	3	3	2	2	6	2	1	3	3	3	3	7	1	3	2	4	5	1
9	1	3		2	2	3	4	2	2		2	2	3	5	2	1	2		1	2		5	1	3	4	1
10－14	3	3	5	10	7	6	6	5	6	1	4	3	3	2	5	3	5	7	4	12	3	8	8	15	3	7
15－19	4	2	4						2		1	1	2		3	4			1	2		5	1	2		
20－	5	8	6	3	9	3	2	2	7	4	3	2	5	6	2	6	5	3	6	6	5	14	6	9	4	6
合　計	54	65	56	51	45	35	33	33	51	22	29	29	53	52	54	62	48	40	63	78	60	102	72	96	78	58

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
11	2		1	1	1			3		4	2		2	16	2	1	2	5	2	1	2	3	10	2	2	109
3	2	2	3	5	3	2	2	3	4	2	3	1	2	1	2	5	5	2	4	1	2	3	1	3	2	163
16	5	6	1	3	2	2	6	4	6	1	6	3	11	3	5	7	8	9	4	3	7	14	11	11	13	366
27	19	13	16	17	9	8	17	12	11	11	13	12	15	13	23	44	23	24	30	35	18	21	16	16	9	824
2	2	2	4	3	5	2	3	1	1	1	2	4	9	6	9	3	5	11	5	5	5	4	2	3	4	184
6	4	8	4	7	3		4	1	8	7	5	7	6	2	6	3	9	6	3	3	4	6	5	3	5	233
11	10	1	6	4	5	2	2	5	9	8	13	10	20	29	36	29	35	14	18	4	9	13	9	6	8	500
4	5	4	5	1	2	1	3	2	5	1	3	2	2	4	3	3	3	4	2	5	2	3	5	6	2	170
12	2	2		1	1		1				2	2	1	1	4	2	2	1	1	7			3	1	1	81
3	2		1	1	1	3				1	2	1	1		1	4	3	5	2	1	4	1		2	4	92
9	9	5	14	5	9	4	4	19	8	24	14	29	16	35	26	16	11	12	12	24	16	14	12	18	8	568
104	62	43	55	48	41	24	42	50	52	60	65	71	85	110	117	117	106	93	83	89	69	82	74	71	58	3290

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.48	0.09		0.04	0.04	0.04			0.13		0.17	0.09		0.09	0.70	0.09	0.04	0.09	0.22	0.09	0.04	0.09	0.13	0.44	0.09	0.09	0.09
0.18	0.12	0.12	0.18	0.29	0.18	0.12	0.12	0.18	0.24	0.12	0.18	0.06	0.12	0.06	0.12	0.29	0.29	0.12	0.24	0.06	0.12	0.18	0.06	0.18	0.12	0.19
0.64	0.20	0.24	0.04	0.12	0.08	0.08	0.24	0.16	0.24	0.04	0.24	0.12	0.44	0.12	0.20	0.28	0.32	0.36	0.16	0.12	0.28	0.56	0.44	0.44	0.52	0.28
1.35	0.95	0.65	0.80	0.85	0.45	0.40	0.85	0.60	0.55	0.55	0.65	0.60	0.75	0.65	1.15	2.20	1.15	1.20	1.50	1.75	0.90	1.05	0.80	0.80	0.45	0.79
0.13	0.13	0.13	0.25	0.19	0.31	0.13	0.19	0.06	0.06	0.06	0.13	0.25	0.56	0.38	0.56	0.19	0.31	0.69	0.31	0.31	0.31	0.25	0.13	0.19	0.25	0.22
0.32	0.21	0.42	0.21	0.37	0.16		0.21	0.05	0.42	0.37	0.26	0.37	0.32	0.11	0.32	0.16	0.47	0.32	0.16	0.16	0.21	0.32	0.26	0.16	0.28	0.24
0.55	0.50	0.05	0.30	0.21	0.26	0.10	0.10	0.25	0.47	0.42	0.68	0.53	1.05	1.53	1.90	1.53	1.84	0.74	0.95	0.21	0.47	0.68	0.47	0.32	0.42	0.49
0.29	0.36	0.29	0.36	0.07	0.14	0.07	0.21	0.14	0.36	0.07	0.21	0.14	0.14	0.29	0.21	0.21	0.21	0.29	0.14	0.36	0.14	0.21	0.36	0.43	0.14	0.23
1.20	0.20	0.20		0.10	0.10		0.10				0.20	0.20	0.10	0.10	0.40	0.20	0.20	0.10	0.10	0.70			0.30	0.10	0.10	0.16
0.21	0.14		0.07	0.07	0.07	0.20				0.07	0.13	0.07	0.07		0.07	0.27	0.20	0.33	0.13	0.07	0.27	0.07		0.13	0.27	0.12
0.50	0.50	0.28	0.78	0.28	0.50	0.22	0.22	1.06	0.44	1.33	0.78	1.61	0.89	1.94	1.44	0.89	0.61	0.67	0.67	1.33	0.89	0.78	0.67	1.00	0.44	0.61
0.53	0.32	0.22	0.28	0.25	0.21	0.12	0.21	0.25	0.27	0.31	0.33	0.36	0.43	0.56	0.60	0.60	0.54	0.47	0.42	0.45	0.35	0.42	0.38	0.36	0.30	0.32

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
								1		1	1															6
1					1	1	1	1		1	1			2		5			1	1			1		1	38
15	4	1	2	4	1	3	2	1	3	4	4	4	9	10	5	10	6	1	2	1	5	3	4	4	5	189
12	2	8	9	5	4	1	4		1	6	4	9	6	6	12	11	10	14	6	8	3	6	4	12	1	279
12	16	9	10	6	7	4	7	9	15	9	7	9	16	19	15	16	13	15	6	11	10	8	12	8	11	472
13	11	7	7	11	6	2	8	13	5	10	8	9	7	12	15	16	14	8	14	10	10	12	8	4	8	428
11	8	7	7	3	5	1	3	3	7	5	11	3	10	11	14	9	10	6	7	9	10	10	9	11	8	373
8	2	6	1	5	4	1	2	4	4	5	3	5	10	6	11	10	10	7	14	12	6	8	7	6	6	263
5	4	1	3	3		1	1	6	4	2	6	3	4	5	6	4	9	9	4	5	2	7	6	4	2	216
4	2		3	4	2		3	2	3	4	4	12	3	7	7	3	4	6	6	6	2	6	3	2	3	181
2	1	3	2	2			1	2	1	1	4	1	2	5	6	10	6	5	6	5	5	4	4	8	5	144
5	7	1	5		4	4	4	6	7	9	8	10	11	22	21	11	14	13	9	12	8	13	11	6	4	369
3	2		3	1		1	2				2	1	3	2	3	4	5	4	3	3	2	1	2		1	82
13	3		3	4	7	5	4	2	2	3	2	5	4	3	2	8	5	5	5	6	6	4	3	6	3	250
104	62	43	55	48	41	24	42	50	52	60	65	71	85	110	117	117	106	93	83	89	69	82	74	71	58	3290

[各感染症データ]

感染性胃腸炎

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	95	106	93	110	89	70	49	55	60	46	48	39	37	29	46	38	39	45	71	86	108	117	141	116	109	88
三 島	66	83	77	62	50	51	41	31	47	50	35	27	26	29	40	38	60	65	51	79	87	89	107	130	140	117
北河内	161	207	226	151	106	70	75	58	62	60	67	55	47	64	69	87	98	69	95	150	151	126	166	177	137	143
中河内	142	160	132	120	106	75	80	75	74	65	61	48	46	25	50	70	55	66	114	89	141	123	142	146	133	137
南河内	155	167	235	149	113	63	55	54	58	46	49	39	42	61	82	75	86	65	97	117	147	142	184	147	143	155
堺 市	85	121	156	125	76	53	48	43	46	36	34	24	36	27	40	47	41	39	61	66	57	82	90	115	89	71
泉 州	109	193	213	166	104	57	60	48	39	42	46	27	44	36	53	66	56	44	89	87	103	128	103	134	119	102
大阪市北部	92	109	141	82	57	37	23	44	34	43	34	15	19	27	27	52	30	56	76	95	80	73	98	95	78	64
大阪市西部	92	84	57	37	46	17	13	14	21	21	24	27	14	19	20	24	37	26	39	32	24	25	26	47	48	17
大阪市東部	32	38	41	21	19	12	3	12	12	19	10	6	13	9	11	23	31	23	12	33	34	35	46	38	42	37
大阪市南部	102	209	108	88	56	36	85	49	47	48	50	47	37	54	56	48	63	46	71	72	86	89	113	109	91	108
合 計	1131	1477	1479	1111	822	541	532	483	500	476	458	354	361	380	494	568	596	544	776	906	1018	1029	1216	1254	1129	1039

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	4.13	4.61	4.04	4.78	3.87	3.04	2.13	2.39	2.61	2.00	2.09	1.70	1.61	1.26	2.00	1.65	1.70	1.96	3.09	3.74	4.70	5.09	6.13	5.04	4.74	3.83
三 島	4.13	5.19	4.81	3.88	3.13	3.19	2.56	1.94	2.94	3.13	2.19	1.69	1.63	1.71	2.35	2.24	3.53	3.82	3.00	4.65	5.12	5.56	6.29	7.65	8.24	6.88
北河内	6.19	7.96	8.69	5.81	4.08	2.69	2.89	2.23	2.39	2.31	2.58	2.12	1.81	2.46	2.65	3.35	3.77	2.65	3.65	5.77	5.81	5.04	6.64	7.08	5.48	5.72
中河内	7.10	8.00	6.60	6.00	5.30	3.75	4.00	3.75	3.70	3.25	3.05	2.40	2.30	1.25	2.50	3.50	2.75	3.30	5.70	4.45	7.05	6.15	7.10	7.30	6.65	6.85
南河内	9.69	10.44	14.69	9.31	7.06	3.94	3.44	3.38	3.63	2.88	3.06	2.44	2.63	3.81	5.13	4.69	5.38	4.06	6.06	7.31	9.19	8.88	11.50	9.19	8.94	9.69
堺 市	4.47	6.37	8.21	6.58	4.00	2.79	2.53	2.26	2.42	1.90	1.79	1.26	1.90	1.42	2.11	2.47	2.16	2.05	3.21	3.47	3.00	4.32	4.74	6.05	4.68	3.74
泉 州	5.45	9.65	10.65	8.30	5.20	2.85	3.00	2.40	1.95	2.10	2.30	1.35	2.20	1.80	2.65	3.30	2.80	2.20	4.45	4.35	5.15	6.40	5.15	6.70	5.95	5.10
大阪市北部	6.57	7.79	10.07	5.86	4.07	2.64	1.64	3.14	2.43	3.07	2.43	1.07	1.36	1.93	1.93	3.71	2.14	4.00	5.43	6.79	5.71	5.21	7.00	6.79	5.57	4.57
大阪市西部	9.20	8.40	5.70	3.70	4.60	1.70	1.30	1.40	2.10	2.10	2.40	2.70	1.40	1.90	2.00	2.40	3.70	2.60	3.90	3.20	2.40	2.50	2.60	4.70	4.80	1.70
大阪市東部	2.13	2.53	2.73	1.40	1.27	0.80	0.20	0.80	0.80	1.27	0.67	0.43	0.93	0.64	0.79	1.64	2.21	1.64	0.86	2.36	2.43	2.50	3.29	2.71	3.00	2.64
大阪市南部	5.67	11.61	6.00	4.89	3.11	2.00	4.72	2.72	2.61	2.67	2.78	2.61	2.06	3.00	3.11	2.67	3.50	2.56	3.94	4.00	4.78	4.94	6.28	6.06	5.06	6.00
合 計	5.74	7.50	7.51	5.64	4.17	2.75	2.70	2.45	2.54	2.42	2.33	1.81	1.84	1.93	2.51	2.88	3.03	2.76	3.94	4.60	5.17	5.28	6.20	6.40	5.76	5.30

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月	11	9	14	11	6	2	7	7	4	5	4	2	2	4	4	8	2	4	4	7	9	8	17	13	13	10
－11ヶ月	77	81	67	62	41	29	32	27	32	32	24	15	17	27	31	63	49	56	78	74	77	94	105	112	93	93
1歳	235	261	255	177	125	81	67	65	62	64	67	48	51	50	95	105	134	109	150	212	205	225	266	249	231	221
2	191	279	293	185	125	94	96	69	67	70	51	50	47	61	54	60	69	57	114	137	136	144	163	162	161	144
3	158	182	217	153	108	56	63	55	51	52	46	37	50	41	53	68	74	41	78	94	129	111	149	156	139	123
4	89	161	163	109	71	36	53	44	41	29	43	28	32	28	44	44	42	41	58	80	103	86	119	115	99	68
5	66	113	107	87	53	45	38	22	35	34	41	36	23	24	32	31	40	23	54	50	77	83	101	101	104	77
6	39	81	68	72	36	30	19	37	24	17	19	17	16	25	20	31	34	21	25	43	52	54	51	65	40	54
7	33	43	34	36	32	21	22	22	28	21	18	15	20	20	16	23	25	21	24	30	33	37	45	43	38	37
8	27	35	29	34	28	26	22	11	19	22	20	18	15	15	22	23	18	26	27	23	29	33	30	45	25	34
9	26	30	31	29	36	15	15	15	24	14	13	9	13	8	15	11	15	19	20	16	25	33	20	29	22	27
10－14	64	82	78	72	88	59	48	58	52	60	42	26	28	28	52	43	51	51	70	66	70	60	79	78	83	84
15－19	24	26	24	17	15	11	12	13	16	9	20	12	8	8	16	13	8	15	23	18	21	17	15	21	21	15
20－	91	94	99	67	58	36	38	38	45	47	50	41	39	41	40	45	35	60	51	56	52	44	56	65	60	52
合 計	1131	1477	1479	1111	822	541	532	483	500	476	458	354	361	380	494	568	596	544	776	906	1018	1029	1216	1254	1129	1039

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

感染性胃腸炎

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
101	99	72	62	47	30	20	35	46	50	36	33	43	40	32	61	39	44	47	80	59	91	106	114	109	52	3478
107	97	54	32	22	20	25	34	35	34	38	28	30	33	35	25	21	38	37	41	33	40	45	56	71	73	2782
126	103	65	60	54	22	38	38	34	53	38	47	21	42	39	36	54	48	34	43	46	54	62	73	82	66	4255
157	135	89	98	90	52	41	62	68	65	72	80	68	54	55	68	52	80	64	64	64	92	84	87	117	110	4543
159	154	89	70	78	47	37	47	49	61	60	35	50	49	38	52	38	37	62	76	59	76	79	86	96	76	4486
85	86	50	55	43	39	25	39	35	35	33	24	25	29	24	38	33	39	49	55	72	60	60	83	100	79	3003
107	79	66	56	32	24	30	38	53	29	28	21	32	28	28	29	30	30	42	55	57	46	58	77	109	70	3522
61	53	53	48	30	29	21	24	35	35	22	11	20	32	21	11	30	21	34	30	40	30	43	45	72	66	2498
26	24	13	22	18	6	16	17	18	15	12	18	19	12	26	32	30	26	31	60	41	85	79	59	60	40	1656
25	13	21	14	9	8	12	14	11	24	20	14	12	15	7	12	9	18	15	17	29	22	42	44	45	21	1105
70	65	61	56	27	27	26	32	36	57	31	32	38	52	40	36	52	41	59	50	88	61	66	100	95	81	3347
1024	908	633	573	450	304	291	380	420	458	390	343	358	386	345	400	388	422	474	571	588	657	724	824	956	734	34675

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
4.39	4.30	3.13	2.70	2.04	1.30	0.87	1.52	2.00	2.17	1.57	1.44	1.87	1.74	1.39	2.65	1.70	1.91	2.04	3.48	2.57	3.96	4.61	4.96	4.74	2.26	2.91
6.29	5.71	3.18	1.88	1.29	1.18	1.47	2.00	2.06	2.00	2.24	1.65	1.77	1.94	2.06	1.47	1.24	2.24	2.18	2.41	1.94	2.35	2.65	3.29	4.18	4.29	3.20
5.04	4.12	2.60	2.40	2.16	0.88	1.52	1.52	1.36	2.12	1.52	1.88	0.84	1.68	1.56	1.44	2.16	1.92	1.36	1.72	1.84	2.16	2.48	2.92	3.28	2.64	3.21
7.85	6.75	4.45	4.90	4.50	2.60	2.05	3.10	3.40	3.25	3.60	4.00	3.40	2.70	2.75	3.40	2.60	4.00	3.20	3.20	3.20	4.60	4.20	4.35	5.85	5.50	4.37
9.94	9.63	5.56	4.38	4.88	2.94	2.31	2.94	3.06	3.81	3.75	2.19	3.13	3.06	2.38	3.25	2.38	2.31	3.88	4.75	3.69	4.75	4.94	5.38	6.00	4.75	5.39
4.47	4.53	2.63	2.90	2.26	2.05	1.32	2.05	1.84	1.84	1.74	1.26	1.32	1.53	1.26	2.00	1.74	2.05	2.58	2.90	3.79	3.16	3.16	4.37	5.26	4.39	3.04
5.35	3.95	3.30	2.80	1.68	1.26	1.50	1.90	2.65	1.53	1.47	1.11	1.68	1.47	1.47	1.53	1.58	1.58	2.21	2.90	3.00	2.42	3.05	4.05	5.74	3.68	3.43
4.36	3.79	3.79	3.43	2.14	2.07	1.50	1.71	2.50	2.50	1.57	0.79	1.43	2.29	1.50	0.79	2.14	1.50	2.43	2.14	2.86	2.14	3.07	3.21	5.14	4.71	3.43
2.60	2.40	1.30	2.20	1.80	0.60	1.60	1.70	1.80	1.50	1.20	1.80	1.90	1.20	2.60	3.20	3.00	2.60	3.10	6.00	4.10	8.50	7.90	5.90	6.00	4.00	3.18
1.79	0.93	1.50	1.00	0.60	0.53	0.80	0.93	0.73	1.60	1.33	0.93	0.80	1.00	0.47	0.80	0.60	1.20	1.00	1.13	1.93	1.47	2.80	2.93	3.00	1.40	1.46
3.89	3.61	3.39	3.11	1.50	1.50	1.44	1.78	2.00	3.17	1.72	1.78	2.11	2.89	2.22	2.00	2.89	2.28	3.28	2.78	4.89	3.39	3.67	5.56	5.28	4.50	3.58
5.22	4.63	3.23	2.92	2.30	1.55	1.48	1.93	2.13	2.34	1.99	1.75	1.83	1.97	1.76	2.04	1.98	2.15	2.42	2.91	3.00	3.35	3.69	4.20	4.88	3.76	3.40

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
10	4	9	11	6	2	7	5	4	12	6	7	16	3	9	8	5	6	5	3	4	5	6	5	7	7	359
90	85	57	54	42	32	27	38	28	44	42	31	36	34	28	44	29	35	28	34	38	40	36	36	48	48	2572
194	155	112	104	109	65	57	73	68	82	70	57	60	60	65	66	49	62	68	83	71	109	103	125	144	126	6147
134	138	79	79	59	44	30	59	75	67	59	55	36	44	49	43	61	48	62	63	84	92	117	113	148	99	5016
127	98	72	72	42	34	34	30	38	44	36	32	37	33	28	36	36	40	66	69	53	62	80	101	120	98	4002
90	84	54	58	36	19	13	27	31	38	23	31	23	32	25	32	32	38	52	58	69	67	84	83	109	74	3108
89	79	46	37	24	17	20	18	19	28	29	17	18	34	13	20	21	38	39	61	55	57	68	82	84	62	2572
44	50	32	26	25	13	13	26	18	18	16	21	17	21	16	31	29	31	24	40	52	44	56	61	66	52	1832
41	32	27	27	18	8	13	11	18	19	11	13	19	19	15	16	14	20	31	19	23	21	36	42	45	19	1314
36	24	18	16	13	10	7	16	18	13	15	14	17	14	13	11	14	14	9	30	31	27	18	23	48	27	1152
32	27	23	9	13	9	10	13	10	15	11	14	14	11	12	15	17	15	9	14	15	16	31	24	27	19	955
69	62	43	31	30	20	24	24	45	39	43	21	31	52	35	44	41	40	45	44	56	57	48	66	45	34	2661
21	15	11	10	7	6	10	15	6	13	10	4	11	10	16	18	10	9	8	10	10	15	6	15	14	6	704
47	55	50	39	26	25	26	25	42	26	19	26	23	19	21	16	30	26	28	43	27	45	35	48	51	63	2281
1024	908	633	573	450	304	291	380	420	458	390	343	358	386	345	400	388	422	474	571	588	657	724	824	956	734	34675

[各感染症データ]

水痘

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能						1			1	1	2	3			1		1		2	3	2		1			1
三 島	1		1					1		2		2					1	1	2		1		1	1	1	
北河内	3	1	3		2		2	1	3	3	1	1	3	3	2	1		3	7	3	2	5	3	3	4	
中河内	8	12	3	1	2		1	2	3			1	2	1	2	3	3	1			3		1		1	1
南河内	1	1	2	1				1		1	2					1		2	2	1	7	3	4	4	3	
堺 市	1	1		1	2			1						3	1	1			2	5	1	4	1	2	2	3
泉 州	3	1	2	1		1	1		2	2		1		1			1				2	2			1	1
大阪市北部	1		2	13	1		1			1		1	1	2	3	1		1	1	1	3	1	2	2	1	7
大阪市西部	2		1				3		1	2		1	1									2	1		1	
大阪市東部		1	1		1			1			1	1		2	3	1	1					1	1			1
大阪市南部	3	1	4		1		2		2	2		1			1			1						2	5	2
合 計	23	18	19	17	9	2	10	7	12	14	6	12	7	12	13	8	7	9	16	13	21	18	15	14	19	16

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能						0.04			0.04	0.04	0.09	0.13			0.04		0.04		0.09	0.13	0.09		0.04			0.04
三 島	0.06		0.06					0.06		0.13		0.13					0.06	0.06	0.12		0.06		0.06	0.06	0.06	
北河内	0.12	0.04	0.12		0.08		0.08	0.04	0.12	0.12	0.04	0.04	0.12	0.12	0.08	0.04		0.12	0.27	0.12	0.08	0.20	0.12	0.12	0.16	
中河内	0.40	0.60	0.15	0.05	0.10		0.05	0.10	0.15			0.05	0.10	0.05	0.10	0.15	0.15	0.05			0.15		0.05		0.05	0.05
南河内	0.06	0.06	0.13	0.06				0.06		0.06	0.13					0.06		0.13	0.13	0.06	0.44	0.19	0.25	0.25	0.19	
堺 市	0.05	0.05		0.05	0.11			0.05						0.16	0.05	0.05			0.11	0.26	0.05	0.21	0.05	0.11	0.11	0.16
泉 州	0.15	0.05	0.10	0.05		0.05	0.05		0.10	0.10		0.05		0.05			0.05				0.10	0.10			0.05	0.05
大阪市北部	0.07		0.14	0.93	0.07		0.07			0.07		0.07	0.07	0.14	0.21	0.07		0.07	0.07	0.07	0.21	0.07	0.14	0.14	0.07	0.50
大阪市西部	0.20		0.10				0.30		0.10	0.20		0.10	0.10									0.20	0.10		0.10	
大阪市東部		0.07	0.07		0.07			0.07			0.07	0.07		0.14	0.21	0.07	0.07					0.07	0.07			0.07
大阪市南部	0.17	0.06	0.22		0.06		0.11		0.11	0.11		0.06			0.06			0.06						0.11	0.28	0.11
合 計	0.12	0.09	0.10	0.09	0.05	0.01	0.05	0.04	0.06	0.07	0.03	0.06	0.04	0.06	0.07	0.04	0.04	0.05	0.08	0.07	0.11	0.09	0.08	0.07	0.10	0.08

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月	1													1							1	1				1
－11ヶ月	2		1	2	1			1					1		1		1	1		2	1					
1歳	4	3	1		1			2	3	1		1		2	1	3		2	1					2	1	1
2	1	1	1	2					3					1	2		1	1	3		1	2		1	1	1
3				2	1			1		4	3	3			2				3			1	2	1	2	2
4	1	3	1	2	1					1		1	2			2			1	2	4			1	2	1
5	1			1			1		2	1	1	1	1	2	1		2	2	2	1	3	2		1		3
6	2		2		2				1				2	1	1	1	1	1		2	1	1	1		1	1
7	2	3	4	1			1	1	1	1		1		1	2			1	1	1	2	5	1	3	2	
8	1	1	1				2				1	1		2	1		1			2	2		2	1	3	1
9	4	5	2	1						1				1					2		1	2	5	3	1	
10－14	3	2	4	1	2	2	3	2	2	4	1	3	1	1	2	2		1	1	3	3	4	3	1	5	5
15－19			1	1	1		1					1									1		1		1	
20－	1		1	4			2			1							1		2		1					
合 計	23	18	19	17	9	2	10	7	12	14	6	12	7	12	13	8	7	9	16	13	21	18	15	14	19	16

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

水痘

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
	1		1	1	1	3		1			1	1	2		1	1			1	1	5	2	1	3		46
	1	1	1					1	1			1			1	1		1	2			1	2	2	2	33
4	2	1		1	4	3	2	4	2	2	1	1	2	3	5	1	2	1	7	3	1	1	6	4	3	125
	1	2	2		1		1			2	1	2	1	1	2	2	2	2	11	6	1	3	6	2		102
4	1		6	1	1	3		2	4	1	1			3	2			2		1	2	2	2		1	75
			1	2		2			1	1	2	2	3	2	3	2	10	8	5	9	3	2	3	2	1	95
	2		1	1	3	1	1	2	1	5	1	3		1			2	4	7		1	4		2		64
1	2	2	1						2		2			1	2	1			2	1	6	2	4	4	3	82
1	1					1			1	1		1				2	1				1	1		2	3	31
	1				1		2	2	2		1	1	1	1	1					2			1	2	1	35
										2		4	2	2			1		3	3	3	2	1	1	2	53
10	12	6	13	6	11	13	6	12	14	14	10	16	11	14	17	10	18	18	38	26	23	20	26	24	16	741

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
	0.04		0.04	0.04	0.04	0.13		0.04			0.04	0.04	0.09		0.04	0.04			0.04	0.04	0.22	0.09	0.04	0.13		0.04
	0.06	0.06	0.06					0.06	0.06			0.06			0.06	0.06		0.06	0.12			0.06	0.12	0.12	0.12	0.04
0.16	0.08	0.04		0.04	0.16	0.12	0.08	0.16	0.08	0.08	0.04	0.04	0.08	0.12	0.20	0.04	0.08	0.04	0.28	0.12	0.04	0.04	0.24	0.16	0.12	0.09
	0.05	0.10	0.10		0.05		0.05			0.10	0.05	0.10	0.05	0.05	0.10	0.10	0.10	0.10	0.55	0.30	0.05	0.15	0.30	0.10		0.10
0.25	0.06		0.38	0.06	0.06	0.19		0.13	0.25	0.06	0.06			0.19	0.13			0.13		0.06	0.13	0.13	0.13		0.06	0.09
			0.05	0.11		0.11			0.05	0.05	0.11	0.11	0.16	0.11	0.16	0.11	0.53	0.42	0.26	0.47	0.16	0.11	0.16	0.11	0.06	0.10
	0.10		0.05	0.05	0.16	0.05	0.05	0.10	0.05	0.26	0.05	0.16		0.05			0.11	0.21	0.37		0.05	0.21		0.11		0.06
0.07	0.14	0.14	0.07						0.14		0.14			0.07	0.14	0.07			0.14	0.07	0.43	0.14	0.29	0.29	0.21	0.11
0.10	0.10					0.10			0.10	0.10		0.10				0.20	0.10				0.10	0.10		0.20	0.30	0.06
	0.07				0.07		0.13	0.13	0.13		0.07	0.07	0.07	0.07	0.07					0.13			0.07	0.13	0.07	0.05
										0.11		0.22	0.11	0.11			0.06		0.17	0.17	0.17	0.11	0.06	0.06	0.11	0.06
0.05	0.06	0.03	0.07	0.03	0.06	0.07	0.03	0.06	0.07	0.07	0.05	0.08	0.06	0.07	0.09	0.05	0.09	0.09	0.19	0.13	0.12	0.10	0.13	0.12	0.08	0.07

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
					1						1					1			1			1				10
			1		1		1	1			1	1					1	1		2	1		1		1	27
		1	1	1		1	2	3	6	3	3				1	2		2	1	1	1		1	2		61
1		1			1	1								1	1			1	2	1		1	3	2	1	39
2	2		2	1	1	1		2	1					1	1				2	1	2		2		1	49
1	1		1				1	3	2	1	1			1	1	1		1	3	3	2	1	3	3		55
	1		3	1	2	2				2	2	4			2	1	2		5	3	4	2	2	1	2	69
		1	1		1		1	1		1		3			1		2	2	4	3	3	2	1	1	2	51
	1		1		1	4	1			1		3	1	2	2	1	2	1		2	1	2	4	2	1	67
1			1		2				1	2		1	2	1		2	4	3	5	2	2	2	2	4		59
1	3	1		1		1		1	2	1	1	2	1	2	4	1	7	5	3	3		4	2	1	3	78
1	4	1	2	2		3		1	2	2	1	2	6	5	4	1		2	8	5	7	3	4	7	5	139
1		1								1			1						2			1	1	1		17
2					1									1					2			1				20
10	12	6	13	6	11	13	6	12	14	14	10	16	11	14	17	10	18	18	38	26	23	20	26	24	16	741

[各感染症データ]

手足口病

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	1	2	1	2	2	1								1		2			2	1	1	4	2	1	1	8
三 島	4	11	5	3	1							1		1		2	1				2	1	1	3		5
北河内	13	5	3	1						1	3				1	3		1	1		2	3	2	1	1	4
中河内	2	11	3	1					1							2		2		1	3				3	
南河内	3	1	5	11	2	1		1	1										2	1	3	2	1	2	1	2
堺 市	7	4	7		1	1									1		3	1		1	1	2			5	10
泉 州	4	9	3	3	1	2									1		3	1	2		1	2	2	5	7	12
大阪市北部	1	4	1		1										1	1	1		2	2	5	2		1	1	5
大阪市西部		1										1						2			2	4	3	2	3	4
大阪市東部				1						1					2		1		1		1			1	1	3
大阪市南部	3	1	1				1		2		1					2	3		1	3	6	2	2		2	7
合 計	38	49	29	22	8	5	1	1	4	2	4	2		2	6	12	12	7	11	9	27	22	13	16	25	60

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	0.04	0.09	0.04	0.09	0.09	0.04								0.04		0.09			0.09	0.04	0.04	0.17	0.09	0.04	0.04	0.35
三 島	0.25	0.69	0.31	0.19	0.06							0.06		0.06		0.12	0.06				0.12	0.06	0.06	0.18		0.29
北河内	0.50	0.19	0.12	0.04						0.04	0.12				0.04	0.12		0.04	0.04		0.08	0.12	0.08	0.04	0.04	0.16
中河内	0.10	0.55	0.15	0.05					0.05							0.10		0.10		0.05	0.15				0.15	
南河内	0.19	0.06	0.31	0.69	0.13	0.06		0.06	0.06										0.13	0.06	0.19	0.13	0.06	0.13	0.06	0.13
堺 市	0.37	0.21	0.37		0.05	0.05									0.05		0.16	0.05		0.05	0.05	0.11			0.26	0.53
泉 州	0.20	0.45	0.15	0.15	0.05	0.10									0.05		0.15	0.05	0.10		0.05	0.10	0.10	0.25	0.35	0.60
大阪市北部	0.07	0.29	0.07		0.07										0.07	0.07	0.07		0.14	0.14	0.36	0.14		0.07	0.07	0.36
大阪市西部		0.10										0.10						0.20			0.20	0.40	0.30	0.20	0.30	0.40
大阪市東部				0.07						0.07					0.14		0.07		0.07		0.07			0.07	0.07	0.21
大阪市南部	0.17	0.06	0.06				0.06		0.11		0.06					0.11	0.17		0.06	0.17	0.33	0.11	0.11		0.11	0.39
合 計	0.19	0.25	0.15	0.11	0.04	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01		0.01	0.03	0.06	0.06	0.04	0.06	0.05	0.14	0.11	0.07	0.08	0.13	0.31

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月	1															1							1			
－11ヶ月	3	6	4	2													2		1	2	2	2	1		1	3
1歳	16	14	10	7	5	3		1	1		1	1		1	5	6	7	4	2	2	15	11	3	9	9	21
2	7	13	12	5	2	2	1		2		2						1	1	5	3	6	5	3	1	7	17
3	5	8		3	1						1	1			1	2	1	1	1	1	3	2	3	3	3	6
4	4	3		1						1				1		1					1	1		2	1	4
5		1		2												1			1				1	1	2	2
6		2		1													1		1			1				3
7		1	1																							1
8	1															1							1			1
9																		1							1	
10－14	1		2	1					1	1															1	
15－19																										1
20－		1																		1						1
合 計	38	49	29	22	8	5	1	1	4	2	4	2		2	6	12	12	7	11	9	27	22	13	16	25	60

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

手足口病

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
2	9	12	7	10	9	10	35	40	47	45	31	32	27	17	23	20	32	16	15	17	15	20	8	5	3	539
2	13	6	8	12	13	22	32	40	58	47	41	69	61	46	40	22	21	7	9	4	6	6	5	3		634
6	1	8	13	17	10	19	37	37	53	65	33	43	60	43	45	33	33	46	24	25	30	44	23	17	14	824
9	6	8	29	22	10	12	22	29	46	80	47	41	45	58	48	17	19	27	18	31	16	22	12	1	4	708
7	6	12	8	12	19	17	26	33	50	37	61	49	55	60	48	52	43	29	42	22	19	39	33	28	12	858
6	14	16	8	14	13	12	33	32	42	34	28	32	49	37	30	28	32	31	23	26	28	13	19	14	3	661
13	4	5	26	14	10	15	29	30	36	14	16	15	16	17	22	27	26	18	17	13	14	13	5	8	6	487
17	15	9	7	10	16	14	38	56	31	49	21	41	23	16	16	3	8	10	7	9	3	10	6	3	4	470
9	7	4	4	10	8	10	23	16	10	23	28	27	6	13	17	7	4	5	4	1	4		1	1		264
14	10	2	16	9	10	11	14	15	26	15	15	16	24	18	20	19	3	3	6	6	8	8	4	2		306
21	16	10	11	8	12	15	33	31	62	50	46	45	48	55	32	23	24	22	23	16	23	6	6	4	4	683
106	101	92	137	138	130	157	322	359	461	459	367	410	414	380	341	251	245	214	188	170	166	181	122	86	50	6434

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.09	0.39	0.52	0.30	0.44	0.39	0.44	1.52	1.74	2.04	1.96	1.35	1.39	1.17	0.74	1.00	0.87	1.39	0.70	0.65	0.74	0.65	0.87	0.35	0.22	0.13	0.45
0.12	0.77	0.35	0.47	0.71	0.77	1.29	1.88	2.35	3.41	2.77	2.41	4.06	3.59	2.71	2.35	1.29	1.24	0.41	0.53	0.24	0.35	0.35	0.29	0.18		0.72
0.24	0.04	0.32	0.52	0.68	0.40	0.76	1.48	1.48	2.12	2.60	1.32	1.72	2.40	1.72	1.80	1.32	1.32	1.84	0.96	1.00	1.20	1.76	0.92	0.68	0.56	0.63
0.45	0.30	0.40	1.45	1.10	0.50	0.60	1.10	1.45	2.30	4.00	2.35	2.05	2.25	2.90	2.40	0.85	0.95	1.35	0.90	1.55	0.80	1.10	0.60	0.05	0.20	0.68
0.44	0.38	0.75	0.50	0.75	1.19	1.06	1.63	2.06	3.13	2.31	3.81	3.06	3.44	3.75	3.00	3.25	2.69	1.81	2.63	1.38	1.19	2.44	2.06	1.75	0.75	1.03
0.32	0.74	0.84	0.42	0.74	0.68	0.63	1.74	1.68	2.21	1.79	1.47	1.68	2.58	1.95	1.58	1.47	1.68	1.63	1.21	1.37	1.47	0.68	1.00	0.74	0.17	0.67
0.65	0.20	0.25	1.30	0.74	0.53	0.75	1.45	1.50	1.90	0.74	0.84	0.79	0.84	0.90	1.16	1.42	1.37	0.95	0.90	0.68	0.74	0.68	0.26	0.42	0.32	0.48
1.21	1.07	0.64	0.50	0.71	1.14	1.00	2.71	4.00	2.21	3.50	1.50	2.93	1.64	1.14	1.14	0.21	0.57	0.71	0.50	0.64	0.21	0.71	0.43	0.21	0.29	0.65
0.90	0.70	0.40	0.40	1.00	0.80	1.00	2.30	1.60	1.00	2.30	2.80	2.70	0.60	1.30	1.70	0.70	0.40	0.50	0.40	0.10	0.40		0.10	0.10		0.51
1.00	0.71	0.14	1.14	0.60	0.67	0.73	0.93	1.00	1.73	1.00	1.00	1.07	1.60	1.20	1.33	1.27	0.20	0.20	0.40	0.40	0.53	0.53	0.27	0.13		0.40
1.17	0.89	0.56	0.61	0.44	0.67	0.83	1.83	1.72	3.44	2.78	2.56	2.50	2.67	3.06	1.78	1.28	1.33	1.22	1.28	0.89	1.28	0.33	0.33	0.22	0.22	0.73
0.54	0.52	0.47	0.70	0.70	0.66	0.80	1.64	1.82	2.35	2.34	1.87	2.09	2.11	1.94	1.74	1.28	1.25	1.09	0.96	0.87	0.85	0.92	0.62	0.44	0.26	0.63

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
1					1	1	4		4	5	1	3	1	2	1		2		1	1	1	3				35
10	7	6	12	9	3	20	23	30	40	23	44	41	33	35	15	18	19	12	10	7	9	13	6	10	1	485
36	27	36	47	51	64	45	140	140	171	182	135	146	149	144	149	88	103	77	79	66	57	60	39	32	22	2439
31	26	22	41	38	23	44	82	100	128	120	98	109	112	75	89	60	59	50	45	59	41	51	39	23	16	1676
18	22	17	19	20	23	23	36	47	67	61	47	61	59	50	53	42	30	41	26	25	28	25	18	11	3	918
6	8	6	11	11	12	12	21	19	23	40	26	24	27	41	19	21	13	14	11	3	18	11	11	4	5	437
	9	3	4	5	2	5	6	14	13	16	7	17	19	14	6	10	11	8	8	4	8	8	1	3		212
2	1		1	2	1	3	5	4	6	2	4	3	7	11	5	5	4	3	2	2	3	3	6	1	1	96
				1		1	2	1	2	4	1	2	1	4		3	2	3	3	3		3	1	1	1	42
			2	1	1		1		5	1	2		1	1	1			1	2			1	1		1	26
1	1	1				1				2		1	2			2	2	1				2				18
						2		2	2	1		1		2	1	1		4	1							24
										1					1											3
1		1					2	2		1	2	2	3	1	1	1					1	1		1		23
106	101	92	137	138	130	157	322	359	461	459	367	410	414	380	341	251	245	214	188	170	166	181	122	86	50	6434

[各感染症データ]

伝染性紅斑

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	1						1			1	1	1				2									1	
三 島			1														1	1	1							
北河内								3						2			1			1						
中河内			1					1	2									1								
南河内					1	1			1												1	1				1
堺 市		1								1	1					1		1								
泉 州						1	1							2					1							
大阪市北部			1	1			1						1								1	1		1		
大阪市西部					1			1	1														1			
大阪市東部													1		1											
大阪市南部														1												
合 計	1	1	3	1	2	2	3	5	4	2	2	1	2	5	1	3	2	3	2	1	2	2	1	1	1	1

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	0.04						0.04			0.04	0.04	0.04				0.09									0.04	
三 島			0.06														0.06	0.06	0.06							
北河内								0.12						0.08			0.04			0.04						
中河内			0.05					0.05	0.10									0.05								
南河内					0.06	0.06			0.06												0.06	0.06				0.06
堺 市		0.05								0.05	0.05					0.05		0.05								
泉 州						0.05	0.05							0.10					0.05							
大阪市北部			0.07	0.07			0.07						0.07								0.07	0.07		0.07		
大阪市西部					0.10			0.10	0.10														0.10			
大阪市東部													0.07		0.07											
大阪市南部														0.06												
合 計	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月													1													
－11ヶ月							1	3						1							1	1		1		
1歳									1		1					2	1	2			1					
2	1			1			1		2					1					2						1	
3		1												1	1											1
4			1		1				1	2				2												
5					1	1		1				1					1									
6			1			1												1		1						
7							1	1														1				
8											1															
9																										
10－14													1			1							1			
15－19																										
20－			1																							
合 計	1	1	3	1	2	2	3	5	4	2	2	1	2	5	1	3	2	3	2	1	2	2	1	1	1	1

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

伝染性紅斑

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
					1		3																			12
																										4
		1																			1		1	1		11
	1		1		1	2				1	2	1				1	1		1							17
																			1				1		1	9
								1																		6
	1									1		1									1	1				10
1	1								6								1									16
	1														1											6
		1	1						1			1														6
								1						1			1						1			5
1	4	2	2		2	2	3	2	7	2	2	3		1	1	1	3		2		2	1	3	1	1	102

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
					0.04		0.13																			0.01
																										0.00
		0.04																			0.04		0.04	0.04		0.01
	0.05		0.05		0.05	0.10				0.05	0.10	0.05				0.05	0.05		0.05							0.02
																			0.06				0.06		0.06	0.01
								0.05																		0.01
	0.05									0.05		0.05									0.05	0.05				0.01
0.07	0.07								0.43								0.07									0.02
	0.10														0.10											0.01
		0.07	0.07						0.07			0.07														0.01
								0.06						0.06			0.06						0.06			0.01
0.01	0.02	0.01	0.01		0.01	0.01	0.02	0.01	0.04	0.01	0.01	0.02		0.01	0.01	0.01	0.02		0.01		0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
																										1
					1												1				2		1			13
1	1						2		4					1			1									18
		2	1			1	1	1	1		1								1				1	1		20
	1					1				1						1			1							9
	1				1			1	2			1														13
																	1						1		1	8
			1									1			1							1				8
																										3
										1	1															3
	1											1														2
																										3
																										1
1	4	2	2		2	2	3	2	7	2	2	3		1	1	1	3		2		2	1	3	1	1	102

[各感染症データ]

突発性発しん

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	6	6	2	1	3	11	8	4	2	1	4	9	8	12	12	8	8	11	11	6	1	10	6	3	11	6
三 島	3	4	4	3	1	1	3			3	5	1	2	4	4	4	1	5	3	3	6	2	3	5	5	6
北河内	8	8	4	4	3	4	9	1	4	6	9	9	8	6	10	13	9	10	13	15	9	10	8	9	7	8
中河内	7	7	7	6	3	5	7	6	3	8	4	6	3	5	4	12	8	8	11	9	11	15	12	6	8	6
南河内	3	5	3	5	2	2	3	3	5	3	4	4	6	7	12	10	10	11	7	7	7	9	4	9	6	8
堺 市	6	2	6		2	2	1	1	1	3	5	2	2	4	1	8	3	7	3	3	4	3	4	2	2	2
泉 州	1	6	8	3	7	4	2		3	5	7	6	8	7	4	9	5	9	5	12	8	9	8	6	7	3
大阪市北部	5	6	4	2	3	3	5	2	1	3	2	2	8	4	2	4	9	5	7	5	6	6	6	8	2	7
大阪市西部	2		3		1	1			1		1	2	5	2	3	2	6	1	5	2		2	5	2	2	
大阪市東部	1	3	2	1	1	1	3	1		1	2	2	1	3	2	5	2	2	3	4	4	3	1		2	1
大阪市南部	6	3	3	5	6	1	4		5	3	5	4	6	5	2	9	12	7	5	5	8	16	6	8	7	6
合 計	48	50	46	30	32	35	45	18	25	36	48	47	57	59	56	84	73	76	73	71	64	85	63	58	59	53

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	0.26	0.26	0.09	0.04	0.13	0.48	0.35	0.17	0.09	0.04	0.17	0.39	0.35	0.52	0.52	0.35	0.35	0.48	0.48	0.26	0.04	0.44	0.26	0.13	0.48	0.26
三 島	0.19	0.25	0.25	0.19	0.06	0.06	0.19			0.19	0.31	0.06	0.13	0.24	0.24	0.24	0.06	0.29	0.18	0.18	0.35	0.13	0.18	0.29	0.29	0.35
北河内	0.31	0.31	0.15	0.15	0.12	0.15	0.35	0.04	0.15	0.23	0.35	0.35	0.31	0.23	0.39	0.50	0.35	0.39	0.50	0.58	0.35	0.40	0.32	0.36	0.28	0.32
中河内	0.35	0.35	0.35	0.30	0.15	0.25	0.35	0.30	0.15	0.40	0.20	0.30	0.15	0.25	0.20	0.60	0.40	0.40	0.55	0.45	0.55	0.75	0.60	0.30	0.40	0.30
南河内	0.19	0.31	0.19	0.31	0.13	0.13	0.19	0.19	0.31	0.19	0.25	0.25	0.38	0.44	0.75	0.63	0.63	0.69	0.44	0.44	0.44	0.56	0.25	0.56	0.38	0.50
堺 市	0.32	0.11	0.32		0.11	0.11	0.05	0.05	0.05	0.16	0.26	0.11	0.11	0.21	0.05	0.42	0.16	0.37	0.16	0.16	0.21	0.16	0.21	0.11	0.11	0.11
泉 州	0.05	0.30	0.40	0.15	0.35	0.20	0.10		0.15	0.25	0.35	0.30	0.40	0.35	0.20	0.45	0.25	0.45	0.25	0.60	0.40	0.45	0.40	0.30	0.35	0.15
大阪市北部	0.36	0.43	0.29	0.14	0.21	0.21	0.36	0.14	0.07	0.21	0.14	0.14	0.57	0.29	0.14	0.29	0.64	0.36	0.50	0.36	0.43	0.43	0.43	0.57	0.14	0.50
大阪市西部	0.20		0.30		0.10	0.10			0.10		0.10	0.20	0.50	0.20	0.30	0.20	0.60	0.10	0.50	0.20		0.20	0.50	0.20	0.20	
大阪市東部	0.07	0.20	0.13	0.07	0.07	0.07	0.20	0.07		0.07	0.13	0.14	0.07	0.21	0.14	0.36	0.14	0.14	0.21	0.29	0.29	0.21	0.07		0.14	0.07
大阪市南部	0.33	0.17	0.17	0.28	0.33	0.06	0.22		0.28	0.17	0.28	0.22	0.33	0.28	0.11	0.50	0.67	0.39	0.28	0.28	0.44	0.89	0.33	0.44	0.39	0.33
合 計	0.24	0.25	0.23	0.15	0.16	0.18	0.23	0.09	0.13	0.18	0.24	0.24	0.29	0.30	0.28	0.43	0.37	0.39	0.37	0.36	0.33	0.44	0.32	0.30	0.30	0.27

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月		2				1				1		1	1	1	1	1		1	2	1		2	1		2	
－11ヶ月	17	18	15	7	12	10	16	6	10	14	17	10	17	22	24	30	25	21	27	18	21	26	18	16	13	17
1歳	26	22	19	17	16	21	18	10	14	19	26	28	30	32	17	49	43	44	36	42	34	40	32	34	34	26
2	3	7	9	5	3	3	5	1	1	1	5	6	6	2	10	3	4	9	5	8	5	13	10	5	8	6
3	1	1	3	1	1		6	1		1		2	1	2	3	1		1	3	2	4	4	1	3	1	2
4	1												2		1		1						1		1	2
5																										
6																										
7																										
8																										
9																										
10－14																										
15－19																										
20－																										
合 計	48	50	46	30	32	35	45	18	25	36	48	47	57	59	56	84	73	76	73	71	64	85	63	58	59	53

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

突発性発しん

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
8	6	9	6	8	6	4	6	6	8	6	8	6	3	5	3	3	7	3	5	3	5	1	1	2	7	305
1	8	2	1	1	1	2	4	2	5		3	1	2	3	2	2	6	3	5	3	3	3	3	1		148
6	11	9	4	8	3	7	6	7	7	4	7	6	4	11	9	10	10	8	8	6	14	9	11	8	4	401
14	8	10	9	10	5	6	6	5	10	10	3	9	7	4	7	9	11	8	9	6	12	8	4	4	7	388
10	13	7	7	8	6	3	3	4	2	3	8	6	3	6	5	3	3	7	2	4	3	5	3	8	3	290
1	1	4	2	2	5			1	5	2	4	4		2	2	6	9		4	1	1	3	2	4	2	146
10	8	5	6	4	4	3	2	6	4	2		2	2	3	7		4	11	5	4	5	7	3	3	5	267
1	5	4	1	2	3		2		9	2	7	4	4	6	5		2	2	5	6	1	5		5	5	203
5	5	6	1	5		1		1	3	4		3	1	1	3	1	2	2	1	2	1		3	2	3	104
1	1	1		1	3	1	3	2	3	1	7	2	2	4	3	1	2	1	2	8	5	5	1	1	3	115
3	2	6	2	2	5	4	2	6	3	6	2	1	3		1	3	1	5	2	4	2	4	6		1	223
60	68	63	39	51	41	31	34	40	59	40	49	44	31	45	47	38	57	50	48	47	52	50	37	38	40	2590

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.35	0.26	0.39	0.26	0.35	0.26	0.17	0.26	0.26	0.35	0.26	0.35	0.26	0.13	0.22	0.13	0.13	0.30	0.13	0.22	0.13	0.22	0.04	0.04	0.09	0.30	0.25
0.06	0.47	0.12	0.06	0.06	0.06	0.12	0.24	0.12	0.29		0.18	0.06	0.12	0.18	0.12	0.12	0.35	0.18	0.29	0.18	0.18	0.18	0.18	0.06		0.17
0.24	0.44	0.36	0.16	0.32	0.12	0.28	0.24	0.28	0.28	0.16	0.28	0.24	0.16	0.44	0.36	0.40	0.40	0.32	0.32	0.24	0.56	0.36	0.44	0.32	0.16	0.30
0.70	0.40	0.50	0.45	0.50	0.25	0.30	0.30	0.25	0.50	0.50	0.15	0.45	0.35	0.20	0.35	0.45	0.55	0.40	0.45	0.30	0.60	0.40	0.20	0.20	0.35	0.37
0.63	0.81	0.44	0.44	0.50	0.38	0.19	0.19	0.25	0.13	0.19	0.50	0.38	0.19	0.38	0.31	0.19	0.19	0.44	0.13	0.25	0.19	0.31	0.19	0.50	0.19	0.35
0.05	0.05	0.21	0.11	0.11	0.26			0.05	0.26	0.11	0.21	0.21		0.11	0.11	0.32	0.47		0.21	0.05	0.05	0.16	0.11	0.21	0.11	0.15
0.50	0.40	0.25	0.30	0.21	0.21	0.15	0.10	0.30	0.21	0.11		0.11	0.11	0.16	0.37		0.21	0.58	0.26	0.21	0.26	0.37	0.16	0.16	0.26	0.26
0.07	0.36	0.29	0.07	0.14	0.21		0.14		0.64	0.14	0.50	0.29	0.29	0.43	0.36		0.14	0.14	0.36	0.43	0.07	0.36		0.36	0.36	0.28
0.50	0.50	0.60	0.10	0.50		0.10		0.10	0.30	0.40		0.30	0.10	0.10	0.30	0.10	0.20	0.20	0.10	0.20	0.10		0.30	0.20	0.30	0.20
0.07	0.07	0.07		0.07	0.20	0.07	0.20	0.13	0.20	0.07	0.47	0.13	0.13	0.27	0.20	0.07	0.13	0.07	0.13	0.53	0.33	0.33	0.07	0.07	0.20	0.15
0.17	0.11	0.33	0.11	0.11	0.28	0.22	0.11	0.33	0.17	0.33	0.11	0.06	0.17		0.06	0.17	0.06	0.28	0.11	0.22	0.11	0.22	0.33		0.06	0.24
0.31	0.35	0.32	0.20	0.26	0.21	0.16	0.17	0.20	0.30	0.20	0.25	0.22	0.16	0.23	0.24	0.19	0.29	0.26	0.25	0.24	0.27	0.26	0.19	0.19	0.21	0.25

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
					1	3						1	1	1		1					2	1		1	2	32
17	13	18	11	14	7	6	13	12	20	14	16	13	10	15	7	9	7	15	16	11	12	13	11	7	12	766
30	45	37	17	30	24	17	12	21	29	24	23	20	16	19	35	22	41	28	23	32	35	28	18	21	21	1397
11	7	5	8	5	5	4	8	2	5		5	8	4	4	5	5	7	5	8	3	3	6	6	8	3	283
	3	3	3	1	4			2	3	1	3	1		3		1		2	1	1		1	2	1	2	83
2				1		1	1	3	2	1	2	1		3			2									28
																						1				1
60	68	63	39	51	41	31	34	40	59	40	49	44	31	45	47	38	57	50	48	47	52	50	37	38	40	2590

[各感染症データ]

ヘルパンギーナ

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能				1	1										1		1						1		1	
三 島	1			4	1	2	1	2	2	2	3	1	2	2		1		1	3	2	2	1	2	1		1
北河内		1	1											1								1	1		1	1
中河内	2		1												1									1	1	1
南河内	1												1	2							1	1	3			
堺 市			2		1													2	1	1						4
泉 州	3		2			1																				1
大阪市北部		1																	1				1			1
大阪市西部																						1	2	3	3	1
大阪市東部				1																	2	1				1
大阪市南部	2																					1	1	2		
合 計	9	2	6	6	3	3	1	2	2	2	3	1	3	5	2	1	1	3	5	3	5	6	11	7	6	11

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能				0.04	0.04										0.04		0.04						0.04		0.04	
三 島	0.06			0.25	0.06	0.13	0.06	0.13	0.13	0.13	0.19	0.06	0.13	0.12		0.06		0.06	0.18	0.12	0.12	0.06	0.12	0.06		0.06
北河内		0.04	0.04											0.04								0.04	0.04		0.04	0.04
中河内	0.10		0.05												0.05									0.05	0.05	0.05
南河内	0.06												0.06	0.13							0.06	0.06	0.19			
堺 市			0.11		0.05													0.11	0.05	0.05						0.21
泉 州	0.15		0.10			0.05																				0.05
大阪市北部		0.07																	0.07				0.07			0.07
大阪市西部																						0.10	0.20	0.30	0.30	0.10
大阪市東部				0.07																	0.14	0.07				0.07
大阪市南部	0.11																					0.06	0.06	0.11		
合 計	0.05	0.01	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.03	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.06	0.04	0.03	0.06

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月	1																									
－11ヶ月	3	1	1		1								1	2			1						2	1		
1歳	1		4	1	1									1	1				2		2	3	3	2	2	4
2			1												1			1		1		1	1	2	2	1
3	1	1		1																	1	1	2			1
4	1			1															1				1	1	1	2
5				1														1								1
6																									1	
7	1																									
8						1																				
9																										
10－14																										1
15－19																										
20－	1			2	1	2	1	2	2	2	3	1	2	2		1		1	2	2	2	1	2	1		1
合 計	9	2	6	6	3	3	1	2	2	2	3	1	3	5	2	1	1	3	5	3	5	6	11	7	6	11

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

ヘルパンギーナ

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
		6	3	11	5	6	7	12	17	26	14	9	12	6	11	6	13	6	7	10	9	9	3	6		220
4	3	1	3	2	1	5	6	9	14	18	7	23	16	11	6	5	5	2	1	4	5	5	3	4	1	201
2	3	2	5	6	4	5	7	8	11	13	9	19	13	10	26	20	25	12	16	5	19	21	16	14	11	309
2	7		1	2	8		3	5	6	6	1	10	7	8	7	4	1	5	2	5	4	2	1		2	106
	1	2	7	3	2	2	5	12	10	8	7	5	6	7	11	14	11	3	12	5	1	5	5	4	3	160
2	1	2	4	2		5	3	11	7	9	9	5	9	4	10	9	4	3	5	4	2	3	4	1	2	131
	3	1	6	8	7	5	16	8	17	6	5	10	5	1	9	13	13	18	18	12	6	11	15	9	4	233
8	2	8	12	3	15	6	20	11	13	11	13	3	5	16	9	5	2	3	4	4	2	6	4	12	4	205
3	6		1	1	7	4	9	2	7	9	6	8	1	9	3	7	4	6	3	2	7	3	2	1	1	122
		5	2	4	3	4	3	7	6	3	2	3	3	1	4	2	5	15	15	8	20	6	10	2		138
			1	2	5	3	4	7	10	7	13	12	20	4	12	8	8	9	2	13	6	9	1		1	163
21	26	27	45	44	57	45	83	92	118	116	86	107	97	77	108	93	91	82	85	72	81	80	64	53	29	1988

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
		0.26	0.13	0.48	0.22	0.26	0.30	0.52	0.74	1.13	0.61	0.39	0.52	0.26	0.48	0.26	0.57	0.26	0.30	0.44	0.39	0.39	0.13	0.26		0.18
0.24	0.18	0.06	0.18	0.12	0.06	0.29	0.35	0.53	0.82	1.06	0.41	1.35	0.94	0.65	0.35	0.29	0.29	0.12	0.06	0.24	0.29	0.29	0.18	0.24	0.06	0.23
0.08	0.12	0.08	0.20	0.24	0.16	0.20	0.28	0.32	0.44	0.52	0.36	0.76	0.52	0.40	1.04	0.80	1.00	0.48	0.64	0.20	0.76	0.84	0.64	0.56	0.44	0.24
0.10	0.35		0.05	0.10	0.40		0.15	0.25	0.30	0.30	0.05	0.50	0.35	0.40	0.35	0.20	0.05	0.25	0.10	0.25	0.20	0.10	0.05		0.10	0.10
	0.06	0.13	0.44	0.19	0.13	0.13	0.31	0.75	0.63	0.50	0.44	0.31	0.38	0.44	0.69	0.88	0.69	0.19	0.75	0.31	0.06	0.31	0.31	0.25	0.19	0.19
0.11	0.05	0.11	0.21	0.11		0.26	0.16	0.58	0.37	0.47	0.47	0.26	0.47	0.21	0.53	0.47	0.21	0.16	0.26	0.21	0.11	0.16	0.21	0.05	0.11	0.13
	0.15	0.05	0.30	0.42	0.37	0.25	0.80	0.40	0.90	0.32	0.26	0.53	0.26	0.05	0.47	0.68	0.68	0.95	0.95	0.63	0.32	0.58	0.79	0.47	0.21	0.23
0.57	0.14	0.57	0.86	0.21	1.07	0.43	1.43	0.79	0.93	0.79	0.93	0.21	0.36	1.14	0.64	0.36	0.14	0.21	0.29	0.29	0.14	0.43	0.29	0.86	0.29	0.28
0.30	0.60		0.10	0.10	0.70	0.40	0.90	0.20	0.70	0.90	0.60	0.80	0.10	0.90	0.30	0.70	0.40	0.60	0.30	0.20	0.70	0.30	0.20	0.10	0.10	0.23
		0.36	0.14	0.27	0.20	0.27	0.20	0.47	0.40	0.20	0.13	0.20	0.20	0.07	0.27	0.13	0.33	1.00	1.00	0.53	1.33	0.40	0.67	0.13		0.18
			0.06	0.11	0.28	0.17	0.22	0.39	0.56	0.39	0.72	0.67	1.11	0.22	0.67	0.44	0.44	0.50	0.11	0.72	0.33	0.50	0.06		0.06	0.17
0.11	0.13	0.14	0.23	0.22	0.29	0.23	0.42	0.47	0.60	0.59	0.44	0.55	0.50	0.39	0.55	0.47	0.46	0.42	0.43	0.37	0.41	0.41	0.33	0.27	0.15	0.19

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
			2		2													1	1				2	1	1	11
2	3	5	3	1	4	8	4	9	10	10	6	5	3	5	16	10	5	6	7	3	4	6	1	3	4	156
4	6	7	19	22	23	14	34	32	39	34	33	35	20	21	45	24	20	22	20	20	17	20	14	21	6	599
5	7	6	5	9	9	7	21	21	28	29	23	27	22	21	18	17	25	20	20	21	25	15	18	13	8	451
2	3	2	5	2	9	8	14	14	22	24	11	18	17	8	12	18	16	13	14	8	11	13	10	6	6	294
1	4	4	4	2	5		6	4	8	10	4	14	15	8	7	15	13	7	10	5	7	14	9	4	2	190
3			1	4	2	3	2	5	5	2	3	5	8	5	7	4	5	6	6	1	4	6	5	1	1	97
1			3					2	2	1	1	1	6	2	1	2	4	1	2	5	3	2	2	1		43
		1		1	1	1	1	1		2	1	1	1	2			1	3	1	2		2	1			24
											1		1	1	1					1	2					8
			1		1	1			2	1	1								1	2	1					11
				1				2	1	1	1		1	2		1			1	1		1				14
		1								1					1						4					7
3	3	1	2	2	1	3	1	2	1	1	1	1	3	2		2	2	3	2	3	3	1	2	3	1	83
21	26	27	45	44	57	45	83	92	118	116	86	107	97	77	108	93	91	82	85	72	81	80	64	53	29	1988

[各感染症データ]

流行性耳下腺炎

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	1	2											1										1	1		
三 島				1	1									1	1	1	1		1	1	1	2	3		1	1
北河内	1	1	1	3	1		3		2	2	1		2	3	1	1	1				1	1	1	1	1	4
中河内			1		1		1	1		1	1		1		1				1	1			1	1		
南河内				1	1		1		1	1	1	1		1			1	1	1	3	1	2	2	1	3	1
堺 市					1	1					1				1		2	1	1		2			1	1	1
泉 州	1				2		1		1	1	2		1	1	2	2			1		1		1			
大阪市北部					1							2					1		1	1	2		1		1	1
大阪市西部		1		1				1										3			1	2		2		
大阪市東部					1												1						1			
大阪市南部							1	1				1								2						1
合 計	3	4	2	6	9	1	7	3	4	5	6	4	5	6	6	4	7	5	6	8	9	7	11	7	7	9

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能	0.04	0.09											0.04										0.04	0.04		
三 島				0.06	0.06									0.06	0.06	0.06	0.06		0.06	0.06	0.06	0.13	0.18		0.06	0.06
北河内	0.04	0.04	0.04	0.12	0.04		0.12		0.08	0.08	0.04		0.08	0.12	0.04	0.04	0.04				0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.16
中河内			0.05		0.05		0.05	0.05		0.05	0.05		0.05		0.05				0.05	0.05			0.05	0.05		
南河内				0.06	0.06		0.06		0.06	0.06	0.06	0.06		0.06			0.06	0.06	0.06	0.19	0.06	0.13	0.13	0.06	0.19	0.06
堺 市					0.05	0.05					0.05				0.05		0.11	0.05	0.05		0.11			0.05	0.05	0.05
泉 州	0.05				0.10		0.05		0.05	0.05	0.10		0.05	0.05	0.10	0.10			0.05		0.05		0.05			
大阪市北部					0.07							0.14					0.07		0.07	0.07	0.14		0.07		0.07	0.07
大阪市西部		0.10		0.10				0.10										0.30			0.10	0.20		0.20		
大阪市東部					0.07												0.07						0.07			
大阪市南部							0.06	0.06				0.06								0.11						0.06
合 計	0.02	0.02	0.01	0.03	0.05	0.01	0.04	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.04	0.03	0.03	0.04	0.05	0.04	0.06	0.04	0.04	0.05

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月																										
－11ヶ月																										
1歳											1															
2									1					1				1	1	1	1					
3							1	1						1	1				1	1	1					1
4			1	1	1		1			1	1	2			2	1	1						2	1	1	1
5		2			1		2	2				1	1	1				1		1	2		2		1	
6	1			2	1					3	1			2			1	1	1	2		2	1	2		2
7					3				1		1		2	1	1		2		1	1	1	1	2	1	2	3
8	1	1					2				2				1	2					1	2	1			
9	1	1		2		1	1			1						1	1	2		1	1		1	1		
10－14			1	1	2				2				2		1		2		2	1	2	2	1	2	3	1
15－19												1											1			
20－					1																					1
合 計	3	4	2	6	9	1	7	3	4	5	6	4	5	6	6	4	7	5	6	8	9	7	11	7	7	9

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

流行性耳下腺炎

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
								2			2	1	1		1			1	1	1		1				17
1			1				1	1							1		2		1				3			27
	4	2				2	2	1	2	5	1	3	2	3		2	2	2	3	3	3	2	2	2	1	81
	1	2	1	1		1		2	2	2		1				1		1	1	1		1	2	4		36
	1	2	1	1		2			3	1	1	2		1		2	4	1	1	7	3	3	1	1	1	63
	1			1	1				1		2	1		1	2	1		2	1	4		4	1			36
2	2	1	2	1			1	1	1			1				1		1		1	2		1		1	36
1		2							2	1	1	1		3	3	4		1				1				31
1	2			1			1			3	1		2	1	2		1	1		3		1	1			32
		1	1			1		2					1						2				1		1	13
1						1	2		1	1		1						1							1	15
6	11	10	6	5	1	7	7	9	12	13	8	11	6	9	9	11	9	11	10	20	8	13	12	7	5	387

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
								0.09			0.09	0.04	0.04		0.04			0.04	0.04	0.04		0.04				0.01
0.06			0.06				0.06	0.06							0.06		0.12		0.06				0.18			0.03
	0.16	0.08				0.08	0.08	0.04	0.08	0.20	0.04	0.12	0.08	0.12		0.08	0.08	0.08	0.12	0.12	0.12	0.08	0.08	0.08	0.04	0.06
	0.05	0.10	0.05	0.05		0.05		0.10	0.10	0.10		0.05				0.05		0.05	0.05	0.05		0.05	0.10	0.20		0.03
	0.06	0.13	0.06	0.06		0.13			0.19	0.06	0.06	0.13		0.06		0.13	0.25	0.06	0.06	0.44	0.19	0.19	0.06	0.06	0.06	0.08
	0.05			0.05	0.05				0.05		0.11	0.05		0.05	0.11	0.05		0.11	0.05	0.21		0.21	0.05			0.04
0.10	0.10	0.05	0.10	0.05			0.05	0.05	0.05			0.05				0.05		0.05		0.05	0.11		0.05		0.05	0.04
0.07		0.14							0.14	0.07	0.07	0.07		0.21	0.21	0.29		0.07				0.07				0.04
0.10	0.20			0.10			0.10			0.30	0.10		0.20	0.10	0.20		0.10	0.10		0.30		0.10	0.10			0.06
		0.07	0.07			0.07		0.13					0.07						0.13				0.07		0.07	0.02
0.06						0.06	0.11		0.06	0.06		0.06						0.06							0.06	0.02
0.03	0.06	0.05	0.03	0.03	0.01	0.04	0.04	0.05	0.06	0.07	0.04	0.06	0.03	0.05	0.05	0.06	0.05	0.06	0.05	0.10	0.04	0.07	0.06	0.04	0.03	0.04

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
							1												1							2
								1		1								1	1	1	2					8
				1	1		1				1	1		1	1					2		4		1		20
		1	1	1				1								1	1	2		2			1	1		20
2	3	2	1			2				2	1		1	3	1	1	1		1	2	1		1	2	1	45
2	2		1	2				2	1			1	1	3	1		1	3	2	3	1	3	1			47
1	2	1	1	1		1		1	2	2	1			1	3	3		1		1	2	2	7	1		56
	1	2						2	3	2	1	1			1	1	2			4	1	1		1		46
1		2	1				2	1	2		2	2	1	1	2	1			3	1	1	1			1	38
	1					1			1	2		4	1				1	2	1	2			2		1	34
	2	2	1			3	3	1	1	2	2	1	2			4	3	2	1	1		2		1	2	61
									2	1										1						6
										1		1														4
6	11	10	6	5	1	7	7	9	12	13	8	11	6	9	9	11	9	11	10	20	8	13	12	7	5	387

[各感染症データ]

急性出血性結膜炎

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能																										
三 島																										
北河内									1																	
中河内				1	1														1							
南河内																										
堺 市																										
泉 州			1										1							1						1
大阪市北部																										
大阪市西部																										1
大阪市東部																										
大阪市南部																										
合 計			1	1	1				1				1						1	1						2

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能																										
三 島																										
北河内									0.17																	
中河内				0.20	0.20														0.20							
南河内																										
堺 市																										
泉 州			0.17										0.17							0.20						0.20
大阪市北部																										
大阪市西部																										0.50
大阪市東部																										
大阪市南部																										
合 計			0.02	0.02	0.02				0.02				0.02						0.02	0.02						0.04

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月																										
－11ヶ月																										
1歳																										
2																										
3																										
4																										
5																										
6																										
7																										
8																										
9																										
10－14																										
15－19													1													
20－			1	1	1				1										1	1						2
合 計			1	1	1				1				1						1	1						2

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

急性出血性結膜炎

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
									1																	2
																						1	1			5
										1																5
																							1			1
																										1
																								1		1
									1	1												1	2	1		15

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
									0.17																	0.01
																						0.20	0.20			0.02
										0.17																0.02
																							0.20			0.00
																										0.01
																								0.17		0.00
									0.02	0.02												0.02	0.04	0.02		0.01

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
																							1			1
																										1
									1	1												1	1	1		13
									1	1												1	2	1		15

[各感染症データ]

流行性角結膜炎

1）ブロック別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能																1		4	1	1	1			1		
三 島											1	2	1		1			1		2			1	2		1
北河内	2	1	1										1				2		4	1				2		
中河内		1		1	1											1			1	2		1	2			4
南河内																								1	1	
堺 市	1					1								1		1		1				1	1	1		1
泉 州			2	2	1	1						1		1					1			1	1			1
大阪市北部				1												1				1			1	1		4
大阪市西部					1							1											1		2	
大阪市東部		2	1	2				1	1				1		1	2				2	3		1	1	2	1
大阪市南部		1		1						1	1		1					2					3	4		1
合 計	3	5	4	7	3	2		1	1	1	2	4	4	2	2	6	2	8	7	9	4	3	11	13	5	13

2）ブロック別・週別定点あたり報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
ブロック	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
豊 能																0.20		0.80	0.20	0.20	0.20			0.20		
三 島											0.25	0.50	0.25		0.25			0.25		0.50			0.25	0.50		0.25
北河内	0.33	0.17	0.17										0.17				0.33		0.67	0.17				0.33		
中河内		0.20		0.20	0.20											0.20			0.20	0.40		0.20	0.40			0.80
南河内																								0.25	0.25	
堺 市	0.20					0.20								0.20		0.20		0.20				0.20	0.20	0.20		0.20
泉 州			0.33	0.33	0.17	0.17						0.17		0.20					0.20			0.20	0.20			0.20
大阪市北部				0.20												0.20				0.20			0.20	0.20		0.80
大阪市西部					0.50							0.50											0.50		1.00	
大阪市東部		0.33	0.17	0.33				0.17	0.17				0.17		0.17	0.33				0.33	0.50		0.17	0.17	0.33	0.17
大阪市南部		0.25		0.25						0.25	0.25		0.25					0.50					0.75	1.00		0.25
合 計	0.06	0.10	0.08	0.14	0.06	0.04		0.02	0.02	0.02	0.04	0.08	0.08	0.04	0.04	0.12	0.04	0.16	0.14	0.18	0.08	0.06	0.22	0.26	0.10	0.26

3）年齢別・週別報告状況

	1月					2月				3月				4月				5月					6月			
年 齢	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
－5ヶ月																										
－11ヶ月																										
1歳																		1						2		
2												1			1											
3														1									1		2	
4																										
5											1							1								
6																										
7																										
8																							1			
9																										
10－14																			1	1	1					1
15－19						1		1		1			1					1					1	3		
20－	3	5	4	7	3	1			1		1	3	3	1	1	6	2	5	6	8	3	3	8	8	3	12
合 計	3	5	4	7	3	2		1	1	1	2	4	4	2	2	6	2	8	7	9	4	3	11	13	5	13

報告数が0の場合には空白としている

[各感染症データ]

流行性角結膜炎

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
1			3	1				1									1	1			1			1		19
7	3	1	2	1			2		1	1				1			2		1	3	1	1		1		40
	1	1			1	1	1	3	1	3	1		1					2		1				1		32
2	1	3	6	1		1	2	2					3	4	1	1		1		1				1		44
							2	1			1			1		1			1							9
1	1	2						3							1			2		1		2				22
3	4	1	2	4	2	1	3	1		2	1	1	1			2		2	2	1			1	3		49
							1						1		1	1	1			1	1				1	17
																		1			1					7
1			2				1		1	2		1	3		2	2	1		1	1	1	1	1	1	2	45
	1	3		2			2	2	1	1				1	2			1		1	1		2	1	1	37
15	11	11	15	9	3	3	14	13	4	9	3	2	9	7	7	7	5	10	5	10	6	4	4	9	4	321

7月				8月					9月				10月					11月				12月				平均
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.20			0.60	0.20				0.20									0.20	0.20			0.20			0.20		0.07
1.75	0.75	0.25	0.50	0.25			0.50		0.25	0.25				0.25			0.50		0.25	0.75	0.25	0.25		0.25		0.19
	0.17	0.17			0.17	0.17	0.17	0.50	0.17	0.50	0.17		0.17					0.33		0.17				0.17		0.10
0.40	0.20	0.60	1.20	0.20		0.20	0.40	0.40					0.60	0.80	0.20	0.20		0.20		0.20				0.20		0.17
							0.50	0.25			0.25			0.25		0.25			0.25							0.04
0.20	0.20	0.40						0.60							0.20			0.40		0.20		0.40				0.08
0.50	0.67	0.17	0.33	0.67	0.33	0.17	0.50	0.17		0.33	0.17	0.17	0.17			0.33		0.33	0.33	0.17			0.17	0.50		0.16
							0.20						0.20		0.20	0.20	0.20			0.20	0.20				0.20	0.07
																		0.50			0.50					0.07
0.17			0.33				0.17		0.17	0.33		0.17	0.50		0.33	0.33	0.17		0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	0.33	0.14
	0.25	0.75		0.50			0.50	0.50	0.25	0.25				0.25	0.50			0.25		0.25	0.25		0.50	0.25	0.25	0.18
0.29	0.21	0.21	0.29	0.17	0.06	0.06	0.27	0.25	0.08	0.17	0.06	0.04	0.17	0.14	0.14	0.14	0.10	0.19	0.10	0.19	0.12	0.08	0.08	0.17	0.08	0.12

7月				8月					9月				10月					11月				12月				合計
27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
			1																							1
	1	1	1																	1		1				8
2																				1				1		6
	1	1														1					1					8
				1			1									1			1							6
															1											1
1	1						1	1																		4
1			1																							3
	1	1														1										3
		2	2							1								1								10
1	2	1	1						1				1				1	1	2			1		1		22
10	5	5	9	8	3	3	12	12	3	8	3	2	8	7	6	4	4	8	2	8	5	2	4	7	4	249
15	11	11	15	9	3	3	14	13	4	9	3	2	9	7	7	7	5	10	5	10	6	4	4	9	4	321

II　五類定点把握感染症
（性感染症）

II　五類定点把握感染症（性感染症）

１）はじめに

本調査の対象疾患は、「性器クラミジア感染症」「性器ヘルペスウイルス感染症」「尖圭コンジローマ」「淋菌感染症」の４疾患である。

性器ヘルペスウイルス感染症については、届出基準の改正に伴い、2006 年４月から明らかに再発であるものは除外されている。

２）概況

2022 年における大阪府の年間患者報告数(定点当たり)は、4,533 人(70.28 人)であった。過去 5 年間の動向は、2017 年は 4,825 人(71.84 人)、2018 年は 4,639 人(68.92 人)、2019 年は 4,815 人(71.53 人)、2020 年は 4,864 人(76.10 人)、2021 年は 4,912 人(76.75 人)となっており、患者報告数は、ほぼ横ばいであり、定点当たり報告数は約 65～80 人の間で変動がみられる。

全国では、2022 年に 54,813 人(55.76 人)の報告があった。2016 年は 47,598 人 (48.32 人)、2017 年は 47,677 人(48.26 人)、2018 年は 48,329 人(49.06 人)、2019 年は 51,102 人(51.99 人)、2020 年は 51,539 人(52.53 人)、2021 年は 54,974 人(55.92 人)となっており、2022 年は 2021 年と比較して 2.9%減少した。

３）疾患別患者数

疾患別にみると、大阪府では性器クラミジア感染症の患者報告数が 2,305 人と、前年に引き続き最も多く、全体の 50.8%を占めていた。

以下、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの順となっている。(図 1.2)

図１　大阪　疾病別割合（男女計）2022 年
合計　4,533 人（前年　4,912 人）

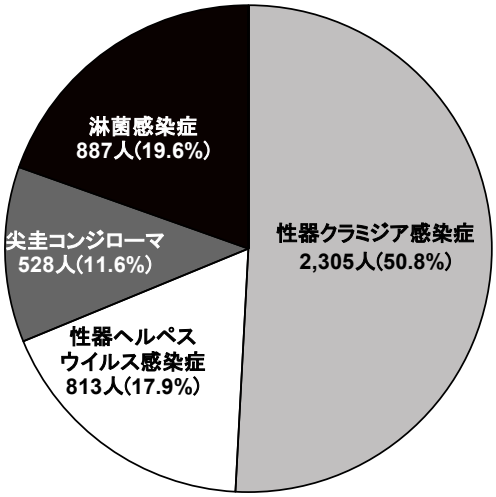
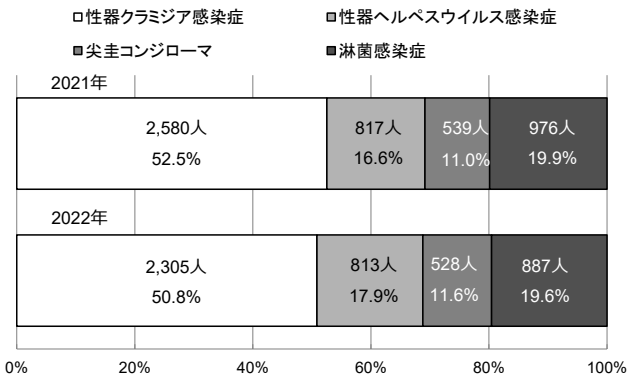


図２　大阪　疾病別割合　（男女計）
2021 年･2022 年



全国でも、性器クラミジア感染症の患者報告数が 30,136 人と、前年に引き続き最も多く、全体の 55.0%を占めた。

以下、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの順となっており、大阪府と同じ順番である。(図 3.4)

図 3 全国 疾病別割合（男女計）2022 年
合計 54,813 人　（前年　54,974 人）

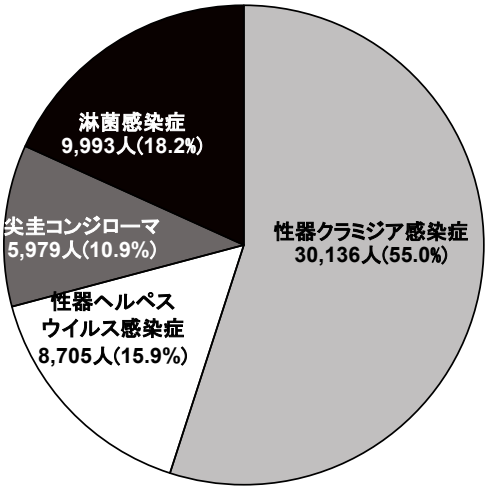
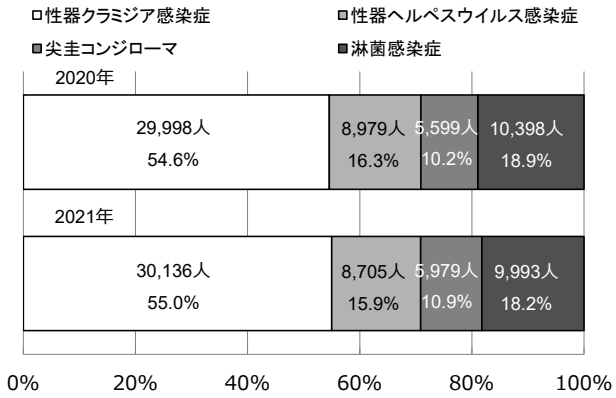


図 4 全国 疾病別割合（男女計）
2021 年・2022 年



４）男女別患者数

大阪府の男性患者数は、2,262 人と、前年より 145 人減少している。疾患別の前年比は、性器クラミジア感染症(-107 人)、性器ヘルペスウイルス感染症(±0 人)、尖圭コンジローマ(-8 人)、淋菌感染症(-145 人)であり、性器ヘルペスウイルス感染症以外は減少していた。(図 5)

大阪府の女性患者数は、2,262 人と、前年より 234 人減少している。疾患別の前年比は、性器クラミジア感染症(-168 人)、性器ヘルペスウイルス感染症(-4 人)、尖圭コンジローマ(-3 人)、淋菌感染症(-59 人) であり、いずれの感染症において減少していた。(図 6)

また、性別の割合で見ると、大阪府全体では女性が 50.8（前年 女性 50.8%）%を占めている。疾患別では、男性の割合が高いのは、淋菌感染症 71.0（前年 67.6%）%、尖圭コンジローマ 67.8（前年 67.9%）%で、女性の割合が高いのは、性器ヘルペスウイルス感染症 65.4（前年 65.6%）%、性器クラミジア感染症 56.5（前年 57.0%）%となっている。淋菌感染症の男性の割合は前年より高くなった。

全国の男性患者数は、30,603 人と、前年より 146 人増加している。疾患別の前年比は、性器クラミジア感染症(＋123 人)、性器ヘルペスウイルス感染症(-43 人)、尖圭コンジローマ(＋429 人)、淋菌感染症(-363 人)であり、性器クラミジア感染症と尖圭コンジローマが増加していた。(図 7)

全国の女性患者数は、24,210 人と、前年より 307 人減少している。疾患別の前年比は、性器クラミジア感染症(＋15 人)、性器ヘルペスウイルス感染症(-231 人)、尖圭コンジローマ(-

49 人)、淋菌感染症(-42 人)であった。(図 8)

また、性別の割合で見ると、全体では男性が 55.8（前年 55.4%）%を占めている。疾患別では、男性の割合が高いのは、淋菌感染症 77.4（前年 79.9%）%、尖圭コンジローマ 66.1（前年 62.9%）%、性器クラミジア感染症 51.7（前年 51.5%）%、で、女性の割合が高いのは、性器ヘルペスウイルス感染症 61.6（前年 62.3%）%となっている。

以上、全体では全国においては男性の占める割合が女性より高く、大阪府においては男性の占める割合が若干女性より高い。疾患別では、大阪府及び全国においても淋菌感染症、尖圭コンジローマは男性の占める割合が高く、性器ヘルペスウイルス感染症は女性の占める割合が高い。

図 5　大阪　疾病別割合（男）2022 年
合計　2,271 人　（前年　2,416 人）

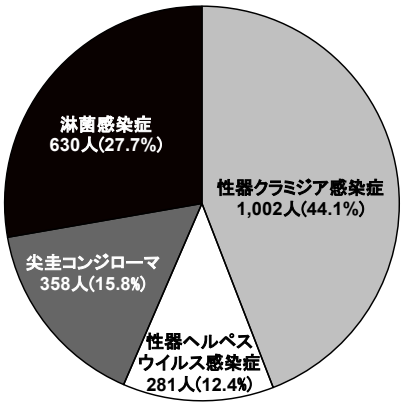


図 6　大阪　疾病別割合（女）2022 年
合計　2,262 人　（前年　2,496 人）

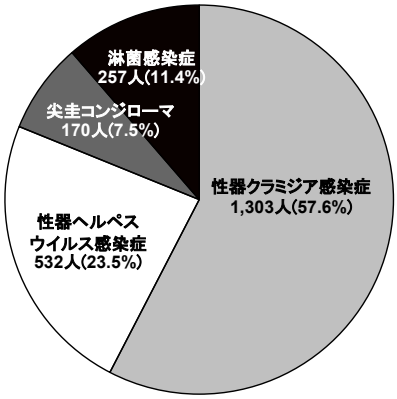


図 7　全国　疾病別割合（男）2022 年
合計　30,603 人　（前年　30,457 人）

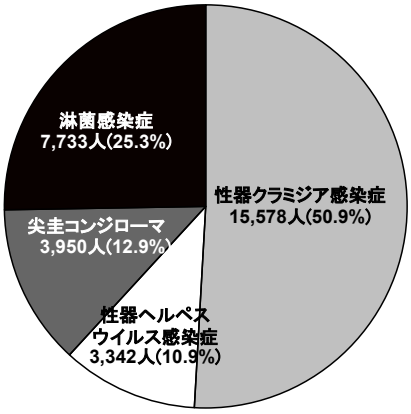
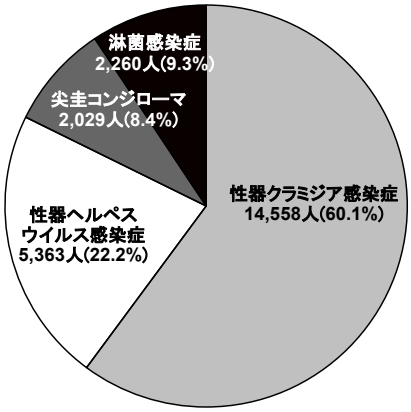


図 8　全国　疾病別割合（女）2022 年
合計　24,210 人　（前年　24,517 人）



2022 年報告数

疾病名	大阪（男）	全国（男）	大阪（女）	全国（女）
性器クラミジア感染症	1,002	15,578	1,303	14,558
性器ヘルペスウイルス感染症	281	3,342	532	5,363
尖圭コンジローマ	358	3,950	170	2,029
淋菌感染症	630	7,733	257	2,260
合計	2,271	30,603	2,262	24,210

5）月別患者数

大阪府における患者数を月別に見ると、性器クラミジア感染症は、1 月(226 人)が最も多く、最も少ないのは、8 月(158 人)であった。性器ヘルペスウイルス感染症は、1、4 月(74 人)が最も多く、最も少ない 9 月(54 人)であった。尖圭コンジローマは、3 月(53 人)が最も多く、最も少ないは 8、9 月(36 人)であった。淋菌感染症は、10 月(94 人)が最も多く、最も少ない

のは 6 月(57 人)であった。(図 9-図 11)

６）年齢階級別患者数

大阪府における患者数を年齢階級別に見ると、男性については、性器クラミジア感染症や淋菌感染症は、20 歳代前半から後半で多く見られた。また、性器ヘルペスウイルス感染症や尖圭コンジローマは、年齢階級による顕著なピークは見られないものの、20 歳代前半から 50 歳代前半の幅広い年齢で見られた。

女性については、性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症では、20 歳代前半にピークがみられた。性器ヘルペスウイルス感染症は、20 歳代前半から 30 歳代前半で特に多くみられた。(図 12)

（文責：山中）

図 9-1　大阪　疾病・月別患者報告数（男女計）

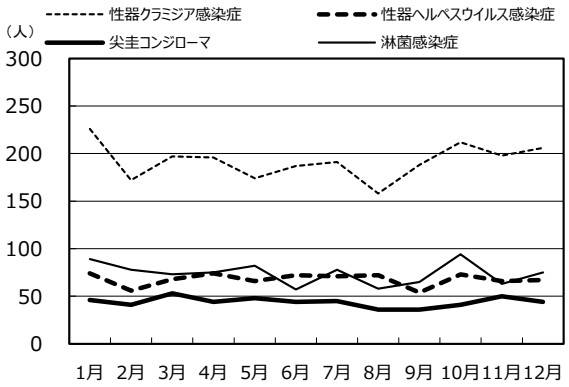


図 10-1　全国　疾病・月別患者報告数（男女計）

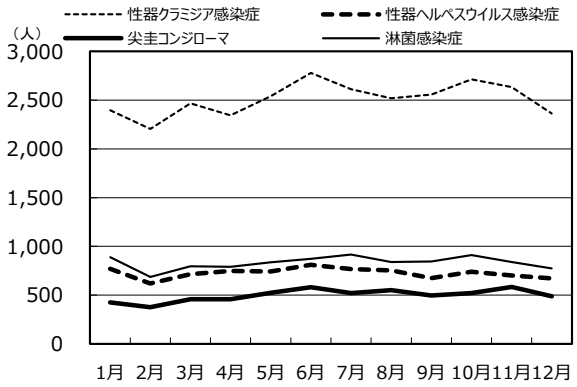


図 9-2　大阪　疾病・月別患者報告数（男）

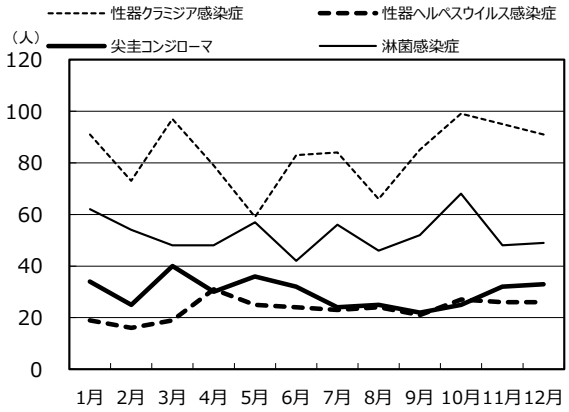


図 10-2　全国　疾病・月別患者報告数（男）

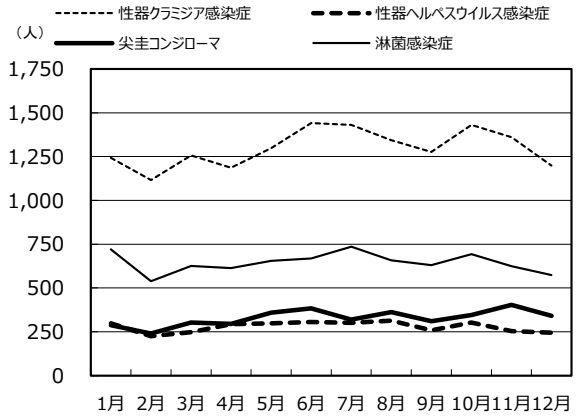


図 9-3　大阪　疾病・月別患者報告数（女）

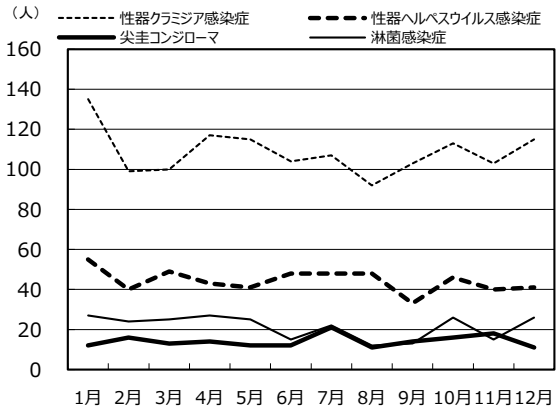


図 10-3　全国　疾病・月別患者報告数（女）

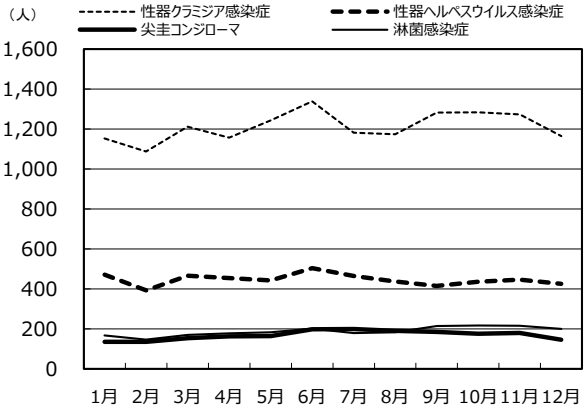


図 11-1　大阪　疾病・月別患者報告数
2020-2022 年（合計）

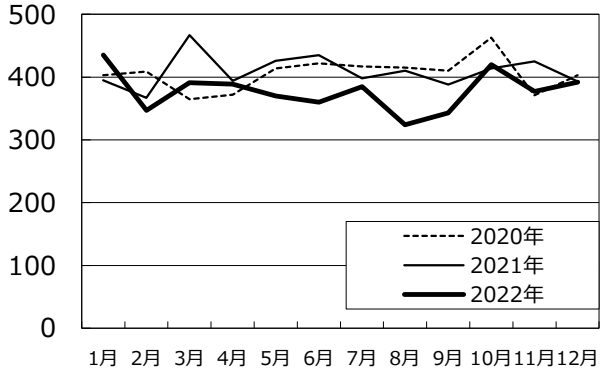


図 11-2　大阪　疾病・月別患者報告数
2020-2022 年（性器クラミジア感染症）

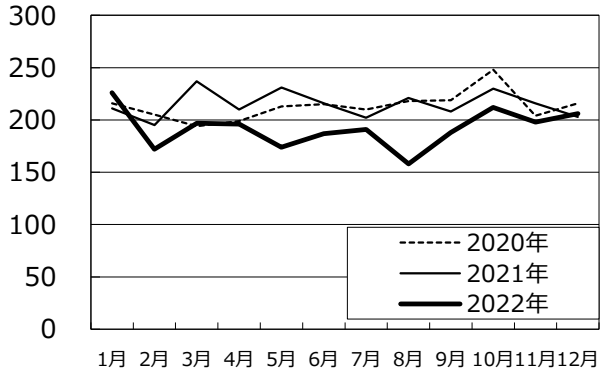


図 11-3　大阪　疾病・月別患者報告数
2020-2022 年（性器ヘルペスウイルス感染症）

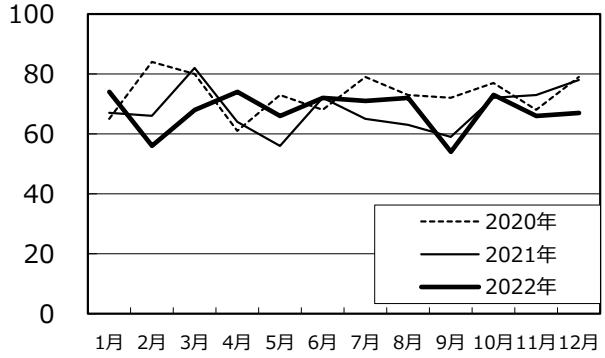


図 11-4　大阪　疾病・月別患者報告数
2020-2022 年（尖圭コンジローマ）

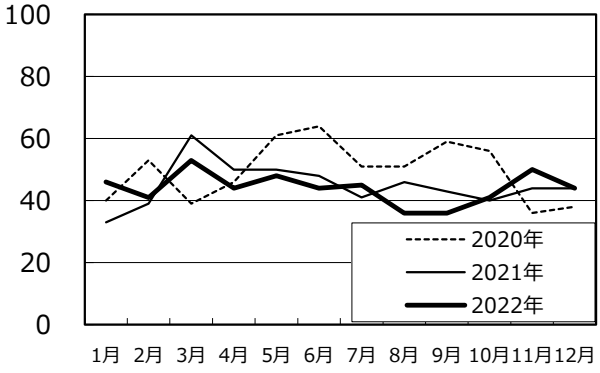


図 11-5　大阪　疾病・月別患者報告数
2020-2022 年（淋菌感染症）

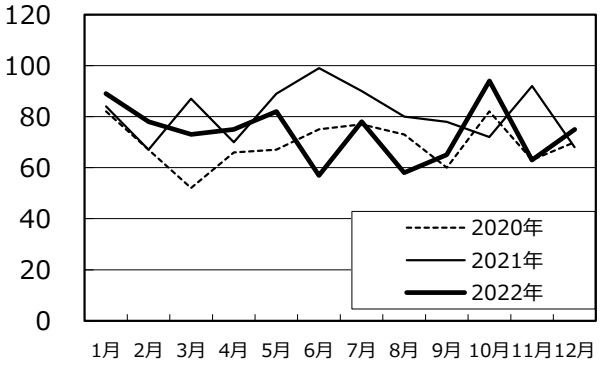


図 12-1　大阪　疾病・年齢階級別患者報告数（男女計）

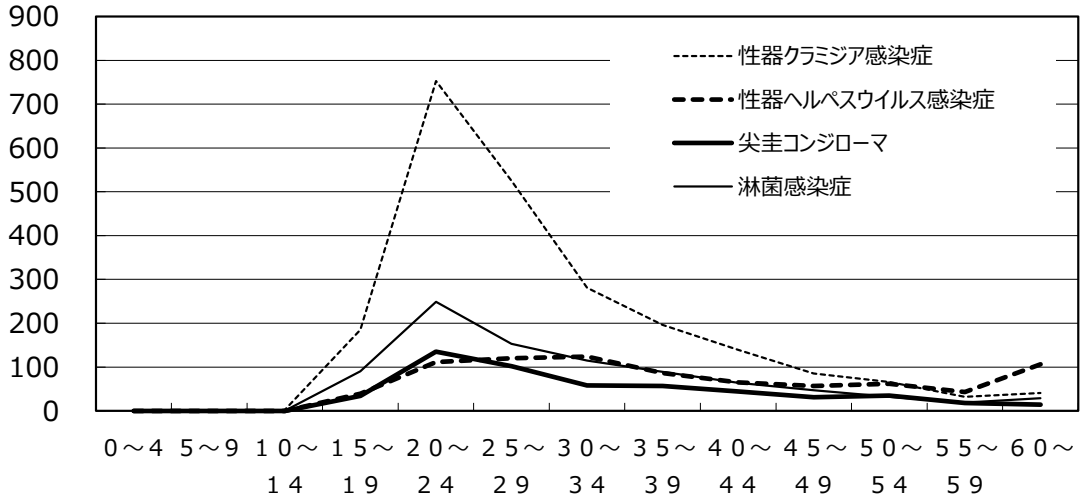


図 12-2　大阪　疾病・年齢階級別患者報告数（男）

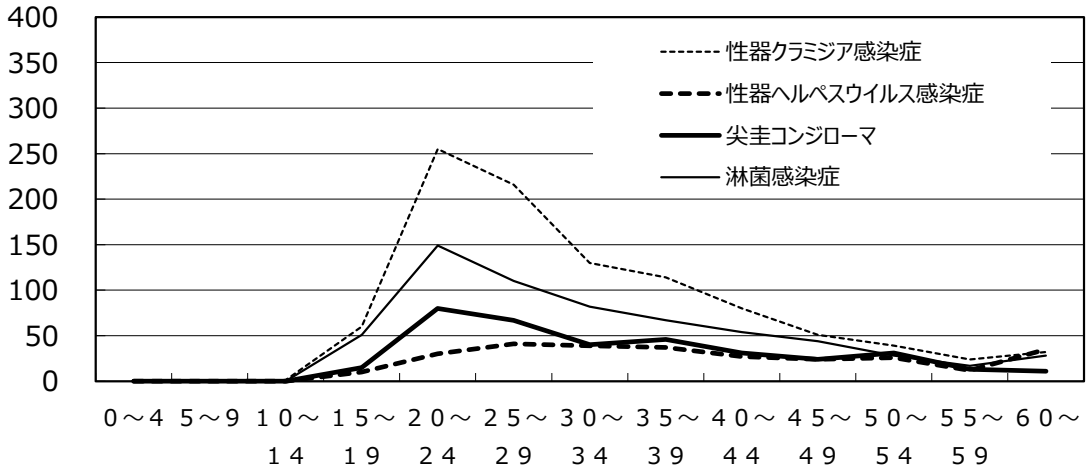
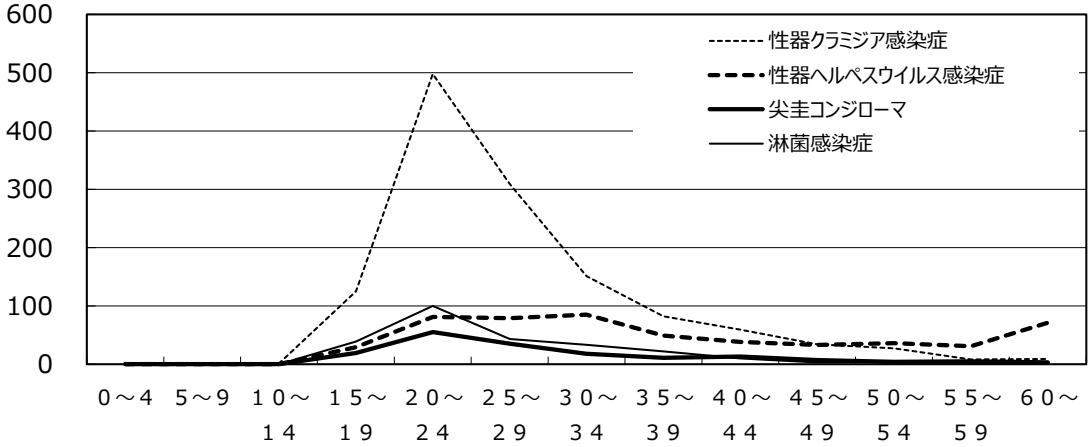


図 12-3　大阪　疾病・年齢階級別患者報告数（女）



１）疾病別・月別報告数（全国）

疾病名称		1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	性	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り
性器クラミジア感染症	男	1,242	1.26	1,116	1.13	1,256	1.27	1,186	1.21	1,297	1.32	1,441	1.46
	女	1,154	1.17	1,088	1.10	1,212	1.23	1,158	1.18	1,244	1.26	1,339	1.36
	計	2,396	2.43	2,204	2.24	2,468	2.50	2,344	2.38	2,541	2.58	2,780	2.83
性器ヘルペスウイルス感染症	男	298	0.30	225	0.23	247	0.25	293	0.30	298	0.30	306	0.31
	女	472	0.48	393	0.40	467	0.47	455	0.46	443	0.45	505	0.51
	計	770	0.78	618	0.63	714	0.72	748	0.76	741	0.75	811	0.82
尖圭コンジローマ	男	288	0.29	240	0.24	303	0.31	295	0.30	359	0.36	383	0.39
	女	136	0.14	136	0.14	154	0.16	163	0.17	164	0.17	198	0.20
	計	424	0.43	376	0.38	457	0.46	458	0.47	523	0.53	581	0.59
淋菌感染症	男	720	0.73	538	0.55	626	0.63	613	0.62	654	0.66	669	0.68
	女	168	0.17	147	0.15	170	0.17	178	0.18	183	0.19	202	0.21
	計	888	0.90	685	0.69	796	0.81	791	0.80	837	0.85	871	0.89
合計	男	2,548	2.58	2,119	2.15	2,432	2.46	2,387	2.43	2,608	2.64	2,799	2.84
	女	1,930	1.96	1,764	1.79	2,003	2.03	1,954	1.99	2,034	2.07	2,244	2.28
	計	4,478	4.54	3,883	3.94	4,435	4.49	4,341	4.42	4,642	4.71	5,043	5.12

疾病名称		7月		8月		9月		１０月		１１月		１２月		総数	
	性	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り
性器クラミジア感染症	男	1,431	1.45	1,344	1.37	1,276	1.30	1,431	1.46	1,360	1.38	1,198	1.22	15,578	15.85
	女	1,182	1.20	1,175	1.20	1,283	1.31	1,284	1.31	1,274	1.29	1,165	1.18	14,558	14.81
	計	2,613	2.66	2,519	2.57	2,559	2.60	2,715	2.76	2,634	2.68	2,363	2.40	30,136	30.66
性器ヘルペスウイルス感染症	男	301	0.31	314	0.32	259	0.26	303	0.31	253	0.26	245	0.25	3,342	3.40
	女	465	0.47	438	0.45	416	0.42	436	0.44	447	0.45	426	0.43	5,363	5.46
	計	766	0.78	752	0.77	675	0.69	739	0.75	700	0.71	671	0.68	8,705	8.86
尖圭コンジローマ	男	320	0.33	362	0.37	310	0.32	345	0.35	404	0.41	341	0.35	3,950	4.02
	女	200	0.20	190	0.19	186	0.19	176	0.18	180	0.18	146	0.15	2,029	2.06
	計	520	0.53	552	0.56	496	0.50	521	0.53	584	0.59	487	0.49	5,979	6.08
淋菌感染症	男	736	0.75	657	0.67	630	0.64	693	0.70	624	0.63	573	0.58	7,733	7.87
	女	179	0.18	183	0.19	215	0.22	218	0.22	216	0.22	201	0.20	2,260	2.30
	計	915	0.93	840	0.86	845	0.86	911	0.93	840	0.85	774	0.79	9,993	10.17
合計	男	2,788	2.84	2,677	2.73	2,475	2.52	2,772	2.82	2,641	2.68	2,357	2.40	30,603	31.13
	女	2,026	2.05	1,986	2.03	2,100	2.14	2,114	2.15	2,117	2.14	1,938	1.96	24,210	24.63
	計	4,814	4.89	4,663	4.76	4,575	4.66	4,886	4.97	4,758	4.82	4,295	4.36	54,813	55.76

２）疾病別・月別報告数（大阪府）

疾病名称		1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	性	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り
性器クラミジア感染症	男	91	1.42	73	1.14	97	1.52	79	1.23	59	0.92	83	1.30
	女	135	2.11	99	1.55	100	1.56	117	1.83	115	1.80	104	1.62
	計	226	3.53	172	2.69	197	3.08	196	3.06	174	2.72	187	2.92
性器ヘルペスウイルス感染症	男	19	0.30	16	0.25	19	0.30	31	0.48	25	0.39	24	0.38
	女	55	0.86	40	0.62	49	0.77	43	0.67	41	0.64	48	0.75
	計	74	1.16	56	0.88	68	1.06	74	1.16	66	1.03	72	1.12
尖圭コンジローマ	男	34	0.53	25	0.39	40	0.62	30	0.47	36	0.56	32	0.50
	女	12	0.19	16	0.25	13	0.20	14	0.22	12	0.19	12	0.19
	計	46	0.72	41	0.64	53	0.83	44	0.69	48	0.75	44	0.69
淋菌感染症	男	62	0.97	54	0.84	48	0.75	48	0.75	57	0.89	42	0.66
	女	27	0.42	24	0.38	25	0.39	27	0.42	25	0.39	15	0.23
	計	89	1.39	78	1.22	73	1.14	75	1.17	82	1.28	57	0.89
合計	男	206	3.22	168	2.62	204	3.19	188	2.94	177	2.77	181	2.83
	女	229	3.58	179	2.80	187	2.92	201	3.14	193	3.02	179	2.80
	計	435	6.80	347	5.42	391	6.11	389	6.08	370	5.78	360	5.62

疾病名称		7月		8月		9月		１０月		１１月		１２月		総数	
	性	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り	患者数	定点当り
性器クラミジア感染症	男	84	1.31	66	1.03	85	1.29	99	1.50	95	1.44	91	1.42	1,002	15.53
	女	107	1.67	92	1.44	103	1.56	113	1.71	103	1.56	115	1.80	1,303	20.20
	計	191	2.98	158	2.47	188	2.85	212	3.21	198	3.00	206	3.22	2,305	35.74
性器ヘルペスウイルス感染症	男	23	0.36	24	0.38	21	0.32	27	0.41	26	0.39	26	0.41	281	4.36
	女	48	0.75	48	0.75	33	0.50	46	0.70	40	0.61	41	0.64	532	8.25
	計	71	1.11	72	1.12	54	0.82	73	1.11	66	1.00	67	1.05	813	12.60
尖圭コンジローマ	男	24	0.38	25	0.39	22	0.33	25	0.38	32	0.48	33	0.52	358	5.55
	女	21	0.33	11	0.17	14	0.21	16	0.24	18	0.27	11	0.17	170	2.64
	計	45	0.70	36	0.56	36	0.55	41	0.62	50	0.76	44	0.69	528	8.19
淋菌感染症	男	56	0.88	46	0.72	52	0.79	68	1.03	48	0.73	49	0.77	630	9.77
	女	22	0.34	12	0.19	13	0.20	26	0.39	15	0.23	26	0.41	257	3.98
	計	78	1.22	58	0.91	65	0.98	94	1.42	63	0.95	75	1.17	887	13.75
合計	男	187	2.92	161	2.52	180	2.73	219	3.32	201	3.05	199	3.11	2,271	35.21
	女	198	3.09	163	2.55	163	2.47	201	3.05	176	2.67	193	3.02	2,262	35.07
	計	385	6.02	324	5.06	343	5.20	420	6.36	377	5.71	392	6.12	4,533	70.28

3）疾病別・ブロック別報告数

疾病	性	豊能 (8)	三島 (6)	北河内 (8)	中河内 (7)	南河内 (4)	堺市 (7)	泉州 (6)	大阪市 北部(7)	大阪市 西部(2)	大阪市 東部(4)	大阪市 南部(5)	大阪府	府定点当り
性器クラミジア感染症	男	209	37	108	176	123	144	29	97	32	37	10	1,002	15.53
	女	52	112	168	37	13	133	118	236	13	291	130	1,303	20.20
	計	261	149	276	213	136	277	147	333	45	328	140	2,305	35.74
性器ヘルペスウイルス感染症	男	36	10	3	79	28	64	1	37	5	10	8	281	4.36
	女	23	32	100	13	16	53	33	139	2	68	53	532	8.25
	計	59	42	103	92	44	117	34	176	7	78	61	813	12.60
尖圭コンジローマ	男	73	15	4	99	40	55	7	16	2	39	8	358	5.55
	女	6	26	10	0	10	21	2	22	0	61	12	170	2.64
	計	79	41	14	99	50	76	9	38	2	100	20	528	8.19
淋菌感染症	男	102	15	51	120	97	142	9	50	14	20	10	630	9.77
	女	12	20	13	5	4	18	30	68	3	64	20	257	3.98
	計	114	35	64	125	101	160	39	118	17	84	30	887	13.75
合計	男	420	77	166	474	288	405	46	200	53	106	36	2,271	35.21
	女	93	190	291	55	43	225	183	465	18	484	215	2,262	35.07
	計	513	267	457	529	331	630	229	665	71	590	251	4,533	70.28

()内の数字はSTD定点医療機関の数。ただし、月により変動することがある
報告数が0の場合には空白としている

4）疾病別・年齢別報告数

疾病名	性	0～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60歳～	合計
性器クラミジア感染症	男			1	60	255	216	130	114	80	51	39	24	32	1,002
	女			1	125	498	309	151	82	59	34	27	8	9	1,303
	計			2	185	753	525	281	196	139	85	66	32	41	2,305
性器ヘルペスウイルス感染症	男				10	30	41	39	37	27	24	26	12	35	281
	女				29	81	79	85	49	38	33	36	31	71	532
	計				39	111	120	124	86	65	57	62	43	106	813
尖圭コンジローマ	男				15	80	67	40	46	31	24	31	13	11	358
	女				19	55	35	18	11	13	7	4	5	3	170
	計				34	135	102	58	57	44	31	35	18	14	528
淋菌感染症	男				51	149	110	82	67	54	44	28	17	28	630
	女				39	100	43	33	22	10	3	4	2	1	257
	計				90	249	153	115	89	64	47	32	19	29	887
合計	男			1	136	514	434	291	264	192	143	124	66	106	2,271
	女			1	212	734	466	287	164	120	77	71	46	84	2,262
	計			2	348	1,248	900	578	428	312	220	195	112	190	4,533

報告数が0の場合には空白としている

III　全数把握感染症

III　全数把握感染症

１．一類感染症

全国、大阪府とも発生はなかった。

２．二類感染症

結核以外の二類感染症は、全国、大阪府とも発生はなかった。

結核については、下記ホームページを参照されたい。

（財）結核予防会結核研究所　疫学情報センター

http://jata-ekigaku.jp

（文責：柿本）

３．三類感染症

●コレラ

大阪府内では、コレラの発生はなかった。

●細菌性赤痢

8 週から 10 週に 4 例の届出があり、感染地域はすべて国内と推定あるいは確定され、*Shigella sonnei* が分離された。4 例のうち 1 例は無症状病原体保有者であった。3 例の患者の共通症状は下痢であり、2 例で発熱、1 例で嘔吐が認められた。下痢、発熱を呈した 1 例では膿粘血便も認められた。

●腸チフス

大阪府内では、腸チフスの発生はなかった。

●パラチフス

大阪府内では、パラチフスの発生はなかった。

●腸管出血性大腸菌感染症

210 例の届出があった。年間を通しての発生状況については、11 月中旬～12 月に保育園で O157 による集団感染事例（症例数 13）が発生したため、50～51 週にかけて届出数が多かった（図 1）。なお、本事例以外はすべて散発あるいは家族内発生事例であった。感染者の年齢は 20 歳代が最も多く、男女間での比較では、男性の方が感染者がやや多かった（図 2）。なお、HUS 患者の報告は 2 例であった。

（文責：河合）

図 1　腸管出血性大腸菌感染症 週別発生状況　2022 年 1～52 週

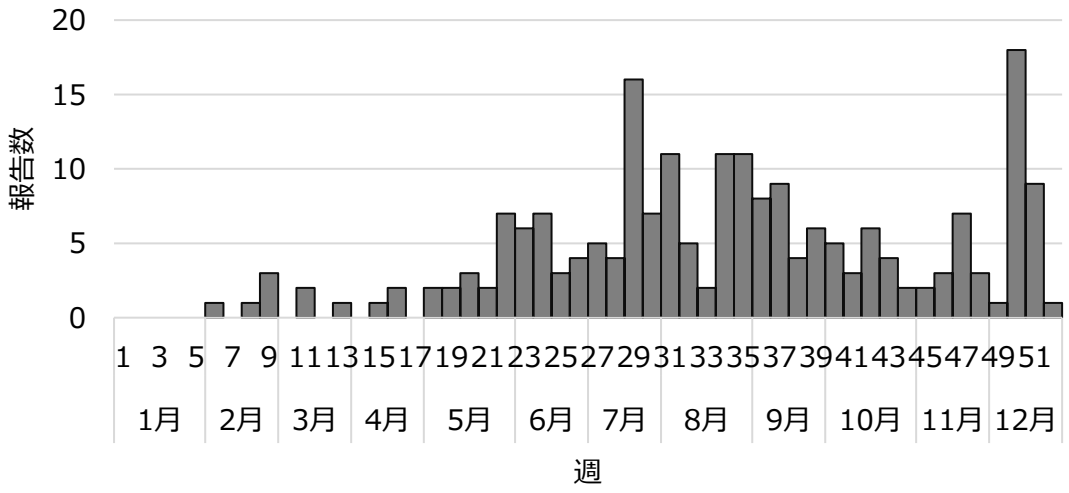
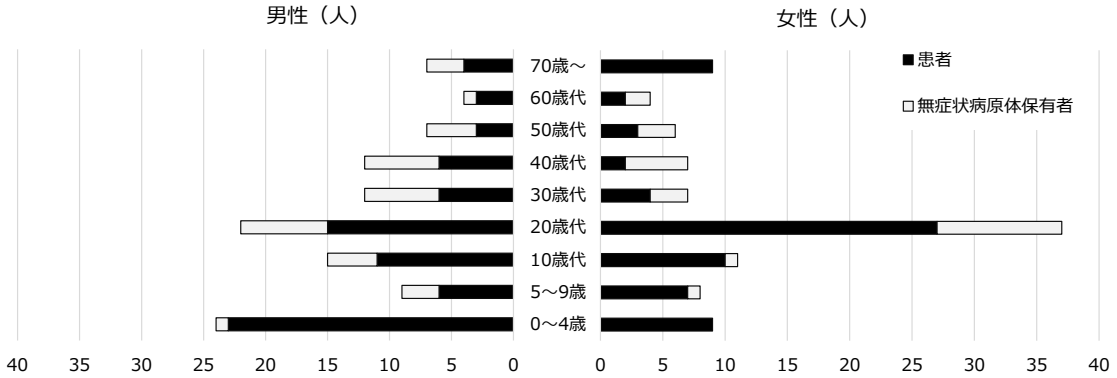


図 2　腸管出血性大腸菌感染症 年齢別発生状況　2022 年 1～52 週



４．四類・五類感染症（全数把握分）

2022 年、大阪府における四類・五類感染症の届出数は、30 疾患 2,561 例であった。2021 年の 20 疾患 1,651 例に比べて 10 疾患増加し、届出数は 910 例の増加であった（表 1）。

四類感染症の大阪府内届出数は 10 疾患 154 例であり、前年に比べて 11 例減少した（表 1）。前年届出がなかったエキノコックス症、重症熱性血小板減少症候群、デング熱について報告があった。前年届出があったレプトスピラ症について 2022 年は報告がなかった。その他、前年から増加した疾患は、A 型肝炎、オウム病の 2 疾患であり、減少した疾患は、E 型肝炎、マラリア、およびレジオネラ症の 3 疾患であった。A 型肝炎は、6 例の届出があり、

前年の３例に比べて、３例の増加であった。マラリア、デング熱は、それぞれ３例、および１４例の届出がありいずれも渡航歴の記載があった。重症熱性血小板減少症候群の感染地域は不明であった。

表１　四類・五類全数把握感染症届出数

種別	疾患名＼届出数	大阪府内計		全国計	
		2022年	2021年	**2022年**	2021年
四類	E型肝炎	7	12	434	458
	A型肝炎	6	3	69	71
	エキノコックス症	1		28	24
	オウム病	2	1	12	9
	回帰熱			25	10
	Q熱				1
	コクシジオイデス症			2	
	サル痘			7	
	重症熱性血小板減少症候群	1		118	110
	チクングニア熱			6	
	つつが虫病	2	2	493	545
	デング熱	14		99	8
	日本紅斑熱	8	8	460	487
	日本脳炎			5	3
	ブルセラ症			1	1
	ボツリヌス症			1	5
	マラリア	3	6	31	30
	ライム病			14	23
	類鼻疽			2	
	レジオネラ症	110	131	2,144	2,131
	レプトスピラ症		2	38	34
	四類合計	154	165	3,989	3,950
五類	アメーバ赤痢	46	48	536	537
	ウイルス性肝炎	14	16	208	204
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	159	185	2,010	2,065
	急性弛緩性麻痺	1	3	41	25
	急性脳炎	16	9	398	338
	クリプトスポリジウム症			7	5
	クロイツフェルト・ヤコブ病	17	15	171	181
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	40	42	744	646
	後天性免疫不全症候群	93	104	892	1,054
	ジアルジア症	1	2	32	36
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	15	18	210	194
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1		8	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	108	92	1,345	1,405
	水痘（入院例）	16	14	328	301
	先天性風しん症候群				1
	梅毒	1,823	864	13,226	7,978
	播種性クリプトコックス症	5	9	158	161
	破傷風	3		96	93
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	18	25	132	124
	百日咳	29	39	500	752
	風しん	1	1	15	12
	麻しん			6	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1		13	6
	五類合計	2,407	1,486	21,076	16,125
	四類五類合計	2,561	1,651	25,065	20,075

五類感染症の届出数は 20 疾患 2,407 例であった。前年の届出数に比べて 921 例の増加であった。増加した疾患のうち、梅毒は、1,823 例の届出があり、前年の 864 例に比べて 959 例の増加となった。侵襲性髄膜炎菌感染症は、前年は届出がなかったが、2022 年は 1 例の届出があった。急性脳炎は、16 例の届出があり、前年の 9 例に比べて 7 例の増加であった。

減少した疾患のうち、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、159 例の届出があり、前年の 185 例に比べて 26 例の減少であった。後天性免疫不全症候群は、93 例の届出があり、前年の 104 例に比べて 11 例の減少となった。バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 18 例の届出があり、前年の 25 例に比べて 7 例の減少となった。麻しんについては、別項で後述する。

全国の 2022 年における四類・五類感染症の届出数を見ると、25,065 例で前年の 20,075 例と比べて 4,990 例の増加となっている。主に、四類感染症で増加した疾患は、回帰熱が 10 例から 25 例に、デング熱が 8 例から 99 例に、サル痘が 0 例から 7 例に、チクングニア熱が 0 例から 6 例に、類鼻疽が 0 例から 2 例に増加した。五類感染症では、急性弛緩性麻痺が 24 例から 41 例に、急性脳炎が 338 例から 398 例に、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が 646 例から 744 例に、侵襲性髄膜炎菌感染症が 1 例から 8 例に、梅毒が 7,978 例から 13,226 例に、バンコマイシン耐性腸球菌感染症が 124 例から 132 例に、薬剤耐性アシネトバクター感染症が 6 例から 13 例にそれぞれ増加している。

一方、減少した主な疾患について見ると、四類感染症では、つつが虫病が 545 例から 493 例に、日本紅斑熱が 487 例から 460 例に、ライム病が 23 例から 14 例にそれぞれ減少していた。五類感染症では、後天性免疫不全症候群 1,054 例から 892 例に、侵襲性肺炎球菌感染症が 1,405 例から 1,345 例に、百日咳は 752 例から 500 例にそれぞれ減少している。

（文責 ： 柿本）

●麻しん

2022 年、大阪府において、麻しんの届出はなかった。全国における 2022 年の届出は 6 例であった。

（文責 ： 柿本）

5．新型インフルエンザ等感染症

●新型コロナウイルス感染症

2022 年における新型コロナウイルス感染症の報告数は、2,347,380 例であった。

（文責 ： 本村）

なお、府ホームページ（https://www.pref.osaka.lg.jp/iryo/2019ncov/cov_kensyou_01.html）に「保健・医療分野における新型コロナウイルス感染症への対応についての検証報告」を公開している。

Ⅳ　検　査　情　報

IV 検 査 情 報

１．ウイルス検査情報（大阪府・大阪市・堺市）

2022 年 1 月から 12 月の間に大阪健康安全基盤研究所微生物部ウイルス課、微生物課、堺市衛生研究所微生物グループにおいて検査を行った検体総数は 575 件であり、2021 年の 784 件から 26.7%減少した。2022 年のウイルス検出総数は 244 例で、2021 年の 376 例に比べて 35.1%減少し、陽性率は 2021 年の 43.5%から 40.7%に減少した。

1）2022 年検出ウイルス

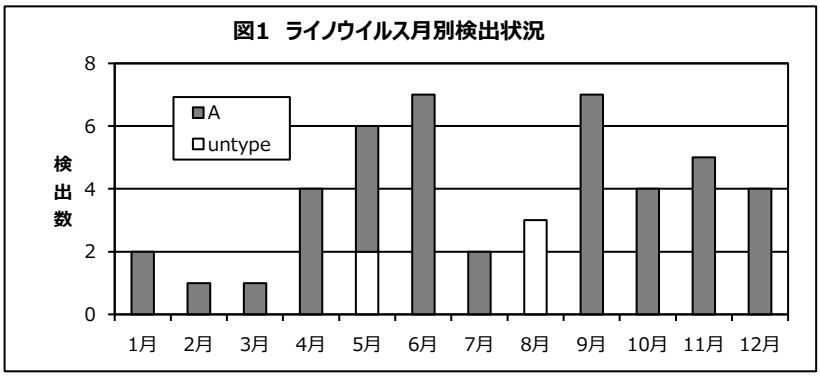
（1）月別ウイルス検出数（表１）

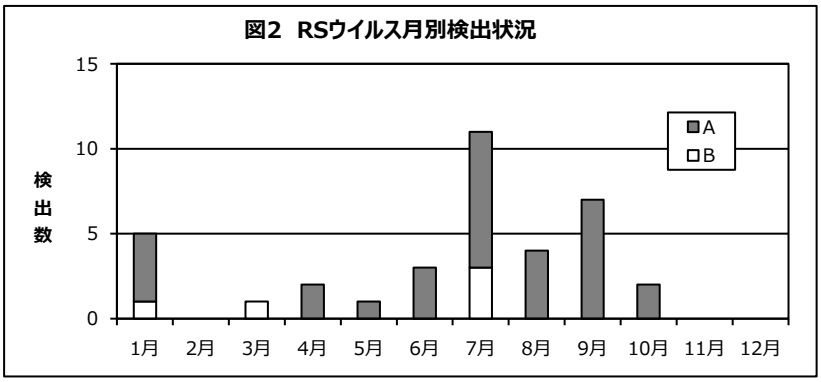
年間で最も多く検出されたウイルスはライノウイルス 44 例で、次いで RS ウイルス 36 例、ノロウイルス 34 例、エンテロウイルス 28 例、アデノウイルス 26 例、サポウイルス 13 例、パレコウイルス 12 例、パラインフルエンザウイルス 12 例、ヒトメタニューモウイルス 9 例、ヘルペスウイルス 8 例、インフルエンザウイルスの 6 例、水痘帯状疱疹ウイルス 6 例、ヒトボカウイルス 5 例、デングウイルス 2 例、コロナウイルス 1 例、E 型肝炎ウイルス 1 例、ロタウイルス 1 例の順であった（表 1）。

月別のウイルス検出数では、9 月が 35 例と最も多く、次いで 6 月 32 例、5 月 29 例、7 月 26 例、11 月 25 例の順であった。1 月（5 例）および 7 月（11 例）は RS ウイルスの検出数が最も多く、5 月はアデノウイルス（13 例）が最も多かった。6 月はノロウイルス（17 例）が最も多かった。8 月および 9 月は、エンテロウイルス（7 例および 13 例）が最も多く、10 月はパレコウイルス（6 例）が最も多かった。11 月はパラインフルエンザウイルス（6 例）が最も多かった。その他の月はいずれのウイルスも 5 例未満の検出であった。

ライノウイルスは年間を通して検出され、6 月および 9 月に各 7 例と最も多く検出され、次いで 5 月に 6 例、11 月に 5 例、4 月、10 月および 12 月に各 4 例、1 月と 7 月に各 2 例の順であった。（図 1）。

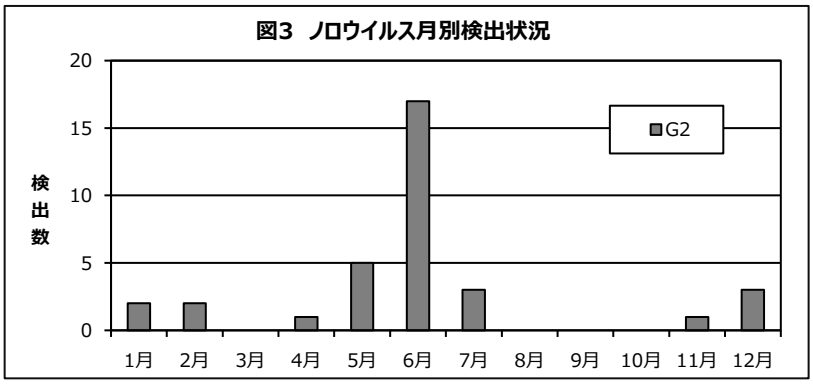
ＲＳウイルスは 1 月および 3 月から 10 月に検出され、7 月

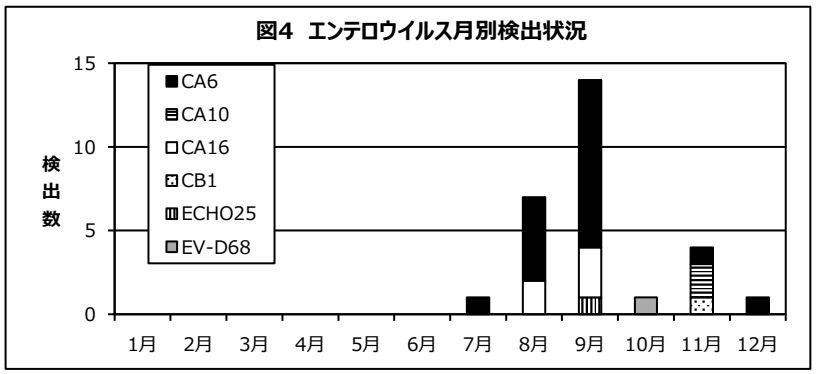




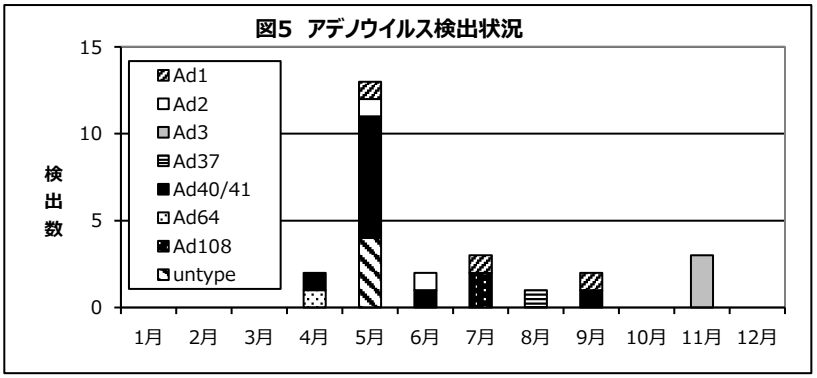
が 11 例と最も多く、次いで 9 月に 7 例、1 月に 5 例、8 月に 4 例、6 月に 3 例、4 月および 10 月に 2 例の順であった。型別では、A 型が 31 例、B 型が 5 例検出された（図 2）。

ノロウイルスは 1 月、2 月、4 月から 7 月、11 月、12 月に検出され、6 月が 17 例と最も多く、次いで 5 月に 5 例、7 月および 12 月に各 3 例、1 月に 2 例の順であった。検出された 34 例すべてが G2 であった（図 3）。





エンテロウイルスは 7 月から 12 月に検出され、9 月に 14 例と最も多く、次いで 8 月に 7 例、12 月に 3 例、11 月に 2 例の順であった。エンテロウイルスの中では、コクサッキーウイルス A6 型が 18 例と最も多く、次いで多かったのはコクサッキーウイルス A16 の 5 例であった（図 4）。



アデノウイルスは 4 月から 9 月および 11 月に検出され、5 月に 13 例と最も多く、次いで 7 月と 11 月に各 3 例、4 月、6 月および 9 月に各 2 例の順であった。型別の検出数は、41 型が 10 例と最も多く、次いで 1 型および 3 型が各 3 例であった（図 5）。

サポウイルスは 1 月から 5 月、7 月および 8 月に検出され、1 月に 4 例と最も多く検出され、次いで 2 月、3 月および 5 月に各 2 例ずつであった。

パレコウイルスは 6 月、7 月、9 月、10 月、12 月に検出され、10 月に 6 例と最も多く、次いで 12 月に 3 例の順であった。

パラインフルエンザウイルス 2 月、3 月および 9 月から 12 月に検出され、11 月に 6 例と最も多く、次いで 3 月に 2 例の順であった。

表１　月別ウイルス検出数 (2022.1～12)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Adenovirus_untype (Ad_untype)					4								4
Adenovirus 1 (Ad1)					1		1		1				3
Adenovirus 2 (Ad2)					1	1							2
Adenovirus 3 (Ad3)											3		3
Adenovirus 37 (Ad37)								1					1
Adenovirus 40/41 (Ad40/41)				1	7	1			1				10
Adenovirus 64 (Ad64)				1									1
Adenovirus 108 (Ad108)							2						2
Coxsackievirus A6 (CA6)							1	5	10		1	1	18
Coxsackievirus A10 (CA10)												2	2
Coxsackievirus A16 (CA16)								2	3				5
Coxsackievirus B1 (CB1)											1		1
Dengue virus 3 (Dengue3)											1		1
Dengue virus 4 (Dengue4)												1	1
Echovirus 25 (ECHO25)									1				1
Enterovirus D68 (EV-D68)										1			1
Influenzavirus AH3 (FLU_AH3)							1	1			2	2	6
Human bocavirus (HBoV)			1		2	2							5
Human coronavirus HKU1 (HCoV-HKU1)			1										1
Hepatitis E virus (HEV)												1	1
Human herpesvirus 6_untype (HHV6_untype)			1	2			1						4
Human herpesvirus 6B (HHV6B)											3		3
human metapneumovirus (hMPV)									3	5	1		9
Human parechovirus_untype (HPeV_untype)							1			4		3	8
Human parechovirus 1 (HPeV1)										1			1
Human parechovirus 3 (HPeV3)						1			1	1			3
Herpes simplex virus 1 (HSV1)		1											1
Norovirus G2_untype (NVG2_untype)	2			1		9							12
Norovirus G2-2　(NVG2-2)					1								1
Norovirus G2-3　(NVG2-3)		1			2	7	3						13
Norovirus G2-4　(NVG2-4)		1			2	1					1	3	8
Human parainfluenzavirus 1 (PIV1)		1	2						1				4
Human parainfluenzavirus 3 (PIV3)										1	6	1	8
Human rhinovirus_untype (Rhino_untype)	2	1	1	4	4	7	2		7	4	5	4	41
Human rhinovirus A (RhinoA)					2			1					3
Rotavirus AG1 (RotaAG1)							1						1
Respiratory syncytial virus A (RSA)	4			2	1	3	8	4	7	2			31
Respiratory syncytial virus B (RSB)	1		1				3						5
Sapovirus_untype (Sapo_untype)								1					1
Sapovirus G1-1 (SapoG1-1)	2	2	2	1	1								8
Sapovirus G2 (SapoG2)							1						1
Sapovirus G2-3 (SapoG2-3)	2				1								3
Varicella zoster virus (VZV)		3		1			1				1		6
計	13	10	9	13	29	32	26	15	35	19	25	18	244

0の場合には空白としている

（2）年齢別ウイルス検出数（表 2）

年齢群別で最も多くウイルスが検出されたのは 1 歳未満の 65 例であった。次いで 1 歳の 64 例、2 歳の 45 例であった。

1 歳未満で最も多く検出されたウイルスはライノウイルスの 13 例で、次いで RS ウイルスの 10 例、パレコウイルスの 8 例、アデノウイルスおよびヘルペスウイルスの各 5 例の順であった。

1 歳で最も多く検出されたウイルスはライノウイルスおよびエンテロウイルスの各 12 例で、次いで RS ウイルスの 10 例、ノロウイルスの 8 例、アデノウイルスの 6 例の順であった。

2 歳で最も多く検出されたウイルスは RS ウイルスの 13 例で、次いでライノウイルスの 8 例、アデノウイルスおよびエンテロウイルスの各 6 例の順であった。

表 2　年齢別ウイルス検出数 (2022.1～12)

年齢（才）	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15以上	不明	計
Ad_untype	1		2			1								4
Ad1	1	2												3
Ad2		1	1											2
Ad3				3										3
Ad37												1		1
Ad41	3	1	3	1	1	1								10
Ad64												1		1
Ad108		2												2
CA6	1	10	3	1			1					2		18
CA10	2													2
CA16		2	2	1										5
CB1	1													1
Dengue3												1		1
Dengue4												1		1
ECHO25	1													1
EV-D68			1											1
FLU_AH3	1	1				2						2		6
HBov	2	1	1	1										5
HCoV-HKU1				1										1
HEV												1		1
HHV6_untype	2	1					1							4
HHV6B	3													3
hMPV	2	4		1		1		1						9
HPeV_untype	6	2												8
HPeV1		1												1
HPeV3	2	1												3
HSV1		1												1
NVG2_untype	3	3	1	2	2		1							12
NVG2-2	1													1
NVG2-3		1	1	2	1	4	3				1			13
NVG2-4		4	2	1				1						8
PIV1	1		2		1									4
PIV3	3	2			2	1								8
Rhino_untype	13	10	8	5	1	1	1	1	1					41
RhinoA		2			1									3
RotaAG1	1													1
RSA	9	10	10	1	1									31
RSB	1		3		1									5
Sapo_untype	1													1
SapoG1-1	3		1	3					1					8
SapoG2							1							1
SapoG2-3			2			1								3
VZV	1	2	2								1			6
計	65	64	45	23	11	12	8	3	2		2	9		244

0の場合には空白としている

2）2022 年検体数およびウイルス陽性率

（1）検体総数およびウイルス陽性率（表 3）

2022 年の検体総数は 575 件で、うちウイルスを検出した陽性検体は 234 件、陽性率 40.8%であった。

（2）月別検体数およびウイルス陽性率（表 3）

検体数が最も多かった月は 6 月の 84 件で、次いで 9 月 56 件、5 月 52 件、7 月 51 件、10 月 49 件の順であった。

6 月は感染性胃腸炎が 38 件で最も多く、この月の検査数の 45.2%（38/84）を占め、次いでその他が 14 件（16.7%）、風しん・麻しんが 11 件（13.1%）、インフルエンザおよび下気道炎が各 4 件（4.8%）であった。9 月は RS ウイルス感染症が 11 件で最も多く、この月の検査数の 19.6%（11/56）を占めており、次いで手足口病が 9 件（16.1%）、その他が 8 件（14.3%）、ヘルパンギーナが 7 件（12.5%）であった。5 月は感染性胃腸炎の 20 件（38.5%、20/52）が最も多く、次いで風しん・麻しん 7 件（13.5%）、咽頭結膜熱 6 件（11.5%）であった。

月別ウイルス陽性率は、9 月 57.1%（32/56）が最も高く、次いで 2 月 55.6%（10/18）、5 月 51.9%（27/52）、11 月 50.0%（22/44）であった。

9 月の陽性率が高いのは、手足口病（陽性率 100.0%、9/9）、RS ウイルス感染症（72.7%、8/11）の割合が高かったことによるものである。2 月は下気道炎（100%、2/2）、感染性胃腸（80%、4/5）、5 月はインフルエンザ（2/2）、手足口病（2/2）、口内炎・上気道炎（3/3）、RS ウイルス感染症（1/1）の陽性率がいずれも 100%であった。

（3）疾患別検体数およびウイルス陽性率（表 3）

疾患別検体数は感染性胃腸炎 125 件（21.7%、125/575）が最も多く、以下、その他 123 件（21.4%）、風しん・麻しん 53 件（9.2%）、RS ウイルス感染症 44 件（7.7%）、無菌性髄膜炎 33 件（5.7%）であった。

感染性胃腸炎は 6 月の検体が 38 件（30.4%、38/125）と最も多く、次いで 5 月 20 件（16.0%）、1 月 15 件（12.0%）、4 月 11 件（8.8%）の順であった。ウイルスが検出された検体は、ノロウイルスが 34 件（27.2%、34/125）と最も多く、次いでサポウイルス 13 件（10.4%）、アデノウイルス 9 件（7.2%）、ロタウイルス 1 件（0.8%）であった。

その他は 12 月の検体が 25 件（20.3%、25/123）と最も多く、次いで 10 月 22 件（17.8%）、11 月 16 件（13.0%）、6 月 14 件（11.4%）の順であった。ウイルスが検出された検体は、ライノウイルスが 12 件（9.8%、12/123）と最も多く、次いでパレコウイルス 11 件（8.9%）、アデノウイルスおよび水痘帯状疱疹ウイルス各 2 件等であった。

風しん・麻しんは 3 月の検体が 12 件（22.6%、12/53）と最も多く、次いで 6 月 11 件（20.8%）、1 月および 7 月各 8 件（15.1%）の順であった。すべての検体について、ウイルスは検出されなかった。

RS ウイルス感染症は 7 月および 9 月の検体が各 11 件（25.0%、11/44）と最も多く、次いで 1 月が 6 件（13.6%）、4 月および 10 月各 4 件（9.1%）の順であった。ウイルスが検出された検体は、RS ウイルスが 29 件（68.9%、29/44）と最も多く、次いでヒトメタニューモウイルス 4 件（9.1%）であった。

無菌性髄膜炎は 9 月の検体が 6 件（18.2%、6/33）と最も多く、次いで 4 月および 5 月各 5 件（15.2%）、3 月、7 月および 10 月各 4 件（12.1%）の順であった。ウイルスが検出された検体はアデノウイルスおよびコクサッキーウイルス A6 型が各 2 件（3.0%、2/33）であった。

疾患別検体のウイルス陽性率は、水痘および流行性角結膜炎・急性出血性結膜炎（各 100%、4/4 および 2/2）が最も高く、次いで下気道炎（86.7%、26/30）、手足口病（76.9%、20/26）、RS ウイルス感染症（75.0%、33/44）の順であり、他は 60%未満であった。RS ウイルス感染症から検出されたウイルスは前述のとおりである。

水痘は、ウイルスが陽性となった検体 4 件すべて（100.0%）から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

流行性角結膜炎・急性出血性結膜炎は、ウイルス陽性となった検体 2 件すべて（100.0%）からアデノウイルスが検出され、37 型が 1 件、64 型が 1 件であった。

下気道炎は、ウイルス陽性となった 26 件のうち、ライノウイルスが 14 件（53.8%）と最も多く検出され、次いでパラインフルエンザウイルスが 10 件（38.5%）、ボカウイルスが 3 件（11.5%）、RS ウイルスが 2 件（7.7%）、アデノウイルスおよびコロナウイルスが各 1 件（3.8%）検出された。

手足口病は、ウイルス陽性となった 20 件のうち、コクサッキーウイルス A6 型が 12 件（60.0%）と最も多く検出され、次いでコクサッキーウイルス A16 型およびライノウイルスが各 4 件（20.0%）検出された。

また、陽性率の低い疾患は、風しん・麻しん（0.0%、0/53）、流行性耳下腺炎（0.0%、0/5）、伝染性紅斑（0.0%、0/1）であった。

（4）検体の種類別検体数およびウイルス陽性率（表 4）

検体の種類別では便・直腸拭い 174 件（30.3%、174/575）が最も検体数が多かった。以下、咽頭拭い液 171 件（29.7%）、鼻汁・鼻腔拭い液 70 件（12.2%）、血液・血清 48 件（8.3%）の順であった。ウイルス陽性率は、結膜拭い液 100.0%（2/2）で最も高かった。次いで鼻汁・鼻腔拭い液 81.4%（57/75）、皮膚拭い液・水疱 60.0%（3/5）の順で、他は 60%未満であった。

検体数の多い疾患について検体の種類をみると、最も多い感染性胃腸炎は、便・直腸拭いが 100%（125/125）を占め、陽性率は 45.6%（57/125）であった。

その他については、便・直腸拭いが 33 件（26.8%、33/123）、血液・血清 26 件（21.1%）、鼻汁・鼻腔拭い液 21 件（17.1%）、髄液 18 件（14.6%）、咽頭拭い液 14 件（11.4%）で、陽性率はそれぞれ 12.1%（4/33）、19.2%（5/26）、61.9%（13/21）、27.8%（5/18）、14.3%（2/14）

であった。

風しん・麻しんは、咽頭ぬぐい液 20 件（37.7、20/53）、血液・血清 17 件（32.1%）、尿 16 件（30.2%）で、陽性率はいずれも 0%であった。

（文責：廣井）

表 3.　月別・疾患別検体数とウイルス陽性数（2022.1～12）

疾患名/月	1	2	3	4	5	6	7
インフルエンザ	2(0)			1(1) Rhino_untype(1)	2(2) Rhino_untype(2)	4(3) Rhino_untype(2) RSA(1)	2(1) FLU_AH3(1)
咽頭結膜熱			1(0)	3(0)	6(4) Ad_untype(2) Ad2(1) Ad41(1)	1(1) Ad2(1)	2(0)
感染性胃腸炎	15(6) NVG2_untype(2) SapoG1-1(2) SapoG2-3(2)	5(4) NVG2-3(1) NVG2-4(1) SapoG1-1(2)	7(2) SapoG1-1(2)	11(3) Ad41(1) NVG2_untype(1) SapoG1-1(1)	20(13) Ad41(6) NVG2-2(1) NVG2-3(2) NVG2-4(2) SapoG1-1(1) SapoG2-3(1)	38(18) Ad41(1) NVG2_untype(9) NVG2-3(7) NVG2-4(1)	9(5) NVG2-3(3) RotaAG1(1) SapoGⅡ(1)
水痘		1(1) VZV(1)		1(1) VZV(1)			1(1) VZV(1)
手足口病		1(0)			2(2) RhinoA(2)	2(0)	1(1) CA6(1)
伝染性紅斑							
突発性発疹			1(1) HHV6_untype(1)	4(2) HHV6B(2)	4(2) HHV6_untype(2)	1(0)	2(1) RSA(1)
ヘルパンギーナ	2(0)	3(1) HSV1(1)				2(0)	3(2) Ad1(1) RSA(1)
流行性耳下腺炎					2(0)	1(0)	1(0)
脳症・脳脊髄炎				4(0)		3(1) Rhino_untype(1)	
無菌性髄膜炎			4(0)	5(0)	5(1) Ad_untype(1)		4(0)
口内炎・上気道炎		1(0)	3(0)	1(0)	3(3) HBov(1) Rhino_untype(2)	2(1) HBov(1)	2(1) RSB(1)
下気道炎	1(1) Rhino_untype(1)	2(2) PIV1(1) Rhino_untype(1)	3(3) HBov(1) HCoV-HKU1(1) PIV1(2) Rhino_untype(1) <<3重複1>>	3(2) Rhino_untype(2)	1(1) Ad_untype(1) HBov(1) <<2重複1>>	4(3) HBov(1) Rhino_untype(2)	
RSウイルス感染症	6(5) RSA(4) RSB(1)		1(1) RSB(1)	4(1) RSA(1)	1(1) RSA(1)	2(2) RSA(2)	11(9) RSA(7) RSB(2)
流行性角結膜炎・急性出血性結膜炎				1(1) Ad64(1)			
その他	6(1) Rhino_untype(1)	5(2) VZV(2)	4(0)	4(2) HHV6_untype(1) Rhino_untype(1)	3(0)	14(3) HPeV3(1) Rhino_untype(2)	7(4) Ad108(2) HPeV_untype(1) Rhino_untype(2) <<2重複1>>
麻しん・風しん	8(0)		12(0)	1(0)	7(0)	11(0)	8(0)
計	40(13)	18(10)	35(6)	39(11)	52(27)	84(32)	51(24)
構成(%)	7.0	3.1	6.1	6.8	9.0	14.6	8.9
陽性(%)	32.5	55.6	17.1	28.2	51.9	38.1	47.1

註：( ) 陽性数、《》2種類以上の検出がみられた検体数

AH3,インフルエンザA香港型;AH1,同ソ連型;B,同B型;Ad,アデノ;CA,コクサッキーA型;CB,同B型;E,エコー;NV,ノロ;HSV,単純ヘルペス;HHV,ヒトヘルペス,hMPVヒトメタニューモ, HBoVヒトボカ, PIVパラインフルエン

8	9	10	11	12	計	構成(%)	陽性(%)	検出ウイルス
3(1) FLU_AH3(1)	1(1) Rhino_untype(1)	6(1) Rhino_untype(1)	5(4) FLU_AH3(2) hMPV(1) Rhino_untype(1)	2(2) FLU_AH3(2)	28(16)	4.9	57.1	FLU_AH3(6) hMPV(1) Rhino_untype(8) RSA(1)
			3(3) Ad3(3)		16(8)	2.8	50.0	Ad_untype(2) Ad2(2) Ad3(3) Ad41(1)
3(1) Sapo_untype(1)	6(1) Ad41(1)	2(0)	2(1) NVG2-4(1)	7(3) NVG2-4(3)	125(57)	21.7	45.6	Ad41(9) NVG2_untype(12) NVG2-2(1) NVG2-3(13) NVG2-4(8) RotaAG1(1) Sapo_untype(1) SapoG1-1(8) SapoG2-3(3) SapoGⅡ(1)
			1(1) VZV(1)		4(4)	0.7	100.0	VZV(4)
8(6) CA16(2) CA6(3) RhinoA(1)	9(9) CA16(2) CA6(7)	1(0)	2(2) CA6(1) Rhino_untype(1)		26(20)	4.5	76.9	CA16(4) CA6(12) Rhino_untype(1) RhinoA(3)
1(0)					1(0)	0.2	0.0	
1(0)	1（1） Ad1(1)	1(0)	4(2) HHV6_untype(1) RSA(1)		19(9)	3.3	47.4	HHV6_untype(4) HHV6B(2) RSA(2) Ad1(1)
5(2) CA6(2)	7(5) CA16(1) CA6(1) ECHO25(1) Rhino_untype(2)	2(2) EV-D68(1) hMPV(1)		1(1) CA6(1)	25(13)	4.3	52.0	Ad1(1) CA16(1) CA6(4) ECHO25(1) EV-D68(1) hMPV(1) HSV1(1) Rhino_untype(2) RSA(1)
			1(0)		5(0)	0.9	0.0	
1(0)		4(0)	6(0)	7(2) CA10(2)	25(3)	4.3	12.0	CA10(2) Rhino_untype(1)
2(0)	6(2) Ad1(1) CA6(2) <<2重複1>>	4(0)	1(0)	2(0)	33(3)	5.7	9.1	Ad_untype(1) Ad1(1) CA6(2) <<2重複1>>
	2(2) hMPV(1) Rhino_untype(1)	1(1) hMPV(1) HPeV1(1) <<2重複1>>	1(1) PIV3(1)		16(9)	2.8	56.3	HBov(2) hMPV(2) HPeV1(1) PIV3(1) Rhino_untype(3) RSB(1) <<2重複1>>
2(1) RSA(1)	3(3) PIV1(1) Rhino_untype(3) RSA(1) <<2重複2>>	3(2) PIV3(1) Rhino_untype(1)	5(5) PIV3(4) Rhino_untype(1)	3(3) PIV3(1) Rhino_untype(2)	30(26)	5.2	86.7	Ad_untype(1) HBov(3) HCoV-HKU1(1) PIV1(4) PIV3(6) Rhino_untype(14) RSA(2) <<2重複3>> <<3重複1>>
3(2) RSA(2)	11(8) hMPV(2) RSA(6)	4(4) hMPV(2) RSA(2)	1(0)		44(33)	7.7	75.0	hMPV(4) RSA(25) RSB(4)
1(1) Ad37(1)					2(2)	0.3	100.0	Ad37(1) Ad64(1)
9(0)	8(1) HPeV3(1)	22(7) hMPV(1) HPeV_untype(4) HPeV3(1) Rhino_untype(2) <<2重複1>>	16(5) CB1(1) Dengue3(1) PIV3(1) Rhino_untype(2)	25(6) Dengue4(1) HEV(1) HPeV_untype(3) Rhino_untype(2) <<2重複1>>	123(31)	21.4	25.2	Ad108(2) CB1(1) Dengue3(1) Dengue4(1) HEV(1) HHV6_untype(1) hMPV(1) HPeV_untype(8) HPeV3(3) PIV3(1) Rhino_untype(12) VZV(2) <<2重複3>>
3(0)	3(0)				53(0)	9.2	0.0	
40(14)	56(32)	49(17)	44(22)	47(17)	575(234)	100.0	40.7	
7.0	9.7	8.5	7.7	8.2	100.0			
35.0	57.1	34.7	50.0	36.2	40.8			

ンザ

表 4.　疾患別にみた検体の種類とウイルス陽性数（2022.1～12）

疾患名/検体名	便・直腸拭い	咽頭拭い液	うがい液	鼻汁・鼻腔拭い液
インフルエンザ		23(11) FLU_AH3(1) hMPV(1) Rhino_untype(8) RSA(1)	1(1) FLU_AH3(1)	4(4) FLU_AH3(4)
咽頭結膜熱	2(2) Ad3(1) Ad41(1)	13(5) Ad_untype(2) Ad2(2) Ad3(1)		1(1) Ad3(1)
感染性胃腸炎	125(57) Ad41(9) NVG2_untype(12) NVG2-2(1) NVG2-3(13) NVG2-4(8) RotaAG1(1) Sapo_untype(1) SapoG1-1(8) SapoG2-3(3) SapoGⅡ(1)			
水痘		2(2) VZV(2)		
手足口病	3(2) CA6(2)	20(17) CA16(4) CA6(9) Rhino_untype(1) RhinoA(3)		1(1) CA6(1)
伝染性紅斑		1(0)		
突発性発疹	2(0)	14(7) Ad1(1) HHV6_untype(3) HHV6B(1) RSA(2)		1(1) HHV6B(1)
ヘルパンギーナ		25(13) Ad1(1) CA16(1) CA6(4) ECHO25(1) EV-D68(1) hMPV(1) HSV1(1) Rhino_untype(2) RSA(1)		
流行性耳下腺炎		5(0)		
脳症・脳脊髄炎	6(1) CA10(1)	2(0)		3(2) CA10(1) Rhino_untype(1)
無菌性髄膜炎	5(2) Ad_untype(1) Ad1(1) CA6(1) <<2重複1>>	4(1) CA6(1)		1(0)
口内炎・上気道炎		8(1) PIV3(1)		7(7) HBov(2) hMPV(1) Rhino_untype(3) RSB(1)
下気道炎		2(1) Rhino_untype(1)		22(20) Ad_untype(1) HBov(3) HCoV-HKU1(1) PIV1(4) PIV3(3) Rhino_untype(11) RSA(2) <<2重複3>>　<<3重複1>>
RSウイルス感染症		33(24) hMPV(4) RSA(18) RSB(2)		10(9) RSA(7) RSB(2)
流行性角結膜炎・急性出血性結膜炎				
その他	33(4) Ad108(1) HPeV_untype(2) HPeV3(1)	14(2) HPeV3(1) PIV3(1)	1(0)	21(13) Ad108(1) hMPV(1) HPeV_untype(3) Rhino_untype(11) <<2重複3>>
麻しん・風しん		20(0)		
計	174(68)	171(77)	2(1)	70(57)
構成(%)	30.3	29.7	0.3	12.2
陽性(%)	39.1	45.0	50.0	81.4

註：( ) 陽性数、《》2種類以上の検出がみられた検体数
AH3,インフルエンザA香港型;AH1,同ソ連型;B,同B型;Ad,アデノ;CA,コクサッキーA型;CB,同B型;E,エコー;NV,ノロ;HSV,単純ヘルペス;HHV,ヒトヘルペス,hMPVヒトメタニューモ, HBoVヒトボカ, PIVパラインフルエンザ,

喀痰・気管吸引液	結膜拭い液	髄液	血液・血清	尿	皮膚拭い液・水疱	吐物	その他	計	構成(%)	陽性(%)
								28(16)	4.9	57.1
								16(8)	2.8	50.0
								125(57)	21.7	45.6
					2(2) VZV(2)			4(4)	0.7	100.0
		1(0)			1(0)			26(20)	4.5	76.9
								1(0)	0.2	0.0
		1(1) HHV6B(1)	1(0)					19(9)	3.3	47.4
								25(13)	4.3	52.0
								5(0)	0.9	0.0
3(0)		7(0)	3(0)	1(0)				25(3)	4.3	12.0
		20(0)	2(0)	1(0)				33(3)	5.7	9.1
1(1) hMPV(1) HPeV1(1) <<2重複1>>								16(9)	2.8	56.3
6(5) PIV3(3) Rhino_untype(2)								30(26)	5.2	86.7
		1(0)						44(33)	7.7	75.0
	2(2) Ad37(1) Ad64(1)							2(2)	0.3	100.0
3(1) Rhino_untype(1)		18(5) CB1(1) HPeV_untype(3) HPeV3(1)	26(5) Dengue3(1) Dengue4(1) HEV(1) HHV6_untype(1) VZV(1)	5(0)	2(1) VZV(1)			123(31)	21.4	25.2
			17(0)	16(0)				53(0)	9.2	0.0
13(7)	2(2)	47(5)	48(5)	23(0)	5(3)	0(0)	0(0)	575(234)	100.0	40.7
2.3	0.3	8.2	8.3	4.0	0.9	0.0	0.0	100.0		
53.8	100.0	10.6	10.4	0.0	60.0	0.0	0.0	40.7		

２．細菌検査情報

１）大阪府内で届け出のあった一類、二類（結核を除く）および三類感染症の病原菌検出状況

大阪府ではこの 1 年間にペスト（一類感染症）、ジフテリア（二類感染症）は発生しなかった。三類感染症は以下のとおりである。

１．コレラ：この一年間に発生はなかった。

２．細菌性赤痢：4 例あり、推定感染国は国内で、*Shigella sonnei* が分離された。

３．腸チフス：この一年間に発生はなかった。

４．パラチフス：この一年間に発生はなかった。

５．腸管出血性大腸菌感染症：210 例の届出があった。その内訳としては、O157 によるものが最も多く 179 例あり、次いで O26 が 14 例であった（表 5）。

表 5　腸管出血性大腸菌の血清群　2022 年

血清群	VT型	感染者数
O157	1	6
	2	59
	1&2	113
	不明	1
O157小計		179
O8	2	1
O26	1	7
O26	2	7
O91	1&2	3
O103	1	2
O113	2	1
O121	2	1
O145	2	1
O148	1	1
O177	2	1
O群不明	1&2	2
O群不明	1	1
O群不明	2	2
O群不明	不明	1
O157以外小計		31
	合計	210

２）四類及び五類感染症の病原菌検出状況

５、７および９月にレジオネラ症として届出のあった患者の喀痰計 3 検体からレジオネラ属菌を分離し、いずれも *Legionella pneumophila*　血清群 1 と同定された。医療機関で分離されたレジオネラ属菌 3 株の血清型別を実施し、それぞれ、*L. pneumophila*　血清群 1、5 および 9 と同定された

５月に侵襲性髄膜炎菌感染症患者の血液から分離された 1 株の血清型別を実施した結果、Y 群と同定された。また、MLST 型は ST1655 であった。薬剤感受性試験では、ST 合剤に中間耐性を示した以外はすべて感受性であった。

定点医療機関から A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者由来咽頭拭い液の提出はなかった。

定点医療機関において感染性胃腸炎患者から分離されたサルモネラ属菌 7 株について血清型別を実施した。それぞれの血清型は 3 株が *Salmonella* Newport、残りの 4 株が *S.* Schwarzengrund、*S.* Stanley、*S.* Manhattan および *S.* Typhimurium 単相性変異株であった。

３）カルバペネム耐性腸内細菌目細菌の検出状況

表 6 に大阪府内で検出されたカルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）の菌種およびカルバペネマーゼ遺伝子保有状況を示した。検出されたカルバペネマーゼ遺伝子型のほとんどが IMP 型であったが、NDM 型、KPC 型がそれぞれ 1 株ずつ *Klebsiella pneumoniae* から検出された。KPC 型が検出されたのは、CRE 感染症が感染症法に基づく 5 類全数把握対象疾患となった 2014 年以降、大阪府内では初めての事例であった。カルバペネマーゼ遺伝子が検出されない菌株の割合（78.7%）は、昨年（65.0%）よりも増加した。

４）劇症型溶血性レンサ球菌感染症調査（近畿地区の成績）

近畿地区内で報告のあった劇症型溶血性レンサ球菌感染症（届出に満たない重症溶血性レンサ球菌感染症を含む）のうち、原因菌株が確保できた 51 例（昨年は 46 例）について解析を実施した（表 7）。原因菌株の血清群ごとの内訳は、A 群が 19 株、B 群が 7 株、G 群が 25 株であった。A 群 19 株のうち、T 蛋白血清型は TB3264 と型別不能（UT）が最も多く（各 7 株、36.8%）、M 蛋白遺伝子型（*emm* 型）については *emm89.0* が最も多かった（7 株、36.8%）。TB3264 の分離比率は昨年の 14.3%から大幅に上昇した。TB3264 および型別不能が多いという結果は、全国と同様の傾向であった。

B 群の莢膜血清型は、V 型が 3 株（42.9%）と最も多く、次いで Ia 型と Ib 型がそれぞれ 2 株（28.6%）であった。G 群の M 蛋白遺伝子型は、 *stG485.0* が最も多く（6 株、24%）、次

いで *stG6792.3* と *stG245.0* が多かった（各 4 株、16%）。

（文責：河合）

表 6　カルバペネム耐性腸内細菌科細菌検出状況

菌種	**株数合計**	カルバペネマーゼ遺伝子型		
		IMP型	その他*	検出されず
Klebsiella pneumoniae	**47**	11	2 (NDM, KPC)	34
Klebsiella aerogenes	**42**	1	0	41
Enterobacter cloacae complex	**41**	7	0	34
Escherichia coli	**19**	11	0	8
Serratia marcescens	**6**	0	0	6
Morganella morganii	**2**	1	0	1
Klebsiella oxytoca	**2**	0	0	2
Citrobacter freundii	**1**	1	0	0
Leclercia adecarboxylata	**1**	1	0	0
Citrobacter koseri/amalonaticus	**1**	0	0	1
Enterobacter sp.	**1**	0	0	1
Lelliottia amnigena	**1**	0	0	1
Proteus vulgaris	**1**	0	0	1
合計	**165**	33	2 (NDM, KPC)	130

*( )内はIMP型以外に検出されたカルバペネマーゼの種類

表 7　劇症型溶血性レンサ球菌感染症例　2022 年　近畿地区

	年齢	性別	発症日	発生区域	診断名	菌種	血清群	血清型	*emm* 型	毒素型	転帰
1	83	F	2022/1/14	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG10.0*		
2	49	F	2022/1/21	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	UT	*emm49.0*	*speB*	死亡
3	96	F	2022	兵庫県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG485.0*		
4	51	M	2022/2/28	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	UT	*emm77.0*	*speB*	
5	77	M	2022/3/2	奈良県	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stC6979.0*		軽快
6	46	M	2022/3/8	和歌山県	劇症型B群レンサ球菌感染症	*S. agalactiae*	B	Ib			
7	72	M	2022	大阪府	重症A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	TB3264	*emm89.0*	*speB, speC*	
8	75	F	2022/3/12	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG6792.3*		
9	62	M	2022/4/2	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	TB3264	*emm89.0*	*speB, speC*	死亡
10	87	F	2022	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	TB3264	*emm89.0*	*speB*	
11	60	F	2022/4/7	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	TB3264	*emm89.0*	*speB, speC*	死亡
12	36	F	2022/4/12	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	T1	*emm1.0*	*speA, speB*	
13	61	M	2022/4/13	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	*S. agalactiae*	B	Ib			
14	79	M	2022/4/24	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	*S. agalactiae*	B	Ia			
15	91	F	2022/5/1	奈良県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG840.0*		
16	20	M	2022	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	UT	*emm81.0*	*speB*	
17	63	F	2022/5/23	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG245.0*		
18	73	M	2022/5/28	京都府	劇症型B群レンサ球菌感染症	*S. agalactiae*	B	V			
19	48	M	2022/6/8	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	*S. agalactiae*	B	V			
20	48	M	2022/6/10	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	UT	*emm49.0*	*speB*	死亡
21	94	F	2022/6/11	和歌山県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG485.0*		
22	64	F	2022/6/20	奈良県	重症B群レンサ球菌感染症	*S. agalactiae*	B	V			
23	82	F	2022/6/25	大阪府	重症A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	TB3264	*emm89.0*	*speB, speC*	
24	79	F	2022/7/1	奈良県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG6792.3*		
25	81	M	2022/7/4	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	TB3264	*emm89.0*	*speB, speC*	
26	65	M	2022/7/5	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stC36.0*		
27	67	M	2022	大阪府	重症A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	T11	*emm11.0*	*speB, speC*	
28	16	M	2022	大阪府	重症A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	T11	*emm44.0*	*speB*	
29	63	F	2022/7/8	奈良県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG652.0*		
30	78	M	2022/7/14	奈良県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG652.1*		
31	67	M	2022/7/19	大阪府	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG5420.0*		
32	66	M	2022/7/28	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG653.0*		死亡
33	63	M	2022/7/28	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG6792.3*		死亡
34	71	F	2022/7/30	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	T13	*emm90.5*	*speB*	
35	53	F	2022/7/31	奈良県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG245.0*		軽快
36	59	F	2022/8/18	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	T9	*emm9.0*	*speB*	
37	54	F	2022/8/22	奈良県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG6.1*		軽快
38	22	F	2022/8/27	奈良県	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	UT	*emm103.0*	*speB*	軽快
39	79	F	2022/9/28	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG485.0*		
40	62	M	2022/10/8	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	UT	*emm81.0*	*speB*	
41	89	M	2022/10/17	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG653.0*		
42	34	F	2022/10/20	奈良県	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	TB3264	*emm89.0*	*speB, speC*	
43	80	M	2022/11/6	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG485.0*		死亡
44	68	M	2022/11/18	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG245.0*		死亡
45	62	M	2022/11	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG245.0*		死亡
46	79	F	2022/11/20	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG485.0*		死亡
47	91	M	2022/11/29	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	*S. pyogenes*	A	UT	*emm77.0*	*speB*	
48	89	M	2022/12/13	奈良県	重症G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG6792.3*		
49	83	F	2022/12/19	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stG485.0*		
50	0	M	2022/12/24	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	*S. agalactiae*	B	Ia			
51	50	M	2022/12/25	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis*	G		*stC74a.0*		死亡

Ｖ　そ　の　他

大阪感染症情報解析委員会　「今週のトピックス」

毎週火曜日に、その前の１週間に府内保健所に報告があった全数把握感染症および、小児科定点把握疾患と眼科定点疾患の数を集計し、水曜日に開催される大阪感染症情報解析委員会において府内における感染症の流行状況を検討し、「今週のトピックス」を決定している。この情報は、大阪府感染症情報センターのホームページ（http://iph.pref.osaka.jp）を通じて広く府民に還元した。

2022 年　小児科・眼科定点把握感染症の報告数上位５疾患とトピックス

週	1位		2位		3位		4位		5位		ＴＯＰＩＣＳ
1	感染性胃腸炎	5.66	RSウイルス感染症	0.31	A群溶連菌咽頭炎	0.27	突発性発しん	0.24	咽頭結膜熱	0.22	インフルエンザは少ない状態が続いている
2	感染性胃腸炎	7.35	A群溶連菌咽頭炎	0.32	RSウイルス感染症	0.25	手足口病	0.25	突発性発しん	0.24	感染性胃腸炎　増加
3	感染性胃腸炎	7.51	RSウイルス感染症	0.29	A群溶連菌咽頭炎	0.28	突発性発しん	0.23	手足口病	0.15	感染性胃腸炎　増加続く
4	感染性胃腸炎	5.63	RSウイルス感染症	0.37	A群溶連菌咽頭炎	0.26	突発性発しん	0.15	流行性角結膜炎	0.13	RSウイルス感染症　増加の兆し
5	感染性胃腸炎	4.07	RSウイルス感染症	0.25	A群溶連菌咽頭炎	0.22	突発性発しん	0.16	咽頭結膜熱	0.12	感染性胃腸炎　減少続く
6	感染性胃腸炎	2.63	A群溶連菌咽頭炎	0.18	突発性発しん	0.18	咽頭結膜熱	0.13	RSウイルス感染症	0.09	感染性胃腸炎　更に減少
7	感染性胃腸炎	2.59	突発性発しん	0.22	A群溶連菌咽頭炎	0.13	RSウイルス感染症	0.11	咽頭結膜熱	0.08	小児科・眼科定点疾患の報告数 減少傾向
8	感染性胃腸炎	2.43	A群溶連菌咽頭炎	0.17	RSウイルス感染症	0.16	突発性発しん	0.09	咽頭結膜熱	0.07	小児科・眼科定点疾患の報告数 減少傾向続く
9	感染性胃腸炎	2.52	A群溶連菌咽頭炎	0.26	突発性発しん	0.13	咽頭結膜熱	0.11	RSウイルス感染症	0.09	小児科・眼科定点疾患の報告数 増加
10	感染性胃腸炎	2.38	突発性発しん	0.18	A群溶連菌咽頭炎	0.11	咽頭結膜熱	0.11	RSウイルス感染症	0.08	小児科・眼科定点疾患の報告数 減少
11	感染性胃腸炎	2.19	突発性発しん	0.24	A群溶連菌咽頭炎	0.13	咽頭結膜熱	0.11	RSウイルス感染症	0.10	感染性胃腸炎 減少
12	感染性胃腸炎	1.74	突発性発しん	0.23	A群溶連菌咽頭炎	0.15	流行性角結膜炎	0.08	咽頭結膜熱	0.06	小児科・眼科定点疾患の報告数 大きく減少
13	感染性胃腸炎	1.82	突発性発しん	0.28	A群溶連菌咽頭炎	0.27	咽頭結膜熱	0.10	RSウイルス感染症	0.09	小児科・眼科定点疾患の報告数 少ない状況続く
14	感染性胃腸炎	1.87	突発性発しん	0.30	A群溶連菌咽頭炎	0.27	咽頭結膜熱	0.08	水痘	0.06	小児科定点・眼科定点疾患報告数　ほぼ横ばい
15	感染性胃腸炎	2.43	突発性発しん	0.28	A群溶連菌咽頭炎	0.26	RSウイルス感染症	0.14	咽頭結膜熱	0.10	感染性胃腸炎 増加
16	感染性胃腸炎	2.85	突発性発しん	0.42	A群溶連菌咽頭炎	0.31	RSウイルス感染症	0.25	咽頭結膜熱	0.18	感染性胃腸炎 さらに増加
17	感染性胃腸炎	2.76	突発性発しん	0.35	RSウイルス感染症	0.23	A群溶連菌咽頭炎	0.21	咽頭結膜熱	0.17	咽頭結膜熱　増加
18	感染性胃腸炎	2.76	突発性発しん	0.38	A群溶連菌咽頭炎	0.20	咽頭結膜熱	0.19	流行性角結膜炎	0.16	
19	感染性胃腸炎	3.86	突発性発しん	0.36	咽頭結膜熱	0.35	A群溶連菌咽頭炎	0.32	RSウイルス感染症	0.17	感染性胃腸炎 増加
20	感染性胃腸炎	4.50	A群溶連菌咽頭炎	0.40	咽頭結膜熱	0.37	突発性発しん	0.36	RSウイルス感染症	0.25	感染性胃腸炎　増加つづく
21	感染性胃腸炎	4.98	咽頭結膜熱	0.64	RSウイルス感染症	0.36	A群溶連菌咽頭炎	0.30	突発性発しん	0.30	咽頭結膜熱　増加
22	感染性胃腸炎	5.27	咽頭結膜熱	0.54	A群溶連菌咽頭炎	0.50	突発性発しん	0.44	RSウイルス感染症	0.43	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加
23	感染性胃腸炎	6.14	咽頭結膜熱	0.76	RSウイルス感染症	0.49	A群溶連菌咽頭炎	0.36	突発性発しん	0.32	感染性胃腸炎　増加つづく
24	感染性胃腸炎	6.40	RSウイルス感染症	0.88	咽頭結膜熱	0.82	A群溶連菌咽頭炎	0.49	突発性発しん	0.30	RSウイルス感染症　さらに増加
25	感染性胃腸炎	5.60	RSウイルス感染症	1.35	咽頭結膜熱	0.70	A群溶連菌咽頭炎	0.39	突発性発しん	0.30	RSウイルス感染症　増加続く
26	感染性胃腸炎	5.21	RSウイルス感染症	2.67	咽頭結膜熱	0.63	手足口病	0.30	A群溶連菌咽頭炎	0.29	RSウイルス感染症　急増
27	感染性胃腸炎	5.22	RSウイルス感染症	4.33	手足口病	0.54	A群溶連菌咽頭炎	0.53	咽頭結膜熱	0.53	RSウイルス感染症　増加継続
28	RSウイルス感染症	6.49	感染性胃腸炎	4.26	手足口病	0.48	咽頭結膜熱	0.38	突発性発しん	0.33	RSウイルス感染症　過去最高の報告数
29	RSウイルス感染症	7.23	感染性胃腸炎	3.21	手足口病	0.47	咽頭結膜熱	0.32	突発性発しん	0.32	RSウイルス感染症　前週に引き続き最高報告数を更新
30	RSウイルス感染症	6.39	感染性胃腸炎	2.86	手足口病	0.68	咽頭結膜熱	0.36	流行性角結膜炎	0.29	RSウイルス感染症　やや減少
31	RSウイルス感染症	5.97	感染性胃腸炎	2.24	手足口病	0.66	突発性発しん	0.25	A群溶連菌咽頭炎	0.24	RSウイルス感染症の減少つづく
32	RSウイルス感染症	3.51	感染性胃腸炎	1.38	手足口病	0.59	ヘルパンギーナ	0.22	A群溶連菌咽頭炎	0.20	RSウイルス感染症 さらに減少
33	RSウイルス感染症	2.68	感染性胃腸炎	1.44	手足口病	0.78	ヘルパンギーナ	0.21	突発性発しん	0.15	手足口病　増加
34	RSウイルス感染症	2.29	感染性胃腸炎	1.88	手足口病	1.57	ヘルパンギーナ	0.42	流行性角結膜炎	0.27	手足口病・ヘルパンギーナ 増加
35	RSウイルス感染症	2.13	感染性胃腸炎	2.13	手足口病	1.81	ヘルパンギーナ	0.47	A群溶連菌咽頭炎	0.25	手足口病・ヘルパンギーナ 増加続く
36	RSウイルス感染症	2.43	手足口病	2.31	感染性胃腸炎	2.22	ヘルパンギーナ	0.60	突発性発しん	0.30	手足口病・ヘルパンギーナ 増加継続
37	手足口病	2.23	RSウイルス感染症	2.16	感染性胃腸炎	1.81	ヘルパンギーナ	0.55	A群溶連菌咽頭炎	0.30	手足口病・ヘルパンギーナ 今後の動向に注意が必要
38	手足口病	1.89	感染性胃腸炎	1.73	RSウイルス感染症	1.03	ヘルパンギーナ	0.43	A群溶連菌咽頭炎	0.33	RSウイルス感染症　減少
39	手足口病	2.08	感染性胃腸炎	1.80	RSウイルス感染症	0.83	ヘルパンギーナ	0.55	A群溶連菌咽頭炎	0.36	手足口病・ヘルパンギーナ　再び増加
40	手足口病	2.05	感染性胃腸炎	1.92	RSウイルス感染症	0.70	ヘルパンギーナ	0.47	A群溶連菌咽頭炎	0.43	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加
41	手足口病	1.91	感染性胃腸炎	1.66	A群溶連菌咽頭炎	0.56	RSウイルス感染症	0.55	ヘルパンギーナ	0.37	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加続く
42	感染性胃腸炎	2.04	手足口病	1.71	A群溶連菌咽頭炎	0.60	ヘルパンギーナ	0.55	RSウイルス感染症	0.39	ヘルパンギーナ　増加
43	感染性胃腸炎	1.98	手足口病	1.28	A群溶連菌咽頭炎	0.60	ヘルパンギーナ	0.47	RSウイルス感染症	0.28	インフルエンザ　増加
44	感染性胃腸炎	2.15	手足口病	1.24	A群溶連菌咽頭炎	0.54	ヘルパンギーナ	0.46	突発性発しん	0.29	
45	感染性胃腸炎	2.32	手足口病	1.09	A群溶連菌咽頭炎	0.47	ヘルパンギーナ	0.41	RSウイルス感染症	0.28	インフルエンザ　増加続く
46	感染性胃腸炎	2.91	手足口病	0.96	ヘルパンギーナ	0.43	A群溶連菌咽頭炎	0.42	突発性発しん	0.24	インフルエンザ　今後の動向に注意
47	感染性胃腸炎	2.99	手足口病	0.87	A群溶連菌咽頭炎	0.45	ヘルパンギーナ	0.37	突発性発しん	0.24	インフルエンザ　ほぼ横ばい
48	感染性胃腸炎	3.32	手足口病	0.84	ヘルパンギーナ	0.41	A群溶連菌咽頭炎	0.35	突発性発しん	0.27	感染性胃腸炎　増加
49	感染性胃腸炎	3.69	手足口病	0.92	A群溶連菌咽頭炎	0.42	ヘルパンギーナ	0.41	突発性発しん	0.26	感染性胃腸炎　さらに増加
50	感染性胃腸炎	4.14	手足口病	0.62	A群溶連菌咽頭炎	0.38	ヘルパンギーナ	0.33	突発性発しん	0.19	感染性胃腸炎とインフルエンザ 増加続く
51	感染性胃腸炎	4.82	手足口病	0.44	A群溶連菌咽頭炎	0.34	ヘルパンギーナ	0.27	突発性発しん	0.19	インフルエンザ　流行期入り
52	感染性胃腸炎	3.15	A群溶連菌咽頭炎	0.25	手足口病	0.24	突発性発しん	0.17	RSウイルス感染症	0.14	2023年第1週との合併

注1：疾患名は小児科定点・眼科定点の対象疾患です。注2：週遅れデータは含まれていません。
注3：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はA群溶連菌咽頭炎と表示しています。

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第1週（1月3日～1月9日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～　手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉･密集･密接の回避が重要

定点把握感染症

「インフルエンザは少ない状態が続いている」

第1週は年始のため医療機関の診療実日数の減少を考慮する必要がある。2022年第1週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,399例であり、前週比14.4%増であった。
定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位５疾患の定点あたり報告数はそれぞれ5.66、0.31、0.27、0.24、0.22である。
感染性胃腸炎は前週比15%増の1,116例で、南河内9.69、大阪市西部9.20、中河内7.10、大阪市北部6.57、北河内6.19であった。
RSウイルス感染症は前週と増減なしの61例で、大阪市北部1.36、南河内・大阪市東部0.50である。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比125%増の54例で、中河内0.85、大阪市南部0.42、北河内･南河内0.38であった。
咽頭結膜熱は前週比72%増の43例で、大阪市西部0.60、泉州0.45、南河内0.31である。
インフルエンザは4例、定点あたり報告数は0.01と少ない状態が続いている。

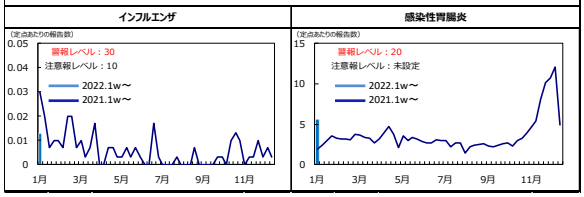


表１．大阪府小児科･眼科定点把握感染症の動向（2022年 第1週1月3日～1月9日）

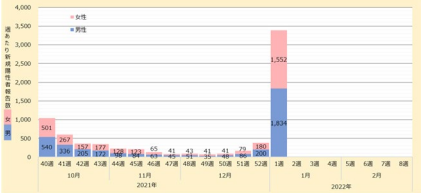
第1週の順位	第52週の順位	感染症	2022年第1週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第1週の定点あたり報告数	2022年第1週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.66	15%増	1.93	１歳_21%
2	3	RSウイルス感染症	0.31	0%増	0.06	１歳未満_34%
3	6	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.27	125%増	0.38	３歳_26%
4	4	突発性発しん	0.24	41%増	0.28	１歳_54%
5	5	咽頭結膜熱	0.22	72%増	0.21	１歳_40%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.01	300%増	0.03	10-14歳(2例)_50%

第1週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第1週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は3,390名であり、前週より892%増加した。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は2021年9月30日に解除された。現在、大阪モデルは警戒信号（黄）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日（多くは５～6日）であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避など新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)
新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第1週1月3日～1月9日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数府内累積
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1				1					1
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1						1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1				1					1
	梅毒	5				1				4	5
	百日咳	1								1	1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	3,390	2020年1月以降累計　207,307								

結核（2021年11月分）	結核　新登録患者数：81名　（内　肺･喀痰塗抹陽性　30名）（府内累積報告数　1,065名、内　肺･喀痰塗抹陽性　412名）

（2022年1月11日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第2週（1月10日～1月16日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　増加」

第2週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,724例であり、前週比23.2%増であった。
定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症･手足口病、突発性発しんの順で、上位５疾患の定点あたり報告数はそれぞれ7.35、0.32、0.25、0.25、0.24である。
感染性胃腸炎は前週比30%増の1,447例で、大阪市南部10.58、南河内10.44、泉州9.65、大阪市西部8.40、中河内8.00であった。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%増の64例で、中河内0.90、大阪市南部0.68、南河内0.44である。
RSウイルス感染症は20%減の49例で、大阪市北部0.93、大阪市東部0.86、大阪市西部0.60であった。
手足口病は29%増の49例で、三島0.69、中河内0.55、泉州0.45である。
インフルエンザは5例、定点あたり報告数は0.02と少ない状態が続いている。

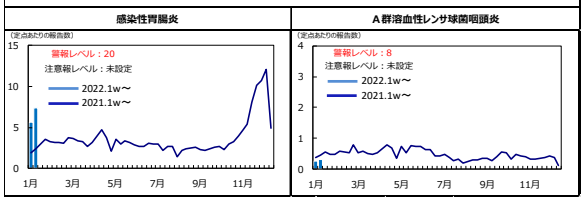


表１．大阪府小児科･眼科定点把握感染症の動向（2022年 第2週1月10日～1月16日）

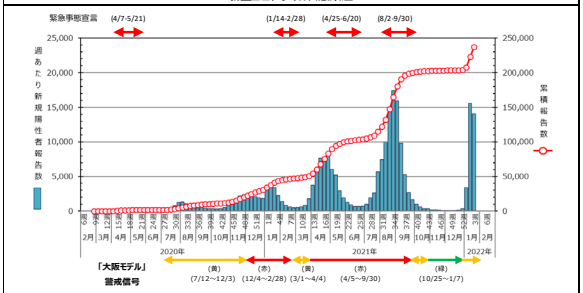
第2週の順位	第1週の順位	感染症	2022年第2週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第2週の定点あたり報告数	2022年第2週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	7.35	30%増	2.34	２歳_19%
2	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	19%増	0.45	５歳_16%
3	2	RSウイルス感染症	0.25	20%減	0.17	１歳_33%
3	6	手足口病	0.25	29%増	0.01	１歳_29%
5	4	突発性発しん	0.24	0%増	0.31	１歳_44%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.02	25%増	0.02	１歳未満，２歳，５歳，８歳，15-19歳,_20%

第2週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第2週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は15,553名であり、前週より459%増加した。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は2021年9月30日に解除された。現在、大阪モデルは警戒信号（黄）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫･エアロゾル･接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避など新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第2週1月10日～1月16日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数府内累積
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2					1			1	6
	後天性免疫不全症候群	1								1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1			1						2
	梅毒	1	1								7
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	15,553	2020年1月以降累計　222,860								

結核（2021年11月分）	結核　新登録患者数：81名　（内　肺･喀痰塗抹陽性　30名）（府内累積報告数　1,065名、内　肺･喀痰塗抹陽性　412名）

（2022年1月18日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第3週（1月17日～1月23日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　増加続く」

第3週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,726例であり、前週より2例増とほぼ横ばいであった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、手足口病の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ7.51、0.29、0.28、0.23、0.15である。

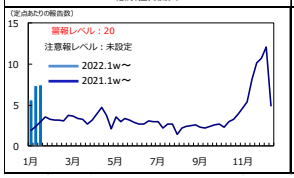
感染性胃腸炎は前週比2%増の1,479例で、南河内14.69、泉州10.65、大阪市北部10.07、北河内8.69、堺市8.21であった。

RSウイルス感染症は18%増の58例で、南河内0.88、北河内0.50、堺市0.37である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は13%減の56例で、泉州0.55、中河内0.50、大阪市東部0.43であった。

手足口病は41%減の29例で、堺市0.37、三島・南河内0.31である。

感染性胃腸炎



RSウイルス感染症

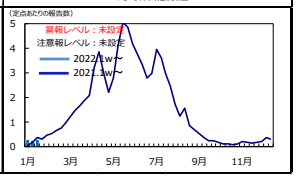


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第3週1月17日～1月23日）

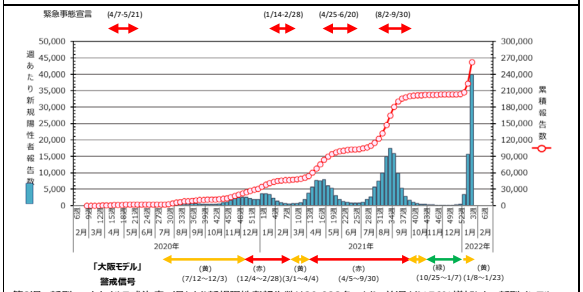
第3週の順位	第2週の順位	感染症	2022年第3週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第3週の定点あたり報告数	2022年第3週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	7.51	2%増	2.95	2歳_20%
2	3	RSウイルス感染症	0.29	18%増	0.39	2歳_31%
3	2	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.28	13%減	0.55	3歳_18%
4	5	突発性発しん	0.23	4%減	0.39	1歳_41%
5	3	手足口病	0.15	41%減	0.04	2歳_41%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.02	40%増	0.01	20歳以上(4例)_57%

第3週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第3週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は39,823名であり、前週より156%増加した。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は2021年9月30日に解除された。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第3週1月17日～1月23日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（　）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1					1				5
５類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	4
	水痘（入院例）	1								1	1
	梅毒	5					1			4	32
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	39,823	2020年1月以降累計　262,683								
結核（2021年11月分）	結核　新登録患者数：81名（内　肺・喀痰塗抹陽性　30名）（府内累積報告数　1,065名、内　肺・喀痰塗抹陽性　412名）										

（2022年1月25日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第4週（1月24日～1月30日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～　手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　増加の兆し」

第４週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,340例であり、前週比22%減であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、流行性角結膜炎の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ5.63、0.37、0.26、0.15、0.13である。

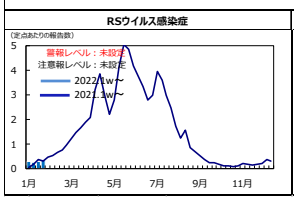
感染性胃腸炎は前週比25%減の1,109例で、南河内9.31、泉州8.30、堺市6.58、中河内6.00、大阪市北部5.86であった。

RSウイルス感染症は24%増の72例で、南河内1.19、大阪市北部1.00、大阪市南部0.53である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9%減の51例で、大阪市南部0.79、泉州0.70、北河内0.31であった。

流行性角結膜炎は75%増の7例で、泉州・大阪市東部0.33、大阪市南部0.25である。

RSウイルス感染症



感染性胃腸炎

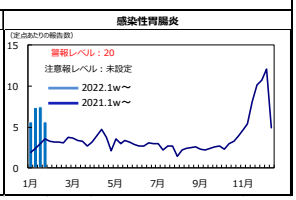


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第4週1月24日～1月30日）

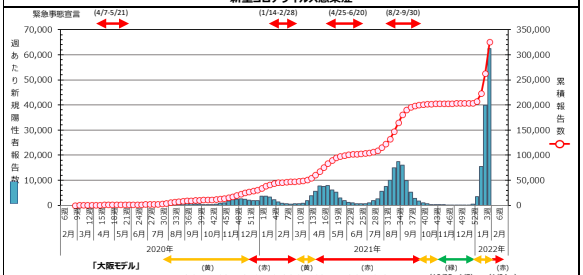
第4週の順位	第3週の順位	感染症	2022年第4週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第4週の定点あたり報告数	2022年第4週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.63	25%減	3.57	2歳_17%
2	2	RSウイルス感染症	0.37	24%増	0.32	1歳_42%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	9%減	0.48	10-14歳_20%
4	4	突発性発しん	0.15	35%減	0.38	1歳_57%
5	8	流行性角結膜炎	0.13	75%増	0.17	20歳以上_100%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.01	43%減	0.01	20歳以上(4例)_100%

第4週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第4週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は62,431名であり、前週より57%増加した。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は2021年9月30日に解除された。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第4週1月24日～1月30日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（　）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1						1			8
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	1							1	10
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1								2
	侵襲性肺炎球菌感染症	1			1						6
	梅毒	11	1	1				1		8	66
	百日咳	1								1	4
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	62,431	2020年1月以降累計　325,114								
結核（2021年11月分）	結核　新登録患者数：81名（内　肺・喀痰塗抹陽性　30名）（府内累積報告数　1,065名、内　肺・喀痰塗抹陽性　412名）										

（2022年2月1日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第5週（1月31日～2月6日）

今週のコメント

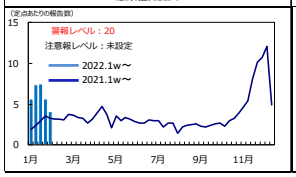
～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　減少続く」

第5週 の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 984例であり、前週比 26.6%減であった。
報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位５疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 4.07、0.25、0.22、0.16、0.12である。
感染性胃腸炎は前週比28減の801例で、南河内7.06、中河内5.30、泉州5.20、北河内4.08、大阪市北部4.07であった。
RSウイルス感染症は32%減の49例で、南河内0.94、大阪市南部0.74、大阪市北部0.43である。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は14%減の44例で、中河内・泉州0.55、三島0.38であった。
咽頭結膜熱は33%増の24例で、大阪市北部0.36、泉州0.25、北河内0.19である。

感染性胃腸炎



ＲＳウイルス感染症

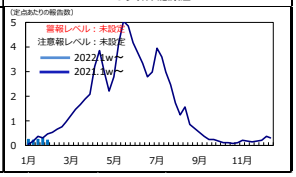


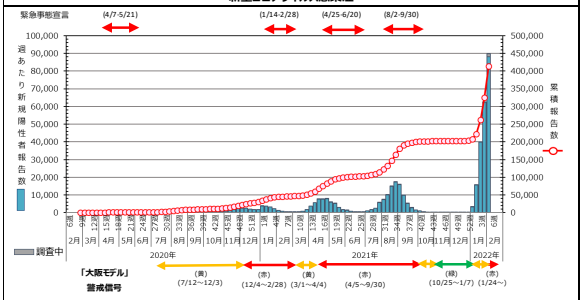
表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第5週1月31日～2月6日）

第5週の順位	第4週の順位	感染症	2022年第5週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第5週の定点あたり報告数	2022年第5週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.07	28%減	3.31	１歳_15%
2	2	RSウイルス感染症	0.25	32%減	0.46	１歳未満_27%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.22	14%減	0.49	20歳以上_20%
4	4	突発性発しん	0.16	3%増	0.40	１歳_48%
5	7	咽頭結膜熱	0.12	33%増	0.27	１歳_46%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.02	25%増	0.01	20歳以上(2例)_40%

第5週のコメント
～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第5週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は88,093名であり、前週より41%増加した。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は2021年9月30日に解除された。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第5週1月31日～2月6日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数府内累積
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2					1			1	10
５類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	2								2	9
	梅毒	7	1						1	5	75
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	88,093	2020年1月以降累計　413,207								
結核（2021年12月分）	結核　新登録患者数：104名（内　肺・喀痰塗抹陽性　33名）（府内累積報告数　1,178名、内　肺・喀痰塗抹陽性　449名）										

（2022年2月8日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第6週（2月7日～2月13日）

今週のコメント

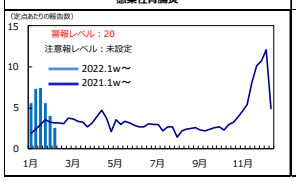
～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　更に減少」

第6週 の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 648例であり、前週比34.1%減であった。
報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発しん、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の順で、上位５疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 2.63、0.18、0.18、0.13、0.09である。
感染性胃腸炎は前週比35%減の519例で、南河内3.94、中河内3.75、三島3.19、泉州2.85、堺市2.79であった。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は20%減の35例で、泉州0.50、中河内0.40、大阪市南部0.26である。
咽頭結膜熱は8%増の26例で、大阪市北部0.57、大阪市東部0.21、豊能0.17であった。
RSウイルス感染症は63%減の18例で、南河内0.25、北河内0.19、堺市0.16である。
新型コロナウイルス感染症の蔓延に対する休園・休校により、その他の感染症の発生が抑制されている可能性がある。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

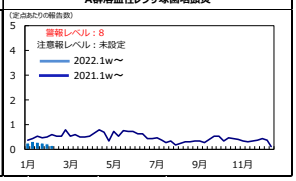


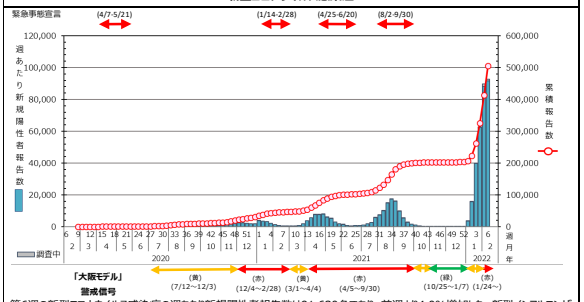
表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第6週2月7日～2月13日）

第6週の順位	第5週の順位	感染症	2022年第6週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第6週の定点あたり報告数	2022年第6週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.63	35%減	3.14	２歳_18%
2	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.18	20%減	0.59	４歳５歳10-14歳_17%
2	4	突発性発しん	0.18	13%増	0.34	１歳_60%
4	5	咽頭結膜熱	0.13	8%増	0.15	１歳_50%
5	2	RSウイルス感染症	0.09	63%減	0.54	１歳未満_44%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.01	20%減	0.01	10-14歳(2例)_50%

第6週のコメント
～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第6週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は91,630名であり、前週より4.0%増加した。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は2021年9月30日に解除された。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第6週2月7日～2月13日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1								1	1
５類感染症	アメーバ赤痢	1								1	6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1								1
	梅毒	5			1		1			3	89
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	91,630	2020年1月以降累計　504,832								
結核（2021年12月分）	結核　新登録患者数：104名（内　肺・喀痰塗抹陽性　33名）（府内累積報告数　1,178名、内　肺・喀痰塗抹陽性　449名）										

（2022年2月15日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第7週（2月14日～2月20日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「小児科・眼科定点疾患の報告数 減少傾向」

第7週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は637例であり、 前週比1.7%減であった。先週に引き続き1,000例未満で少ない状況である。

定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.59、0.22、0.13、0.11、0.08であった。

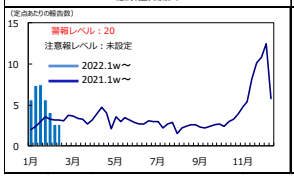
感染性胃腸炎は前週比2%減の511例で、中河内4.00、南河内3.44、大阪市南部3.37、泉州3.00、北河内2.88である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は26%減の26例で、泉州0.55、中河内0.25、大阪市南部0.16であった。

RSウイルス感染症は17%増の21例で、大阪市北部0.57、南河内0.31、大阪市南部0.16である。

咽頭結膜熱は42%減の15例で、大阪市北部0.43、大阪市西部0.30、泉州0.10であった。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

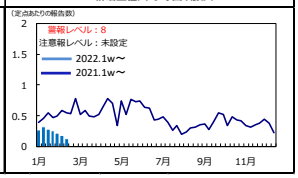


表１．大阪府小児科･眼科定点把握感染症の動向（2022年 第7週2月14日～2月20日）

第7週の順位	第6週の順位	感染症	2022年第7週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第7週の定点あたり報告数	2022年第7週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.59	2%減	3.20	2歳_17%
2	2	突発性発しん	0.22	26%増	0.32	1歳_39%
3	2	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.13	26%減	0.55	4歳,8歳,10-14歳_15%
4	5	RSウイルス感染症	0.11	17%増	0.66	1歳_43%
5	4	咽頭結膜熱	0.08	42%減	0.13	2歳_20%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.00	100%減	0.02	

第7週のコメント

～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にあったが、大阪府における2021年の報告数は、2年連続で1,000例を下回った。

梅毒は、性行為･オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)
梅毒とは(国立感染症研究所)

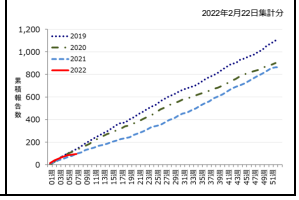


表２．大阪府全数報告数（2022年 第7週2月14日～2月20日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数 府内累積
４類感染症	E型肝炎	1					1				1
５類感染症	急性脳炎	1							1		1
	梅毒	5	1			2	1	1			94
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	79,327	2020年1月以降累計　584,149								
結核（2021年12月分）	結核　新登録患者数：104名（内　肺･喀痰塗抹陽性　33名）（府内累積報告数　1,178名、内　肺･喀痰塗抹陽性　449名）										

（2022年2月22日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第8週（2月21日～2月27日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「小児科・眼科定点疾患の報告数 減少傾向続く」

第8週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は592例であり、前週比7.1%減であった。

定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.43、0.17、0.16、0.09、0.07である。

感染性胃腸炎は前週比6%減の478例で、中河内3.75、南河内3.38、大阪市北部3.14、大阪市南部2.58、泉州2.40であった。

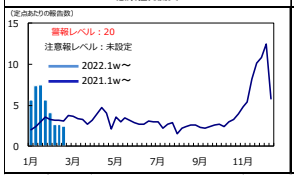
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は27%増の33例で、大阪市南部0.58、中河内0.40、大阪市北部0.29である。

RSウイルス感染症は48%増の31例で、大阪市西部0.90、三島･南河内0.38であった。

咽頭結膜熱は7%減の14例で、大阪市北部0.36、三島0.19、堺市0.11である。

第5週以降、小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計が1,000例未満という状況が続いている。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

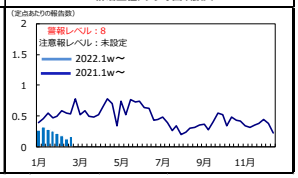


表１．大阪府小児科･眼科定点把握感染症の動向（2022年 第8週2月21日～2月27日）

第8週の順位	第7週の順位	感染症	2022年第8週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第8週の定点あたり報告数	2022年第8週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.43	6%減	3.07	2歳_14%
2	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.17	27%増	0.54	5歳_21%
3	4	RSウイルス感染症	0.16	48%増	0.76	2歳_32%
4	2	突発性発しん	0.09	59%減	0.28	1歳_56%
5	5	咽頭結膜熱	0.07	7%減	0.13	2歳_43%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.00		0.02	10-14歳(1例)_100%

第8週のコメント

～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にあったが、大阪府における2021年の報告数は、2年連続で1,000例を下回った。

梅毒は、性行為･オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)
梅毒とは(国立感染症研究所)

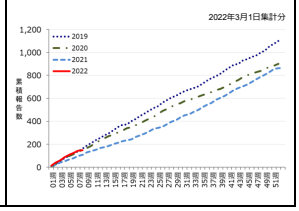


表２．大阪府全数報告数（2022年 第8週2月21日～2月27日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数 府内累積
３類感染症	細菌性赤痢	1							1		1
	腸管出血性大腸菌感染症	1								1	2
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1							15
	後天性免疫不全症候群	1			1						9
	梅毒	4					1		1	2	148
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	58,417	2020年1月以降累計　642,552								
結核（2021年12月分）	結核　新登録患者数：104名（内　肺･喀痰塗抹陽性　33名）（府内累積報告数　1,178名、内　肺･喀痰塗抹陽性　449名）										

（2022年3月1日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）

2022年 第9週（2月28日～3月6日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「小児科・眼科定点疾患の報告数 増加」

第9週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は639例であり、前週比7.9%増であった。

定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.52、0.26、0.13、0.11、0.09である。

感染性胃腸炎は前週比4%増の496例で、中河内3.70、南河内3.63、三島2.94、豊能2.61、大阪市南部2.47であった。

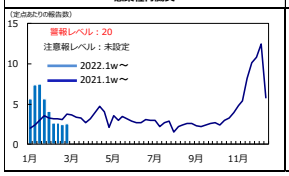
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は55%増の51例で、大阪市南部0.58、中河内0.45、南河内0.44である。

咽頭結膜熱は57%増の22例で、大阪市北部0.71、三島0.19、北河内0.15であった。

RSウイルス感染症は45%減の17例で、大阪市北部0.36、大阪市南部0.16、大阪市東部0.14である。

第4週以降、小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計の減少が続いていたが、第9週は増加がみられた。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

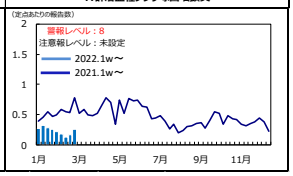


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第9週2月28日～3月6日）

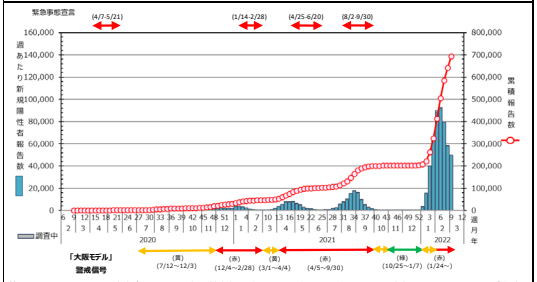
第9週の順位	第8週の順位	感染症	2022年第9週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第9週の定点あたり報告数	2022年第9週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.52	4%増	3.76	2歳_13%
2	2	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	55%増	0.79	20歳以上_14%
3	4	突発性発しん	0.13	39%増	0.30	1歳_56%
4	5	咽頭結膜熱	0.11	57%増	0.15	1歳_41%
5	3	RSウイルス感染症	0.09	45%減	0.94	1歳_35%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.03	700%増	0.01	3歳,15-19歳,_25%

第9週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第9週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は49,825名であり、前週より15%減少した。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は2021年9月30日に解除された。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第9週2月28日～3月6日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞[週報]＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	細菌性赤痢	2							2		3
	腸管出血性大腸菌感染症	3			3						5
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1			1						12
5類感染症	アメーバ赤痢	2					1			1	10
	梅毒	6			1	2				3	161
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1								1	3
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	####	2020年1月以降累計 692,351								
結核（2022年1月分）	結核　新登録患者数：52名（内　肺・喀痰塗抹陽性　23名）（府内累積報告数　52名、内　肺・喀痰塗抹陽性　23名）										

（2022年3月8日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）

2022年 第10週（3月7日～3月13日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「小児科・眼科定点疾患の報告数 減少」

第10週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は590例であり、前週比7.7%減であった。

定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.38、0.18、0.11、0.11、0.08である。

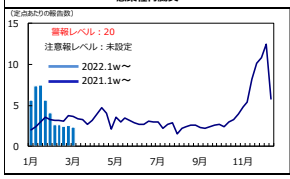
感染性胃腸炎は前週比5%減の469例で、中河内3.25、三島3.13、大阪市北部3.07、南河内2.88、大阪市南部2.53であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は57%減の22例で、北河内0.23、三島0.19、泉州・中河内0.15である。

咽頭結膜熱は5%減の21例で、大阪市北部0.93、北河内0.15、中河内・大阪市西部0.10であった。

RSウイルス感染症は6%減の16例で、中河内0.30、大阪市西部0.20、大阪市北部・大阪市東部0.14である。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

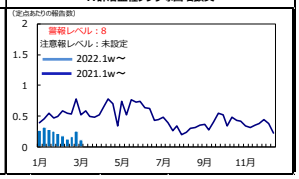


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第10週3月7日～3月13日）

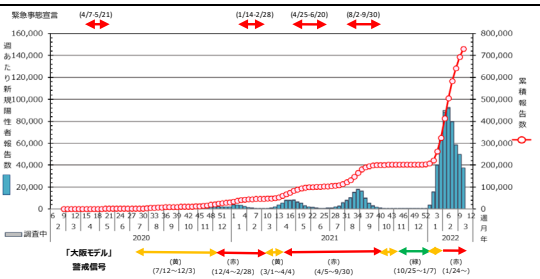
第10週の順位	第9週の順位	感染症	2022年第10週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第10週の定点あたり報告数	2022年第10週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.38	5%減	3.68	2歳_15%
2	3	突発性発しん	0.18	44%増	0.37	1歳_53%
3	2	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.11	57%減	0.53	4歳,20歳以上,_18%
4	4	咽頭結膜熱	0.11	5%減	0.14	4歳_48%
5	5	RSウイルス感染症	0.08	6%減	1.21	1歳_44%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.00	100%減	0.01	

第10週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第10週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は37,382名であり、前週より25%減少した。新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言は2021年9月30日に解除された。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第10週3月7日～3月13日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞[週報]＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	細菌性赤痢	1							1		4
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2			1					1	14
5類感染症	アメーバ赤痢	1								1	11
	後天性免疫不全症候群	1								1	12
	梅毒	7							1	6	174
	麻しん（臨床診断例）	1	1								1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	37,382	2020年1月以降累計 729,702								
結核（2022年1月分）	結核　新登録患者数：52名（内　肺・喀痰塗抹陽性　23名）（府内累積報告数　52名、内　肺・喀痰塗抹陽性　23名）										

（2022年3月15日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第11週（3月14日～3月20日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 減少」

第11週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は568例であり、前週比3.7%減であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.19、0.24、0.13、0.11、0.10である。

感染性胃腸炎は前週比8%減の431例で、南河内3.06、中河内3.05、北河内2.58、泉州2.30、三島2.19であった。

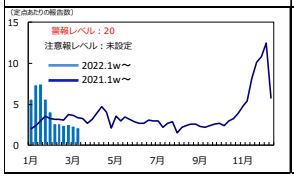
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は14%増の25例で、南河内0.31、大阪市南部0.26、三島0.19である。

咽頭結膜熱は5%増の22例で、大阪市北部0.36、中河内0.25、南河内0.19であった。

RSウイルス感染症は19%増の19例で、大阪市北部0.43、大阪市西部0.30、三島0.19である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の症例数は微増であるが、昨年の当該週と比べると定点当たり報告数は減少している。

感染性胃腸炎



咽頭結膜熱

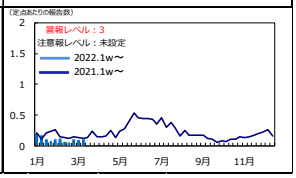


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第11週3月14日～3月20日）

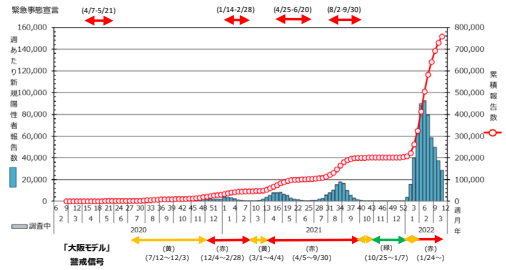
第11週の順位	第10週の順位	感染症	2022年第11週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第11週の定点あたり報告数	2022年第11週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.19	8%減	3.34	１歳_15%
2	2	突発性発しん	0.24	33%増	0.34	１歳_54%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.13	14%増	0.60	３歳_20%
4	4	咽頭結膜熱	0.11	5%増	0.12	１歳_50%
5	5	RSウイルス感染症	0.10	19%増	1.49	２歳_37%

第11週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第11週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は28,607名であり、前週より23%減少した。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第11週3月14日～3月20日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2							1	1		7
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1									19
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1							1			4
	梅毒	4	2								2	183
	百日咳	1									1	6
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	28,607	2020年1月以降累計　758,281									
結核（2022年1月分）	結核　新登録患者数：52名（内　肺・喀痰塗抹陽性　23名）（府内累積報告数　52名、内　肺・喀痰塗抹陽性　23名）											

（2022年3月22日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第12週（3月21日～3月27日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～　手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

定点把握感染症

「小児科・眼科定点疾患の報告数 大きく減少」

第12週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は460例であり、前週比19.0%減であった。

定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.74、0.23、0.15、0.08、0.06である。

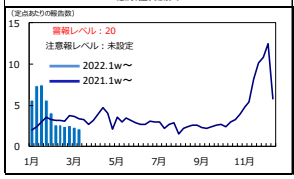
感染性胃腸炎は前週比21%減の341例で、大阪市南部2.61、南河内2.44、中河内2.40、北河内2.12、豊能1.70であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は16%増の29例で、中河内0.45、堺市0.32、南河内0.25である。

流行性角結膜炎は100%増の4例で、大阪市西部0.50、三島0.50、泉州0.17であった。

咽頭結膜熱は45%減の12例で、南河内0.25、中河内0.20、三島0.06である。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

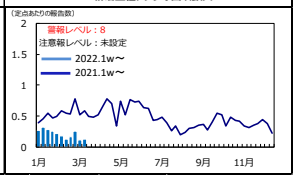


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第12週3月21日～3月27日）

第12週の順位	第11週の順位	感染症	2022年第12週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第12週の定点あたり報告数	2022年第12週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	1.74	21%減	3.24	２歳_14%
2	2	突発性発しん	0.23	6%減	0.35	１歳_60%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.15	16%増	0.51	３歳_14%
4	6	流行性角結膜炎	0.08	100%増	0.15	20歳以上_75%
5	4	咽頭結膜熱	0.06	45%減	0.14	１歳未満,１歳_33%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.01	100%増	0.01	10-14歳_100%

第12週のコメント

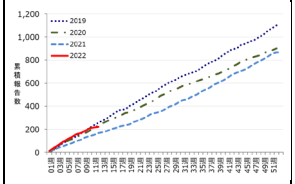
～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にあったが、大阪府における2020年の報告数は、3年ぶりに、1,000例を下回った。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。



感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)
梅毒とは(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第12週3月21日～3月27日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
４類感染症	デング熱	2							2			2
	レジオネラ症（肺炎型）	1								1		16
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1								1		20
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1							7
	侵襲性肺炎球菌感染症	2		1							1	16
	梅毒	6	1						2		3	223
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	22,837	2020年1月以降累計　781,081									
結核（2022年1月分）	結核　新登録患者数：52名（内　肺・喀痰塗抹陽性　23名）（府内累積報告数　52名、内　肺・喀痰塗抹陽性　23名）											

（2022年3月29日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）

2022年 第13週（3月28日～4月3日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉･密集･密接の回避が重要

定点把握感染症

「小児科･眼科定点疾患の報告数 少ない状況続く」

第13週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は524例であり、前週比13.9%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.82、0.28、0.27、0.10、0.09である。

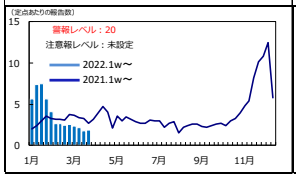
感染性胃腸炎は前週比4%増の356例で、南河内2.63、中河内2.30、泉州2.20、大阪市南部2.06、堺市1.89であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は83%増の53例で、大阪市南部･中河内0.50、北河内0.38である。

咽頭結膜熱は67%増の20例で、大阪市南部0.22、南河内0.19、北河内0.15であった。

RSウイルス感染症は80%増の18例で、大阪市西部0.80、中河内0.15、南河内0.13である。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

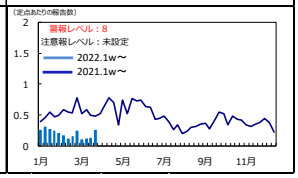


表１．大阪府小児科･眼科定点把握感染症の動向（2022年 第13週3月28日～4月3日）

第13週の順位	第12週の順位	感染症	2022年第13週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第13週の定点あたり報告数	2022年第13週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	1.82	4%増	2.70	１歳_14%
2	2	突発性発しん	0.28	22%増	0.32	１歳_53%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.27	83%増	0.49	３歳_15%
4	5	咽頭結膜熱	0.10	67%増	0.24	１歳_35%
5	7	RSウイルス感染症	0.09	80%増	1.90	１歳_33%

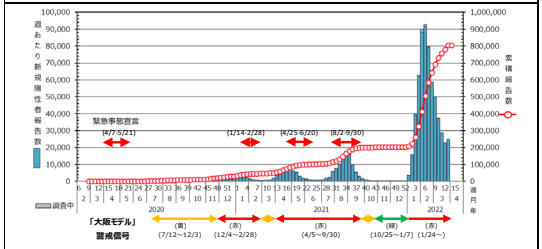
第13週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第13週の新型コロナウイルス感染症の過あたり新規陽性者報告数は24,824名であり、前週より8.7%増加した。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫･エアロゾル･接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第13週3月28日～4月3日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1			1						8
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	17
５類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1					9
	後天性免疫不全症候群	2								2	17
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	1	2					1		21
	梅毒	6				2				4	251
	百日咳	1							1		8
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	24,824	2020年1月以降累計 807,144								
結核（2022年2月分）	結核 新登録患者数：40名（内 肺･喀痰塗抹陽性 14名）（府内累積報告数 92名、内 肺･喀痰塗抹陽性 37名）										

（2022年4月5日 集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）

2022年 第14週（4月4日～4月10日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉･密集･密接の回避が重要

定点把握感染症

「小児科定点･眼科定点疾患報告数 ほぼ横ばい」

第14週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は529例であり、前週比1.0%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.87、0.30、0.27、0.08、0.06である。

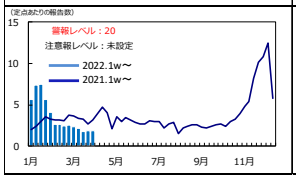
感染性胃腸炎は前週比3%増の367例で、南河内3.81、大阪市南部2.89、北河内2.46、三島1.81、泉州1.80であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2%減の52例で、中河内1.00、三島0.31、大阪市北部0.29である。

咽頭結膜熱は25%減の15例で、南河内0.19、大阪市南部0.17、大阪市北部0.14であった。

水痘は71%増の12例で、堺市0.16、大阪市東部･大阪市北部0.14である。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

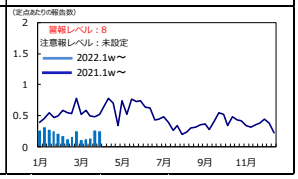


表１．大阪府小児科･眼科定点把握感染症の動向（2022年 第14週4月4日～4月10日）

第14週の順位	第13週の順位	感染症	2022年第14週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第14週の定点あたり報告数	2022年第14週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	1.87	3%増	3.19	２歳_16%
2	2	突発性発しん	0.30	5%増	0.32	１歳_53%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.27	2%減	0.53	３歳_17%
4	4	咽頭結膜熱	0.08	25%減	0.15	１歳_27%
5	7	水痘	0.06	71%増	0.09	１歳，５歳，８歳，_17%

第14週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2021年の大阪府の報告数は、25例であった。

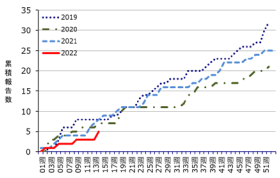
全数把握感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）は、バンコマイシンに耐性を獲得した腸球菌である。

術後患者や感染防御機能の低下した患者では腹膜炎、術創感染症、肺炎、敗血症などの感染症を引き起こす場合があるため、集中治療室や外科治療ユニットなど易感染者を治療する部門で問題となっており、臨床的、疫学的に重要な薬剤耐性菌である。

VREによる術創感染症や腹膜炎などの治療は、抗菌薬の投与とともに感染巣の洗浄やドレナージなどを適宜組み合わせて行う。



感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)

バンコマイシン耐性腸球菌感染症(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第14週4月4日～4月10日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	3	1							2	20
５類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1				10
	後天性免疫不全症候群	1								1	19
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1					1				3
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1		1						23
	梅毒	6	1			1		1		3	272
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	2								5
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	26,917	2020年1月以降累計 832,818								
結核（2022年2月分）	結核 新登録患者数：40名（内 肺･喀痰塗抹陽性 14名）（府内累積報告数 92名、内 肺･喀痰塗抹陽性 37名）										

（2022年4月12日 集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第15週（4月11日～4月17日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加」

第15週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は663例であり、前週比 25.3%増であった。定点当たり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ 2.43、0.28、0.26、0.14、0.10である。

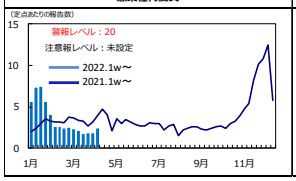
感染性胃腸炎は前週比 31%増の479例で、南河内5.13、北河内・泉州2.65、中河内・大阪市南部2.50であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は増減なしの52例で、中河内0.75、泉州0.50、堺市0.32である。

RSウイルス感染症は 460%増の28例で、大阪市西部0.70、南河内0.44、中河内0.40であった。

咽頭結膜熱は 27%増の19例で、大阪市西部0.40、南河内0.25、大阪市北部・堺市0.21である。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

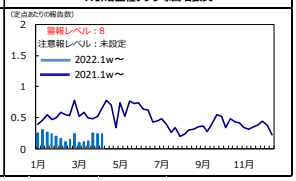


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第15週4月11日～4月17日）

第15週の順位	第14週の順位	感染症	2022年第15週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第15週の定点あたり報告数	2022年第15週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.43	31%増	3.95	１歳_20%
2	2	突発性発しん	0.28	5%減	0.35	１歳未満_45%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	0%増	0.66	３歳_23%
4	8	RSウイルス感染症	0.14	460%増	3.19	１歳_39%
5	4	咽頭結膜熱	0.10	27%増	0.15	１歳_42%

第15週のコメント

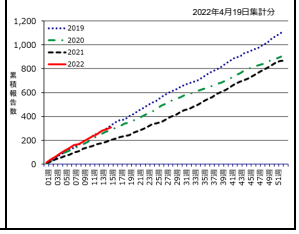
～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にあったが、大阪府における2021年の報告数は、2年連続で1,000例を下回った。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。



感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)
梅毒とは(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第15週4月11日～4月17日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1					1					9
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1									1	21
５類感染症	梅毒	15	1		2					12		308
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	25,973	2020年1月以降累計　858,790									
結核 （2022年2月分）	結核　新登録患者数：40名	（内　肺・喀痰塗抹陽性　14名） （府内累積報告数　92名、内　肺・喀痰塗抹陽性　37名）										

（2022年4月19日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第16週（4月18日～4月24日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 さらに増加」

第16週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は825例であり、前週比24.4%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.85、0.42、0.31、0.25、0.18である。

感染性胃腸炎は前週比17%増の562例で、南河内4.69、大阪市北部3.71、中河内3.50、北河内3.35、泉州3.30であった。

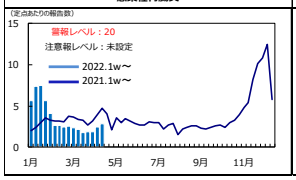
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%増の62例で、中河内0.90、大阪市南部0.67、大阪市北部0.43である。

RSウイルス感染症は75%増の49例で、中河内0.80、大阪市西部0.70、大阪市北部0.43であった。

咽頭結膜熱は89%増の36例で、堺市0.42、泉州0.40、大阪市北部0.29である。

4月から新たに集団保育に参加した乳幼児は各種の感染症に罹患する機会が増えるため、今後の発生動向に注意する必要がある。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

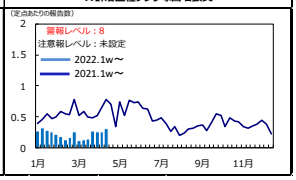


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第16週4月18日～4月24日）

第16週の順位	第15週の順位	感染症	2022年第16週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第16週の定点あたり報告数	2022年第16週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.85	17%増	4.73	１歳_19%
2	2	突発性発しん	0.42	49%増	0.49	１歳_57%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.31	19%増	0.78	５歳_19%
4	4	RSウイルス感染症	0.25	75%増	3.86	１歳_35%
5	5	咽頭結膜熱	0.18	89%増	0.16	１歳_31%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほ

第16週のコメント

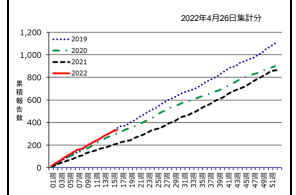
～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にあったが、大阪府における2021年の報告数は、2年連続で1,000例を下回った。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。



感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)
梅毒とは(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第16週4月18日～4月24日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1							1			10
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型） レジオネラ症（ポンティアック熱型）	1 1								1 1		23
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		2	1							28
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1							1			5
	後天性免疫不全症候群	1							1			22
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		1			2				1	27
	梅毒	13	1	2	1				1		8	334
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	20,960	2020年1月以降累計　879,750									
結核 （2022年2月分）	結核　新登録患者数：40名	（内　肺・喀痰塗抹陽性　14名） （府内累積報告数　92名、内　肺・喀痰塗抹陽性　37名）										

（2022年4月26日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第17･18週（4月25日～5月8日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「咽頭結膜熱　増加」

第17週と第18週をあわせて報告する。大型連休のための医療機関の診療実日数の減少を考慮する必要がある。

第17週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は760例であり、前週比7.9%減であった。定点当たり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、RSウイルス感染症、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.76、0.35、0.23、0.21、0.17である。

第18週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は760例であり、前週と同数であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.76、0.38、0.20、0.19、0.16である。

感染性胃腸炎は前週より1例増加の544例で、南河内4.06、大阪市北部4.00、三島3.82、中河内3.30、北河内2.65であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2%減の40例で、大阪市南部0.44、大阪市西部0.40、三島・中河内・泉州0.35である。

咽頭結膜熱は9%増の37例で、泉州0.70、北河内0.27、南河内0.25であった。

流行性角結膜炎は300%増の8例で、豊能0.80、大阪市南部0.50、三島0.25である。

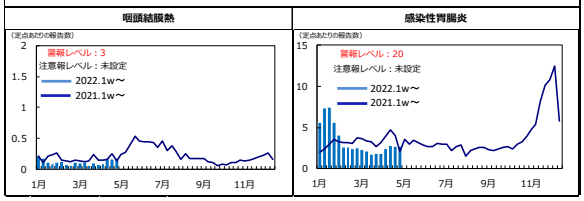


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第18週5月2日～5月8日）

第18週の順位	第17週の順位	感染症	2022年第18週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第18週の定点あたり報告数	2022年第18週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.76	0%増	2.08	１歳_20%
2	2	突発性発しん	0.38	9%増	0.21	１歳_59%
3	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.20	2%減	0.34	７歳_20%
4	5	咽頭結膜熱	0.19	9%増	0.14	１歳_38%
5	7	流行性角結膜炎	0.16	300%増	0.04	20歳以上_62%

第18週のコメント

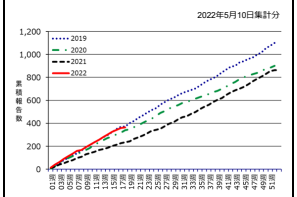
～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の報告数は、2010年より増加傾向にあったが、大阪府における2021年の報告数は、2年連続で1,000例を下回った。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。



感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)
梅毒とは(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第18週5月2日～5月8日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞ 全数把握疾患　をご覧ください。)

	疾病名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1								1		29
	侵襲性肺炎球菌感染症	1						1				31
	梅毒	5	1		1					3		365
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1								1		7
	百日咳	1								1		10
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	16,013	2020年1月以降累計　913,407									
結核 (2022年3月分)	結核　新登録患者数：98名　（内　肺・喀痰塗抹陽性　34名） （府内累積報告数　231名、内　肺・喀痰塗抹陽性　88名）											

（2022年5月10日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第19週（5月9日～5月15日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　増加」

第19週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,044例であり、前週比37.4%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、咽頭結膜熱、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.86、0.36、0.35、0.32、0.17である。

感染性胃腸炎は前週比40%増の761例で、南河内6.06、中河内5.70、大阪市北部5.43、泉州4.45、大阪市南部3.67であった。

咽頭結膜熱は84%増の68例で、北河内0.73、泉州0.55、大阪市西部0.50である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は58%増の63例で、北河内0.81、中河内0.70、堺市0.58であった。

RSウイルス感染症は17%増の34例で、大阪市西部0.40、大阪市北部0.36、大阪市南部0.28である。

第4週以来、小児科・眼科定点疾患の報告数の総計が1,000例以上となった。

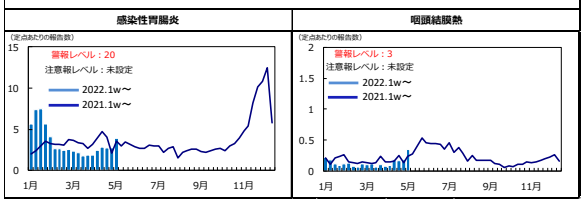


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第19週5月9日～5月15日）

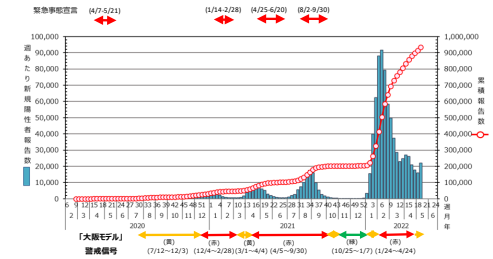
第19週の順位	第18週の順位	感染症	2022年第19週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第19週の定点あたり報告数	2022年第19週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.86	40%増	3.55	１歳_19%
2	2	突発性発しん	0.36	5%減	0.31	１歳_48%
3	4	咽頭結膜熱	0.35	84%増	0.24	１歳_46%
4	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	58%増	0.73	４歳,５歳_14%
5	6	RSウイルス感染症	0.17	17%増	2.77	１歳未満_35%

第19週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第19週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は21,920名であり、前週より37%増加した。現在、大阪モデルは警戒信号（黄）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第19週5月9日～5月15日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞ 全数把握疾患　をご覧ください。)

	疾病名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	1		1							15
４類感染症	日本紅斑熱	1							1			1
	レジオネラ症（肺炎型）	2		1							1	27
５類感染症	アメーバ赤痢	2			1			1				19
	急性脳炎	1					1					2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1									1	12
	後天性免疫不全症候群	1									1	25
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	1				1				1	37
	梅毒	13				1		1	1	10		425
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	21,920	2020年1月以降累計　935,325									
結核 (2022年3月分)	結核　新登録患者数：98名　（内　肺・喀痰塗抹陽性　34名） （府内累積報告数　231名、内　肺・喀痰塗抹陽性　88名）											

（2022年5月17日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第20週（5月16日～5月22日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　増加つづく」

第20週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,201例であり、前週比15.0%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しん、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.50、0.40、0.37、0.36、0.25である。

感染性胃腸炎は前週比16%増の886例で、南河内7.31、大阪市北部6.79、北河内5.77、三島4.65、中河内4.45であった。

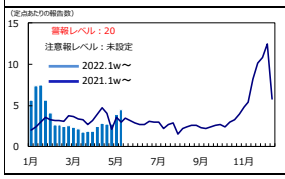
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は24%増の78例で、中河内1.15、北河内0.65、大阪市東部0.43である。

咽頭結膜熱は7%増の73例で、北河内0.77、大阪市北部0.71、堺市0.47であった。

RSウイルス感染症は44%増の49例で、豊能0.74、大阪市北部0.57、南河内0.44であった。

RSウイルス感染症について、今後の動向に注意が必要である。

感染性胃腸炎



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

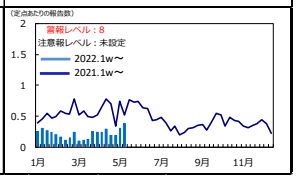


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第20週5月16日～5月22日）

第20週の順位	第19週の順位	感染症	2022年第20週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第20週の定点あたり報告数	2022年第20週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.50	16%増	2.98	１歳_23%
2	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.40	24%増	0.53	４歳_17%
3	3	咽頭結膜熱	0.37	7%増	0.28	１歳_49%
4	2	突発性発しん	0.36	0%増	0.35	１歳_59%
5	5	RSウイルス感染症	0.25	44%増	4.13	１歳_37%

第20週のコメント

～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例と増加している。大阪府では2018年の1,188 例が過去最高となっている。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

梅毒とは(国立感染症研究所)

大阪府感染症情報センター梅毒サイトはこちら

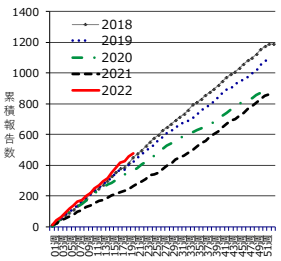


表２．大阪府全数報告数（2022年 第20週5月16日～5月22日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3	1	1	1							18
４類感染症	Ａ型肝炎	1								1		2
	レジオネラ症（肺炎型）	1							1			28
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1									32
	後天性免疫不全症候群	2								2		29
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1								1		1
	梅毒	19	1			2			2	14		476
	百日咳	1			1							12
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	19,802	2020年1月以降累計　955,119									
結核（2022年3月分）	結核　新登録患者数：98名	（内　肺・喀痰塗抹陽性　34名）（府内累積報告数　231名、内　肺・喀痰塗抹陽性　88名）										

（2022年5月24日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第21週（5月23日～5月29日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「咽頭結膜熱　増加」

第21週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,362例であり、前週比13.4%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.98、0.64、0.36、0.30、0.30である。

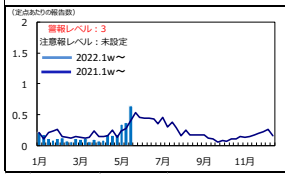
感染性胃腸炎は前週比11%増の981例で、南河内9.19、中河内7.05、北河内5.81、泉州5.15、三島5.12であった。

咽頭結膜熱は74%増の127例で、中河内1.10、大阪市北部1.07、北河内1.00である。

RSウイルス感染症は45%増の71例で、豊能1.13、大阪市北部0.57、南河内・大阪市西部0.50であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は23%減の60例で、中河内0.90、泉州0.55、北河内0.42である。

咽頭結膜熱



感染性胃腸炎

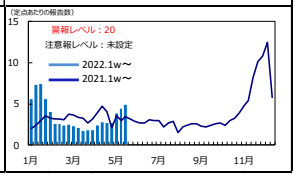


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第21週5月23日～5月29日）

第21週の順位	第20週の順位	感染症	2022年第21週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第21週の定点あたり報告数	2022年第21週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.98	11%増	3.36	１歳_20%
2	3	咽頭結膜熱	0.64	74%増	0.41	１歳_50%
3	5	RSウイルス感染症	0.36	45%増	5.03	１歳_34%
4	2	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	23%減	0.76	３歳_18%
4	4	突発性発しん	0.30	15%減	0.38	１歳_52%

第21週のコメント

～日本紅斑熱～ 大阪府では2022年、21週時点で3例の報告があり、過去4年間の同時期と比較して多い

全数把握感染症

日本紅斑熱

日本紅斑熱は、紅斑熱群リケッチアの一種 *Rickettsia japonica* を起因病原体とし、野山でマダニに刺咬されることにより感染する。媒介ダニの活動が活発化する４月～10月に発生し、特に9月、10月は多い。自然界で保菌あるいは感染する動物として、げっ歯類、野生のシカ、イノシシなどがあげられる。

潜伏期は2～8日であり、頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症する。発熱、発しん、刺し口が主要三徴候であるが、必ずしも、刺し口があるとは限らない。発しんは、体幹部より四肢末端部に強く出現し、検査所見では、肝逸脱酵素の上昇、血小板の減少が認められる。治療には、抗菌薬投与が効果的であり、第一選択薬はテトラサイクリン系の抗菌薬である。また、ニューキノロン系抗菌薬が有効であるとの報告もある。β-ラクタム系の抗菌薬は無効である。大阪府では2020年に過去最多の11例の報告があった。

日本紅斑熱とは（大阪健康安全基盤研究所）

日本紅斑熱とは（国立感染症研究所）

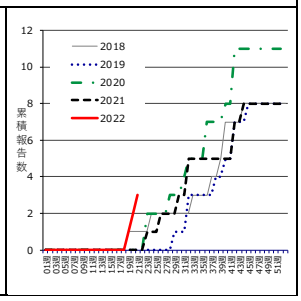


表２．大阪府全数報告数（2022年 第21週5月23日～5月29日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2		1						1		20
４類感染症	日本紅斑熱	1							1			3
５類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1					1					6
	後天性免疫不全症候群	4		1						3		34
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1		40
	水痘（入院例）	2					2					6
	梅毒	14	3			1	1			9		517
	播種性クリプトコックス症	1								1		2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2								2		9
	百日咳	1				1						13
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	15,849	2020年1月以降累計　970,959									
結核（2022年3月分）	結核　新登録患者数：98名	（内　肺・喀痰塗抹陽性　34名）（府内累積報告数　231名、内　肺・喀痰塗抹陽性　88名）										

（2022年5月31日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第22週（5月30日～6月5日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加」

第22週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,458例であり、前週比7.0%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、咽頭結膜熱、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.27、0.54、0.50、0.44、0.43である。

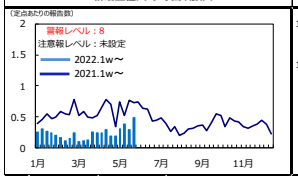
感染性胃腸炎は前週比5%増の1,028例で、南河内8.88、泉州6.40、中河内6.15、三島5.56、大阪市北部5.21であった。

咽頭結膜熱は17%減の106例で、大阪市南部1.50、中河内0.95、泉州0.75である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は63%増の98例で、中河内・大阪市西部0.90、泉州0.75であった。

RSウイルス感染症は17%増の83例で、大阪市北部1.07、大阪市西部0.70、南河内0.69である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎



感染性胃腸炎

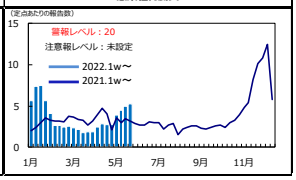


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第22週5月30日～6月5日）

第22週の順位	第21週の順位	感染症	2022年第22週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第22週の定点あたり報告数	2022年第22週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.27	5%増	3.12	１歳_22%
2	2	咽頭結膜熱	0.54	17%減	0.53	１歳_38%
3	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	63%増	0.73	４歳,20歳以上_14%
4	4	突発性発しん	0.44	42%増	0.35	１歳_47%
5	3	RSウイルス感染症	0.43	17%増	4.84	１歳_34%

第22週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。

初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌はO157だけではありません（大阪健康安全基盤研究所）
腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

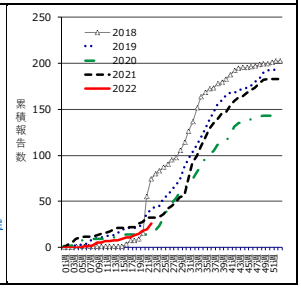


表２．大阪府全数報告数（2022年 第22週5月30日～6月5日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6	1		1		2			2	26
４類感染症	Ｅ型肝炎	1				1					2
	デング熱	1							1		3
	レジオネラ症（肺炎型）	2		1					1		32
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4								4	38
	急性脳炎	2	1				1				4
	後天性免疫不全症候群	1								1	36
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1								1	5
	侵襲性肺炎球菌感染症	3		1			1			1	45
	水痘（入院例）	1					1				7
	梅毒	15	1			1			1	12	555
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1								10
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	10,546	2020年1月以降累計　981,504								
結核（2022年4月分）	結核　新登録患者数：76名（内　肺・喀痰塗抹陽性　21名）（府内累積報告数　313名、内　肺・喀痰塗抹陽性　111名）										

（2022年6月7日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第23週（6月6日～6月12日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　増加つづく」

第23週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,644例であり、前週比12.8%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.14、0.76、0.49、0.36、0.32である。

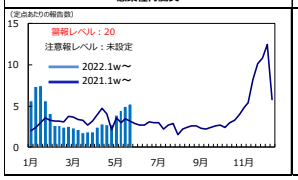
感染性胃腸炎は前週比17%増の1,203例で、南河内11.50、中河内7.10、北河内6.64、大阪市北部6.43、三島6.29であった。

咽頭結膜熱は41%増の149例で、大阪市南部1.17、三島・南河内0.94である。

RSウイルス感染症は17%増の97例で、大阪市西部1.20、大阪市北部1.14、豊能0.74であった。RSウイルス感染症は5週連続で増加している。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は29%減の70例で、中河内0.90、泉州0.70、堺市0.58であった。

感染性胃腸炎



咽頭結膜熱

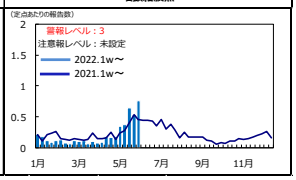


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第23週6月6日～6月12日）

第23週の順位	第22週の順位	感染症	2022年第23週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第23週の定点あたり報告数	2022年第23週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	6.14	17%増	2.90	１歳_22%
2	2	咽頭結膜熱	0.76	41%増	0.46	１歳_46%
3	5	RSウイルス感染症	0.49	17%増	4.18	１歳_32%
4	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	29%減	0.74	４歳_19%
5	4	突発性発しん	0.32	26%減	0.36	１歳_51%

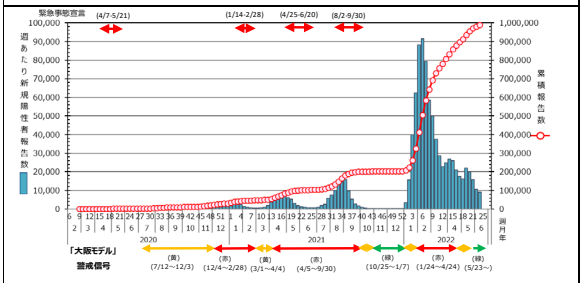
第23週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第23週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は9,046名であり、前週より14%減少した。大阪モデルは、5月23日に警戒解除（緑）になった。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第23週6月6日～6月12日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5		1			1	1	2		32
５類感染症	アメーバ赤痢	1								1	21
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	1			1	1	1			44
	梅毒	16		1			1			14	592
	百日咳	2								2	16
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	9,046	2020年1月以降累計　990,549								
結核（2022年4月分）	結核　新登録患者数：76名（内　肺・喀痰塗抹陽性　21名）（府内累積報告数　313名、内　肺・喀痰塗抹陽性　111名）										

（2022年6月14日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第24週（6月13日～6月19日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　さらに増加」

第24週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,800例であり、前週比9.5%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.40、0.88、0.82、0.49、0.30である。

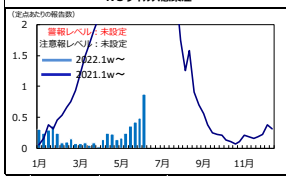
感染性胃腸炎は前週比4%増の1,254例で、南河内9.19、三島7.65、中河内7.30、北河内7.08、大阪市北部6.79であった。

RSウイルス感染症は78%増の173例で、大阪市北部2.50、大阪市西部1.70、大阪市東部1.36である。RSウイルス感染症は６週連続で増加している。

咽頭結膜熱は8%増の161例で、泉州1.50、堺市1.42、大阪市南部1.00であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は37%増の96例で、中河内1.40、大阪市南部0.72、堺市0.58である。

ＲＳウイルス感染症



感染性胃腸炎

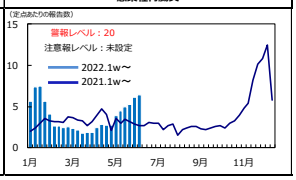


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第24週6月13日～6月19日）

第24週の順位	第23週の順位	感染症	2022年第24週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第24週の定点あたり報告数	2022年第24週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	6.40	4%増	2.69	１歳_20%
2	3	RSウイルス感染症	0.88	78%増	3.76	１歳_27%
3	2	咽頭結膜熱	0.82	8%増	0.45	１歳_46%
4	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	37%増	0.63	10-14歳_16%
5	5	突発性発しん	0.30	8%減	0.35	１歳_59%

第24週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。

初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌はO157だけではありません（大阪健康安全基盤研究所）
腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

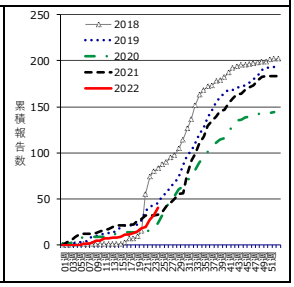


表２．大阪府全数報告数（2022年 第24週6月13日～6月19日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。)

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7	1	2	1	2	1					40
４類感染症	Ｅ型肝炎	1								1		4
	つつが虫病	1		1								1
	マラリア（熱帯熱）	1								1		1
５類感染症	ウイルス性肝炎（Ｃ型）	1								1		6
	急性弛緩性麻痺	1								1		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1						1				7
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2					1			1		15
	後天性免疫不全症候群	2							1	1		41
	水痘（入院例）	1		1								8
	梅毒	20	4		2	1	2	1		10		614
	播種性クリプトコックス症	1								1		3
	百日咳	1			1							17
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	7,810	2020年1月以降累計　998,358									
結核 （2022年4月分）	結核　新登録患者数：76名　（内　肺・喀痰塗抹陽性　21名） （府内累積報告数　313名、内　肺・喀痰塗抹陽性　111名）											

（2022年6月21日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第25週（6月20日～6月26日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　増加続く」

第25週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,697例であり、前週比5.7%減であった。
定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、上位５疾患の定点あたり報告数はそれぞれ5.60、1.35、0.70、0.39、0.30である。

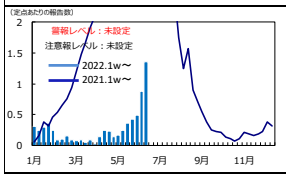
感染性胃腸炎は前週比13%減の1,097例で、南河内8.94、三島8.24、中河内6.65、泉州5.95、北河内5.48であった。

RSウイルス感染症は53%増の265例で、大阪市北部3.71、豊能2.43、中河内・大阪市西部1.70である。

咽頭結膜熱は14%減の138例で、大阪市南部1.44、北河内0.84、三島0.76であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は21%減の76例で、中河内1.50、大阪市北部0.57、三島0.41である。

ＲＳウイルス感染症



感染性胃腸炎

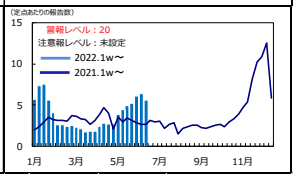


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第25週6月20日～6月26日）

第25週の順位	第24週の順位	感染症	2022年第25週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第25週の定点あたり報告数	2022年第25週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.60	13%減	2.65	１歳_20%
2	2	RSウイルス感染症	1.35	53%増	3.34	１歳_26%
3	3	咽頭結膜熱	0.70	14%減	0.44	１歳_43%
4	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	21%減	0.63	５歳_22%
5	5	突発性発しん	0.30	0%増	0.44	１歳_59%

第25週のコメント

～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例と増加している。大阪府では2018年の1,188 例が過去最高となっている。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

梅毒（大阪府感染症情報センター）
梅毒（大阪府感染症情報センター）

梅毒（大阪健康安全基盤研究所）
梅毒とは(国立感染症研究所)

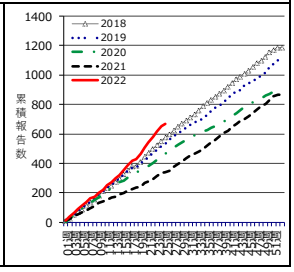


表２．大阪府全数報告数（2022年 第25週6月20日～6月26日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。)

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2						1		1		42
４類感染症	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	1								1		33
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2						1		1		47
	後天性免疫不全症候群	2						1		1		46
	梅毒	19	2	2	3	1	1			10		671
	百日咳	1				1						18
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	8,535	2020年1月以降累計　1,006,882									
結核 （2022年4月分）	結核　新登録患者数：76名　（内　肺・喀痰塗抹陽性　21名） （府内累積報告数　313名、内　肺・喀痰塗抹陽性　111名）											

（2022年6月28日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第26週（6月27日～7月3日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　急増」

第26週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,889例であり、前週比11.3%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.21、2.67、0.63、0.30、0.29である。

感染性胃腸炎は前週比7%減の1,021例で、南河内9.69、三島6.88、中河内6.85、大阪市南部6.00、北河内5.72であった。

RSウイルス感染症は98%増の524例で、大阪市北部8.86、南河内4.31、豊能3.52である。

咽頭結膜熱は11%減の123例で、大阪市南部1.72、大阪市北部0.93、南河内0.75であった。

手足口病は136%増の59例で、泉州0.55、堺市0.53、大阪市西部0.40である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は25%減の57例で、中河内0.80、大阪市南部0.56、大阪市北部0.43であった。

RSウイルス感染症は全ブロックで増加しており、今後の動向に注意が必要である。

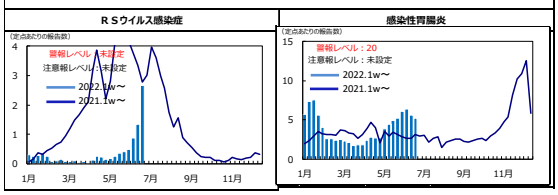


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第26週6月27日～7月3日）

第26週の順位	第25週の順位	感染症	2022年第26週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第26週の定点あたり報告数	2022年第26週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.21	7%減	3.10	１歳_21%
2	2	RSウイルス感染症	2.67	98%増	2.78	１歳_29%
3	3	咽頭結膜熱	0.63	11%減	0.44	１歳_36%
4	6	手足口病	0.30	136%増	0.06	１歳_36%
5	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.29	25%減	0.43	３歳_18%

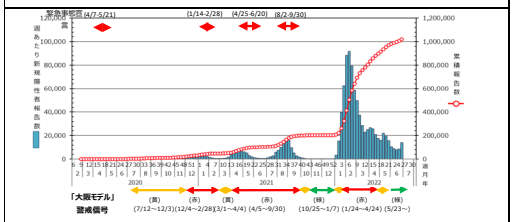
第26週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第26週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は13,990名であり、前週より64%増加した。大阪モデルは、5月23日に警戒解除（緑）になった。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第26週6月27日～7月3日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4			2				1	1	47
４類感染症	重症熱性血小板減少症候群	1					1				1
	日本紅斑熱	1		1							4
	レジオネラ症（肺炎型） （ポンティアック熱型）	5	1				1		1	1 1	39
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	1	2	1						52
	水痘（入院例）	1	1								10
	梅毒	22	2	1		1				18	714
	バンコマイシン耐性黄球菌感染症	1								1	11
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	13,990	2020年1月以降累計　1,020,866								
結核 （2022年5月分）	結核　新登録患者数：96名　（内　肺・喉頭塗抹陽性　32名） （府内累積報告数　435名、内　肺・喉頭塗抹陽性　156名）										

（2022年7月5日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第27週（7月4日～7月10日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　増加継続」

第27週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,297例であり、前週比21.6%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.22、4.33、0.54、0.53、0.53である。

感染性胃腸炎は前週より2例増加の1,023例で、南河内9.94、中河内7.85、三島6.29、泉州5.35、北河内5.04であった。

RSウイルス感染症は62%増の848例で、大阪市北部9.14、大阪市西部7.00、豊能5.78である。

手足口病は80%増の106例で、大阪市北部1.21、大阪市南部1.17、大阪市東部1.00であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は82%増の104例で、中河内1.35、大阪市西部1.20、北河内0.64である。

咽頭結膜熱は16%減の103例で、大阪市南部1.28、泉州0.65、大阪市北部0.64であった。

RSウイルス感染症は全ブロックでの増加が続いており、今後の動向には注意が必要である。

今週、インフルエンザが府内で17例報告があった。

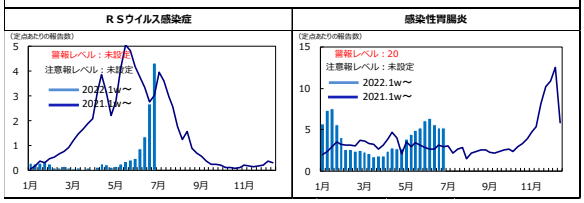


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第27週7月4日～7月10日）

第27週の順位	第26週の順位	感染症	2022年第27週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第27週の定点あたり報告数	2022年第27週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.22	増減なし	2.94	１歳_19%
2	2	RSウイルス感染症	4.33	62%増	2.98	１歳_29%
3	4	手足口病	0.54	80%増	0.10	１歳_34%
4	5	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	82%増	0.44	１歳_14%
5	3	咽頭結膜熱	0.53	16%減	0.34	１歳_39%

第27週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌はO157だけではありません（大阪健康安全基盤研究所）

腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

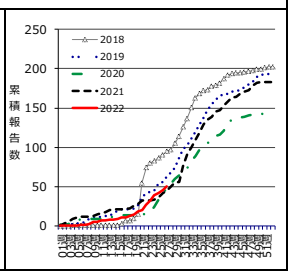


表２．大阪府全数報告数（2022年 第27週7月4日～7月10日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4	1		2			1			50
４類感染症	つつが虫病	1			1						2
	マラリア（熱帯熱）	1								1	2
	レジオネラ症（肺炎型）	4	1		1					2	44
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	1				1				56
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1								1	9
	後天性免疫不全症候群	3								3	52
	梅毒	15			1	1	1		1	11	747
	風しん	1							1		1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	30,359	2020年1月以降累計　1,051,218								
結核 （2022年5月分）	結核　新登録患者数：96名　（内　肺・喉頭塗抹陽性　32名） （府内累積報告数　435名、内　肺・喉頭塗抹陽性　156名）										

（2022年7月12日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第28週（7月11日～7月17日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　過去最高の報告数」

第28週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,453例であり、前週比6.8%増であった。定点あたり報告数の第１位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.49、4.26、0.48、0.38、0.33である。

RSウイルス感染症は前週比50%増の1,272例で、大阪市北部16.14、大阪市西部10.60、豊能6.65、北河内6.52、泉州6.45であり、統計を開始して以降最も多かった2021年のピーク（第21週）の報告数を上回った。

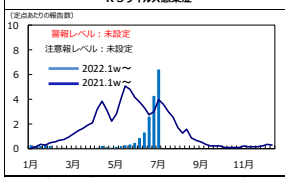
感染性胃腸炎は18%減の834例で、南河内9.63、中河内6.75、三島5.71である。

手足口病は10%減の95例で、大阪市北部1.00、三島0.76、堺市0.74であった。

咽頭結膜熱は28%減の74例で、泉州0.75、三島0.41、大阪市西部0.40である。

インフルエンザは341%増の75例で、10歳から29歳までで全体の53%を占めていた。定点あたり報告数は0.25で、中河内0.71、泉州0.45、大阪市南部0.33である。 来週以降の動向を注視する必要がある。

ＲＳウイルス感染症



感染性胃腸炎

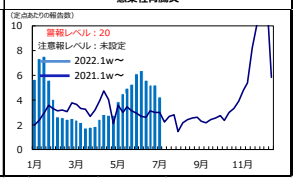


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第28週7月11日～7月17日）

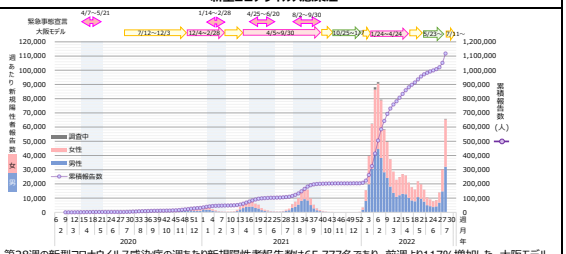
第28週の順位	第27週の順位	感染症	2022年第28週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第28週の定点あたり報告数	2022年第28週の年齢別患者発生数最大割合値
1	2	RSウイルス感染症	6.49	50%増	3.95	１歳_31%
2	1	感染性胃腸炎	4.26	18%減	2.92	１歳_17%
3	3	手足口病	0.48	10%減	0.03	１歳,２歳_25%
4	5	咽頭結膜熱	0.38	28%減	0.45	１歳_39%
5	6	突発性発しん	0.33	8%増	0.34	１歳_66%

第28週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第28週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は65,777名であり、前週より117%増加した。大阪モデルは、7月11日に警戒解除（緑）から警戒（黄信号）になった。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫･エアロゾル･接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第28週7月11日～7月17日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	1							1		53
４類感染症	オウム病	1								1		1
	レジオネラ症(肺炎型)	1			1							48
５類感染症	梅毒	13			1				1	11		766
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1								1		12
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	65,777	2020年1月以降累計　1,116,992									
結核（2022年5月分）	結核　新登録患者数：96名（内　肺・喀痰塗抹陽性　32名）（府内累積報告数　435名、内　肺・喀痰塗抹陽性　156名）											

（2022年7月19日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第29週（7月18日～7月24日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　前週に引き続き最高報告数を更新」

第29週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,363例であり、前週比3.7%減であった。定点あたり報告数の第１位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ7.23、3.21、0.47、0.32、0.32である。

RSウイルス感染症は前週比11%増の1,417例で、大阪市北部16.93、大阪市西部13.00、大阪市東部8.71、北河内7.84、三島7.59であった。

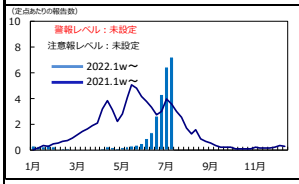
感染性胃腸炎は25%減の629例で、南河内5.56、中河内4.45、大阪市北部3.79である。

手足口病は3%減の92例で、堺市0.84、南河内0.75、大阪市北部0.64であった。

咽頭結膜熱は15%減の63例で、泉州0.60、中河内0.40、豊能0.39である。

インフルエンザは39%増の104例で、定点あたり報告数は0.35で、大阪市西部0.87、大阪市南部0.74、泉州0.67であった。

ＲＳウイルス感染症



感染性胃腸炎

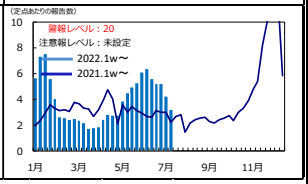


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第29週7月18日～7月24日）

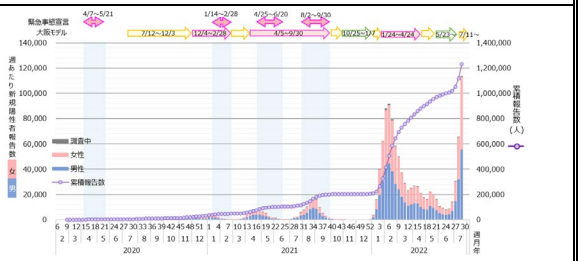
第29週の順位	第28週の順位	感染症	2022年第29週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第29週の定点あたり報告数	2022年第29週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	7.23	11%増	3.58	１歳_30%
2	2	感染性胃腸炎	3.21	25%減	2.15	１歳_18%
3	3	手足口病	0.47	3%減	0.06	１歳_39%
4	4	咽頭結膜熱	0.32	15%減	0.30	１歳_43%
4	5	突発性発しん	0.32	3%減	0.31	１歳_59%

第29週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第29週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は113,783名であり、前週より73%増加した。大阪モデルは、7月11日に警戒解除（緑）から警戒（黄信号）になった。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫･エアロゾル･接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉･密集･密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第29週7月18日～7月24日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	11		2	1	2				6		66
４類感染症	E型肝炎	1								1		5
	デング熱	1					1					4
	レジオネラ症（肺炎型）	2					1			1		50
５類感染症	アメーバ赤痢	1				1						24
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1									61
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1									17
	梅毒	11					1			10		804
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	113,783	2020年1月以降累計　1,230,773									
結核（2022年5月分）	結核　新登録患者数：96名（内　肺・喀痰塗抹陽性　32名）（府内累積報告数　435名、内　肺・喀痰塗抹陽性　156名）											

（2022年7月26日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第30週（7月25日～7月31日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　やや減少」

第30週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,189例であり、前週比7.4%減であった。定点あたり報告数の第１位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.39、2.86、0.68、0.36、0.29である。

RSウイルス感染症は前週比12%減の1,253例で、大阪市西部14.20、大阪市北部13.79、泉州8.25、堺市6.11、北河内5.64であった。

感染性胃腸炎は11%減の561例で、中河内4.90、南河内4.38、大阪市北部3.43である。

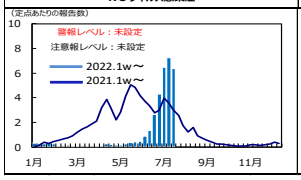
手足口病は45%増の133例で、中河内1.45、泉州1.30、大阪市東部0.86であった。

咽頭結膜熱は13%増の71例で、大阪市西部1.00、大阪市南部0.56、豊能0.52である。

流行性角結膜炎は36%増の15例で、中河内1.20、豊能0.60、三島0.50であった。

インフルエンザは45%減の57例で、定点あたり報告数は0.19である。中河内・大阪市南部0.48、泉州0.36であった。

ＲＳウイルス感染症



手足口病

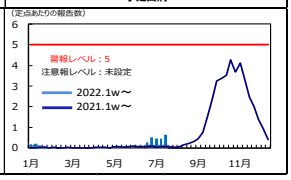


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第30週7月25日～7月31日）

第30週の順位	第29週の順位	感染症	2022年第30週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第30週の定点あたり報告数	2022年第30週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	6.39	12%減	2.99	１歳_30%
2	2	感染性胃腸炎	2.86	11%減	2.66	１歳_18%
3	3	手足口病	0.68	45%増	0.06	１歳_32%
4	4	咽頭結膜熱	0.36	13%増	0.38	１歳_30%
5	7	流行性角結膜炎	0.29	36%増	0.08	20歳以上_60%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほ

第30週のコメント

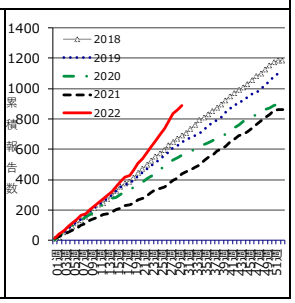
～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例に増加している。大阪府では2018年の1,188 例が過去最高となっている。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。



梅毒(大阪府感染症情報センター)
梅毒(大阪健康安全基盤研究所)
梅毒とは(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第30週7月25日～7月31日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。)

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6		1	1				1	3		76
４類感染症	Ａ型肝炎	1					1					3
５類感染症	アメーバ赤痢	2	1			1						26
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		1						2		68
	侵襲性肺炎球菌感染症	1					1					52
	梅毒	28	2	2	1		1		1	21		888
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1					1					1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	140,365	2020年1月以降累計　1,371,134									

結核 (2022年6月分)	結核　新登録患者数：81名　（内　肺・喀痰塗抹陽性　34名） （府内累積報告数　528名、内　肺・喀痰塗抹陽性　194名）

（2022年8月2日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第31週（8月1日～8月7日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症の減少つづく」

第31週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,933例であり、前週比11.7%減であった。定点あたり報告数の第１位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、突発性発しん、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.97、2.24、0.66、0.25、0.24である。

RSウイルス感染症は前週比7%減の1,171例で、大阪市北部11.07、泉州8.37、堺市7.84、北河内6.92、大阪市南部6.28であった。

感染性胃腸炎は22%減の440例で、南河内4.88、中河内4.50、堺市2.26である。

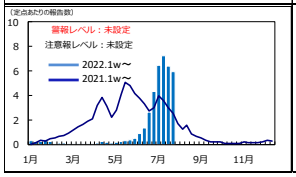
手足口病は3%減の129例で、中河内1.10、南河内0.75、堺市・泉州0.74であった。

突発性発しんは26%増の49例で、中河内・南河内0.50、大阪市西部0.40である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は6%減の48例で、中河内0.85、堺市0.37、三島0.29であった。

インフルエンザは63%減の21例で、定点あたり報告数は0.07である。中河内0.19、南河内・泉州0.13であった。

ＲＳウイルス感染症



インフルエンザ

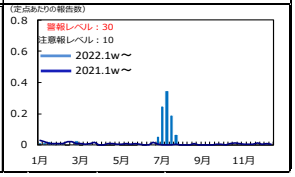


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第31週8月1日～8月7日）

第31週の順位	第30週の順位	感染症	2022年第31週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第31週の定点あたり報告数	2022年第31週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	5.97	7%減	2.46	１歳_33%
2	2	感染性胃腸炎	2.24	22%減	2.72	１歳_25%
3	3	手足口病	0.66	3%減	0.05	１歳_39%
4	8	突発性発しん	0.25	26%増	0.33	１歳_57%
5	6	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.24	6%減	0.34	４歳_23%

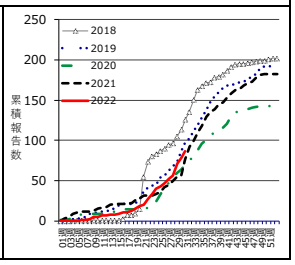
第31週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、



腸管出血性大腸菌はO157だけではありません（大阪健康安全基盤研究所）
腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第31週8月1日～8月7日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。)

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9					1		2	6		87
４類感染症	Ａ型肝炎	1				1					1	4
	レジオネラ症（肺炎型）	1									1	56
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1									1	70
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		1							1	22
	後天性免疫不全症候群	2									2	59
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		2			1				1	56
	梅毒	13					1	2		10		913
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	140,002	2020年1月以降累計　1,511,133									

結核 (2022年6月分)	結核　新登録患者数：81名　（内　肺・喀痰塗抹陽性　34名） （府内累積報告数　528名、内　肺・喀痰塗抹陽性　194名）

（2022年8月9日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第32週（8月8日～8月14日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに減少」

第32週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,222例であり、前週比36.8%減であった。定点あたり報告数の第１位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.51、1.38、0.59、0.22、0.20である。

RSウイルス感染症は前週比41%減の688例で、南河内5.81、泉州5.58、大阪市南部5.00、堺市4.74、北河内4.52であった。

感染性胃腸炎は38%減の271例で、南河内2.25、中河内2.10、堺市2.05である。

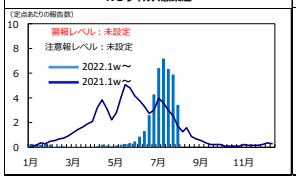
手足口病は11%減の115例で、南河内1.13、大阪市北部1.00、大阪市西部0.80であった。

ヘルパンギーナは2%減の43例で、大阪市北部0.71、大阪市西部0.70、中河内0.30である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%減の39例で、大阪市南部0.50、中河内0.45、南河内0.31であった。

今週、インフルエンザが府内で7例報告があった。

ＲＳウイルス感染症



手足口病

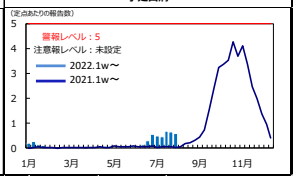


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第32週8月8日～8月14日）

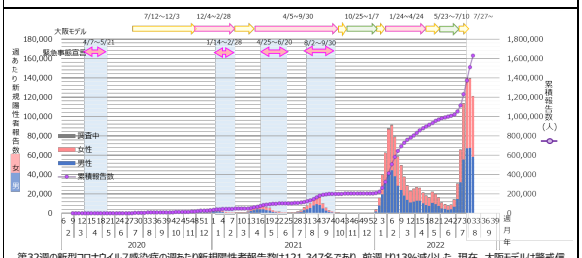
第32週の順位	第31週の順位	感染症	2022年第32週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第32週の定点あたり報告数	2022年第32週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	3.51	41%減	1.73	１歳_33%
2	2	感染性胃腸炎	1.38	38%減	1.41	１歳_21%
3	3	手足口病	0.59	11%減	0.04	１歳_49%
4	6	ヘルパンギーナ	0.22	2%減	0.04	１歳_42%
5	5	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.20	19%減	0.20	20歳以上_18%

第32週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第32週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は121,347名であり、前週より13%減少した。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第32週8月8日～8月14日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3			1					2	93
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	4		1	1	1				1	61
	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	1							1		
５類感染症	アメーバ赤痢	1								1	28
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1								1	73
	後天性免疫不全症候群	2								2	61
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2							1	1	8
	梅毒	15	1	2						12	968
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	121,347	2020年1月以降累計　1,632,465								
結核 （2022年6月分）	結核　新登録患者数：81名 （内　肺・喀痰塗抹陽性　34名） （府内累積報告数　528名、内　肺・喀痰塗抹陽性　194名）										

（2022年8月16日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第33週（8月15日～8月21日）

今週のコメント

～手足口病～　手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病　増加」

第33週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,095例であり、前週比10.4%減であった。定点あたり報告数の第１位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.68、1.44、0.78、0.21、0.15である。

RSウイルス感染症は前週比24%減の526例で、大阪市西部5.20、大阪市北部4.14、北河内3.68、泉州3.47、堺市3.32であった。

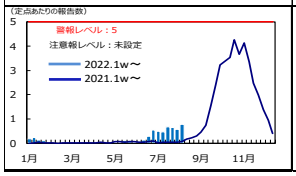
感染性胃腸炎は4%増の283例で、南河内2.31、中河内2.05、大阪市西部1.60である。

手足口病は33%増の153例で、三島1.29、南河内1.06、大阪市北部・大阪市西部1.00であった。

ヘルパンギーナは2%減の42例で、大阪市北部0.43、大阪市西部0.40、三島0.29である。

インフルエンザは府内で8例の報告があった。

手足口病



RSウイルス感染症

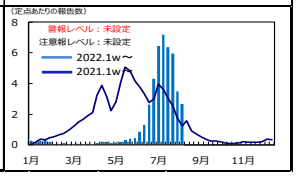


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第33週8月15日～8月21日）

第33週の順位	第32週の順位	感染症	2022年第33週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第33週の定点あたり報告数	2022年第33週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	2.68	24%減	1.23	１歳_31%
2	2	感染性胃腸炎	1.44	4%増	2.18	１歳_20%
3	3	手足口病	0.78	33%増	0.07	１歳，２歳_28%
4	4	ヘルパンギーナ	0.21	2%減	0.09	１歳_31%
5	6	突発性発しん	0.15	14%減	0.26	１歳_57%

第33週のコメント

～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例と増加している。大阪府では2018年の1,188 例が過去最高となっている。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

梅毒(大阪府感染症情報センター)

梅毒(大阪健康安全基盤研究所)

梅毒とは(国立感染症研究所)

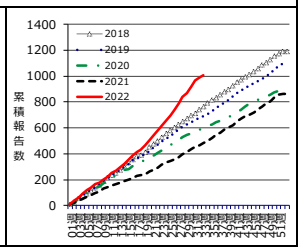


表２．大阪府全数報告数（2022年 第33週8月15日～8月21日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名 （ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2		1					1		97
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1		1							65
	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	2								2	
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2			1	1					78
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	23
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	58
	梅毒	17	1			2				14	1007
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	139,042	2020年1月以降累計　1,771,502								
結核 （2022年6月分）	結核　新登録患者数：81名 （内　肺・喀痰塗抹陽性　34名） （府内累積報告数　528名、内　肺・喀痰塗抹陽性　194名）										

（2022年8月23日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第34週（8月22日～8月28日）

今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～　手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

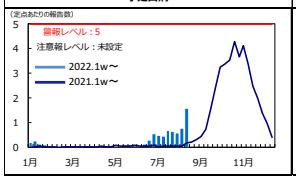
定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ 増加」

第34週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は 1,341例であり、前週比 22.5%増であった。
報告数の第１位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎の順で、上位５疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 2.29、1.88、1.57、0.42、0.27である。
RSウイルス感染症は前週比14%減の452例で、南河内4.13、堺市3.68、泉州3.40、大阪市南部3.06、北河内2.64であった。
感染性胃腸炎は 31%増の370例で、中河内3.10、南河内2.94、堺市2.05である。
手足口病は 103%増の310例で、大阪市北部2.71、大阪市西部2.20、三島1.88であった。
ヘルパンギーナは 95%増の82例で、大阪市北部1.43、大阪市西部0.90、泉州0.80である。
流行性角結膜炎は 367%増の14例で、三島・南河内・泉州・大阪市南部が いずれも0.50であった。

インフルエンザは13%増の9例で、定点あたり報告数は0.03である。

手足口病



ヘルパンギーナ

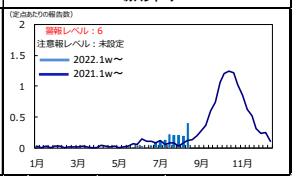


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第34週8月22日～8月28日）

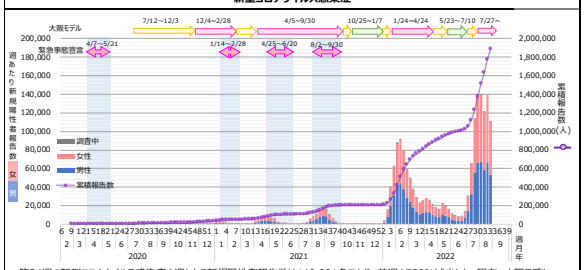
第34週の順位	第33週の順位	感染症	2022年第34週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第34週の定点あたり報告数	2022年第34週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	2.29	14%減	1.57	1歳_34%
2	2	感染性胃腸炎	1.88	31%増	2.42	1歳_19%
3	3	手足口病	1.57	103%増	0.17	1歳_43%
4	4	ヘルパンギーナ	0.42	95%増	0.12	1歳_40%
5	9	流行性角結膜炎	0.27	367%増	0.31	20歳以上_86%

第34週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第34週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は110,901名であり、前週より20%減少した。現在、大阪モデルは警戒信号（赤）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究)| 新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第34週8月22日～8月28日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4			1				3		101
4類感染症	デング熱	1							1		7
5類感染症	アメーバ赤痢	1						1			30
	急性脳炎	1							1		9
	後天性免疫不全症候群	1		1							63
	梅毒	4	1		1	1			1		1018
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	110,901	2020年1月以降累計　1,882,391								
結核（2022年6月分）	結核　新登録患者数：81名（内　肺・喀痰塗抹陽性　34名）（府内累積報告数　528名、内　肺・喀痰塗抹陽性　194名）										

（2022年8月30日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第35週（8月29日～9月4日）

今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～　手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

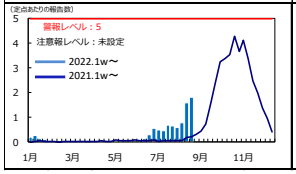
定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ 増加続く」

第35週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,425例であり、前週比6.3%増であった。定点あたり報告数の第１位はRSウイルス感染症・感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.13、1.81、0.47、0.25である。
RSウイルス感染症は前週比7%減の419例で、南河内5.13、堺市4.58、大阪市南部2.72、大阪市西部2.10、北河内2.08であった。
感染性胃腸炎は13%増の419例で、中河内3.40、南河内3.06、泉州2.65、大阪市北部2.50、三島2.06である。
手足口病は15%増の356例で、大阪市北部4.00、三島2.35、南河内2.06であった。
ヘルパンギーナは12%増の92例で、大阪市北部0.79、南河内0.75、堺市0.58である。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%増の50例で、大阪市南部1.06、中河内0.60、泉州0.25であった。

インフルエンザは56%減の4例で、定点あたり報告数は0.01である。

手足口病



ヘルパンギーナ

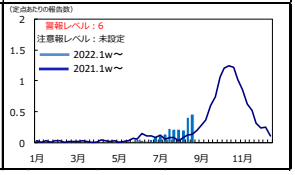


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第35週8月29日～9月4日）

第35週の順位	第34週の順位	感染症	2022年第35週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第35週の定点あたり報告数	2022年第35週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	2.13	7%減	0.87	1歳_34%
1	2	感染性胃腸炎	2.13	13%増	2.52	2歳_18%
3	3	手足口病	1.81	15%増	0.22	1歳_39%
4	4	ヘルパンギーナ	0.47	12%増	0.14	1歳_35%
5	6	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.25	19%増	0.31	4歳_26%

第35週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌はO157だけではありません（大阪健康安全基盤研究所）

腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

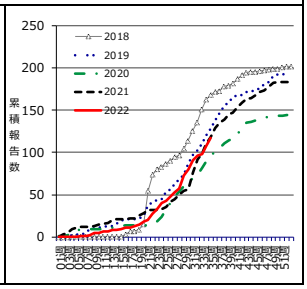


表２．大阪府全数報告数（2022年 第35週8月29日～9月4日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10		2		1		1		6	117
4類感染症	A型肝炎	1								1	5
5類感染症	梅毒	26	2	2	2	2		1	1	16	1091
	百日咳	1								1	19
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	72,924	2020年1月以降累計　1,955,312								
結核（2022年7月分）	結核　新登録患者数：48名（内　肺・喀痰塗抹陽性　20名）（府内累積報告数　578名、内　肺・喀痰塗抹陽性　214名）										

（2022年9月6日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第36週（9月5日～9月11日）

今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～　手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ 増加継続」

第36週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,653例であり、前週比16.0%増であった。定点あたり報告数の第１位はRSウイルス感染症で以下、手足口病、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.43、2.31、2.22、0.60、0.30である。

RSウイルス感染症は前週比14%増の477例で、南河内6.94、堺市5.37、泉州2.84、北河内2.80、大阪市西部2.10であった。

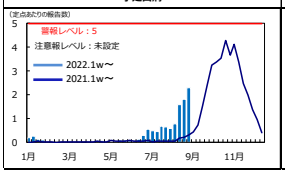
手足口病は27%増の453例で、大阪市南部3.44、三島3.41、南河内3.13である。

感染性胃腸炎は4%増の435例で、南河内3.81、中河内3.25、大阪市南部2.83であった。

ヘルパンギーナは27%増の117例で、大阪市北部0.93、泉州0.89、三島0.82である。

インフルエンザは50%増の6例で、定点あたり報告数は0.02であった。

手足口病



ヘルパンギーナ

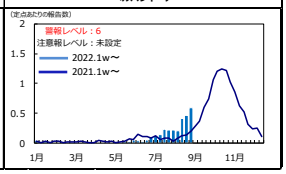


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第36週9月5日～9月11日）

第36週の順位	第35週の順位	感染症	2022年第36週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第36週の定点あたり報告数	2022年第36週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	2.43	14%増	0.69	1歳_29%
2	3	手足口病	2.31	27%増	0.31	1歳_37%
3	1	感染性胃腸炎	2.22	4%増	2.59	1歳_18%
4	4	ヘルパンギーナ	0.60	27%増	0.20	1歳_32%
5	7	突発性発しん	0.30	48%増	0.35	1歳_49%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.02	50%増	0.00	5歳_33%

第36週のコメント

～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例と増加している。大阪府では2022年第36週時点で1,130例と、現行の集計方法で過去最高の年間報告数であった2018年の1,188例に迫る報告数となっている。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

梅毒(大阪府感染症情報センター)
梅毒とは(国立感染症研究所)

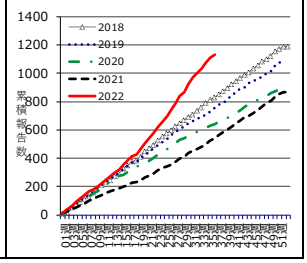


表２．大阪府全数報告数（2022年 第36週9月5日～9月11日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（　）内の病型は今週報告分のみ府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8			1	2				5		128
４類感染症	デング熱	1							1			8
	日本紅斑熱	1								1		7
	レジオネラ症（肺炎型）	4					1		1	2		71
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1								1		87
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1		25
	後天性免疫不全症候群	1				1						67
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	1									62
	梅毒	21	2	1	1	2		1		14		1130
	百日咳	1								1		20
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	54,036	2020年1月以降累計　2,009,334									
結核（2022年7月分）	結核　新登録患者数：48名（内　肺・喀痰塗抹陽性　20名）（府内累積報告数　578名、内　肺・喀痰塗抹陽性　214名）											

（2022年9月13日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第37週（9月12日～9月18日）

今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～　手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ　今後の動向に注意が必要」

第37週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,467例であり、前週比11.3%減であった。定点あたり報告数の第１位は手足口病で以下、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.23、2.16、1.81、0.55、0.30である。

手足口病は前週比4%減の437例で、中河内4.00、大阪市北部3.43、三島2.71、北河内2.60、南河内2.31であった。

RSウイルス感染症は11%減の424例で、堺市5.42、南河内4.63、北河内3.00である。

感染性胃腸炎は18%減の355例で、南河内3.75、中河内3.60、三島2.24であった。

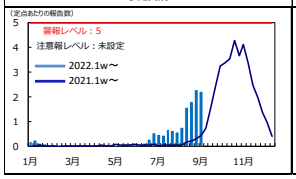
ヘルパンギーナは8%減の108例で、豊能1.09、三島1.06、大阪市北部0.79である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は12%増の58例で、大阪市南部1.22、中河内0.55、泉州0.42であった。

手足口病、ヘルパンギーナともに、地域によっては増加しており今後の動向に注意が必要である。

インフルエンザは50%減の3例で、定点あたり報告数は0.01であった。

手足口病



ヘルパンギーナ

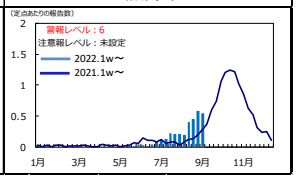


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第37週9月12日～9月18日）

第37週の順位	第36週の順位	感染症	2022年第37週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第37週の定点あたり報告数	2022年第37週の年齢別患者発生数最大割合値
1	2	手足口病	2.23	4%減	0.44	1歳_40%
2	1	RSウイルス感染症	2.16	11%減	0.55	1歳_31%
3	3	感染性胃腸炎	1.81	18%減	2.24	1歳_18%
4	4	ヘルパンギーナ	0.55	8%減	0.28	1歳_29%
5	6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	12%増	0.36	3歳, 4歳, 10-14歳_16%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.01	50%減	0.00	10-14歳_67%

第37週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌（大阪健康安全基盤研究所）
腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

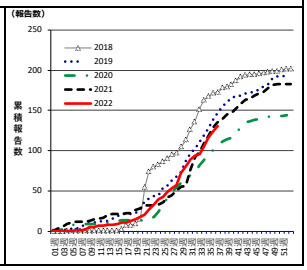


表２．大阪府全数報告数（2022年 第37週9月12日～9月18日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（　）内の病型は今週報告分のみ府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7		1		1	1		1	3		131
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1								1		72
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1									88
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1									11
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1			65
	梅毒	11				1			1	9		1,175
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	42,221	2020年1月以降累計　2,051,549									
結核（2022年7月分）	結核　新登録患者数：48名（内　肺・喀痰塗抹陽性　20名）（府内累積報告数　578名、内　肺・喀痰塗抹陽性　214名）											

（2022年9月20日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第38週（9月19日～9月25日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症　減少」

第38週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,140例であり、前週比22.3%減であった。定点あたり報告数の第１位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.89、1.73、1.03、0.43、0.33である。

手足口病は前週比15%減の370例で、南河内3.81、大阪市西部2.80、大阪市南部2.56、三島2.41、中河内2.35であった。

感染性胃腸炎は4%減の340例で、中河内4.00、南河内2.19、北河内1.88である。

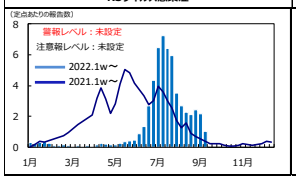
RSウイルス感染症は52%減の202例で、南河内2.56、堺市2.11、北河内1.12であった。

ヘルパンギーナは22%減の84例で、大阪市北部0.93、大阪市南部0.67、豊能0.61である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は12%増の65例で、大阪市南部0.78、泉州0.68、中河内0.65であった。

インフルエンザは167%増の8例で、定点あたり報告数は0.03である。

RSウイルス感染症



手足口病

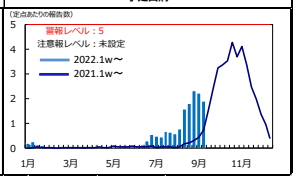


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第38週9月19日～9月25日）

第38週の順位	第37週の順位	感染症	2022年第38週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第38週の定点あたり報告数	2022年第38週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	手足口病	1.89	15%減	0.74	1歳_36%
2	3	感染性胃腸炎	1.73	4%減	2.17	1歳_17%
3	2	RSウイルス感染症	1.03	52%減	0.38	1歳未満_28%
4	4	ヘルパンギーナ	0.43	22%減	0.36	1歳_38%
5	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.33	12%増	0.27	5歳_17%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.03	167%増	0.00	5歳,10-14歳_25%

第38週のコメント

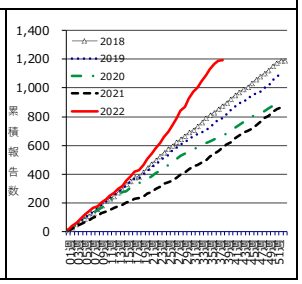
～梅毒～　大阪府における2022年の梅毒累計報告数は、現行の集計方法で過去最高となった。

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例と増加している。2022年第38週時点で大阪府では1,193例と、現行の集計方法で過去最高の年間報告数であった2018年の1,188 例を超えた。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。



梅毒(大阪府感染症情報センター)
梅毒(大阪健康安全基盤研究所)
梅毒とは(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第38週9月19日～9月25日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>［週報］> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4	1	1						2		141
4類感染症	デング熱	1							1			9
	レジオネラ症（肺炎型）	4	1				1		1	1	1	77
5類感染症	アメーバ赤痢	1		1								33
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5			1		2			2		99
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1								1		12
	梅毒	6	2	1			1			2		1193
	破傷風	2		1			1					3
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	29,630	2020年1月以降累計　2,081,167									
結核（2022年7月分）	結核　新登録患者数：48名（内　肺・喀痰塗抹陽性　20名）（府内累積報告数　578名、内　肺・喀痰塗抹陽性　214名）											

（2022年9月27日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第39週（9月26日～10月2日）

今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～　手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ　再び増加」

第39週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,195例であり、前週比4.8%増であった。定点あたり報告数の第１位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.08、1.80、0.83、0.55、0.36である。

手足口病は前週比10%増の407例で、三島4.06、南河内3.06、大阪市北部2.79、大阪市西部2.70、大阪市南部2.50であった。

感染性胃腸炎は4%増の353例で、中河内3.40、南河内3.13、大阪市南部2.11である。

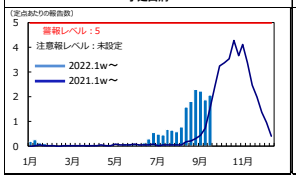
RSウイルス感染症は20%減の162例で、南河内2.25、堺市1.63、泉州0.89であった。

ヘルパンギーナは27%増の107例で、三島1.35、大阪市西部0.80、北河内0.76である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9%増の71例で、大阪市南部1.61、中河内0.60、泉州0.53であった。

インフルエンザは63%減の3例で、定点あたり報告数は0.01である。

手足口病



ヘルパンギーナ

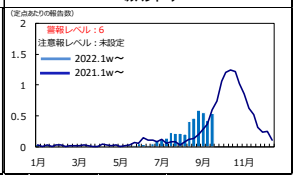


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第39週9月26日～10月2日）

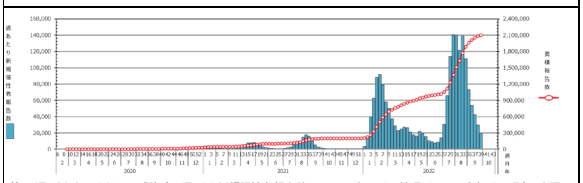
第39週の順位	第38週の順位	感染症	2022年第39週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第39週の定点あたり報告数	2022年第39週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	手足口病	2.08	10%増	1.54	1歳_36%
2	2	感染性胃腸炎	1.80	4%増	2.40	1歳_16%
3	3	RSウイルス感染症	0.83	20%減	0.25	1歳未満_30%
4	4	ヘルパンギーナ	0.55	27%増	0.60	1歳_33%
5	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	9%増	0.41	8歳_17%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.01	63%減	0.00	1歳,5歳,9歳_33%

第39週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第39週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は19,613名であり、前週より34%減少した。現在、大阪モデルは警戒信号（黄）である。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第39週9月26日～10月2日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>［週報］> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5		1	1	1				2		146
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	5		1	1	1	1			1		85
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	1		1	1						106
	後天性免疫不全症候群	2								2		72
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1			9
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1		69
	梅毒	18	2	1		2				13		1268
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	19,613	2020年1月以降累計　2,100,780									
結核（2022年8月分）	結核　新登録患者数：58名（内　肺・喀痰塗抹陽性　17名）（府内累積報告数　642名、内　肺・喀痰塗抹陽性　232名）											

（2022年10月4日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）

2022年 第40週（10月3日～10月9日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～　咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加」

第40週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,154例であり、前週比3.4%減であった。定点あたり報告数の第１位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ12.05、1.92、0.70、0.47、0.43である。

手足口病は前週比1%減の401例で、三島3.53、南河内3.44、堺市2.58、大阪市南部2.56、北河内2.40であった。

感染性胃腸炎は7%増の376例で、南河内2.94、大阪市南部2.83、中河内2.70である。

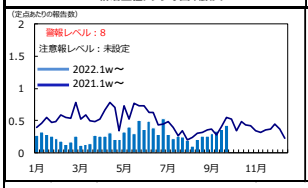
RSウイルス感染症は15%減の137例で、南河内2.75、堺市1.26、泉州1.00であった。

ヘルパンギーナは13%減の93例で、大阪市南部1.11、三島0.71、豊能0.52である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は18%増の84例で、泉州1.05、大阪市南部0.89、中河内0.75であった。

インフルエンザは増減なしの3例で、定点あたり報告数は0.01である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎



手足口病

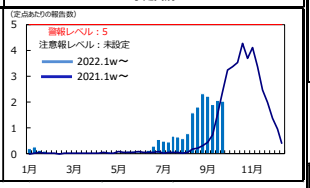


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第40週10月3日～10月9日）

第40週の順位	第39週の順位	感染症	2022年第40週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第40週の定点あたり報告数	2022年第40週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	手足口病	2.05	1%減	2.42	１歳_36%
2	2	感染性胃腸炎	1.92	7%増	2.57	１歳_15%
3	3	RSウイルス感染症	0.70	15%減	0.23	１歳_29%
4	4	ヘルパンギーナ	0.47	13%減	0.75	２歳_23%
5	5	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.43	18%増	0.55	３歳_19%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.01	増減なし	0.00	１歳_67%

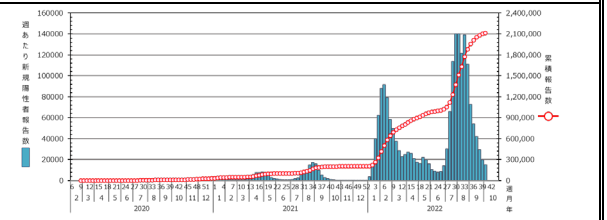
第40週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症



第40週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は15,077名であり、前週より23%減少した。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。

新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)
新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第40週10月3日～10月9日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3			1	1	1					149
４類感染症	デング熱	1							1			10
	レジオネラ症（肺炎型）	1				1						86
５類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1					1					14
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1						27
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1								1		10
	侵襲性肺炎球菌感染症	1					1					70
	梅毒	13	2	1	2				1	7		1288
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	15,077	2020年1月以降累計　2,115,857									
結核（2022年8月分）	結核　新登録患者数：58名	（内　肺・喀痰塗抹陽性　17名）（府内累積報告数　642名、内　肺・喀痰塗抹陽性　232名）										

（2022年10月11日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）

2022年 第41週（10月10日～10月16日）

今週のコメント

～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～　手洗い、うがいが重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎　増加続く」

第41週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,073例であり、前週比7.0%減であった。定点あたり報告数の第１位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナの順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.91、1.66、0.56、0.55、0.37である。

手足口病は前週比7%減の374例で、南河内3.75、中河内2.90、大阪市南部2.83、三島2.71、堺市1.95であった。

感染性胃腸炎は13%減の326例で、中河内2.75、南河内2.38、大阪市南部2.22である。

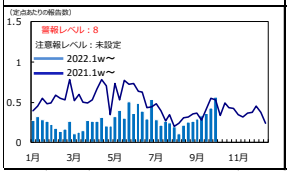
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は31%増の110例で、大阪市南部1.94、泉州1.53、豊能0.70であった。

RSウイルス感染症は21%減の108例で、南河内3.00、堺市0.79、大阪市北部0.64である。

ヘルパンギーナは23%減の72例で、大阪市北部0.86、大阪市西部0.80、三島0.65であった。

インフルエンザは14例で、定点あたり報告数は0.05である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎



手足口病

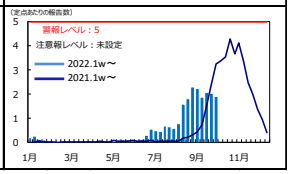


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第41週10月10日～10月16日）

第41週の順位	第40週の順位	感染症	2022年第41週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第41週の定点あたり報告数	2022年第41週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	手足口病	1.91	7%減	3.21	１歳_38%
2	2	感染性胃腸炎	1.66	13%減	2.66	１歳_20%
3	5	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	31%増	0.53	10-14歳_20%
4	3	RSウイルス感染症	0.55	21%減	0.20	１歳未満_36%
5	4	ヘルパンギーナ	0.37	23%減	1.07	１歳_29%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.05	367%増	0.00	20歳以上_36%

第41週のコメント

～梅毒～　大阪府における2022年の梅毒累計報告数は、現行の集計方法で過去最高となった。

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例と増加している。2022年第41週時点で大阪府では1,337例と、現行の集計方法で過去最高の年間報告数であった2018年の1,188 例を超えた。

梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

梅毒(大阪府感染症情報センター)
梅毒(大阪健康安全基盤研究所)
梅毒とは(国立感染症研究所)

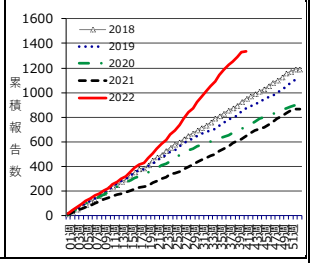


表２．大阪府全数報告数（2022年 第41週10月10日～10月16日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数	府内累積
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2								2		152
４類感染症	日本紅斑熱	1							1			8
	レジオネラ症（肺炎型）	4		1			1			2		92
	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	1								1		
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2					2					111
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1								15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		1								29
	後天性免疫不全症候群	1								1		75
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1			1							11
	侵襲性肺炎球菌感染症	1					1					73
	梅毒	9	1			1				7		1,337
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	16,105	2020年1月以降累計　2,131,962									
結核（2022年8月分）	結核　新登録患者数：58名	（内　肺・喀痰塗抹陽性　17名）（府内累積報告数　642名、内　肺・喀痰塗抹陽性　232名）										

（2022年10月18日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）

2022年 第42週（10月17日～10月23日）

今週のコメント

～ヘルパンギーナ～　手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ　増加」

第42週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,136例であり、前週比5.9%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.04、1.71、0.60、0.55、0.39である。

感染性胃腸炎は前週比23%増の400例で、中河内3.40、南河内3.25、大阪市西部3.20、豊能2.65、堺市・大阪市南部2.00であった。

手足口病は10%減の336例で、南河内3.00、中河内2.40、三島2.35である。

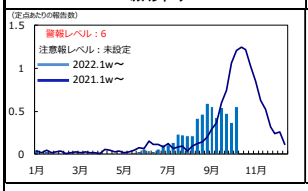
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は6%増の117例で、泉州1.89、大阪市南部1.44、中河内1.15であった。

ヘルパンギーナは50%増の108例で、北河内1.04、南河内0.69、大阪市南部0.67である。

RSウイルス感染症は29%減の77例で、南河内1.81、泉州0.74、北河内0.44であった。

インフルエンザは9例増の23例で、定点あたり報告数は0.08である。

ヘルパンギーナ



感染性胃腸炎

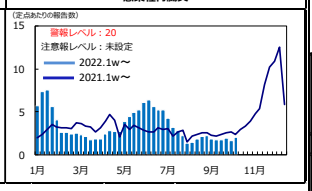


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第42週10月17日～10月23日）

第42週の順位	第41週の順位	感染症	2022年第42週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第42週の定点あたり報告数	2022年第42週の年齢別患者発生数最大割合値
1	2	感染性胃腸炎	2.04	23%増	2.34	１歳_16%
2	1	手足口病	1.71	10%減	3.36	１歳_44%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.60	6%増	0.34	10-14歳_18%
4	5	ヘルパンギーナ	0.55	50%増	1.20	１歳_42%
5	4	RSウイルス感染症	0.39	29%減	0.13	１歳未満_31%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.08	64%増	0.00	15-19歳_39%

第42週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食内・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症（大阪健康安全基盤研究所）

腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

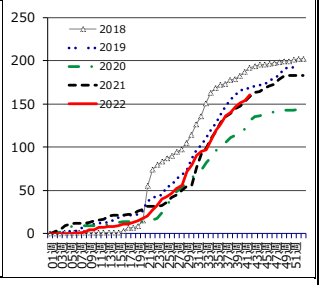


表２．大阪府全数報告数（2022年 第42週10月17日～10月23日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6					5			1	160
４類感染症	デング熱	1							1		11
	レジオネラ症(肺炎型)	2	2								95
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5	1			1				3	118
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	30
	梅毒	14	1			3	1		1	8	1,366
	百日咳	2			1				1		23
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	16,453	2020年1月以降累計　2,148,415								
結核（2022年8月分）	結核　新登録患者数：58名（内　肺・喀痰塗抹陽性　17名）（府内累積報告数　642名、内　肺・喀痰塗抹陽性　232名）										

（2022年10月25日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）

2022年 第44週（10月31日～11月6日）

今週のコメント

～インフルエンザ～　咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ　増加」

第43週と第44週をあわせて報告する。

第43週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は984例であり、前週比13.4%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.98、1.28、0.60、0.47、0.28である。

第44週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,009例であり、前週比2.5%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.15、1.24、0.54、0.46、0.29である。

感染性胃腸炎は前週比9%増の422例で、中河内4.00、大阪市西部2.60、南河内2.31、大阪市南部2.28、三島2.24であった。

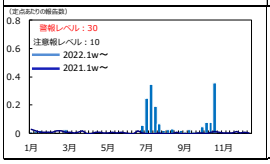
手足口病は3%減の244例で、南河内2.69、堺市1.68、豊能1.39である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は9%減の106例で、泉州1.84、中河内1.15、大阪市南部0.61であった。

ヘルパンギーナは2%減の91例で、北河内1.00、南河内0.69、泉州0.68である。

インフルエンザは346%増の107例、定点あたり報告数は0.36であり、堺市0.97、大阪市南部0.67、大阪市西部0.47であった。

インフルエンザ



感染性胃腸炎

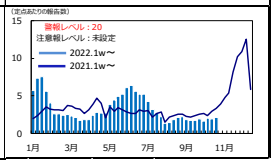


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第44週10月31日～11月6日）

第44週の順位	第43週の順位	感染症	2022年第44週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第44週の定点あたり報告数	2022年第44週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.15	9%増	3.29	１歳_15%
2	2	手足口病	1.24	3%減	4.27	１歳_42%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.54	9%減	0.43	４歳、10-14歳_13%
4	4	ヘルパンギーナ	0.46	2%減	1.22	２歳_27%
5	6	突発性発しん	0.29	47%増	0.37	１歳_73%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.36	346%増	0.01	20歳以上_21%

第44週のコメント

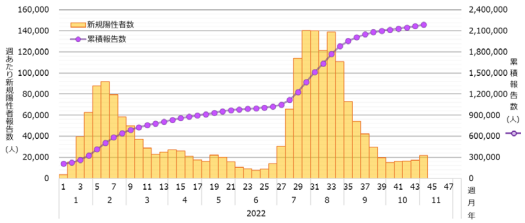
～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症

第44週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は21,860名であり、前週より27%増加した。大阪モデルは、11月8日に警戒解除（緑）から警戒信号（黄）に移行した。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。



新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第44週10月31日～11月6日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2							1	1	166
５類感染症	アメーバ赤痢	1	1								35
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	1						2		130
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1							1		31
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	1	1			1		1		81
	梅毒	13	1		1	1	1		1	8	1,455
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	21,860	2020年1月以降累計　2,187,515								
結核（2022年9月分）	結核　新登録患者数：56名（内　肺・喀痰塗抹陽性　31名）（府内累積報告数　806名、内　肺・喀痰塗抹陽性　308名）										

（2022年11月8日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第45週（11月7日～11月13日）

今週のコメント

～インフルエンザ～　咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ増加続く」

第45週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は前週比8例減の1,001例であった。

定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症の順で、上位５疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 2.32、1.09、0.47、0.41、0.28である。

感染性胃腸炎は前週比 8%増の455例で、南河内3.88、大阪市南部3.28、中河内3.20、堺市2.58、大阪市北部2.43であった。

手足口病は 12%減の214例で、北河内1.84、南河内1.81、堺市1.63である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 12%減の93例で、中河内1.20、泉州0.74、南河内0.69であった。

ヘルパンギーナは 11%減の81例で、大阪市東部1.00、泉州0.95、大阪市西部・大阪市南部0.50である。

RSウイルス感染症は 29%増の54例で、南河内1.19、堺市0.58、大阪市北部0.57であった。

インフルエンザは36%増の145例で定点あたり報告数は0.48である。大阪市南部1.26、大阪市北部0.85、堺市0.76であった。

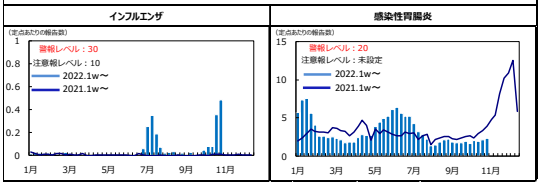


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第45週11月7日～11月13日）

第45週の順位	第44週の順位	感染症	2022年第45週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第45週の定点あたり報告数	2022年第45週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.32	8%増	3.90	1歳_15%
2	2	手足口病	1.09	12%減	3.60	1歳_36%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.47	12%減	0.42	3歳_16%
4	4	ヘルパンギーナ	0.41	11%減	0.99	1歳_27%
5	6	RSウイルス感染症	0.28	29%増	0.11	1歳_26%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.48	36%増	0.01	20歳以上_17%

第45週のコメント

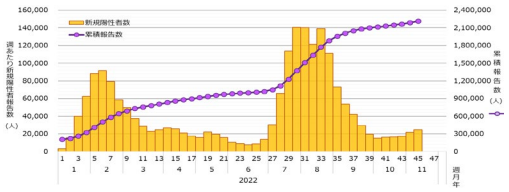
～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症

第45週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は24,660名であり、前週より13%増加した。大阪モデルは、11月8日に警戒解除（緑）から警戒信号（黄）に移行した。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。



新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第45週11月7日～11月13日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	1						1		168
４類感染症	デング熱	1								1	13
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2		1			1				136
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1						1			32
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1		83
	梅毒	23		1	3	2	3			14	1,487
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	24,660	2020年1月以降累計　2,212,175								
結核（2022年9月分）	結核　新登録患者数：56名（内　肺・喀痰塗抹陽性　31名）（府内累積報告数　806名、内　肺・喀痰塗抹陽性　308名）										

（2022年11月15日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報 （速報）
2022年 第46週（11月14日～11月20日）

今週のコメント

～インフルエンザ～　咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ　今後の動向に注意」

第46週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,086例であり、前週比8.5%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.91、0.96、0.43、0.42、0.24である。

感染性胃腸炎は前週比25%増の571例で、大阪市西部6.00、南河内4.75、豊能3.48、中河内3.20、泉州2.89であった。

手足口病は12%減の188例で、南河内2.63、大阪市南部1.28、堺市1.21である。

ヘルパンギーナは5%増の85例で、大阪市東部1.00、泉州0.95、南河内0.75であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は11%減の83例で、中河内1.50、泉州0.95、大阪市南部0.67である。

インフルエンザは6%増の154例で、定点あたり報告数は0.51であった。大阪市北部1.95、大阪市西部0.80、泉州0.63である。

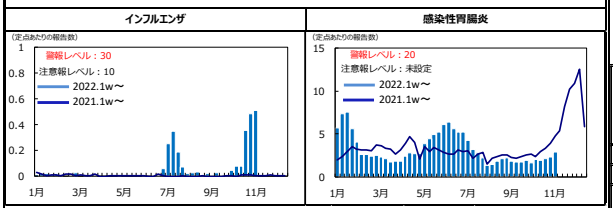


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第46週11月14日～11月20日）

第46週の順位	第45週の順位	感染症	2022年第46週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第46週の定点あたり報告数	2022年第46週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.91	25%増	4.67	1歳_15%
2	2	手足口病	0.96	12%減	4.07	1歳_42%
3	4	ヘルパンギーナ	0.43	5%増	0.85	1歳,2歳_24%
4	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.42	11%減	0.34	4歳,6歳_17%
5	6	突発性発しん	0.24	6%減	0.28	1歳_49%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.51	6%増	0.00	20歳以上_24%

第46週のコメント

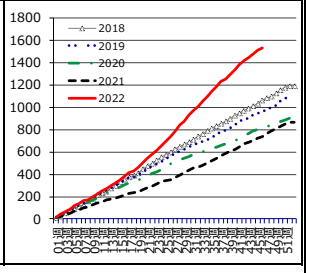
～梅毒～

大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例と増加している。2022年第46週時点で大阪府では1,531例と、現行の集計方法で過去最高の年間報告数であった2018年の1,188 例を超えた。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。



梅毒について（大阪健康安全基盤研究所）

梅毒とは(国立感染症研究所)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第46週11月14日～11月20日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3					1		1	1	169
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	102
５類感染症	ウイルス性肝炎	1								1	8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1				33
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	1				1			3	89
	梅毒	24			1	1	1		3	18	1,531
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	27,532	2020年1月以降累計　2,239,707								
結核（2022年9月分）	結核　新登録患者数：56名（内　肺・喀痰塗抹陽性　31名）（府内累積報告数　806名、内　肺・喀痰塗抹陽性　308名）										

（2022年11月22日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第47週（11月21日～11月27日）

今週のコメント

～インフルエンザ～　咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ　ほぼ横ばい」

第47週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,067例であり、前週比1.7%減であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.99、0.87、0.45、0.37、0.24である。

感染性胃腸炎は前週比3%増の587例で、大阪市南部4.89、大阪市西部4.10、堺市3.79、南河内3.69、中河内3.20であった。

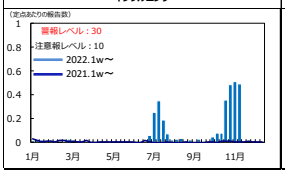
手足口病は10%減の170例で、中河内1.55、南河内1.38、堺市1.37である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は7%増の89例で、中河内1.75、大阪市南部1.33、大阪市西部0.70であった。

ヘルパンギーナは15%減の72例で、大阪市南部0.72、泉州0.63、大阪市東部0.53である。

インフルエンザは4%減の148例で、定点あたり報告数は0.49であった。大阪市北部1.55、堺市0.69、北河内0.68である。

インフルエンザ



感染性胃腸炎

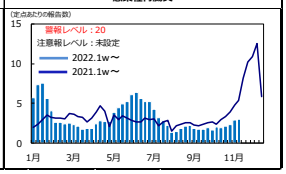


表１．大阪府小児科･眼科定点把握感染症の動向（2022年 第47週11月21日～11月27日）

第47週の順位	第46週の順位	感染症	2022年第47週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第47週の定点あたり報告数	2022年第47週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.99	3%増	5.36	2歳_14%
2	2	手足口病	0.87	10%減	3.37	1歳_39%
3	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.45	7%増	0.31	6歳,10-14歳_13%
4	3	ヘルパンギーナ	0.37	15%減	0.62	2歳_29%
5	5	突発性発しん	0.24	増減なし	0.30	1歳_68%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.49	4%減	0.00	20歳以上_20%

第47週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉･食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌（大阪健康安全基盤研究所）
腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

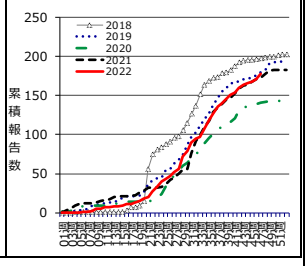


表２．大阪府全数報告数（2022年 第47週11月21日～11月27日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7							1	6	178
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2			1		1				104
5類感染症	ウイルス性肝炎	2			1					1	10
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1							138
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	1			1	1				36
	後天性免疫不全症候群	3								3	85
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2							1	1	14
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1		91
	水痘（入院例）	3		1						2	16
	梅毒	15	1		1				1	12	1,553
	播種性クリプトコックス症	1								1	5
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	33,485	2020年1月以降累計　2,273,192								
結核（2022年9月分）	結核　新登録患者数：56名（内　肺･喀痰塗抹陽性　31名）（府内累積報告数　806名、内　肺･喀痰塗抹陽性　308名）										

（2022年11月29日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第48週（11月28日～12月4日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　増加」

第48週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,115例であり、前週比4.5%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.32、0.84、0.41、0.35、0.27である。

感染性胃腸炎は前週比11%増の651例で、大阪市西部8.50、南河内4.75、中河内4.60、豊能3.96、大阪市南部3.39であった。

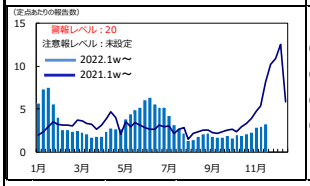
手足口病は4%減の164例で、堺市1.47、大阪市南部1.28、北河内1.20である。

ヘルパンギーナは13%増の81例で、大阪市東部1.33、北河内0.76、大阪市西部0.70であった。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は22%減の69例で、中河内0.90、大阪市南部0.89、泉州0.47である。

インフルエンザは25%減の111例で、定点あたり報告数は0.37であった。大阪市北部0.85、泉州0.63、北河内0.60である。

感染性胃腸炎



インフルエンザ

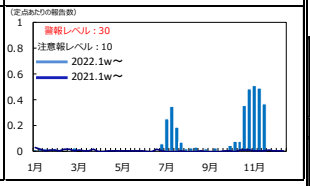


表１．大阪府小児科･眼科定点把握感染症の動向（2022年 第48週11月28日～12月4日）

第48週の順位	第47週の順位	感染症	2022年第48週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第48週の定点あたり報告数	2022年第48週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.32	11%増	8.10	1歳_16%
2	2	手足口病	0.84	4%減	2.47	1歳_34%
3	4	ヘルパンギーナ	0.41	13%増	0.52	2歳_31%
4	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.35	22%減	0.36	3歳,４歳,５歳_14%
5	5	突発性発しん	0.27	11%増	0.26	1歳_67%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.37	25%減	0.00	10-14歳_24%

第48週のコメント

～梅毒～　大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

全数把握感染症

梅毒

全国の梅毒の報告数は、2020年5,784例、2021年は過去最高の7,873例と増加している。2022年第48週時点で大阪府では1,640例と、現行の集計方法で過去最高の年間報告数であった2018年の1,188 例を超えている。梅毒は、性行為･オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

梅毒（大阪府感染症情報センター）
梅毒とは(国立感染症研究所)

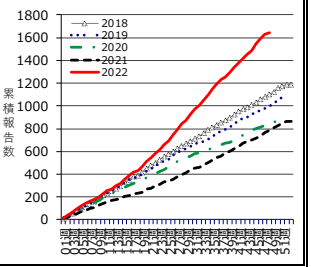


表２．大阪府全数報告数（2022年 第48週11月28日～12月4日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3		1		2					181
5類感染症	アメーバ赤痢	1		1							40
	ウイルス性肝炎	1		1							12
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	2		1						143
	クロイツフェルト･ヤコブ病	1			1						17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		1						1	39
	後天性免疫不全症候群	1								1	86
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	2				1		1	1	96
	梅毒	14			2	1	1		1	9	1,640
	百日咳	2			1					1	29
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	36,649	2020年1月以降累計　2,309,841								
結核（2022年10月分）	結核　新登録患者数：47名（内　肺･喀痰塗抹陽性　24名）（府内累積報告数　859名、内　肺･喀痰塗抹陽性　331名）										

（2022年12月6日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第49週（12月5日～12月11日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～　手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎　さらに増加」

第49週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,208例であり、前週比8.3%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.69、0.92、0.42、0.41、0.26である。

感染性胃腸炎は前週比11%増の724例で、大阪市西部7.90、南河内4.94、豊能4.61、中河内4.20、大阪市南部3.67であった。

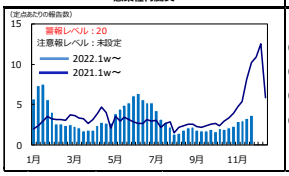
手足口病は10%増の181例で、南河内2.44、北河内1.76、中河内1.10である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%増の82例で、中河内1.05、大阪市南部0.78、泉州0.68であった。

ヘルパンギーナは1%減の80例で、北河内0.84、泉州0.58、大阪市南部0.50である。

インフルエンザは75%増の194例で、定点あたり報告数は0.65であった。大阪市北部1.80、堺市1.38の2ブロックで流行開始の目安である１を超えている。

感染性胃腸炎



インフルエンザ

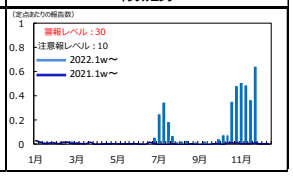


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第49週12月5日～12月11日）

第49週の順位	第48週の順位	感染症	2022年第49週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第49週の定点あたり報告数	2022年第49週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.69	11%増	10.15	2歳_16%
2	2	手足口病	0.92	10%増	1.98	1歳_33%
3	4	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.42	19%増	0.38	10-14歳_16%
4	3	ヘルパンギーナ	0.41	1%減	0.31	1歳_25%
5	5	突発性発しん	0.26	4%減	0.25	1歳_56%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.65	75%増	0.01	10-14歳_20%

第49週のコメント

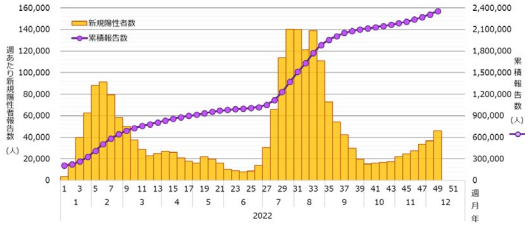
～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症

第49週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は46,032名であり、前週より26%増加した。大阪モデルは、11月8日に警戒解除（緑）から警戒信号（黄）に移行した。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。



新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2022年 第49週12月5日～12月11日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（　）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1				1					182
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1				1					107
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1							148
	侵襲性肺炎球菌感染症	3		1		1				1	100
	梅毒	14		1	1				1	11	1,664
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	46,032	2020年1月以降累計　2,355,873								
結核（2022年10月分）	結核　新登録患者数：47名（内　肺・喀痰塗抹陽性　24名）（府内累積報告数　859名、内　肺・喀痰塗抹陽性　331名）										

（2022年12月13日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2022年 第50週（12月12日～12月18日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎とインフルエンザ 増加続く」

第50週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,205例であり、前週比0.2%減であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.14、0.62、0.38、0.33、0.19である。

感染性胃腸炎は前週比12%増の812例で、大阪市西部5.90、大阪市南部5.50、南河内5.38、豊能4.96、堺市4.37であった。

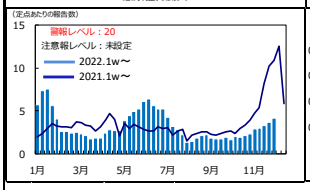
手足口病は33%減の122例で、南河内2.06、堺市1.00、北河内0.92である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は10%減の74例で、中河内0.80、大阪市南部0.67、泉州0.47であった。

ヘルパンギーナは20%減の64例で、泉州0.79、大阪市東部0.67、北河内0.64である。

インフルエンザは26%増の245例で、定点あたり報告数は0.82であった。堺市2.59、大阪市北部1.10、大阪市西部0.93である。

感染性胃腸炎



インフルエンザ

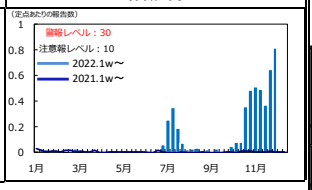


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第50週12月12日～12月18日）

第50週の順位	第49週の順位	感染症	2022年第50週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第50週の定点あたり報告数	2022年第50週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.14	12%増	10.70	1歳_15%
2	2	手足口病	0.62	33%減	1.38	1歳,2歳_32%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.38	10%減	0.44	3歳_16%
4	4	ヘルパンギーナ	0.33	20%減	0.24	2歳_28%
5	5	突発性発しん	0.19	26%減	0.25	1歳_49%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.82	26%増	0.00	10-14歳_21%

第50週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症（大阪健康安全基盤研究所）

腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

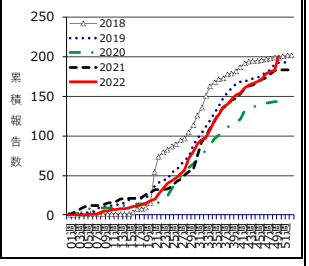


表２．大阪府全数報告数（2022年 第50週12月12日～12月18日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（　）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	18			2	2				14	200
４類感染症	デング熱	1								1	14
	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	108
５類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		1	1	1					151
	後天性免疫不全症候群	1								1	89
	侵襲性肺炎球菌感染症	1					1				102
	水痘（入院例）	1								1	17
	梅毒	16	1		1					14	1,692
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	59,451	2020年1月以降累計　2,415,324								
結核（2022年10月分）	結核　新登録患者数：47名（内　肺・喀痰塗抹陽性　24名）（府内累積報告数　859名、内　肺・喀痰塗抹陽性　331名）										

（2022年12月20日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）

2022年 第51週（12月19日～12月25日）

今週のコメント

～インフルエンザ～　咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ　流行期入り」

第51週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,287例であり、前週比6.8%増であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.82、0.44、0.34、0.27、0.19である。

感染性胃腸炎は前週比16%増の944例で、南河内6.00、大阪市西部5.90、中河内5.85、泉州5.74、堺市5.26であった。

手足口病は30%減の86例で、南河内1.75、堺市0.74、北河内0.68である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は11%減の66例で、中河内0.80、大阪市南部0.78、北河内0.44であった。

ヘルパンギーナは17%減の53例で、大阪市北部0.86、北河内0.56、泉州0.47である。

インフルエンザは171%増の664例で、定点あたり報告数は2.21であった。大阪市東部4.23、堺市4.07、大阪市北部3.30、中河内2.13、北河内2.10である。

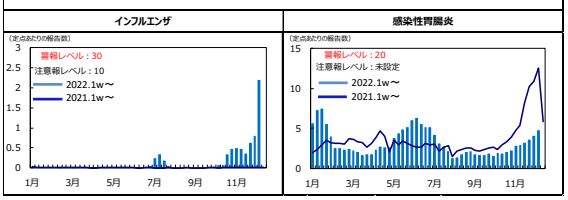


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第51週12月19日～12月25日）

第51週の順位	第50週の順位	感染症	2022年第51週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第51週の定点あたり報告数	2022年第51週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.82	16%増	12.07	2歳_16%
2	2	手足口病	0.44	30%減	0.94	1歳_37%
3	3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.34	11%減	0.38	2歳,5歳_17%
4	4	ヘルパンギーナ	0.27	17%減	0.25	1歳_40%
5	5	突発性発しん	0.19	3%増	0.26	1歳_55%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	2.21	171%増	0.01	10-14歳_18%

第51週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)

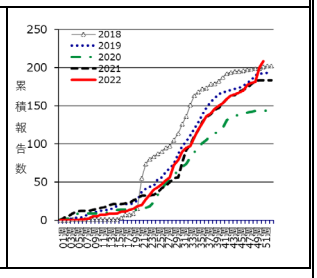


表２．大阪府全数報告数（2022年 第51週12月19日～12月25日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8				1	1		1	5	209
４類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1	1								109
５類感染症	アメーバ赤痢	1		1							43
	ウイルス性肝炎	1	1								13
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		1	1	1					155
	急性脳炎	1		1							15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1					40
	梅毒	23	3			4			1	15	1,723
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	69,661	2020年1月以降累計　2,484,985								
結核（2022年11月分）	結核　新登録患者数：88名（内　肺・喀痰塗抹陽性　33名）（府内累積報告数　1,024名、内　肺・喀痰塗抹陽性　400名）										

（2022年12月27日　集計分）

大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）

2022（令和4）年 第52週～2023（令和5）年 第1週（12月26日～1月8日）

今週のコメント

～インフルエンザ～　咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ　注意報レベル迫る」

2022年第52週と2023年第1週をあわせて報告する。年末年始休暇による診療実日数の減少を考慮する必要がある。第52週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は830例であり、前週比35.5%減であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、突発性発しん、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.15、0.25、0.24、0.17、0.14である。

2023年第1週の報告数の総計は720例であり、前週比13.3%減であった。定点あたり報告数の第１位は感染性胃腸炎で以下、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、突発性発しん、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.86、0.16、0.14、0.13、0.11である。

インフルエンザは、第52週が61%増の1,066例で、定点あたり報告数は３.57であった。第1週は112%増の2,256例で、定点あたり報告数は7.57である。大阪市西部20.80、南河内13.29、泉州12.22であった。

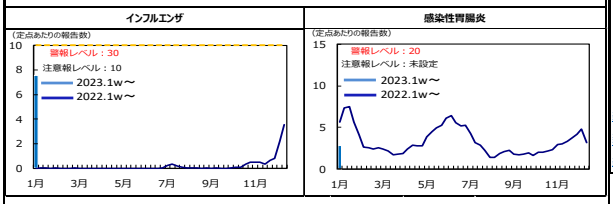


表１．大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第1週1月2日～1月8日）

第1週の順位	第52週の順位	感染症	2023年第1週の定点あたり報告数	前週比増減	2022年第1週の定点あたり報告数	2023年第1週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.86	10%減	5.66	1歳_18%
2	2	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.16	33%減	0.27	10-14歳_22%
3	3	手足口病	0.14	40%減	0.19	1歳未満,1歳,3歳_21%
4	4	突発性発しん	0.13	24%減	0.24	1歳_68%
5	5	RSウイルス感染症	0.11	19%減	0.31	1歳_41%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	7.57	112%増	0.01	20歳以上_32%

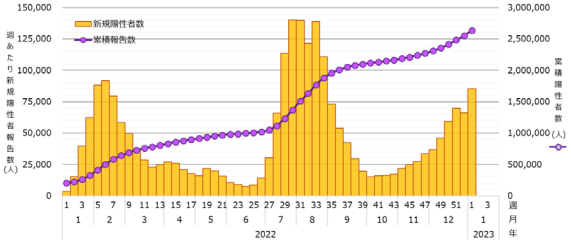
第1週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～　基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

全数把握感染症

新型コロナウイルス感染症

第1週の新型コロナウイルス感染症の週あたり新規陽性者報告数は85,157名であり、前週より28%増加した。大阪モデルは、12月26日に警戒信号（黄）から非常事態（赤）に移行した。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・エアロゾル・接触感染である。臨床的な特徴として、潜伏期間は1～14日であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状が1週間前後持続することが多い。一部のものは、呼吸困難等の肺炎症状が現れる。発病者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性がある。感染拡大を防ぐには、ワクチン接種、マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避など「新しい生活様式」の実践、感染者の早期探知、隔離、接触者調査が重要である。



新型コロナウイルス(COVID-19)関連情報(国立感染症研究所)　新型コロナウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について(大阪健康安全基盤研究所)

新型コロナウイルス感染症関連特設サイト(大阪府)

表２．大阪府全数報告数（2023年 第1週1月2日～1月8日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】> 全数把握疾患　をご覧ください。）

	疾患名（ ）内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
３類感染症	腸チフス	1	1								1
４類感染症	デング熱	1							1		1
	レジオネラ症（肺炎型）	2			2						2
５類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	1
	梅毒	4					1			3	4
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1							1		1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	79,496	2020年1月以降累計　2,630,793								
結核（2022年11月分）	結核　新登録患者数：88名（内　肺・喀痰塗抹陽性　33名）（府内累積報告数　1,024名、内　肺・喀痰塗抹陽性　400名）										

（2023年1月10日　集計分）

VI　資　料

大阪府感染症発生動向調査事業実施要綱

(目的)

第１　大阪府は、感染症の発生に関する情報を迅速に収集・分析し、情報の提供・公開を行い、感染症に対する有効かつ的確な予防対策の確立に資するため、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成１０年法律第１１４号)第３章の規定、及び、「法の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について」(平成１１年３月１９日健医発第４５８号厚生省保健医療局長通知)における「感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づき、感染症発生動向調査を実施する。本要綱は、その実施にあたり、必要な事項を定めたものである。

(対象感染症)

第２　本事業の対象とする感染症は、次のとおりとする。

１　全数把握対象感染症

［一類感染症］

(1)エボラ出血熱　(2)クリミア・コンゴ出血熱　(3)痘そう　(4)南米出血熱　(5)ペスト　(6)マールブルグ病　(7)ラッサ熱

［二類感染症］

(8)急性灰白髄炎　(9)結核　(10)ジフテリア　(11)重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属ＳＡＲＳコロナウイルスであるものに限る。)　(12)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属ＭＥＲＳコロナウイルスであるものに限る。)　(13)鳥インフルエンザ(Ｈ５Ｎ１)　(14)鳥インフルエンザ(Ｈ７Ｎ９)

［三類感染症］

(15)コレラ　(16)細菌性赤痢　(17)腸管出血性大腸菌感染症　(18)腸チフス　(19)パラチフス

［四類感染症］

(20)Ｅ型肝炎　(21)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)　(22)Ａ型肝炎　(23)エキノコックス症　(24)黄熱　(25)オウム病　(26)オムスク出血熱　(27)回帰熱　(28)キャサヌル森林病　(29)Ｑ熱　(30)狂犬病　(31)コクシジオイデス症　(32)サル痘　(33)ジカウイルス感染症　(34)重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。)　(35)腎症候性出血熱　(36)西部ウマ脳炎　(37)ダニ媒介脳炎　(38)炭疽　(39)チクングニア熱　(40)つつが虫病　(41)デング熱　(42)東部ウマ脳炎　(43)鳥インフルエンザ(Ｈ５Ｎ１及びＨ７Ｎ９を除く。)　(44)ニパウイルス感染症　(45)日本紅斑熱　(46)日本脳炎　(47)ハンタウイルス肺症候群　(48)Ｂウイルス病　(49)鼻疽　(50)ブルセラ症　(51)ベネズエラウマ脳炎　(52)ヘンドラウイルス感染症　(53)発しんチフス　(54)ボツリヌス症　(55)マラリア　(56)野兎病　(57)ライム病　(58)リッサウイルス感染症　(59)リフトバレー熱　(60)類鼻疽　(61)レジオネラ症　(62)レプトスピラ症　(63)ロッキー山紅斑熱

［五類感染症(全数)］

(64)アメーバ赤痢　(65)ウイルス性肝炎(Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く。)　(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症　(67)急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)　(68)急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)　(69)クリプトスポリジウム症　(70)クロイツフェルト・ヤコブ病　(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症　(72)後天性免疫不全症候群　(73)ジアルジア症　(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症　(75)侵襲性髄膜炎菌感染症　(76)侵襲性肺炎球菌感染症　(77)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)　(78)先天性風しん症候群　(79)梅毒　(80)播種性クリプトコックス症　(81)破傷風　(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症　(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症　(84)百日咳　(85)風しん　(86)麻しん　(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

[新型インフルエンザ等感染症]

(112)新型インフルエンザ　(113)再興型インフルエンザ　(114)新型コロナウイルス感染症　(115)再興型コロナウイルス感染症

[指定感染症]

該当なし

２　定点把握対象感染症

[五類感染症(定点)]

(88)ＲＳウイルス感染症　(89)咽頭結膜熱　(90)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　(91)感染性胃腸炎　(92)水痘　(93)手足口病　(94)伝染性紅斑　(95)突発性発しん　(96)ヘルパンギーナ　(97)流行性耳下腺炎　(98)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)　(99)急性出血性結膜炎　(100)流行性角結膜炎　(101)性器クラミジア感染症　(102)性器ヘルペスウイルス感染症　(103)尖圭コンジローマ　(104)淋菌感染症　(105)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)　(106)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)　(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症　(108)マイコプラズマ肺炎　(109)無菌性髄膜炎　(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症　(111)薬剤耐性緑膿菌感染症

[法第１４条第１項に規定する厚生労働省令で定める疑似症]

(116)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの

３　その他、新たな感染症の発生により、厚生労働省より通知があるなど、調査が必要と判断された場合は、対象に追加し実施する。

(実施主体)

第３　本事業の実施主体は大阪府とし、次に定める組織をもって対応するものとする。

(組織)

第４　情報処理の総合的かつ円滑な推進を図るため、次の体制により実施する。

(１)大阪府感染症情報センター

次の事項を実施するため、大阪健康安全基盤研究所(以下、「大安研」という。)に大阪府感染症情報センターを置く。

①　中央感染症情報センター(国立感染症研究所感染症疫学センター)との連絡調整

②　大阪府全域における患者発生情報、疑似症の発生情報及び病原体情報の収集・分析

③　全国情報及び収集・分析した情報の一般社団法人大阪府医師会(以下、「医師会」という。)及び保健所等関係機関への還元

(２)検査実施機関

本事業における検査実施機関は、大安研および大阪府保健所検査課、国立感染症研究所、他自治体の地方衛生研究所とする。検査実施機関は、検査施設における病原体等検査の業務管理要領に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

(３)指定届出機関及び指定提出機関(定点)

定点把握の対象疾病について、患者発生情報、疑似症の発生情報及び病原体の分離等の検査情報を収集するため、患者定点、病原体定点及び疑似症定点を医師会等関係機関の協力のもとにそれぞれ大阪府内の医療機関の中から選定する。

①　患者定点

対象疾病の患者発生状況を地域的に把握するため、人口及び医療機関の分布等を勘案の上、厚生労働省の示す基準に準拠し、小児科定点、インフルエンザ定点（小児科定点と内科定点)、眼科定点、性感染症定点、基幹定点を設置するものとする。

②　病原体定点

病原体の分離等検査情報を収集するため、次の点に留意して医療機関の中から選定する。原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

小児科定点、インフルエンザ定点、眼科定点の概ね１０％を目安として選定したもの及びすべての基幹定点を病原体定点とする。

なお、インフルエンザ病原体定点(指定提出機関)の選定にあたっては、小児科定点及び内科定点それぞれから、１０％以上を目安として選定する。

③　疑似症定点

疑似症の発生状況を地域的に把握するため、人口及び医療機関の分布等を勘案の上、厚生労働省の示す基準に準拠し、疑似症定点を設置するものとする。

(４)大阪府感染症発生動向調査委員会

感染症に関する情報についての分析並びに感染症の発生の状況、動向及び原因に関する情報並びに当該感染症の予防及び治療に必要な情報の公表について報告・検討、意見交換を行うため、「大阪府感染症発生動向調査委員会」を設置する。

(５)大阪感染症情報解析委員会

大安研は、感染症の発生状況、動向及び病原体情報等を解析し、感染症の予防及びまん延の防止に資するため、専門家の意見聴取及び意見交換を行うことを目的とする「大阪感染症情報解析委員会」を設置する。

(事業の実施)

第５　本事業の実施にあたっては、本庁(健康医療部保健医療室感染症対策企画課)、大阪府感染症情報センター(大安研)及び府保健所にコンピューターを設置し構築した、オンラインシステム(感染症サーベイランスシステム並びに新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(ＨＥＲ－ＳＹＳ))を活用する。

(１)調査単位及び実施方法

①　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症(第２の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症((114)及び(115)を除く。)及び指定感染症の患者等を診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に該当する感染症の届出様式により患者等の情報の届出を行う。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により行って差し支えない。

(114)新型コロナウイルス感染症又は(115)再興型コロナウイルス感染症の患者等を診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に患者等の情報の届出を行う。当該届出は、ＨＥＲ－ＳＹＳへの入力により行うことを基本とするが、ＨＥＲ－ＳＹＳの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により行って差し支えない。

全数把握対象の五類感染症(第２の(75)、(85)及び(86)を除く。)の患者等を診断した医師は、診断後７日以内に最寄りの保健所に該当する感染症の届出様式により患者等の情報の届出を行う。さらに必要に応じて、検体を確保し、保健所の求めに応じ、患者情報と共に提供する。

小児科定点(第２の(88)～(97))、インフルエンザ定点(98)、眼科定点(99)及び(100)、基幹定点((91)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(98)のうち入院患者に限定されるもの、(105)、(106)、(108)及び(109))の患者情報については一週間(月曜日から日曜日まで)を調査単位とし、保健所に報告をする。

性感染症定点(第２の(101)～(104))及び、基幹定点((107)、(110)及び(111))の患者情報については１か月を調査単位とし、保健所に報告をする。

②　病原体検査情報については、原則として１か月を調査単位とするが、(98)については、定点あたりの患者発生数が１を超える時期には、１週間を調査単位とする。

③　結核については、①に定めるところとは別に情報の収集を図るものとするが、その結果は、新登録

者に関しては月報、登録除外者に関しては年報、登録者の全体に関しては年末現在につき年報として取りまとめるものとする。

(２)患者定点となる医療機関

患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における別に定める報告基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

小児科定点、インフルエンザ定点、眼科定点、性感染症定点及び基幹定点においては、該当する定点の届出様式によりそれぞれ調査単位の患者発生状況等を報告する。当該届出は、感染症サーベイランスシステムへの入力により行うことを基本とするが、感染症サーベイランスシステムの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により行って差し支えない。

(３)病原体定点となる医療機関

病原体定点として選定または指定された医療機関は、別に定める感染症発生動向調査事業病原体検査指針(感染症発生動向調査　病原体サーベイランスについて)により、検体を採取し、別記様式の検査票を添えて検査機関(大安研)へ提出する。

(４)疑似症定点

疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時における別に定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行うものとする。

疑似症定点においては、原則として感染症サーベイランスシステムへの入力により、疑似症の発生状況等を報告し、保健所に随時、電話連絡を入れる。ただし、疑似症定点において感染症サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに保健所が感染症サーベイランスシステムに入力する。

(５)保健所

①　届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、オンラインシステムの入力環境がない医師からの届出である場合には、直ちにオンラインシステムに届出内容を入力する。

②　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び五類感染症(全数)の当該患者を診断した医師から届出があった場合など、感染症の発生を予防し、又は感染症の発生の状況、動向及び原因を明らかにするため必要があると認める場合には、病原体の検査を大安研に依頼する。大安研で実施することが困難なものについては、必要に応じて、本庁を通じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

③　医療機関等に検体等の提供を依頼し、その求めに応じない場合は勧告することが出来る。検体採取に際しては、患者に説明し、その同意を得ることが望ましい。

(６)大安研

①　感染症のまん延を防止するため、保健所より依頼のあった病原体の検体を検査し、その結果を保健所を経由して、診断した医師に通知する。検査のうち、大安研で実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

②　病原体定点より検体を受付・回収し、検査実施、その結果を本庁を経由して病原体定点に通知する。

③　大阪府の感染症発生動向を把握するため、他検査施設で検出した菌株等を郵送等で収集し、必要に応じて再同定や型別等、追加検査を実施する。

(７)大阪府感染症情報センター

①　管内の患者定点及び保健所から収集した患者情報は別途定める日までにオンラインシステムにより中央感染症情報センターへ報告する。

②　管内の患者定点から収集した患者情報の集計や検査情報を大阪感染症情報解析委員会において解析評価し、その評価結果を速やかに週報として、また、性感染症の患者情報の集計及び解析結果については、月報として定点医療機関、保健所、医師会及び市町村等の関係機関へ還元する。

③　前項の①及び②により検査された検査情報、管内病原体定点で採取の検査情報を本庁等へ適宜報告するとともに、オンラインシステムにより中央感染症情報センターに報告する。

④　特定症例の多発等、感染症事象発生の端緒を感知、広域的な状況把握や一定の分析を行うため、行政等関係機関と連携し、感染症情報・疫学情報の収集解析に協力する。

(８)本庁

大阪府感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁は直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

第６　その他

本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康医療部長が定めることとする。

附則

(施行期日)

１　この実施要綱は、昭和６２年１月１日から実施する。

(要綱の廃止)

１　大阪府感染症サーベイランス事業実施要綱は廃止する。

附則

«略»

この実施要綱の一部改正は、平成２７年５月２１日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成２８年２月１５日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成２８年４月１日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成２９年４月３日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成３０年１月１日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成３０年５月１日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、平成３１年４月１日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、令和２年２月１月から施行する。

この実施要綱の一部改正は、令和３年２月１０日から施行する。

この実施要綱の一部改正は、令和４年 10 月 31 日から施行する。

大阪府感染症発生動向調査委員会設置要綱

（趣旨）

第一条　この要綱は、大阪府感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）の組織、委員の報酬及び費用弁償の額その他委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第二条　委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成十年法律第百十四号)第十二条から第十五条の三までの規定により収集した感染症に関する情報についての分析、感染症の発生の状況、動向及び原因に関する情報並びに当該感染症の予防及び治療に必要な情報の公表について、報告・検討、意見交換を行うものとする。なお、この会で知り得た個人情報・データ等については、許可なく使用してはならない。

（組織）

第三条　委員会は、委員二十人以内で組織する。

２　委員は、次に掲げる者のうちから、保健医療室長（以下「室長」という。）が任命する。

一　学識経験のある者

二　医療関係団体、医療施設等の代表者

三　関係行政機関の職員

四　前三号に掲げる者のほか、室長が適当と認める者

３　委員（関係行政機関の職員のうちから任命された委員を除く。）の任期は、三年とする。ただし、再任は妨げない。また、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長）

第四条　委員会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

２　会長は、会務を総理する。

３　会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第五条　委員会の会議は大阪府が招集し、会長がその議長となる。

２　委員会は原則、年１回、開催するものとする。

（報酬）

第六条　委員の報酬の額は、附属機関委員等の報酬の額に準じ支払うものとする。

（費用弁償）

第七条　委員の費用弁償の額は、職員の旅費に関する条例（昭和四十年大阪府条例第三十七号）による指定職等の職務にある者以外の者の額相当額とする。

（庶務）

第八条　委員会の運営及び事務は医療対策課と大阪府感染症情報センターが行う。

（委任）

第九条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、感染症情報センターが定める。

附　則

この要綱は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 28 年６月 15 日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 29 年４月１日から施行する。

※　　令和４年４月１日から令和５年３月 31 日の間については新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により委員の任命がなかったため、委員会名簿の掲載はありません。

大阪感染症情報解析委員会運営要綱

（趣旨）

第一条　この要綱は、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所（以下「大安研」という。）が大阪府から受託した「大阪府感染症発生動向調査事業」のうち、大阪感染症情報解析委員会（以下「委員会」という。）を運営するにあたり、組織、委員の報酬及び費用弁償の額その他委員会に関し必要な事項を定めるものとする

（職務）

第二条　委員会は大阪府感染症発生動向調査事業実施要綱第４（５）に基づき感染症の発生状況、動向及び病原体等の情報を解析し、感染症の予防及びまん延の防止に資するため専門家の意見聴取及び意見交換を行うものとする。

（組織）

第三条　委員会は、委員１２人以内で組織する。

２　委員は、次に掲げる者のうちから理事長が任命する。

一　小児科、内科、眼科、性感染症科等の医師、疫学の専門家、細菌学、ウイルス学の専門家等

二　大安研により選定された者

３　委員会は前項の委員および大阪府感染症情報センター員、オブザーバーとして大阪府内各市より参加の感染症発生動向調査事業担当者により組織する。オブザーバーは、委員会において意見を述べることは出来るが、決定権はないものとする。

４　委員（関係行政機関の職員のうちから任命された委員を除く。）の任期は、三年とする。ただし、再任は妨げない。また、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第四条　委員会に委員長を置き、第三条第２項の委員の互選によってこれを定める。

２　委員長は、委員会の議事を進行する。

３　委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第五条　委員会の会議は大安研が招集し、委員長がその議長となる。

２　委員会は、必要に応じ、委員以外の者から意見を聴くことができる。

3　委員会は原則、毎週１回開催するものとし、その庶務は大阪府感染症情報センターにおいて行う。

（報酬）

第六条　委員の報酬の額は、大阪府附属機関委員の報酬区分Ｃに準ずるものとする。

2　前項の報酬は、出席日数に応じて、その都度支給する。

3　委員のうち、次に掲げる者に対しては、報酬を支給しない。

一　地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所職員

二　大阪府の経済に属する常勤の職員

三　大阪市の経済に属する常勤の職員

（費用弁償）

第七条　委員の費用弁償の額は第六条第１項の報酬に含まれるものとする。ただしそれにより難いときは、大阪府と協議の上、別途支給できるものとする。

2　前項の委員の費用弁償の額は、地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所職員等旅費規程による役員以外の者の額相当額とする。

3　前項の費用弁償の支給についての路程は、住所地の市町村から起算する。

4　前二項の規定にかかわらず、委員のうち第六条第３項第二号及び第三号に規定する職員の費用弁償の額は、その者が当該職員として公務のため旅行した場合に支給される旅費相当額とする。

（委任）

第八条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則

この要綱は平成 ２９（2017）年４月１日から施行する。

この要綱は ２０１９年４月１日から施行する。

大阪感染症情報解析委員会名簿

（2023年3月31日現在）

委　員　名	所　　属
○　本村　和嗣	大阪健康安全基盤研究所
國吉　裕子	大阪市保健所
山本　憲	堺市衛生研究所
安井　良則	大阪府済生会中津病院
塩見　正司	大阪府医師会
東野　博彦	大阪府医師会
冨吉　泰夫	大阪小児科医会
宮浦　徹	大阪府眼科医会
神吉　政史	大阪健康安全基盤研究所
廣井　聡	大阪健康安全基盤研究所
改田　厚	大阪健康安全基盤研究所
鵜飼　友彦	大阪健康安全基盤研究所

○：委員長

VII　指定届出機関一覧

感染症発生動向調査指定届出機関（内科定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　　在　　地
豊能	久原医院	072-737-5031	箕面市箕面6-10-43
	(医)児成会ハラノ医院	072-724-2010	箕面市新稲7-14-17
	箕面市立病院	072-728-2001	箕面市萱野5-7-1
	谷野医院	06-6852-1271	豊中市曽根西町3-7-8
	大塚医院	06-6334-0005	豊中市庄内東町1-7-10土井ﾋﾞﾙ2F
	滝広内科医院	06-6846-7272	豊中市西緑丘3-26-28
	(医)前防医院	06-6333-0348	豊中市豊南町南1-1-11
	さたけ内科ｸﾘﾆｯｸ	06-6821-5640	吹田市佐井寺4-11-16ﾗﾌｨｰﾈ千里１階
	井波医院	06-6388-0705	吹田市片山町3-37-3
	いのうえｸﾘﾆｯｸ	06-6319-1515	吹田市昭和町13-1
	(医)積善会 小林内科・心療内科	06-6831-1133	吹田市藤白台2-4-6
	(医)三裕会 三谷医院	06-6384-7806	吹田市江坂町3-18-5
三島	(医)香梅会 マツイ医院	06-6381-4033	摂津市正雀本町2-18-26
	茂松整形外科	072-633-8801	茨木市真砂3-12-19
	中村医院	072-625-3591	茨木市太田1-13-26
	高橋医院	072-661-3831	高槻市藤の里町24-29
	津久田医院	072-692-2266	高槻市栄町3-7-18
	冨永ｸﾘﾆｯｸ	072-690-3355	高槻市南平台3-29-18
	(医)愛基会黒川医院	072-687-0373	高槻市日吉台一番町16-1
	大阪医科薬科大学病院	072-683-1221	高槻市大学町2-7
北河内	(医)せのお内科	072-855-3377	枚方市東船橋1-41
	かいとｸﾘﾆｯｸ	072-897-1001	枚方市津田西3-17-3
	青井内科	072-840-4505	枚方市田口2-27-31
	(医)優和会 関根医院	072-845-1511	枚方市山之上4-1-1
	市立ひらかた病院内科	072-847-2821	枚方市禁野本町2-14-1
	（医）山下医院	072-826-0797	寝屋川市成美町2-1
	大屋医院	072-820-1155	寝屋川市高宮新町27-7
	(医)誠心会　森口医院	06-6991-0593	守口市大枝西町15-8
	益田診療所	06-6901-0231	門真市大倉町3-6
	松下記念病院	06-6992-1231	守口市外島町5-55
	関西医科大学総合医療ｾﾝﾀｰ	06-6992-1001	守口市文園町10-15
	河野医院	072-876-0241	四條畷市楠公2-10-12
	林内科医院	072-878-8191	四條畷市岡山東2-1-23
	（医）愛光会 竹本ｸﾘﾆｯｸ	072-872-0230	大東市中垣内1-3-6
	岡崎医院	072-871-6316	大東市御供田4-1-5

感染症発生動向調査指定届出機関（内科定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
中河内	(医)武田クリニック	072-923-8001	八尾市上之島南1-4-1
	医療法人うめもと循環器内科クリニック	072-998-1715	八尾市安中町３-５-14JR八尾クリニックビル２F
	(医)阪本医院	072-941-3222	八尾市大字山畑5-1
	(医)正田医院	072-993-3000	八尾市本町5-5-5
	(医)朋侑会 吉田クリニック	072-925-5388	八尾市山本高安町2-1-3
	(医)奥会 奥医院	06-6721-1324	東大阪市柏田本町3-8
	(医)中和会 中西医院	06-6781-6406	東大阪市小阪2-4-23
	(地独)市立東大阪医療ｾﾝﾀｰ	06-6781-5101	東大阪市西岩田3-4-5
	医療法人弘仁会　坂本医院	072-981-1551	東大阪市御幸町11-3
	家出医院	072-988-1033	東大阪市横小路町5-9-47
	(医)有元会のしクリニック	06-6725-8258	東大阪市下小阪5-12-8ｳﾞｨﾗ･ｱﾙﾀｲﾙ１ F
南河内	(医)御勢医院	072-331-2345	松原市天美東8-2-29
	阪南医療福祉センター 阪南中央病院	072-333-2100	松原市南新町3-3-28
	(医)真貴会 池田医院	072-955-0720	藤井寺市藤井寺2-5-20
	(地独)大阪はびきの医療センター	072-957-2121	羽曳野市はびきの3-7-1
	(医)中平医院	0721-26-1658	富田林市若松町西1-1845-3
	(医)ＰＬ病院	0721-24-3100	富田林市新堂2204
	(医)砂川医院	0723-67-1238	大阪狭山市池尻北1-1-5
	今井内科小児科医院	0723-66-1061	大阪狭山市池尻自由丘1-3-24
堺市	森クリニック	072-363-2662	美原区大保16-1
	白畠内科	072-265-5501	西区鳳西町3-3-9
	やまさき内科・胃腸科クリニック	072-267-6776	西区鳳中町2-31-6　アカイビル1F
	中野医院	072-296-5726	南区三原台3-39-20
	医療法人　杉山クリニック	072-276-1717	堺市中区深井沢町３２９４
	大阪労災病院	072-252-3561	北区長曽根町1179-3
	秀峰会　岡原診療所	072-286-6110	東区日置荘原寺町43-1
	藤田医院	072-251-4110	北区南花田町302-14
	(地独）堺市立病院機構　堺市立総合医療センター	072-272-1199	堺市西区家原寺町１丁１番１号
	たちばな内科クリニック	072-244-8800	堺区緑ヶ丘南町3丁2-18

感染症発生動向調査指定届出機関（内科定点）2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
泉州	寺本医院	0725-32-1848	泉大津市旭町12-12
	（医）油谷会　油谷ｸﾘﾆｯｸ	0725-32-5111	泉大津市豊中町2-5-10
	(医)久我胃腸科内科	0725-41-6700	和泉市府中町7-5-3
	(医)泉林会　林医院	0725-45-0040	和泉市尾井町1-9-12
	とのぎ内科ｸﾘﾆｯｸ	072-262-0300	高石市西取石1-17-18
	毛利医院	072-431-1716	岸和田市本町8-11
	(医)健松会　高松内科	072-439-7700	貝塚市浦田76-1ｳﾞｧﾝﾃｰｼﾞ二色1階
	西村内科	072-443-8030	岸和田市中井町2-4-7
	(医)池添医院	072-422-0841	岸和田市別所町1-11-10
	山上医院	072-483-2501	泉南市樽井6-10-7
	玉井内科ｸﾘﾆｯｸ	072-472-7373	阪南市尾崎町2-12-11
	武井医院	072-462-7755	泉佐野市本町6-27
	(地独)りんくう総合医療センター	072-469-3111	泉佐野市りんくう往来北2-23
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	06-6929-1221	都島区都島本通2-13-22
	（医）中尾医院	06-6322-6816	東淀川区菅原5-7-11
	柴医院	06-6951-6085	旭区大宮3-8-16
	市立十三市民病院	06-6150-8000	淀川区野中北2-12-27
	（医)寺岡内科医院	06-6399-0671	淀川区東三国6-19-8
	樋口医院	06-6375-3636	北区本庄西2-5-26
大阪市西部	宮下医院	06-6462-0304	此花区梅香3-22-14
	四ツ橋診療所	06-6532-0148	西区新町1-22-9
	大塚医院	06-6571-0977	港区市岡2-6-21
	本山診療所	06-6551-3812	大正区泉尾1-2-19
	（医）北野ｸﾘﾆｯｸ	06-6471-2916	西淀川区出来島1-4-18
大阪市東部	大阪警察病院	06-6771-6051	天王寺区北山町10-31
	（医）徳田ｸﾘﾆｯｸ	06-6561-2660	浪速区桜川2-11-28
	（医）長田医院	06-6973-5500	東成区深江南1-10-8ﾋﾟｱ･ﾒｿﾞﾝ深江1F
	正木ｸﾘﾆｯｸ	06-6741-5546	生野区桃谷2-18-9
	おのい深江橋診療所	06-6967-2020	城東区永田4-11-14
	（医）杉岡内科医院	06-6968-6632	鶴見区今津中5-6-26
	大阪医療センター	06-6942-1331	中央区法円坂2-1-14
大阪市南部	やぶのｸﾘﾆｯｸ	06-6629-3061	阿倍野区阪南町1-50-20-401
	(地独）大阪急性期･総合医療ｾﾝﾀｰ	06-6692-1201	住吉区万代東3-1-56
	医療法人河南医院	06-6691-1322	住吉区遠里小野1-12-9
	わたべｸﾘﾆｯｸ	06-6609-6633	住吉区万代東1-4-12
	（医）田島医院	06-6719-5502	東住吉区西今川1-6-16
	（医）隈本会　隈本医院	06-6651-1551	西成区千本北2-32-35
	（医）宮武医院	06-6683-5050	住之江区新北島1-9-23
	（医）長吉総合病院	06-6709-0301	平野区長吉長原1-2-34
	いぬいｸﾘﾆｯｸ	06-6706-0551	平野区喜連東3-5-60

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
豊　能	たむらこどもクリニック	072-741-8143	池田市畑１丁目１－１０
	市立池田病院小児科	072-751-2881	池田市城南3-1-18
	(医)石田クリニック	072-727-1177	箕面市小野原東4-27-33
	医療法人児成会　ハラノ医院	072-724-2010	箕面市新稲７－１４－１７
	(医)島こどもクリニック	072-720-0550	箕面市箕面6-4-46-203
	箕面市立病院小児科	072-728-2001	箕面市萱野5-7-1
	医療法人雄々会 ドクターしんのこどもクリニック	06-6865-7722	豊中市服部本町2-2-3 申ﾋﾞﾙ2階
	西村医院	06-6852-5010	豊中市夕日丘1-1-3ｼｭﾘｰ豊中1階
	鳥辺医院	06-6872-0161	豊中市新千里東町3-5-4
	医療法人　ふじかわ小児科	06-4865-5020	豊中市緑丘４丁目１番２号　イオンタウン豊中緑丘２Ｆ
	やびく小児科	06-6850-3330	豊中市曽根東町1-9-6
	吉田小児科医院	06-6843-8880	豊中市千里園3-15-20
	佐守小児科	06-6845-6123	豊中市宮山町4-1-21
	ソノ内科小児科	06-6848-0057	豊中市西緑丘3-13-16
	ちさきこどもクリニック	06-6836-5111	豊中市上新田3-10-38
	(医)絹巻小児科ｸﾘﾆｯｸ	06-6388-0338	吹田市片山町3-17-8
	清水医院	06-6382-5134	吹田市高浜町10-28
	大阪府済生会吹田病院小児科	06-6382-1521	吹田市川園町1-2
	(医)山上小児科クリニック	06-6378-2301	吹田市上山手町30-6ｾﾝﾁｭﾘｰ上山手101号
	大阪府済生会千里病院小児科	06-6871-0121	吹田市津雲台1-1-6
	市立吹田市民病院小児科	06-6387-3311	吹田市岸部新町5-7
	たなか小児科クリニック	06-6378-9990	吹田市竹谷町36-6
	ほそいがくこども診療所	06-6155-0255	吹田市古江台4-2-60千里ﾉﾙﾃﾋﾞﾙ5階
三　島	すぎた子どもクリニック	072-645-7333	茨木市見付山1丁目1-40-8
	(医)はら小児科クリニック	072-646-5532	茨木市学園南町14番20号
	小原医院	072-641-3237	茨木市下井町2-5
	しばさき小児科	072-626-9011	茨木市下穂積1-3-101ﾎﾜｲﾄﾊｳｽ穂積
	隅クリニック	072-622-3858	茨木市中穂積3-2-12
	ふくながこどもクリニック	072-630-0753	茨木市若園町37便29号ﾒｿﾞﾝ・ヴェルドウール
	さくらクリニック	075-962-0771	三島郡島本町広瀬４丁目２２番１号
	西里医院	072-623-6566	茨木市総持寺駅前町6-8
	橋本こどもクリニック	072-631-9001	茨木市太田3-21-17
	おぎはらこども医院	072-690-1022	高槻市川添2-26-1
	かわもとこどもクリニック	072-676-7601	高槻市登町18-1
	おおくま医院	072-684-0363	高槻市天神町2-6-20
	(社)愛仁会高槻病院	072-681-3801	高槻市古曽部町1-3-13
	(社)祐生会みどりヶ丘病院	072-681-5717	高槻市真上町3-13-1
	大阪医科薬科大学病院	072-683-1221	高槻市大学町2-7
	あまの小児科	072-689-5288	高槻市日吉台五番町6-10
	(医)まつしたクリニック	072-661-0415	高槻市城西町5-17ｼﾞｪﾈﾗｽ8th-103

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
北河内	(医)保坂小児クリニック	072-854-0413	枚方市香里ケ丘3-12-1
	(医)おがた小児科	072-845-2626	枚方市伊加賀南町5-4
	うにし小児科	072-841-2579	枚方市岡東町3-7
	(医)くろせ小児科	072-850-8080	枚方市養父西町32-8
	(医)七美会　すこやか小児科	072-850-2117	枚方市長尾西町1-20-10
	枚方公済病院　小児科	072-858-8233	枚方市藤阪東町1-2-1
	(医)にしだ小児クリニック	072-808-5511	枚方市津田駅前1丁目13－8
	市立ひらかた病院小児科	072-847-2821	枚方市禁野本町2-14-1
	中村小児科	072-831-6656	寝屋川市香里南之町28-24-206
	(医)香博会　安原こどもクリニック	072-832-2211	寝屋川市香里新町22-6　メディカルプラザ香里新町３Ｆ
	(医)藤野医院	072-831-0760	寝屋川市香里新町20-14
	小松病院	072-823-1521	寝屋川市川勝町11-6
	(医)えびな小児科クリニック	072-811-2268	寝屋川市打上元町12-35
	関西医科大学香里病院　小児科	072-832-5321	寝屋川市香里本通町8-45
	関西医科大学総合医療センター	06-6992-1001	守口市文園町10-15
	(医)髙井クリニック	06-6916-8000	守口市金田町5-4-32
	松下記念病院小児科	06-6992-1231	守口市外島町5-55
	はすい小児科	06-6995-4789	門真市向島長3-35
	よしはら小児科クリニック	072-882-0321	門真市岸和田3-36-10ｻﾝﾋﾟｶA　101A号
	(医)松下こどもクリニック	06-6906-1188	門真市末広町18-9
	小菓医院	072-891-2006	交野市星田5-10-5
	(医)寺嶋・塚田こどもクリニック	072-893-3141	交野市天野が原町5丁目14-7
	いるかこどもクリニック	072-862-1188	四條畷市岡山東2-3-28
	小林小児科内科クリニック	072-870-7800	大東市赤井2-2-21
	こにし小児科クリニック	072-873-0081	大東市末広町7-7東邦ビル4階
	(医)井上産婦人科クリニック	072-872-3511	大東市氷野1-8-26
中河内	山本診療所	072-998-3448	八尾市山本町南3-5-21
	八木小児科	072-928-7711	八尾市高安町北7-23
	(医)徳洲会八尾徳洲会総合病院小児科	072-993-8501	八尾市若草町1-17
	しもやま小児科	072-928-1802	八尾市安中町3-5-14JR八尾ｸﾘﾆｯｸ3階
	（医）ひょうり小児科	072-925-2888	八尾市山本町1-3-20
	（医）あかの小児科	072-990-5556	八尾市光町1-26片岡第4ビル2階
	市立柏原病院	072-972-0885	柏原市法善寺1-7-9
	（医）にしむら小児科	072-978-6597	柏原市国分本町3-9-3
	医療生協かわち野生活協同組合　東大阪生協病院	06-6727-3131	東大阪市長瀬町1-7-7
	杉原小児科	06-6722-2000	東大阪市近江堂2-10-39
	（医）小川クリニック	072-985-3030	東大阪市瓢箪山町4-18
	（医）岡本医院	06-6781-2051	東大阪市森河内西2-20-19
	竹村小児科	06-6725-4130	東大阪市菱屋西3-4-17
	高丘医院	072-967-0560	東大阪市古箕輪1-3-40
	大久保小児科医院	072-984-1118	東大阪市西石切町1-11-20-2階
	医療法人　青廉会　藤戸小児科	072-985-1218	東大阪市日下町3-2-35
	竹村こどもクリニック	072-960-7807	東大阪市岩田町１丁目８－２８
	（医）尾﨑医院	072-961-2518	東大阪市岩田町4-3-5
	長谷川医院	072-961-2074	東大阪市松原1－15－21
	(独)市立東大阪医療ｾﾝﾀｰ	06-6781-5101	東大阪市西岩田3-4-5

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
南河内	阪南中央病院小児科	072-333-2100	松原市南新町3-3-28
	(医)石田会　石田診療所	072-330-5570	松原市別所3-17-22
	(医)ほづみ小児科クリニック	072-337-1811	松原市天美我堂4-61-1
	ふくしまこどもクリニック	072-338-2911	松原市岡2-7-3
	(医)田中小児科	072-938-5288	羽曳野市野々上2-24-19
	(地独)大阪はびきの医療ｾﾝﾀｰ	072-957-2121	羽曳野市はびきの3-7-1
	医療法人青山会 青山こどもクリニック	072-937-0100	藤井寺市野中4-16-32 野中クリニックビル1階
	(医)ふじおか小児科	0721-28-8671	富田林市久野喜台2-15-26
	(医)ＰＬ病院小児科	0721-24-3100	富田林市新堂2204
	なかじまこどもクリニック	0721-40-2501	富田林市津々山台2-10-1-102
	みなみうら小児科	0721-23-8806	富田林市川面町2-3-12パレスイイダ1階
	泉谷こどもクリニック	0721-52-1110	河内長野市野作町3-66
	(医)西村小児科	0721-56-1770	河内長野市木戸1-6-1
	矢ケ﨑小児科	0721-60-3300	河内長野市三日市町56-16
	近畿大学医学部附属病院	0723-66-0221	大阪狭山市大野東377-2
	さわもと小児科	0721-93-7723	南河内郡河南町東山691-2
堺市	樋上小児科	072-273-7100	西区鳳東町2-164-5
	明和会　八木医院	072-293-6223	南区高倉台3-3-2
	いしいこどもクリニック	072-270-7415	堺市西区上野芝町２－３－１８　上野芝クリニックモール３階
	医真会　あかざわ小児科	072-297-7771	南区御池台3-2-4
	上野内科・小児科クリニック	072-232-1314	堺市堺区南三国ヶ丘町１丁１－１３
	あさだこどもクリニック	072-290-7515	中区福田1100-67
	将正会　山口こどもクリニック	072-295-7270	南区鴨谷台2-1-5 ｻﾝﾋﾟｱ2番館2階
	かなざきこどもクリニック	072-289-3100	中区土塔町3327
	ベルランド総合病院小児科	072-234-2001	中区東山500-3
	一隅会　川上クリニック	072-250-6211	北区北花田町4-99-15
	大阪労災病院小児科	072-252-3561	北区長曽根町1179-3
	いけだこどもクリニック	072-250-4152	北区北花田町3-45-40
	医療法人社団ワッフル　ぐんぐんキッズクリニック	072-275-8502	堺市北区中百舌鳥町２丁２１大休ビル１階
	同仁会 みみはらﾌｧﾐﾘｰクリニック	072-252-1507	北区蔵前町３－５－47
	（医）たけなかキッズクリニック	072-240-0080	堺市北区長曽根町1467番地1メディカルエイトワンビル２Ｆ
	(地独）堺市立病院機構　堺市立総合医療センター	072-272-1199	堺市西区家原寺町１丁１番１号
	石村小児科医院	072-258-4752	堺区向陵東町2-2-11
	同仁会　みみはら高砂クリニック	072-241-4990	堺区高砂町4-109-2

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
泉州	(医)かわい病院	0725-21-6222	泉大津市豊中町2-6-5
	(医)吉村医院	072-261-8434	高石市高師浜3-18-23
	川西医院	072-544-8888	和泉市伯太町2-25-18
	和気河合医院	0725-41-0357	和泉市和気町3-11-18
	和泉市立総合医療センター	0725-41-1331	和泉市和気町4丁目5番1号
	なかじまクリニック小児科・循環器科	0725-51-0081	和泉市唐国長2-7-86
	中川クリニック	0725-22-1611	泉北郡忠岡町忠岡東2丁目22-15-13
	木村医院	072-420-6010	岸和田市上松町４６３－３
	おおまちこどもクリニック	072-443-2030	岸和田市大町3-15-4
	(医)久松マタニティークリニック	072-422-3006	岸和田市野田町1-11-1
	あぶみ小児科クリニック	072-439-0031	岸和田市下松町1-3-9
	川崎こどもクリニック	072-421-2033	貝塚市木積656-7
	くぼこどもクリニック	072-433-2255	貝塚市畠中1-2-6
	(地独)りんくう総合医療センター 小児科	072-469-3111	泉佐野市りんくう往来北2-23
	竹井クリニック	072-451-2765	泉南郡熊取町五門東 1-7-23
	(医)中井医院	072-471-7376	阪南市尾崎町8-1-2
	阪南市民病院小児科	072-471-3321	阪南市下出17
	(医)笠松産婦人科・小児科	072-471-3222	阪南市鳥取中192-2
	(医)にわ小児科	072-467-2806	泉佐野市日根野7089番地アラモード日根野1F
大阪市北部	あさいこどもクリニック	06-6926-1850	都島区友渕町2-1-5ともぶちｸﾘﾆｯｸﾋﾞﾙ２階
	こおりやま小児科	06-6926-1155	都島区善源寺町2-2-22善源寺メディカルモール2階
	（地独）大阪市立総合医療センター	06-6929-1221	都島区都島本通2-13-22
	森川こどもクリニック	06-6327-0415	東淀川区淡路2-16-6-101
	淀川キリスト教病院	06-6322-2250	東淀川区柴島1-7-50
	（医）前田こどもクリニック	06-6990-1115	東淀川区上新庄2-15-18旭丘ﾋﾞﾙ4階
	樋口医院	06-6351-3931	大阪市北区長柄中1-6-6
	かよう内科・小児科	06-6954-7776	旭区清水4-3-29
	大阪旭こども病院	06-6952-4771	旭区新森4-13-17
	市立十三市民病院	06-6150-8000	淀川区野中北2-12-27
	鈴木小児クリニック	06-6396-7555	淀川区宮原4-4-2新大阪ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾊｲﾂ1F
	のだこどもクリニック	06-6136-7205	大阪市北区本庄東１－１－10　RISE88ビル１階
	医療法人はるなクリニック	06-4807-5130	淀川区西三国1-3-13-302
	北野病院	06-6312-1221	北区扇町2-4-20

感染症発生動向調査指定届出機関（小児科定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
大阪市西部	（独）JCHO大阪病院	06-6441-5451	福島区福島4-2-78
	（公財）中央急病診療所	06-6534-0321	西区新町4-10-13
	さかざきこどもクリニック	06-6584-4550	西区九条1-27-6住金興産九条ﾋﾞﾙ303
	多根総合病院	06-6581-1071	西区九条南1-12-21
	日本生命病院	06-6443-3446	西区江之子島2-1-54
	にいつクリニック	06-6571-0549	港区港晴1-1-23
	大塚医院	06-6571-0977	大阪市港区市岡2-6-21
	大正病院	06-6552-0621	大正区三軒家東5-5-16
	ひの小児科	06-6464-8655	大阪市此花区高見2-13-3
	千船病院	06-6471-9541	西淀川区福町3-2-39
大阪市東部	大阪赤十字病院	06-6774-5111	天王寺区筆ケ崎町5-30
	ひげのこどもクリニック	06-6774-1980	天王寺区烏ヶ辻1-1-1 ＭＩビル4階
	大阪警察病院	06-6771-6051	天王寺区北山町10－31
	（医）寺田町こども診療所	06-6775-2221	天王寺区寺田町2-4-7寺田町第2ﾋﾞﾙ2F
	川田医院	06-6641-1873	浪速区日本橋東3-7-7川田ﾋﾞﾙ1F
	寺口小児科クリニック	06-6753-8241	東成区大今里西1-26-5ﾛﾊｽﾌﾟﾗｻﾞ今里２階
	（医）松本医院	06-6731-3830	生野区桃谷2-19-20
	共和病院	06-6718-2221	生野区勝山南4-16-10
	浦岡小児科	06-6754-0511	生野区中川東2-13-17
	大阪府済生会野江病院	06-6932-0401	城東区古市1-3-25
	福田クリニック	06-6930-1120	城東区関目1-3-11
	（医）にしじまﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ	06-6786-1115	城東区中央2-13-19
	竹中小児科	06-6967-5871	鶴見区今津南1-5-38鶴見ｸﾞﾘｰﾝﾚｼﾞﾃﾞﾝｽ１Ｆ
	（医）かめおかクリニック	06-6911-2585	鶴見区諸口3-4-38
	田中小児科医院　たなかキッズクリニック	06-6761-4671	中央区谷町6-14-23
大阪市南部	大阪公立大学大医学部附属病院	06-6645-3816	阿倍野区旭町1-5-7
	（医）冨吉医院	06-6651-4304	阿倍野区丸山通1-3-46
	勇村医院	06-6691-2021	阿倍野区阪南町5-25-17
	（医）武田小児科医院	06-6691-6551	住吉区南住吉2-14-19平成ハイツ壱番館１階
	（地独）大阪急性期・総合医療ｾﾝﾀｰ	06-6692-1201	住吉区万代東3-1-56
	畑小児科	06-6691-5919	住吉区長居3-9-3
	武知小児科・内科	06-6691-9471	東住吉区鷹合2-17-4
	おうぎもと小児科	06-6760-6220	大阪市東住吉区今川３丁目１２－１２　ｸﾘﾆｯｸﾓｰﾙ今川3F
	(医）川合内科・小児科医院	06-6797-8512	大阪市東住吉区中野4-5-18
	西成民主診療所	06-6659-1010	西成区松2-1-7
	はまだ小児科	06-6653-5285	西成区岸里東2-5-16
	矢木クリニック	06-6675-6198	住之江区安立1-4-3
	藤山小児科医院	06-6682-7850	住之江区新北島3-8-21ｱﾈｯｸｽ六兵衛三番館101
	大阪市立住之江診療所	06-6681-1000	大阪市住之江区東加賀屋１－２－２２
	（医）長浦小児科	06-6793-0555	平野区平野宮町1-6ﾒｶﾞﾛｺｰﾌﾟﾋﾗﾉ1号棟1F
	（医）長吉総合病院	06-6709-0301	平野区長吉長原1-2-34
	(医）にしかわこどもクリニック	06－6707－3741	大阪市平野区平野西3－9－11
	井藤医院	06-6703-3387	平野区瓜破2-1-65ﾐﾀｶﾎｰﾑ8番1F

感染症発生動向調査指定届出機関（眼科定点）

2022 年 12 月末現在

ﾌﾞﾛｯｸ名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
豊　能	箕面市立病院	072-728-2001	箕面市萱野5-7-1
	安藤眼科医院	06-6852-0559	豊中市岡町北3-2-11
	(医)木村眼科医院	06-6852-5986	豊中市中桜塚1-7-1
	治村眼科	06-6337-0022	吹田市片山町1-13-7
	宮浦眼科	06-6338-8750	吹田市豊津町13-44ｶﾐ江坂ﾋﾞﾙ205
三　島	(医)吉原会吉原眼科医院	072-634-1112	茨木市舟木町2-7
	澤眼科医院	072-622-1132	大阪府茨木市庄2丁目26-24 小明ビル
	大阪医科大学附属病院	072-683-1221	高槻市大学町2-7
	(医)視生会丸山眼科医院	072-696-2149	高槻市登美の里町2-8
北河内	市立ひらかた病院	072-847-2821	枚方市禁野本町2-14-1
	山岸眼科	072-861-2157	枚方市岡東町5-23 ｱｰﾊﾞﾝｴｰｽ枚方ﾋﾞﾙ3階
	医療法人光瞳会 城眼科	072-848-5535	枚方市禁野本町1-2-38
	(医)加賀眼科医院	072-822-0852	寝屋川市早子町21-6
	松下記念病院	06-6992-1231	守口市外島町5-55
	関西医科大学総合医療センター	06-6992-1001	守口市文園町10-15
中河内	(医)上江田眼科医院	072-991-1265	八尾市陽光園2-1-23
	宮澤眼科クリニック	072-997-7980	八尾市光町1-10-1
	つじかわ眼科	06-6748-0101	東大阪市小阪本町1丁目4番1号河内小阪駅南商業ﾋﾞﾙ２Ｆ
	(医)石田眼科医院	06-6721-1244	東大阪市菱屋西1-20-14
	医療法人　さほり眼科	06-6725-8898	東大阪市若江本町1-1-35-105
南河内	(地独)大阪はびきの医療ｾﾝﾀｰ	072-957-2121	羽曳野市はびきの3-7-1
	藤本眼科	072-952-2131	藤井寺市御舟町4-2
	(医)ＰＬ病院	0721-24-3100	富田林市新堂2204
	(医)井出眼科	0723-65-0168	大阪狭山市金剛2-9-17

感染症発生動向調査指定届出機関（眼科定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
堺　　市	当麻眼科医院	072-258-1352	北区金岡町893
	武田眼科	072-285-0806	東区日置荘西町1-47-17
	(地独）堺市立病院機構　堺市立総合医療センター	072-272-1199	堺市西区家原寺町１丁１番１号
	米寿会　米本眼科	072-224-2282	堺区香ヶ丘町1-3-5
	山田眼科医院	072-246-8866	北区百舌鳥赤畑町4-254
泉　　州	さかい眼科ｸﾘﾆｯｸ	0725-20-3103	泉北郡忠岡町忠岡東1丁目20-23
	南眼科医院	0725-43-7853	和泉市太町158-18
	森川眼科	0725-41-1110	和泉市府中町7-3-19
	(医)ひとみ会山本眼科医院	072-436-3871	岸和田市土生町2-11-43
	(医)木下眼科医院	072-422-1639	貝塚市海塚274
	(医)岩﨑眼科くめだ	072-444-4955	岸和田市小松里町461番地の11
大阪市北部	（地独）大阪市立総合医療センター	06-6929-1221	都島区都島本通2-13-22
	(医)春田眼科医院	06-6328-5281	大阪市東淀川区小松1-10-38
	坂本眼科医院	06-6953-0888	旭区清水3-2-9
	市立十三市民病院	06-6150-8000	淀川区野中北2-12-27
	（医）森下眼科	06-6353-1399	北区天神橋5-6-13
大阪市西部	森山眼科医院	06-6461-0723	福島区野田3-15-6
	はぶ眼科	06-6195-2228	大阪市西淀川区千舟2-15-28
大阪市東部	第二大阪警察病院	06-6773-7290	天王寺区鳥ヶ辻2-6-40
	脇本眼科	06-6765-8393	天王寺区玉造元町2-4 ﾄｯﾌﾟｽ玉造ﾋﾞﾙ3階
	（医）沢井眼科	06-6646-3634	浪速区日本橋東3-7-7川田ﾋﾞﾙ2F
	（医）塩見眼科	06-6967-0501	鶴見区今津中5-1-33
	(独)大阪医療センター	06-6942-1331	中央区法円坂2-1-14
	大手前病院	06-6941-0484	中央区大手前1-5-34
大阪市南部	（地独）大阪急性期・総合医療ｾﾝﾀｰ	06-6692-1201	住吉区万代東3-1-56
	杉浦眼科	06-6628-2881	東住吉区駒川3-1-7
	(医)ﾏﾂｼﾏ眼科ｸﾘﾆｯｸ	06-6682-5345	大阪市住之江区御崎4-10-4ｻﾝﾗｲｽﾞ住之江公園1階
	吉田眼科医院	06-6707-3834	大阪市平野区背戸口1-21-21ﾒｿﾞﾝ平野1階

感染症発生動向調査指定届出機関（STD 定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
豊能	(医)なかクリニック	072-724-8822	箕面市箕面5-1-52みのおｱﾙｺｽﾋﾞﾙ1階
	(医)松崎産婦人科クリニック	072-750-2025	池田市菅原町3-1ｽﾃｰｼｮﾝN2階202-2
	大里クリニック	072-753-2553	池田市上池田1-8-13
	志水医院	06-6855-2334	豊中市本町1-11-1本町ビル4階
	北村皮膚科医院	06-6334-9250	豊中市庄内東町4-13-24
	田中医院	06-6850-0088	豊中市中桜塚2-2-2
	亀岡クリニック	06-6378-9003	吹田市江坂町1-23-17喜巳ビル5階
	林田レディースクリニック	06-4863-5773	吹田市古江台4-2-60 北千里医療ﾋﾞﾙ5階
三島	友紘会総合病院産婦人科	072-641-2488	茨木市西豊川町25番1号
	(医)サンタマリア病院	072-627-3459	茨木市新庄町13-15
	(医)健栄会三康病院	072-676-0001	高槻市野見町3-6
	(社)仙養会北摂総合病院	072-696-2121	高槻市北柳川町6-24
	田辺レディースクリニック	072-668-4651	高槻市白梅4-13 ｼﾞｵ高槻ﾐｭｰｽﾞ EX4F
	楢原産婦人科	072-672-5000	高槻市春日町1-27
北河内	市立ひらかた病院泌尿器科	072-847-2821	枚方市禁野本町2-14-1
	(医)徳志会 折野産婦人科	072-857-0243	枚方市楠葉朝日3-6-28
	（医）FAGW のだ女性クリニック	072-843-3267	枚方市岡東町14-48山口ビル4階
	土井クリニック	072-832-1290	寝屋川市香里新町22番12号フィルシティ香里園１階
	松下記念病院泌尿器科	06-6992-1231	守口市外島町5-55
	喜多診療所	06-6908-3825	門真市本町10-22
	(医)飯藤産婦人科	06-6909-0815	門真市末広町2-7
	(医)小林医院	072-872-0268	大東市赤井2-2-20
中河内	(医)清祐会 甲野クリニック	072-994-0234	八尾市光町2-32パストラル光町1階
	(医)正田医院	072-993-3000	八尾市本町5-5-5
	瀬口クリニック	072-922-2112	八尾市本町4-1-14
	恵生会病院　産婦人科	072-982-5101	東大阪市鷹殿町20-29
	安井クリニック	06-6721-0001	東大阪市岸田堂西2-1-6
	医療法人爽健会　つじかわ医院	06-4307-5817	東大阪市瓜生堂３丁目１－１１ 瓜生堂クリニックビル２階
	(独)市立東大阪医療ｾﾝﾀｰ泌尿器科	06-6781-5101	東大阪市西岩田3-4-5
南河内	高田泌尿器科	072-337-0020	松原市上田2-2-22松原北駅前ビル2階
	(医)三軒医院	0721-52-2252	河内長野市寿町3-46
	(医)うえむらクリニック	0721-29-5500	富田林市久野喜台2-15-20
	(医)斎田マタニティークリニック	0721-55-7000	河内長野市昭栄町1-19

感染症発生動向調査指定届出機関（STD 定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
堺市	はしもとクリニック	072-275-5031	堺市西区上野芝向ケ丘町5-6-26
	今井医院	072-257-1682	堺市北区百舌鳥赤畑町4丁343-5
	（医）大貴会ほり泌尿器科クリニック	072-253-7890	北区中百舌鳥町2-39 クリスタルなかもず502
	児玉泌尿器科	072-222-1717	堺区三国ヶ丘御幸通8三国ヶ丘ビル4F
	たにわレディースクリニック	072-233-0080	堺市堺区三国ヶ丘御幸通２－１　谷和ビル5階
	(医)もりもと泌尿器科クリニック	072-268-2000	堺市南区鴨谷台2-1-3光明池アクト2階
	大槻レディースクリニック	072-290-6000	南区茶山台1-2-4 パンジョ西館３階
泉州	和泉市立総合医療センター	0725-41-1331	和泉市和気町4丁目5番1号
	泉大津市立病院泌尿器科	0725-32-5622	泉大津市下条町16-1
	市立岸和田市民病院泌尿器科	072-445-1000	岸和田市額原町1001
	久松マタニティークリニック	072-422-3006	岸和田市野田町1-11-1
	市立貝塚病院泌尿器科	072-422-5865	貝塚市堀3-10-20
	（医）谷口病院	072-463-3232	泉佐野市大西町1-5-20
大阪市北部	（地独）大阪市立総合医療センター	06-6929-1221	都島区都島本通2-13-22
	しおじレディースクリニック	06-6355-5010	大阪市都島区東野田町２－３－１９　ＭＦＫ京橋駅前ビル３階
	河島医院	06-6326-6931	東淀川区小松2-5-2　米田ハイツ２Ｆ
	こおりたクリニック	06-6394-0055	淀川区東三国5-15-27
	大阪中央病院泌尿器科	06-4795-5505	大阪市北区梅田３丁目３－３０
	そねざき古林診療所	06-6355-4866	北区曽根崎2-5-24石見ビル3F
	（医）さたクリニック	06-6358-2503	北区長柄中1-5-16
大阪市西部	勝瀬クリニック	06-6581-6059	西区九条1-12-3
	岸医院	06-6571-2736	港区市岡1-1-20
大阪市東部	早川クリニック	06-6245-2100	中央区西心斎橋1-4-5御堂筋ビル3F
	（独）大阪医療センター	06-6942-1331	中央区法円坂2-1-14
	こうむら女性クリニック	06-6966-3063	中央区石町1-1-1天満橋千代田ビル2号館2F
	内田皮膚科クリニック	06-6767-8282	中央区谷町7-1-44ﾀﾝﾁｴ谷町ﾋﾞﾙ２Ｆ
大阪市南部	（医）レディースクリニックさわだ	06-6641-0981	阿倍野区阿倍野筋1-5-1-100
	（医）中川医院	06-6671-0158	住吉区長峡町5-5
	原田皮フ科クリニック	06-6955-8321	東住吉区矢田2-9-14アセンドプラザビル3階
	北野皮フ・泌尿器科	06-6659-7760	大阪市西成区岸里東二丁目３番２２号メディカル天神の森コットンビル５階
	（医）小川産婦人科	06-6791-0567	平野区平野本町2-6-32

感染症発生動向調査指定届出機関（基幹定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	電話番号	所　在　地
豊　能	箕面市立病院	072-728-2001	箕面市萱野5-7-1
	大阪大学医学部附属病院	06-6879-5111	吹田市山田丘2－15
三　島	(社)愛仁会高槻病院	072-681-3801	高槻市古曽部町1-3-13
	大阪医科大学附属病院	072-683-1221	高槻市大学町2-7
北河内	松下記念病院	06-6992-1231	守口市外島町5-55
	関西医科大学総合医療センター	06-6992-1001	守口市文園町10-15
中河内	八尾市立病院	072-922-0881	八尾市龍華町1-3-1
	(独)市立東大阪医療ｾﾝﾀｰ	06-6781-5101	東大阪市西岩田3-4-5
南河内	(地独)大阪はびきの医療ｾﾝﾀｰ	072-957-2121	羽曳野市はびきの3-7-1
	(医)ＰＬ病院	0721-24-3100	富田林市新堂2204
堺　市	ベルランド総合病院	072-234-2001	中区東山500-3
	(地独）堺市立病院機構　堺市立総合医療センター	072-272-1199	堺市西区家原寺町１丁１番１号
泉州	(地独)りんくう総合医療センター	072-469-3111	泉佐野市りんくう往来北2-23
大阪市	（地独）大阪市立総合医療センター	06-6929-1221	都島区都島本通2-13-22
大阪市	（独）ＪＣＨＯ大阪病院	06-6441-5451	大阪市福島区福島4-2-78
大阪市	大阪赤十字病院	06-6774-5111	天王寺区筆ヶ崎町5-30
大阪市	（地独）大阪急性期・総合医療センター	06-6692-1201	大阪市住吉区万代東3-1-56

感染症発生動向調査指定届出機関（疑似症定点）

2022 年 12 月末現在

ブロック名	医 療 機 関 名	所　在　地
豊能	市立豊中病院	豊中市柴原町四丁目１４番１号
豊能	大阪大学医学部附属病院	吹田市山田丘２番１５号
三島	大阪医科大学附属病院	高槻市大学町２番７号
北河内	関西医科大学総合医療センター	守口市文園町１０番１５号
北河内	市立ひらかた病院	枚方市禁野本町２丁目１４番１号
北河内	関西医科大学附属病院	枚方市新町二丁目３番１号
中河内	地方独立行政法人　市立東大阪医療センター	東大阪市西岩田三丁目４番５号
南河内	地方独立行政法人　大阪府立病院機構　大阪はびきの医療センター	羽曳野市はびきの三丁目７番１号
南河内	近畿大学医学部附属病院	大阪狭山市大野東３７７番地の２
堺市	堺市立総合医療センター	堺市西区家原寺町１丁１番１号
泉州	医療法人徳洲会　岸和田徳洲会病院	岸和田市加守町四丁目２７番１号
泉州	りんくう総合医療センター	泉佐野市りんくう往来北２番地の２３
大阪市北部	大阪市立総合医療センター	大阪市都島区都島本通２丁目１３－２２
大阪市北部	済生会中津病院	大阪府大阪市北区芝田２丁目１０－３９
大阪市北部	北野病院	大阪府大阪市北区扇町２丁目４－２０
大阪市北部	淀川キリスト教病院	大阪府大阪市東淀川区柴島１丁目７－番50号
大阪市西部	JCHO　大阪病院	大阪府大阪市福島区福島４丁目２－７８
大阪市西部	日本生命病院	大阪府大阪市西区江之子島２丁目１－５４
大阪市東部	独立行政法人国立病院機構　大阪医療センター	大阪市中央区法円坂二丁目１番１４号
大阪市東部	医療法人警和会　大阪警察病院	大阪市天王寺区北山町１０－３１
大阪市南部	地方独立行政法人大阪府立病院機構　大阪急性期・総合医療センター	大阪市住吉区万代東三丁目１番５６号
大阪市南部	大阪公立大学医学部附属病院	大阪市阿倍野区旭町一丁目５番７号

執筆者一覧

執筆分担個所	執筆分担者名	所　属
I　五類定点把握感染症（性感染症を除く）		
1．2022 年の総括	本村　和嗣	大阪健康安全基盤研究所
1）2022 年に注目された感染症		
[梅毒]	鵜飼　友彦	大阪健康安全基盤研究所
2）感染症別・週別患者報告状況	本村　和嗣	大阪健康安全基盤研究所
3）感染症別・ブロック別患者報告状況	本村　和嗣	大阪健康安全基盤研究所
4）感染症別・年齢別別患者報告状況	本村　和嗣	大阪健康安全基盤研究所
2.　各感染症状況報告		
1）インフルエンザ定点把握疾患	安井　良則	大阪府済生会中津病院
2）小児科定点把握疾患		
RS ウイルス感染症	山本　憲	堺市衛生研究所
咽頭結膜熱	山本　憲	堺市衛生研究所
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	冨吉　泰夫	大阪小児科医会
感染性胃腸炎	國吉　裕子	大阪市保健所
水痘	國吉　裕子	大阪市保健所
手足口病	安井　良則	大阪府済生会中津病院
伝染性紅斑	國吉　裕子	大阪市保健所
突発性発しん	冨吉　泰夫	大阪小児科医会
ヘルパンギーナ	本村　和嗣	大阪健康安全基盤研究所
流行性耳下腺炎	冨吉　泰夫	大阪小児科医会
3）眼科定点把握疾患	宮浦　徹	大阪府眼科医会
4）基幹定点報告（週報）対象疾患	塩見　正司	大阪府医師会
5）基幹定点報告（月報）対象疾患	神吉　政史	大阪健康安全基盤研究所
2022 年　感染症の動向	東野　博彦	大阪府医師会
II　五類　定点把握感染症（性感染症）	山中　靖貴	大阪健康安全基盤研究所
III　全数把握感染症	河合　高生	大阪健康安全基盤研究所
	柿本　健作	大阪健康安全基盤研究所
	本村　和嗣	大阪健康安全基盤研究所
IV　検　査　情　報		
1．ウイルス検査情報	廣井　聡	大阪健康安全基盤研究所
2．細菌検査情報	河合　高生	大阪健康安全基盤研究所

感染症発生動向調査事業報告書
第 41 報 [2022 年版]

2023 年 11 月 発行
編集
大阪健康安全基盤研究所気付 大阪府感染症情報センター
〒537-0025 大阪市東成区中道１丁目３番３号
TEL：06-6972-1326 FAX：06-6972-6725
e-mail: survey@iph.osaka.jp

印刷製本